

令和7年度

群馬高専レビュー

第 44 号

2026

THE GUNMA-KOSEN REVIEW

No. 44

目 次

ランダムハウスの STEP INTO READING 案内—— 読書の基礎を学ぶ ——	横山 孝一.. 1
1977 年のスーパーカー・ブームとは何だったのか —— 日本の子供たちと自動車業界に与えた影響 ——	横山 孝一..17
ノンフィクション作家、上坂冬子の 50 冊—— 償いは済んでいる ——	横山 孝一..37
映画脚本『マキオのひとり旅』を読む—— 生源寺美子の小説との比較 ——	横山 孝一..55
仙洞句題五十首「花」の題、後鳥羽宮内卿歌について	難波 宏彰..69
「英語 A」「英語 B」2 科目連携による英語指導—自律的な学習者育成を目指して—	熊谷 健・熊谷 由里子..83
群馬高専環境都市工学科における令和 7 年度実践体験型 PBL の取組	渡邊 祥庸・幕田 早紀・萩原 伊吹・狩野 僚大・ 狩野 一華・宮本 和弥・後藤 瑛介・金井 一露..93
群馬発の新素材、こんにやく飛粉を活用せよ！ ～高専 GCON2025 における群馬レベルアップ大作戦☆の取組～	渡邊 祥庸・坂本 真百合・栗本 衣咲・小林 孝太郎..107

CONTENTS

A Guide to Random House's STEP INTO READING: Building the Foundation of Reading English	Koichi YOKOYAMA . . 1
What Was the Supercar Boom That Swept Japan in 1977 ? —Its Impact on Japanese Children and the Automotive Industry—	Koichi YOKOYAMA . . 17
Nonfiction Writer, Fuyuko KAMISAKA's 50 Books: War Atonement Was Made through the Execution of Ex-Soldiers	Koichi YOKOYAMA . . 37
Reading the Movie Script <i>Makio's Solo Journey</i> : A Comparison with the Original Novel by Haruko SHOGENJI	Koichi YOKOYAMA . . 55
A Discussion on the Waka Poem by Gotoba-no-in-Kunaikyo in <i>Sendō Kudai Gojissu</i> from Flowers	Hiroaki NAMBA . . 69
An Approach to Teaching English Effectively at a Japanese College of Technology	Takeshi KUMAGAI and Yuriko KUMAGAI . . 83
Educational Practices of Experiential PBL in the 2025 at the Department of Civil Engineering, NIT Gunma College	Yoshinobu WATANABE, Saki MAKUTA, Ibuki HAGIWARA, Ryota, KANO, Ichika KANO, Kazuya MIYAMOTO, Eisuke Goto and Ibuki KANAI 93
Exploring the Engineering Potential of Gunma-Derived Konjac Powder Residue as a Sustainable Construction Material ~Activities of the "Gunma Level-Up Operation☆" Team in KOSEN GCON 2025~	Yoshinobu WATANABE, Mayuri SAKAMOTO, Isaki KURIMOTO and Kotaro KOBAYASHI . . 107

ランダムハウスの STEP INTO READING 案内

——読書の基礎を学ぶ——

横山 孝一*

(2025年11月28日受理)

はじめに

ニューヨークのランダムハウス(Random House)が出版するグレイディッド・リーダー、Step into Readingは、ステップ1～5まであり、就学前の子供から小学4年生を対象とする。ステップ1は就学前から幼稚園児、2は就学前から小学1年生、3は小学1～3年生、4は2～3年生、5は2～4年生というように一様ではない読者の能力を考慮して、幅を持たせている。つまり、読解力の高い子は年齢に関係なく、高いステップの本を読んでいるということだ。

ステップ1はアルファベットを習い終え読書を始める意欲のある子供向けに書かれている(For children who know the alphabet and are eager to begin reading)。何が書かれているのか挿絵でヒントを与え、声に出して読むと、韻を踏んでリズムカルな文になっている。単純なストーリーながら初めての読書に満足感を与える工夫が施されている。楽しい挿絵がついて語数が少ないぶん、繰り返し何度も読める。そうやって、語彙と文章を完全に習得していくのだ。

ネイティブスピーカーの子供を想定して書かれているので、外国語として英語を学ぶ者にはとても勉強になる。ステップ1の *The Poky Little Puppy* は題名に口語体が入っているので困惑する者も多いだろう。Poky は米語で「のろい」(slow)の意だ。『のろまのかわいい子犬』と訳せる。かわいらしい挿絵に注目しながら内容を見ると、主役は幼い表情のかわいい子犬(ほかの子犬よりも小さいわけではない)が常に遅れをとる物語だ。すぐにいなくなるので、仲間の子犬たちが捜すことになる。

“There he is!”と見つけて、丘を走る場面を引用してみよう。

Run, run, run! Roly-poly. Pell-mell. Tumble-bumble. (19-22)

まさに音重視で、転げ落ちるさまをこのように表現して

*人文科学系・比較文学

いる。

ステップ1は、単語を替えながら定型の文を繰り返す物語が多い。展開を予想して楽しめるだけでなく、文を自分で作る練習にもなる。フランシス・ギルバート作の *I Love Pink!* では、主人公のピンクが大好きな女の子がペットの猫・犬・ハムスターの色を語った後、

But my room is pink!

My bed is pink.

My pillows are pink.

My lamp is pink.

My desk is pink.

I love pink! (6-13)

と、ピンク色でいっぱい部屋と品々を紹介(対応する挿絵がつく)。最後は、ピンク色の服装で笑顔の少女がピンクのハートマークに囲まれた見開きの挿絵に至る。エレン・アンテン(Eren Unten)のチャーミングな絵柄がよくマッチしていて、アニメーションのようにスムーズに展開する。英語が簡単すぎるとバカにはいけない。“I wish my cat were pink. I wish my dog were pink. I wish my hamster were pink.”(18-21)で仮定法の願望表現がしっかり学べる。しかも、この仮定法が印象深く、物語を劇的に盛り上げて大団円を導くのだ。作者の力量に感心させられるだろう。

子供向けのグレイディッド・リーダーとはいえ、当然ながら書きおろしの作者は自分の作品に最善を尽くしている。シリーズの編者も最良の作品に触れさせようと、幅広く本を提供している。夜空の星々を眺める楽しさをメルヘンチックに描くマーガレット・ワイズ・ブラウンの *I Like Stars*、少年と雪だるまのはかない出会いと友情を詩的に描いた、日本でも人気の高いレイモンド・ブリッグズの *The Snowman* がステップ1で読める。その芸術性は子供の読者にはわからないかもしれないが構わない。いつかわかればいいといった態度の編者は、とにかく手に取って読んでもらいたいという思いで本を揃え

ているようだ。スノーマンのキャラクターを再利用してハッピーエンドの続編 *The Snowman and the Snowdog* を追加したり、「セサミストリート」の人気キャラクターを総出演させた *I Spy : A Game to Read and Play* ではかわいいエルモ (Elmo) を表紙に選んでいる。わが国ではあまりなじみのない謎の生物キャラ、サム・アイ・アム (アイ・アム・サムではない) も本シリーズでは何度か主演で登場する。

ステップ1が幼稚園児までを想定しながらも、物語としてはイソップの *The Lion and the Mouse* を読ませているのは大したものだ。読書の楽しさがわかってくると、ステップ2が待っている。人気キャラ P・J・ファニーバニーを主人公にした *P.J. Funnybunny Camps Out* や、算数がテーマだが芸術性の高い絵本 *One Hundred Shoes* などの物語があるが、おすすめはノンフィクションかもしれない。自分の体内の骨に興味を向けさせる *Bones*、動物園の舞台裏で用意されるえさに注目させる *Feeding Time at the Zoo*、猫が太陽系の惑星を案内する *Planet Name Game*、自由の女神の完成までを語る *The Statue of Liberty* が読める。この興味深い読書によって一般教養が自然と身につくだろう。とりわけ自由の女神の実話は大人でも読みごたえがある。

ステップ3では、デボラ・オーツィツヒ (Deborah Hautzig) の小さな魔女シリーズが読める。悪い子でないと叱る母親の魔女の愛情がユニーク。とりわけ学校での騒動を描いた *Little Witch Goes to School* がおもしろい。『スイミー』でわが国でも人気があるレオ・レオニの秀作絵本も収められている。ゼンマイ仕掛けのネズミに恋をするネズミの物語 *Alexander and the Wind-Up Mouse*、カエルになって陸に上がった友を羨む魚に至る境地 *Fish is Fish*、一見ものぐさなネズミを主人公に詩人の効用を説く *Frederick*。いずれも文学的な教訓を含み、他のイラストレーターとは一線を画する芸術的な絵がつく。子供には難解だろうが、違いには気づくかもしれない。なお、ステップ3には短編集もある。意外なおチのある物語を3編集しており、読者によっては初めて見る文学形式で、短編好きになるきっかけとして有効かもしれない。

ステップ3で子供が興味を抱くのは、おそらく恐竜と電車だろう。*Dinosaur Days* は恐竜が生きた時代を迫力ある挿絵付きで描いて、*Truth or Lie: Dinosaurs!* ではマニアックなクイズ形式で恐竜の雑学が広く学べる。*Trains!* は印象深い写真で鉄道の歴史、列車の旅の魅力、社会に役立っている貨物列車や通勤列車、そしてカッコいい特急列車が概観できる。*Hungry, Hungry, Sharks!* は映画『ジョーズ』で人食いザメの恐怖に憑りつかれた大人には目からうろこで、*Dolphins!* はイルカ漁でなぜ

日本があれほど叩かれるのか、その理由がはっきり理解できる本だ。

ステップ4には、アンデルセンの名作『人魚姫』 *The Little Mermaid* が入っているが、やはり、読むべきは、ノンフィクションだ。1万6千年前の動物が生きいきと描かれたラスコー洞窟の発見と全貌を語る *Discovery in the Cave*、食虫植物の種類と生態を概説する *Hungry Plants*、1991年9月にアルプスで発見された氷漬けのミイラ、アイスマンについて写真を多数掲載してその最期を推測する *Ice Mummy: The Discovery of a 5,000-Year-Old Man*、ポンペイの町の最後と発見を語る *Pompeii...Buried Alive!*。1922年のツタンカーメンの墓の発見は山のような財宝を伴っており、*Tut's Mummy : Lost...and Found* は宝探しの実話としてインパクトがある。人間ドラマとしては、1912年のタイタニック号の沈没と1985年の発見を語った *The Titanic : Lost...and Found* と三重苦を乗り越えたアメリカのヘレン・ケラーの伝記 *Helen Keller: Courage in the Dark* が圧巻で、いまさらながら深く感動させられる。「事実は小説より奇なり」とはこのことで、ノンフィクションの醍醐味が堪能できよう。

こうしてステップ5に至ると、読書の楽しみが実感できるようになっているのではないか。メジャーリーグの殿堂入りした名選手の逸話を集めた *Baseball's Best : Five True Stories* は、野球ファン読者を満足させるだろう。恐竜の化石の大発見の歴史を概説した *Dinosaur Hunters* は、恐竜について学問的な興味を抱かせる。アメリカ合衆国のアポロ計画の成功を語る *Moonwalk : The First Trip to the Moon* では、月面を歩いて戻って来た宇宙飛行士だけでなく、成功に導いた科学者たちの偉業に目を見張られる。前人未到のエベレスト初登頂に成功する二人を語った *To the Top! : Climbing the World's Highest Mountain* は、地上最後の大冒険だったかもしれない。

読みたい本は、背表紙に印刷されている宣伝文句で選ぶとよい。ちなみに、上記の本はこう書かれている。

One false step can send you hurtling down a ten-thousand-foot drop. One wrong move can bury you beneath an avalanche of snow. You are climbing Mount Everest! Here is the true story of Edmund Hillary and Tenzing Norgay—the first people ever to reach the highest spot on the planet!

1万フィートは3キロメートルだ。うっかりエベレストで足を踏みはずすと、それだけの距離を落下することになるというのだ。これだけで、読みたくてうずうずして

くるだろう。そう感じたなら、読書の基礎はしっかりとできあがったはずだ。どんどん読みたい本を見つけて、読書を楽しもう。読む価値のある本はいくらでもある。英語の力も自然とつくだろう。

以下、Step into Reading の5ステップ、50冊の内容を、使われている英語を少し入れて概説する。

STEP 1 就学前～幼稚園

① The Berenstain Bears: big bear, small bear

(Stan & Jan Berenstain)

クマの父と息子が外出し、帽子と水着を買って舟遊び。そのあと岸辺のスパゲッティ店で食事し、満腹で帰る。

(栈橋を歩くクマの親子を見開きで描くイラストの下に、Big bear. Small bear. と書いて物語を始めている。大小を表わすこの “big” “small” を習熟させるため、帽子と水着のサイズ、ボートの座る位置、スパゲッティの量に用いるが、Small hat, big head. Big hat, small head. というように、まずは大きな父クマに小さな帽子を、小さな子クマに大きな帽子をあべこべにかぶらせて Too small. Too big. と読者を楽しませてから、Just right! Just right! (これでいい!) と自分に合う帽子を見つける。パターンが決まると、幼い読者にも物語の展開を予想させながらテンポよく進み、結語の Just right! のとおり、読み終えたとき満足感が得られる。)

② Big Egg (Molly Cox)

めんどり (Hen) が卵をあたためている場所に巨大な卵がまじる。“This is not my egg!” says Hen. では、いったい誰の産んだ卵なのか。“Is it a cat egg?” 卵を手押し車に乗せて、猫、犬、豚、牛、ヤギ (goat) を順番に訪ね、質問する。キツネ (fox) がわたしの卵だと返事して、持ち帰ると、ピーピー (Peep! Peep!) と小さなひなが全部かえり、そのあと、大きな卵も割れて (The big egg cracks.) ガーガー (SQUAWK!) と明らかにニワトリとは別の大きなひながかえり、食べられる前に、みずから手押し車を押して脱出。めんどりはこの大きなひなを含め、みんなの無事を喜ぶ。Hen loves them all.

(主語・動詞のそろった現在形の文章を読ませる。卵の主を哺乳類に尋ねて回る展開は幼い読者でもこっけいに感じるだろう。キツネのずる賢さは童話ではおなじみで、これは予想どおりで楽しめる。意表をつく始まりと同様、誰のひなか明かさず、めんどりがわが子として受け入れる結末も意外で、読者はあたたかな気分になれるはずだ。)

③ Cat Traps (Molly Cox)

小腹がへった猫がおやつにありつこうと罠を仕掛ける。ネズミ、ニワトリ、豚、魚、カエル (frog)、カモ (duck)、リス (絵のみ) と、ことごとく失敗。自分で仕掛けた罠にかかって、Cat gets— a cat! 結局、飼い主の少女にすり寄って、やっとキャットフードにありつく (Cat gets some chow.)。最後のページは、満腹で満足した猫が少女の腕の中で、Meow! と鳴く。

(“Cat wants a snack. Cat set a trap,” を共通の枕詞にして、それぞれの場面を展開させている。ネズミの代わりに虫 (bug) がかかると、Ugh! (ゲッ) カモはうまく網にかかるが、子連れの親。叱りつけられ、Bad luck! (残念)。自分の罠でしっぽから宙づりになると、Drat. (くそ)。ユーモラスなイラストとともにマンガ調で語られている。)

④ Cooking with Sam-I-Am (Courtney Carbone)

赤い帽子をかぶったサム (謎の生物で自称 Sam-I-Am) がキツネとネズミを相手に、好物の Green eggs and ham を紹介し、“We can cook them here and there.” と地面を指し、“We can cook them anywhere!” と地球儀を回す。結局、料理する場所はサムの家で、“Let us cook them at my house. Please help cook them, Fox and Mouse.” と誘って、料理教室が開かれる。用意した卵を割る (Crack the eggs.) と、黄身は緑色、オーブン (絵のみ) で温める (heat) ハムも緑色で絵で見るとおいしそうには見えないが、“You will like this. Taste and see. You will like this just like me!” と調子よく宣伝。3匹が満足げに食べ終わると、サムは「緑色のハムエッグに勝るものなし!」(Green eggs and ham cannot be beat!) と締め括る。

(ナンセンスなストーリーながら、簡単な料理の段取りが学べる。“Will you crack them, Mr. Fox?” と卵を割るのはキツネに任せ、「バターからはじめよう。ほんのひと固まりでいいよ」(Start with butter. Just a pat.) とネズミにバターを用意させるが、すくった量は多すぎたようで、(そんなに多くは必要ない!) (We do not need as much as that!) とカッコで注意書きがつく。“Put the butter in a pan.” “Turn off the heat. Take out the meat.” “Cut off a piece.” などの的確な指示のあとはもちろん、“It is time to eat, eat, eat!” だ。)

⑤ Hot Dog (Molly Cox)

暑い夏、暑くてたまらない犬が涼を求めて、涼しげな人や動物たちを訪ね、ことごとく拒絶される。最初は、ビーチパラソルの下、扇風機をつけて、冷たい飲み物を

飲んでいる家のママ。Dog is hot. Mom is not.の英文で始まり、以下、後者の主語が変わってゆく。ママには「よそへ遊びに行きなさい」(Go play Dog.)と叱られて、猫の縄張りには「だめっ!」(No way Dog!)と入れてもらえない。最後は、家の敷地で簡易プールに入っていた少女に迎え入れられ、ホットドッグは晴れてチリドッグ(Chilly Dog)となり、満足げだ。

(毛を刈ってもらっている羊たちについては、Dog is hot. Sheep are not. sheepは複数形でもsがつかない単語なので、be動詞で複数とわかる。犬も毛を刈ってもらおうとするが、「しっ、しっ」(Shoo, shoo, Dog)とまたも追い払われてしまう。空洞の木で涼むスカンク(skunk)にはおなじみの臭いおならを浴びせられて“P. U., Dog!”と直ちに脱出。P. U. はPhewの強調で「臭いっ」を意味する。)

⑥ I Like Stars (Margaret Wise Brown)

星が大好きなウサギが夜、窓から見える色とりどりの星に魅了され、寝床から起きて、外に星を見に行く。緑色のカエル、赤い小鳥、茶色のネズミも加わって、空の星と戯れる。最後は、窓から星が見えるウサギの家の中、星が描かれた蒲団をかけて、みんなで寝入る。

(Joan Paleyのメルヘンチックなイラストが美しい詩的な絵本だ。I like stars. で始まり、I like stars. で終わる。好きな星について、黄色・緑・赤・青といった色や、遠い(far)・静かな(quiet)・明るく輝く(bright)といった形容詞を学ぶ。“A star that is shining right straight in your eye.”については、巻末の解説(“About the Author”)で、暑い夏の夜、自宅ベランダで妹と飼い猫といっしょに星を見ながら寝たという、星をこよなく愛した有名な作者の経験が活かされていると類推されている。)

⑦ I Spy : A Game to Read and Play (Caitlin Haynes)

「セサミストリート」のおなじみの人気キャラクター(クッキーモンスター、エルモ、バート、アーニー、オスカー、その他)を使った楽しい絵本。最初の見開きのページは、マーチングバンド(Marching Band)にふんしたキャラクターたちを描き、その左上に「わたしは、青色のかわいらしいものを探している」(I spy something that's blue and cute.)「グローバー・モンスター?」(Is it Grover Monster?)と書き、次の右上に「はずれ。ベティールーのブーツでした!」(No, it's Betty Lou's boot?)と答えを示している。この“I spy something that's + 形容詞の文でクイズをだして、すぐ目につくものとは別の、形容詞が当てはまる意外な答えを明かしながら、形状・性格・触感・色などを表わ

す語(round, flat, shy, fluffy, pink, silly, blue, red, yellow, small, chubby, wet, smelly, glowy, bright, stripey)を学ぶ。

(最初からずっと“No,”がつづくが、最後は“Yes!”で締める。「色は緑と白で、おえっと吐きたくなるものを探している」(I spy something that's green and white and yucky.)「オスカーのピクルス・サンドイッチ?」(Is it Oscar's pickle sandwich?)「あたり! ウンがよけりや、分けてくれるよ!」(Yes! He'll share it if you're lucky!)とごみ箱の中から、オスカーが臭そうなサンドイッチを差し出している。「セサミストリート」のキャラをうまく活用しているといえよう。)

⑧ The Lion and the Mouse (Gail Herman)

小さなネズミが寝ていたライオンにつかまって食われそうになるが「いつかお助けしますから!」(Someday I will help you!)と命乞いして、解放される(He sets Mouse free.)。しかしその後、ライオンは人間の罠にかかってしまう。網の中から助けを求める咆哮を聞いてネズミが駆けつける(He follows that roar.)。He chews and chews. と縄をかみ切って、ライオンは自由の身になり、「もつとも小さなネズミでさえ、もつとも大きなライオンを助けることができるのだ」(...even the littlest Mouse can help the biggest Lion)と知る。最後は「いつでも他者を助けよう」(ALWAYS HELP OTHERS)という教訓で終わる。

(有名なイソップ物語。2部構成でわかりやすい。“YOU help ME?”(おれさまを、ちっぽけなおまえさんが助けるだって?)、ROAR!(ガオーッ助けてくれ〜!)といった強調に表記上の工夫が見られ、最後の教訓は、ネズミがかみ切った縄の絵で記されている。)

⑨ The Poky Little Puppy (Kristen Depken)

5匹の子犬たちが、柵の下に穴を掘ってぐり抜け、牧草地(meadow)を通り、道路を駆け下り、橋を渡って、草地(green grass)を進み、丘を登って、一匹足りないことに気づく。「あののろまの小さい子犬はどこだ?」(Where is that poky little puppy?)「あそこにいるぞ!」(There he is!)一同が駆けつけると、問題の子犬は大きなイチゴを見ていた。空腹をおぼえた子犬たちは来た道を引き返し、愛するわが家(Home, sweet home!)でイチゴのパンケーキのえさにありつく。のろまの子犬はその頃、ようやく柵の下に到着していた。

(丘の上から、のろまの子犬を見つけた一同が丘を駆け下りる3ページにわたる絵が楽しい。1枚目はRoly-poly. と丸くなってくるくると転がり、2枚目はPell-mell. とあわてて全力疾走し、3枚目はTumble-bumble.

とつまずいてぶざまに転げ落ちる。)

⑩ **I Love Pink!** (Frances Gilbert)

ペットの猫はオレンジ色(My cat is orange.)犬は黒、ハムスターは茶色。「でも、わたしの部屋は桃色!」(But my room is pink!)と見開きでピンクで統一された女の子の部屋が描かれる。ベッドも枕もランプ(lamp)も机もみんな桃色で、洋服ダンスの中も同様。「桃色しか着ないの!」(I only wear pink!)と自慢する。ペットたちもピンクならいいのにと願い、夢が叶うが、桃色の部屋に溶け込んでしまい、見つけるのが難しい。再び、元の色になることを願い、猫・犬・ハムスターをありのまま受け入れて「まだピンクが大好き。だけど、わたしの猫とわたしの犬とわたしのハムスターはもっと好き!」(I still love pink. But I love my cat and my dog and my hamster more!)と締め括る。

(Eren Untenのイラストがチャーミングだ。ペットたちの色を変える願望表現は“I wish my cat were pink.”とというように仮定法が使われている。その結果を見ると、自然と「しまった!」(Oops!)が口から出ている。)

⑪ **The Shy Little Kitten** (Kristen Depken)

母猫(mama cat)が6匹の子猫を連れて散歩に出るが、臆病な縞の子猫(The little striped kitten is very shy.)は後れをとって、丸々太ったモグラ(chubby mole)と仲良くなり、母猫とはぐれ、毛むくじゃらの犬(shaggy dog)に農場の家まで道案内してもらう。帰宅後はニワトリ、アヒル、ウサギ、豚も加わってピクニック。食事中にカエルのじゃまがはいるが、みんなそろって池に飛び込み、最良の一日(Best day ever!)になる。

(母猫が子猫たちを引きつれた外出場面では、Down the ladder. Jump, jump, jump! と階段をリズミカルに跳び下り、Onto the grass. Roll, roll, roll! と外の草地を楽しげに転がり落ちる。豚のえさ(mash)の中にカエルがポチャン(PLOP!)と飛び込むのは、池の場面の予告になっていて、次ページには、バシヤッ(SPLASH!)の文字とともに水面に飛び込む動物たちが描かれている。なお、木を見上げる毛むくじゃらの犬は“Woof, woof”と吠え、木の上の赤いリス(red squirrel)は“Chee. Chee, chee!”と鳴く。動物たちののどかな一日が感じられる。)

⑫ **Raymond Briggs' The Snowman** (Michelle Knudsen)

朝、窓から外を見ると、雪が降っている。「やったー」(Hooray!)とジェームズ少年は大喜びし、急いで着換え、外に出てスノーマンをつくる。夜、気になって見に行くと、What does he see? The snowman is moving! 帽子をあげて挨拶するスノーマンを家に招き入れたお礼に、

スノーマンはジェームズの手をとってThey go up, up, up, into the air! 二人で雪の空を飛ぶ。すばらしい夜(What a wonderful night!)となる。翌朝、日光で目が覚めたジェームズは、スノーマンに会おうと外にかけ出る。But snowman has gone. すでに溶けてなくなっていた。

(レイモンド・ブリッグズ(1934-2022)のアニメ化されて評判になった名作絵本『スノーマン』(1978)に文字をつけたダイジェスト版。元は少年時代の夢の儚さを詩的に描いた傑作だが、この本では、短くし過ぎたきらいがある。)

⑬ **The Snowman and the Snowdog** (Anna Membrino)

雪の積もった庭でビリーがスノーマンとスノードッグをつくると、命が宿った(The Snowman and the Snowdog have come to life!)。そろって空を飛び、向かった先は北極(To the North Pole!)そこにはスノーマンたちが多く住む。ビリーは雪の中、スノードッグとそりに乗りレースに参加。優勝し(Billy and the Snowdog wins the race!)ゴール(the finish line)でサンタ(Santa Claus)から賞品をもらう。帰宅してあけてみると、魔法の首輪(magical dog collar)だった。スノードッグは本物の犬になって、家にのこる。

(レイモンド・ブリッグズのスノーマンのキャラクターを借用し、新たな物語をつくった。絵柄もまねているが、オリジナルの詩情は消え、陳腐。二番煎じを避けようとしたのだろうが、スノーマンとの別れをまったく描いていないのは奇妙だ。)

⑭ **Watch Your Step, Mr, Rabbit!** (Richard Scarry)

新聞を買って読みながら歩くウサギ。道路の舗装工事に気づかず横断しようとして乾いていないアスファルトにはまり、身動きがとれなくなる(His feet are stuck in the street.)。押しても引いても、風力や水圧でも、足はしっかり貼りついたままだ(His feet are good and stuck.)。結局、クレーン車ですくいあげて(scoop him out)やっと自由の身になるものの、懲りずに新聞を読みつづけ、今度は栈橋から落ちそうになる。

(最後のページの締め括りの言葉が書名である「ウサギさん、足元に気をつけて!」となる。1991年の作品なので、21世紀の現代では新聞はスマートフォンにしたほうが「歩きスマホ」を戒める話になってわかりやすいかもしれない。)

STEP 2 就学前～小1

⑮ **Bones** (Stephen Krensky)

体を動かすとき、骨が役立っている。206本の骨が組み合わさって骨格(skeleton)を形成。成長するにつれて大きくなる。最小の骨は耳の中にあり、最大の骨は脚の中にある。骨は心臓や肺やぐにゃとした臓器(squishy parts)や脳を守っている。頭蓋骨(skull)はヘルメットのようなもの(like a helmet)だ。恐れられた海賊旗のどくろマーク(a flag with a skull and crossbones)は、今では「危険・毒」(*danger or poison*)の意味で使われている。骨は曲げられないので、関節(joints)が役立つ。体を動かすのは筋肉(muscles)。骨は事故で折れることがあるが治る。古い骨は化石(fossils)になって、恐竜など古い生物のことを教えてくれる。中にはクラゲ(jellyfish)のような骨のない生物もいる。人間も骨がなければ、ぶよとした塊に見えるだろう(If you had no bones, you would look like a blob.)

(最後のページは骸骨と握手する少年の挿絵とともに「自分の骨のことを思い「ありがとう!」と言おう」と呼びかけている。怖かった骸骨を身近なものに感じさせる好著だ。)

⑯ **Feeding Time at the Zoo** (Sherry Shahan)

It is feeding time at the zoo. 動物園でえさをを用意する飼育員(zookeeper)のカラー写真とともに始まる。「動物園の動物たちは何を食べているのか」(What do zoo animals eat?)が本書のテーマ。ゾウは鼻で好物のスイカ(watermelon)を口に運ぶ。干し草(hay)も食べるのは、シマウマ(zebras)やキリン(giraffes)も同様だ。パンダは笹の葉(bamboo leaves)を、豚は生野菜にトウモロコシとその穂軸(corncobs)を、カメ(tortoises)とヤマアラシ(porcupines)も野菜(veggies)が好き。トラやワニ(alligators)は肉団子(meatball)を、アザラシ(sea lion)とホッキョクグマ(polar bears)は魚を、赤く尾の長いコンゴウインコ(macaw)はオレンジを、白いオウム(cockatoo)はニンジンを食べる。フラミンゴは、同じピンク色の小さなエビ(shrimp)を食べる。少女は、アイスクリーム用のコーンに入ったスナック(food pellets)をやぎに食べさせている。Animals love these snacks!

(最後は、What do kids eat at the zoo? とクイズを出す。Hay? Bamboo? Corncobs? それぞれゾウ、パンダ、豚の写真とともに語彙を復習。最後のページは、ロバにえさをやる少女の写真。No! Ice pops! 左手に持つのが、答えのアイスクャンディーだ。)

⑰ **Five Silly Fishermen** (Roberta Edwards)

ある晴れた日に、5人の釣り人が釣りに出かけた(One

fine day five fishermen went fishing.) 好きな場所に陣どり、その日の終わりには(At the end of the day)それぞれ丸々と太った魚を釣り上げて「すばらしい夕食になるぞ!」(What a fine supper we will have!)と満足する。ところが帰宅前、全員がいるかどうか数える(count to see if we are all here)と、誰が数えても、4人しかおらず、1人は溺れ死んだかと悲嘆にくれる。“Why are you so sad?” と通りかかった少女が事情を聴き間違いに気づいて、“Now jump into the river one at a time”と言って、栈橋から1人ずつ川に飛び込ませる。5人はみな無事とわかり大喜びし、魚をみんな少女にやって帰る。

(「以前は5人いたのに、1人が溺れ死んでしまった」(There used to be five of us. But one drowned.)と信じるまぬけな男たちの話だが、The fisherman forgot to count himself. と先に気づいた子供の読者はきっと楽しめるだろう。)

⑱ **Here Comes Silent e!** (Anna Jane Hays)

小文字の e の文字が書かれたTシャツを着た少年、サイレント・イーが通りかかった先々で、驚きの魔法を起こす。言葉の語尾にe が加わると、読み方が変わり、全くの別物が出現するのだ。bit が bite に、kit が kite に、glob が globe に、plan が plane に、man が mane に、cap が cape に、cub が cube に、tub が tube に、van が vane に、can が cane に、pin が pine になってしまう。

(綴りと発音の関係を教える本、“a Phonics Reader”。さすがに無理のあるこじつけのエピソードが多いが、中にはユーモラスな絵とともにクスリと笑わせる話もある。はげ頭の男(bald man) がライオンのたてがみのようなふさふさした髪の毛(a mane)を手に入れて喜ぶ話、缶詰を落として足の指(toes)をけがした少女が、缶(can)の代わりに杖(cane)を手に入れて満足げに歩く話がいい。)

⑲ **Mary Clare Likes to Share** (Joy Hulme)

青い目をした白人の少女メアリーは食べることが好きだが、友達と分け合って食べるのはもっと好きだ。木に登ってもいだ洋ナシ(pear)を青い目の男の子と半分こ(One-half a pear for each is fair.)、マフィン、黒人の少女も含めて3分の1(One-third)、黒人の姉弟も来てクッキーを4つに割る(She breaks one cookie into four.)。5人になると、焼き立てのパイ(fresh-baked pie)は5分の1(One-fifth)、6人でオレンジを分けると、One-sixth、スイカ(a melon)は7人で One-seventh、ピザ(a pizza)は8人で One-eighthずつ分ける。

(最後はメアリーの誕生日パーティー。“Please come

and share my special day!”と電話する。自転車(bike)や三輪車(trike)などでやって来た友達と大切な日を分かち合う。大きなバースデーケーキを参加者に1切ずつ分け(She cuts one piece for each to take.)、みんなで仲良く祝う。)

⑳ A Monster Is Coming! (David L. Harrison)

食欲旺盛な虫の赤ちゃん(Baby Bug)に葉っぱを与えた母親が「おまえはモンスターみたいに食べるね」(You eat like a monster)と言ったのを聞いたシャクトリ虫(Inchworm)がモンスターが来ると思い込んで、怖がって隠れる。パニックは広がり、ヒキガエル(Toad)、ネズミ、ウサギ(Rabbit)、キツネ(Fox)も身を隠す。最後は当の赤ちゃんが「腹ペコで、モンスターだって食べることができるかも」(I'm so hungry I could eat a monster.)と言ったのを、シャクトリ虫がまた聞き違え「みんな、聞いたか? 虫の赤ちゃんがモンスターを食べてくれた!」(Have you heard? Baby Bug ate the monster!)と叫び、みんなは「虫の赤ちゃん、万歳!」(Hooray for Baby Bug!)と大喜びする。

(最後のページは、おかわりの葉っぱ(another leaf)にありついた虫の赤ちゃんの絵で終わる。本文中、モンスターの襲来におびえ「死にたくなかったら逃げろ!」と叫ぶが、それぞれのキャラクターに合わせて「逃げろ」の動詞が変えられている。“Inch for your lives!”の動詞の部分で、順番にLeap, Scamper, Hop が使われる。)

㉑ One Hundred Shoes (Charles Ghigna)

巨大なムカデ(Centipede)が100ある足にさまざまな靴を履いて街を歩く。どこで靴を買うの?(Where do you shop for one hundred shoes?) インターネットで買うの?(Do you go shopping on Web sites online?) それともショッピングモールのお店?(Do you buy shoes in stores at the mall?) 買い方はペアで? セットで? 種類はスリッパ(slippers)、木靴(clogs)、スニーカー(sneakers)、サンダル(sandals)、ブーツ(boots)、ローファー(loafers)? 靴ひも(shoelaces)はどう結ぶ? 左右はどう見分ける?(How do you tell your left from your right?) 寝るときは、どこに靴をしまうの?

(Bob Staakeの芸術性の高いイラストとともにムカデ(漢字でも「百足」と書く)にリズムカルに問いかける奇想の物語。結局、あれこれ考えた末、「ムカデさん、ムカデさん、わかった気がする……なんで、あなたが、どこに行くにも裸足で歩いているのか!」(Centipede, Centipede, I think I know ... why you walk barefoot wherever you go!)と納得の結びを用意している。秀作である。)

㉒ P. J. Funnybunny Camps Out (Marilyn Sadler)

ウサギのファニーバニーが、動物仲間の、リッチー、バズ、ポッツとオスだけで深い森を抜け(through the deep woods)、広い河を渡って(across a wide river)、高い山を登り(climbed a high mountain)、テントを張って(pitched the tent)キャンプ。しかし、夜中に奇怪な声が聞こえてきて怖くなる。バズが懐中電灯を照らすと(shined his flashlight)、外に幽霊が。恐れる一同はすぐさま家に逃げ帰る。

(真相は「キャンプは女がするもんじゃない」(Camping is not for girls.)とファニーバニーと一緒に行くことをきっぱり拒まれた妹のハニーバニーと友達ドナダックの仕返しだった。「わかってる?」Do you (know the truth)? と、ふたりが読者に問いかけて終わる。)

㉓ Planet Name Game (Tish Rabe)

赤と白の縞の帽子をかぶった猫(the Cat)が、黒人の男の子と白人の女の子に、太陽系の惑星を串刺しにした模型を示す。宇宙船でその一つ一つを訪れて解説する。太陽(the sun)、そこから一番近く一番小さいのが水星(Mercury)、雨が降らず埃っぽい(dusty)のが金星(Venus)、第3惑星(Planet Three)で“the Blue Planet”と呼ばれる地球(Earth)、火星(Mars)は見えてのとりの“the Red Planet”、太陽から5番目の木星(Jupiter)は最大で他の惑星がすべて収まる大きさ(The other planets could all fit inside it!)、2番目に大きいのが明るい輪をもつ土星(Saturn)、次の天王星(Uranus)にも輪(rings)がある。最後の8番目の惑星が海王星(Naphtune)。これで宇宙の旅は終わり。猫は串から惑星の模型をはずして、おさらいをする。もう一度遊びたいなら、太陽からどうぞ。

(テレビの教育番組をもとにした“a Science Reader”。太陽系の惑星が楽しく紹介されている。串刺しの模型のおかげで大きさの比較が容易でイメージしやすい。地球はもちろん私たちが住んでいる場所だ(Earth is where we live.)が、海によって青く見える星は別格だと実感できる。「この星が大好きだ。みんなもそうだろう!」(I love this planet. I bet you do, too!)と猫が言うのも頷ける。)

㉔ The Statue of Liberty (Lucille Recht Penner)

ニューヨーク港(New York Harbor)に建つ高層ビル並の高さがある(as tall as a skyscraper)自由の女神は、世界中から自由を夢みてアメリカにやってくる人々を迎える自由の象徴である。設計したのはフランス人のフレデリック・バルトルディ(Frédéric Bartholdi)。母の顔をモデルに小像を作り、それを大きくしていった。

そして巨大な実物を各部分ごとに制作。1本の指は大人の男性の身長以上の長さがあった(Each finger was longer than a man.)。外で組み立てて完成を確認した後、分解して、214個の木枠(crates)に入れてフランスからニューヨークへ船で運んだ。アメリカでは台座(pedestal)を建設。資金が尽きて作業が止まってしまうが、新聞王ピュリッツァーが募金を呼び掛けて完成。1886年10月28日に雨の中、バルトルディ自身が像内部の階段を駆け上がり、女神の顔を覆ったフランスの国旗を大観衆の前で落とす除幕式が開催された。自由の女神は今なおアメリカ—the land of the freeに来る人々を迎え入れている。

(自由の女神は有名だが、それがどのように建造されたのか知る人は意外に少ないのではないか。本書は小さな絵本だが、当時の貴重な写真も加えて、バルトルディの苦心と除幕式の興奮と感動をじつによく伝えている。)

STEP 3 小1～小3

㉔ Alexander and the Wind-Up Mouse (Leo Lionni)

人間に嫌がられるネズミのアレクサンダーは人間に愛されるおもちゃのウィリーと仲良くなって、彼のようにゼンマイ仕掛けにしてもらおうと、トカゲ(lizard)の魔法使いに言われた紫色の小石(purple pebble)を探す。ところがアニーの誕生日パーティーのあと、ウィリーら古いおもちゃはダンボール箱に入れられて捨てられる。やっと石を見つけたアレクサンダーはウィリーを自分と同じ生身のネズミに変えてもらうことにする。再会した二匹は踊って喜び合う。

(アメリカの児童図書館協会がもっともすぐれた絵本のイラストレーターに贈るコールデコットメダル受賞作。わが国でも根強い人気がある絵本『スイミー』(Swimmy)のレオ・レオニの作品と言えば、納得し、芸術性の高い絵を見なくなるだろう。巻末の写真入りの紹介によると、レオニは1999年89歳で亡くなっている(He died in 1999 at the age of 89.)。)

㉕ The Best Mistake Ever! And Other Stories

(Richard Scarry)

猫のハックルは母猫の家事の手伝いを買って出るが、失敗ばかり。お使いも肝心の“the shopping list”を忘れ、親友のロウリーに言われるまま、買うよう言われた食材は自分が食べたい加工品になってしまう。母猫は“party food”を見て怒るが、そこにローズおばさん(Auntie Rose)と幼い娘リリーが訪ねてきて、買ったものが役に立つ。

・A Visit to Mr. Fixit

母の日(Mother's Day)に鳩時計をプレゼントすることにしたハックル猫は自転車で帰宅途中、豚の郵便局員(Postman Pig)とぶつかって、鳩時計と自転車を壊してしまう。修理店のキツネに任せると、鳩時計がリンリン(Dring-dring!)と時刻を知らせ、自転車のベルがカッコーカッコー(Cuckoo-cuckoo!)と鳴るようになったが、風変わりで、かえって気に入った。

・Best Friends

ハックル猫はロウリー虫と大の仲良しだったが誕生日当日、ロウリーはよそよそしい。意地悪をされたと感じ、ハックル猫は“This is the worst day of my life!”とまで思うが、ロウリーの一言“Surprise!”で安堵。みなに誕生日を祝ってもらった彼は、固い友情を願う。

(3話からなる短編集。語数も多くなったが、絵の助けもあって、小学校低学年の読者でも無理なく内容が楽しめるだろう。)

㉖ Dinosaur Days (Joyce Milton)

発見された恐竜の骨をパズルのように組み合わせて(put together)、恐竜の姿と生態を知ることができる。Dinosaur とは「恐ろしく大きなトカゲ」(fearfully great lizard)という意味である。何千万年も昔、世界は恐竜のものだった。以下、迫力あるイラストとともに、パンファギア、アルゼンティノサウルス、マプサウルス、スケリドサウルス、エドモントサウルス、ティラノサウルス・レックス、アンキロサウルス、トリケラトプス、シティパティ、プレシオサウルス、プテラノドン、(Panphagia, Argentinosaurus, Mapusaurus, Scelidosaurus, Edmontosaurus, Tyrannosaurus rex, Ankylosaurus, Triceratops, Citipati, Plesiosaurus, Pteranodon) が紹介されている。小惑星(an asteroid)の衝突で食糧がなくなり、恐竜の時代は終わった。

(アルゼンチンで発見されたアルゼンティノサウルスの大きさ——バス3台より長く、ゾウ13頭の重さがある(longer than three buses, and as heavy as thirteen elephants!)——を示すのに、現代の家とともに描いた見開きの絵(18-19)がすばらしい。空を飛ぶ恐竜の子孫が現代の鳥という締め括りも、“We still have these dinosaurs today. They are called birds! So the dinosaur days go on.”と書いて、意外性を印象づけている。)

㉗ Dolphins! (Sharon Bokoske and Margaret Davidson)

夜、船から海に落ちた女性を岸辺に運んだのはイルカだった。「何千年もの間、人はイルカを愛してきた」(People have liked dolphins for thousands of

years.)。イルカは魚ではない。「イルカは私たち同様、哺乳類である」(Dolphins are mammals, like us.)呼吸が必要で、1分間に2回ほど(about twice a minute)顔をだして空気を取り入れる頭上の噴気孔(blowhole)を図解している(12-13)。病気のときは仲間が支えて呼吸を手伝う。マグロ漁で網にイルカもかかって被害があったときは、多くの人がマグロを食べるのをやめ子供たちが抗議の手紙を送った。イルカは知性があり、芸を覚えるのが速い。絵を描いたり、輪投げを楽しんだりするものもいる。40語以上の語を覚えたイルカもいる。イエスカノーか質問に答えることもできる。体が不自由な子供を気遣って一緒に泳ぐこともできる。

(人間とイルカには、「A very special friendship!」があると締め括る本書を読めば、イルカを食べるなど言語道断だと西洋人が考える理由がよくわかる。)

②⑨ Fish is Fish (Leo Lionni)

池の中で親友(inseparable friends)になった小魚(minnow)とオタマジャクシ(tadpole)。しかし、オタマジャクシはカエル(frog)に成長し、池から地上に上がる。鳥や人間を見てきて、それを小魚に語って聞かせると、小魚も世間を見たくなくなった。そこで、尾の力を振り絞り(with a mighty whack of the tail)、岸(the bank)に跳び上がるが、息も身動きもできず(unable to breathe or move)助けを求める。運よくカエルに助けられ、水中に戻った小魚は「魚は魚」といまの生活に満足する。

(レオ・レオニの絵本。クレヨンで描いた絵が魅力的で、地上の世界を知らない小魚がカエルの話から鳥や人間を想像する絵が楽しい。鳥も人も顔が魚なのだ。)

③⑩ Frederick (Leo Lionni)

農場の納屋と穀物倉庫(the barn and the granary)の近くで暮らすネズミたち。農場主たちが去ってしまったので(had moved away)、冬を越すため、食料を確保するのに苦労している。あくせく働くネズミたちと違って、フレデリックは手伝いもせず物思いにふけっている。色(colors)や言葉(words)を集めていると言ったのは怠け者の言い訳のようにも思われたが、長い灰色の冬の間、フレデリックは言葉によって仲間たちに温かい太陽光を実感させ、自作の詩で勇気づけた。

(“But Frederick,” they said, “you are a poet!” Frederick blushed, took a bow, and said shyly, “I know it.” (33)と締め括ったレオ・レオニは自身の立場を意識しながら、詩人の効用を作品化したのである。)

③⑪ How to Help the Earth—by the Lorax with Tish Rabe (Tish Rabe)

ロラックスおじさんは、オレンジ色の体毛に黄色い口ひげをはやす奇妙な生き物。木と魚と鳥の代弁者として、読者に環境保護の大切さを訴える。大量のごみは、広大なごみ埋め立て地(a great landfill)に運ばれるが埋めきれなくなる。燃やせば、大気汚染(air pollution)のもとになる。だから、ごみを出さないのが一番だ。弁当を入れた袋は再利用し、紙は両面(both sides)を使おう。雑誌は読みたい人へ、衣類やおもちゃも欲しい人に寄付しよう。空き缶はリサイクルし、乾電池よりも充電式(rechargeable batteries)を使おう。天然資源(natural resources)には限り(a limit)があるので、毎日、節電を心がけよう。歯磨きやシャワーで流す水にも気を遣おう。たくさん木を植えよう(plant lots of trees)。

(“If we work together, the earth will get better.”という信念のもと、子供たちに協力を求めている。)

③⑫ Hungry, Hungry, Sharks! (Joanna Cole)

恐竜の時代から生きるサメ。いまでは400種以上いる。最大のサメはジンベエザメ(whale shark)で、バスよりでかい(It is bigger than a bus. 挿絵つき)。しかし、人間には危害を加えず、小さなエビや魚を食べ、性格はおとなしい(very gentle)。怖いのは、「海のオオカミ」(the wolves of the sea)と呼ばれる集団で餌をあさる青いサメと、鋭い歯をもつホホジロザメだ。後者は無敵で、鋭い剣のような吻をもつメカジキでさえほとんど常に戦いに敗れる(But even a swordfish almost always loses a fight with a great white shark.)。ハンマーのような頭をもつシュモクザメとイルカの戦いでは、脳が小さいサメに対し、イルカは頭がよく集団で連携するので、サメを殺すことができる。そして気になるのは、「サメは人間を食べるのか」(Do sharks eat people?)という問題だろう。答えは「意図的ではない」(Not intentionally.)。サメに殺される人は少なく、ハチに刺されて死ぬ人のほうが多いのである(More people die from bee stings than from shark bites!)

(映画『ジョーズ』で広まった感があるサメの恐怖は、サメの生態を正しく伝えるこの本でかなり和らぐだろう。実際最後は、人間に殺されて数が減っているサメの保護を訴えているほどだ。締め括りの仮定法の文章 “Oceans would not be the same without sharks.”に著者のサメへの愛情が感じとれる。)

③⑬ Little Witch Goes to School (Deborah Hautzig)

近所の子供たちはみな学校に行ってしまう、遊ぶ友達もなく、小さな魔女は退屈する。善を嫌い、いじわるが大好きな母は、悪い子になると約束させて、学校に行くことをようやく認めてくれた。ブルックス先生(Ms.

Brooks)は“Why are you dressed as a witch, dear?”と魔法の格好に驚くが、“Because I *am* a witch”と答えた少女は“Watch me fly around this room!”と言って、ほうきで飛んでみせる。教室に自分専用の棚(cubby)を得た小さな魔女はときどき魔法を使うも、クラスに溶け込み初めての学校生活を満喫する。放課後は約束どおり、クラスの友達全員をほうき(the longest broomstick ever)に乗せる。

(良いことが大嫌いな魔女の母親は子供たちを追い払わせるが、娘を愛している。悪い子になると学校に行った小さな魔女が約束を破ったことを、“It’s *bad* to break a promise”と叱ってから矛盾に気づき、“You see? You were bad after all! I’m proud of you, Little Witch.”とめでたく終わる。後味のよい作品である。)

③④ Little Witch Learns to Read (Deborah Hautzig)

学校で字を習い、本を借りてきた小さな魔女。読書はよいことなので家では厳禁。それでも向上心豊かな少女は、“I cannot WAIT until I can read all by myself!”と本を隠して夜中にこっそり読んで寝不足になる。心配になった魔女の一族は、“We have to find out why.”と部屋を探しまわり、原因が本と知る。題は『白雪姫』(Snow White)。少女はハッピーエンドが大嫌いな母親に毒のリンゴと醜い魔女が出てくる話だと反論し、朗読。意外におもしろく、魔女たちは聞きほれる。

(魔女の母は“That book has a stupid ending. Nobody lives happily ever after! But the middle parts were good!”と感想を述べ、読むのがうまい(a good reader)だと認める。“You are good at everything—except being BAD!”と言って、悪事ができない娘に不満なように溺愛している。そこが本シリーズの魅力のようだ。)

③⑤ Little Witch’s Big Night (Deborah Hautzig)

魔女たちが楽しみにしているハロウィーンの夜。幼い魔女は“What! You made your bed again!”と、ベッドを整え掃除をしたことを母親の魔女に叱られ“You really must be punished.”と、罰として留守番を言い渡される。大人の魔女たちがほうきで飛び去ったあと、近所の子供たちが“Trick or treat!”とお菓子をもらいに来る。何も用意していなかった幼い魔女は代わりに“I can give you a ride on my broomstick”と提案。順番に同世代の3人をほうきに寄せ、空の旅を満喫。「これまでで最高のハロウィーンだったよ!」(This was the best Halloween yet!)と子供たちは満足。“Let’s go flying next year too!” “That’s a good idea”と意気投合して別れる。帰宅した母は娘をおいて行ったことを後悔しており、悪い子でいれば友達の同行も許すと約束する。

(良いことが大嫌いな母親の魔女が小さい娘を溺愛している基本設定は同じだが、小学校に通う前作以前の物語らしい。異なるイラストレーターによる挿絵では、醜い出っ歯で描かれ、違和感がある。)

③⑥ Truth or Lie: Dinosaurs! (Erica S. Perl)

恐竜について真偽を調べる探偵(the TRUTH SLEUTH)が4つの文(four statements)中、間違いはどれ?(Which is a LIE?)と問うクイズ10問。”Play TRUTH OR LIE with your friends and family.”と、友人や家族で遊ぶように書かれており、難問をとおして恐竜の雑学を学べる本になっている。

(「トリケラトプスは3つの角がある顔という意味で「新たな餌食を試すのが好き」を意味するというのは嘘。解説では、“Triceratops was a plant-eating herd animal. But in a fight, watch out! Triceratops could take down larger dinosaurs, including the ferocious Tyrannosaurus.” (8-9)と草食ながら、凶暴なティラノサウルスを倒す実力があったという。夕日をバックに、二体が対峙する挿絵がついて、恐竜マニアを興奮させる仕掛けが実感できる。他に、おなじみのステゴサウルスの脳について“Stegosaurus had a brain the size of a pea.”というのは間違い。6,800 ポンドの体重でさすがに豆粒大の脳では小さすぎる。“a brain about the same size of a small dog’s”が正解だ。「それでも、かなり小さい」(still pretty small) 脳である。)

③⑦ Trains! (Susan E. Goodman)

洗練された写真を掲げ、鉄道の魅力を語った本。汽車(ハリー・ポッター映画のthe Hogwarts Expressの写真も)や電車(貨物列車や超特急も)好きの子供の必読書。——What’s the best thing about a train ride? 電車に乗る楽しみの一つは景色。寝台列車で過ごすのも最高だ。1829年、時速35マイルの機関車(locomotive)が世界を変えた。移動時間が短縮され、駅馬車(stagecoaches)から鉄道の時代(the Age of the Railroad)になった。蒸気機関の仕組みを図解。1869年に、合衆国を横断する鉄道敷設が完了(白黒写真つき)。ヴィクトリア女王の専用列車は世界初のバスルームつき(the first one to have a bathroom in it!)。ディーゼル(diesel engine)の登場でさらに便利になる。貨物列車(freight trains)は、200車両、長さが2マイルに及ぶもの(見開き写真)さえある。トラックや戦車(tanks)、「トロピカーナ」のジュースやゾウも運ぶ。もちろん通勤などで多くの人利用。地下鉄(subways)、路面電車(trolleys)、モノレール(monorails)、ケーブルカー(funicular railway)、超特急(bullet trains)もある。フランスのTGVは時速

357マイルで世界最速を記録。リニアモーターカー(maglev trains)はそれを超える。車体の軽量化や太陽光パネル(solar panels)の利用で環境にやさしい。最後のページでは、“The trains of the future will be amazing!”と書いて、鉄道の未来に期待を寄せている。

(なぜか日本の新幹線の紹介はなく、代わりに、駅員が満員列車に会社員を押し込む間抜けな写真(34)が載っている。)

STEP 4 小2～小3

③⑧ Discovery in the Cave (Mark Dubowski)

夜、岩山を登っていた一頭のバイソン(a bison)が大地震に遭遇。たくさんの岩とともに転落し、洞穴の入口がふさがれた。1940年9月12日、フランス。17歳になるマルセルは、愛犬のロボットと3人の友人たちと狩りに森へ出かけ、深い穴を発見。中に入ると、洞窟につながっていて、頭上の白い壁は動物の大きな絵で装飾されていた(Above their heads, the white walls of the cave are decorated with large paintings of animals.)。ナチスドイツの軍用機(warplane)が飛ぶ戦争中である。少年たちは秘密を守り、理科を習った壁画に詳しい先生を連れてくる。紀元前1万6千年、半裸の男たちが洞窟の中で足場(scaffold)を組み、岩絵の具を用いて動物の絵を制作。先史時代の芸術の専門家アンリ・ブリュイが呼ばれ、何が描かれているか少年たちに解説。ラスコー洞窟は5つの部屋からなることが判明する(The cave at Lascaux turns out to have five rooms of paintings.)。以下、地図でどの部屋かを示し、そこに描かれている主な絵を紹介している。ブリュイ氏は世界中から専門家を招き、洞窟は美術館に改装され、多くの見物客が訪れた。発見者のマルセルは警備員として勤めた。劣化のため、1963年、閉鎖。現在は、複製の洞窟が公開されている。

(驚くべき実話を劇的に絵本で再現。想像される過去の出来事もはっきり描き、時空を超えた洞窟の絵に焦点を当てている。小さな本だが、ラスコー洞窟のことが概観できる。)

③⑨ Helen Keller: Courage in the Dark

(Johanna Hurwitz)

1880年6月27日アラバマの農場で、ヘレン・ケラーは生まれた。1歳半のとき高熱を出し(had a high fever)、その病気がもとで目と耳に障害が残った(The illness had left her blind and deaf.)。ヘレンは自分の欲求を伝えるために暴れ、両親は途方に暮れていたが、電話の発明家ベル(夫人も耳が聞こえなかった)に紹介され

たパーキンス盲学校(the Perkins Institute for the Blind)からアン・サリバンを派遣してもらい、1887年3月から家庭教育をスタートさせた。数回の手術で視力を取り戻していたアニーは盲人であることがどんな感じか(what it was like to be blind)覚えていて、ヘレンに寄り添って根気強く手に文字を書いてそれが表わす物を把握させた。井戸から汲んだ「水」を認識すると、後は単語を次々に覚えてゆき、1888年5月にはボストンのパーキンス盲学校に入学。ブライユ(Braille)点字法を学んで、非常にたくさんの本(many, many books)を読むようになった。10歳になり、サラ・フラーからしゃべる方法を学ぶ。先生の顔に手を当てて口と舌の動きを知り、それをまねて発声練習を繰り返し、だれもがわかるようにしゃべれるようになった。14歳でニューヨークの聾話学校に入り、ドイツ語とフランス語も学ぶ。1900年秋に、ラドクリフ女子大学に進学。アン・サリバンが講義を手に通訳し(She spelled the professor's words into Helen's hand.)、課題は点字で書いた。『わたしの生涯』(The Story of My Life)を22歳のとき出版し、世界中で読まれた。ヘレンはアニーと講演旅行で世界を回り日本にも来た。作家のマーク・トウェイン、チャップリン、ジョン・F・ケネディ大統領など有名人と会い、ダンス、コンサート、乗馬、園芸などを楽しみ、1968年6月1日に亡くなった。

(映画や演劇でも有名な驚くべき実話。挿絵はうまくはないが味わいがある。ヘレン・ケラーの努力と才能には驚かされるが、彼女を受け入れて才能を開花させた学校と教育者の存在にアメリカのすごさを感じる。)

④⑩ Hungry Plants (Mary Batten)

沼地(bog)で花蜜(nectar)の香りに誘われてとまったハエ。SNAP! 生きたまま、この植物に食われてしまう。植物の名はハエジゴク(Venus flytrap)。このように昆虫や小動物を食べる食虫植物(carnivorous plants)は600種以上ある。化石(fossils)の調査によると、発生は恐竜の時代(the time of the dinosaurs)らしい。ハエジゴクは、ハエが二本の小さな毛に触れるとそれが引き金となって、葉が閉じる仕掛けだ。ハエのほか、クモ・アリ・甲虫などを閉じ込め、数日から1週間かけて特殊な液で分解し栄養を吸収する。タヌキモ属の食虫植物(bladderwort)は、池や湖の水中で獲物を待つ。卵形の小袋の毛に触れた虫が中に吸い込まれて食われる。袋葉植物(pitcher plants)は不動。花蜜に誘われたハチが中に入ると、内壁がつるつると滑り(slippery)、SPLASH! 水の中で溺れ死んだあと、胃液のようなものを分泌して消化する。袋葉植物の最大のものはボルネオ(Borneo)で見られる(27頁に写真つき)。合衆国南部には袋葉植物

が群生する沼沢地がある。オレゴンやカリフォルニアには蛇の頭に似たコブラリリー(cobra lily)が巧妙に昆虫を食う。見た目がもっともかわいらしいモウセンゴケ(sundews)はねばねばした小球(little gluey balls)で甲虫を捕まえ、酸で溶かし、ビートルジュースが数日分の食料となる。モウセンゴケはイギリスの偉大な科学者チャールズ・ダーウィン(the great British scientist Charles Darwin)を魅了し、1875年に本が書かれた。

(本書を読む子供は「肉食」植物(meat-eating plants)に自然の驚異を感じ、自分が食われる恐怖を想像するのではない。著者は最後に人間には危害を加えないことを力説している。最大なものでもフットボール大で、足で踏みつぶせる。But please don't!と著者は書き、中には絶滅危惧種(endangered)もあって、むしろ人間の農薬や殺虫剤(pesticides)が食虫植物に危害を及ぼしていると教えている。植物園(botanical garden)で実物を見ると自分で育てることを勧めて本書を締め括る。)

④ Ice Mummy: The Discovery of a 5,000-Year-Old Man

(Mark Dubowski and Cathy East Dubowski)

1991年9月19日、ドイツ人観光客のシモン夫妻(ヘルムートとエリカ)は、アルプスをハイキング中、オーストリアとイタリアの国境近くで氷に半分埋まった男性の死体を発見した。監察医(medical examiner)はミイラと知り、慎重に氷から出す。このとき石でできたナイフを身に着けていることに気づく。ミイラはヘリコプターで一番近い村(the nearest village)に運ばれ、棺に入れられた(placed in a coffin)が、埋葬するためではなく、監察医 Dr. Hennの医学校で調べ、マスコミに公開された。「アイスマン」とあだ名がついたミイラは腐敗がはじめていた。あわてて冷蔵庫に移す。Kept cold in this room, the mummy is safe from rotting. 考古学者(archaeologist)コンラッド・スピンドラー博士が調べた結果、銅の刃がついた斧からアイスマンは少なくとも4千年以上前の人間と見なせた。さらに放射性炭素年代測定(carbon-14 dating)により、5千年以上昔の人間だとわかった。レントゲン写真をもとにアイスマンの生前の顔も再現された(29頁に写真掲載。さらに草でできた靴、弓矢、けがしていた右手の拡大写真がつづく)。2005年、CATスキャナーで致命傷となった矢じりを肩に発見。紀元前3千年、アイスマンは敵と遭遇して争って、背後から射たれ、雪嵐にのまれたのだった。イタリアのボルツアーノ(Bolzano)にアイスマンの博物館ができて、今そこでアイスマンとアイスマンの所持品を見ることができる。

(シモン夫妻が撮影した氷に半分埋まったアイスマンの写真はあまりにも有名だ。世紀の大発見に世界中の人々

が大騒ぎした。本書で語られているとおり、自然の力で5千年前の人間が冷凍保存されて、大昔の生活を身近に知ることができたのだ。著者は、“Are there others like him out there? Lost...and waiting to be found?”と新たなミイラの発見に期待を寄せている。)

④ Hans Christian Andersen's The Little Mermaid

(Deborah Hautzig)

海底で王の父と祖母と暮らす人魚の6人姉妹の末っ子(the youngest)のリトルマーメイドは15歳になり、祖母が話してくれた人間の世界を自分の目で見えるために海面へ。パーティーを開いている大型船の窓から見た王子に一目惚れし、嵐で沈没した船から彼を助ける。しかし、岸辺で目をさました王子はたまたま通りかかった姫が命の恩人と思い込む。リトルマーメイドは溺死した船乗りの骨でできた家に住む海の魔女に頼み、美しい声と引き換えに、人間の脚を手に入れる。歩くと鋭利なナイフの痛みを感じた(Every step felt like sharp knives.)が、王子に気に入られて城に留まることができ満足する。が、その後、王子は命の恩人として忘れられずにいた王女と再会し、結婚してしまう。恋が成就しない場合は海の泡と消える運命だと聞いていたリトルマーメイドを助けるため、姉たちがナイフを届ける。“You must kill the Prince. When his blood splashes on you, your tail will grow back! You can live under the sea again!”と、王子を殺して人魚として海に戻ることを勧めるが、リトルマーメイドは新婦と寝ている愛する人を見ると、ナイフを海に投げ捨て、自身も海に身を投げる。泡にはならなかった。天使たち(the children of the air)によると、善行(the good deeds)で魂を得たのだった。リトルマーメイドは風のように船に舞い戻って王子と妻にキスし、Then she flew off into the sky. (48)

(アンデルセンの不朽の名作をやさしく書き直した本。残念ながら、ダーシー・メイ(Darcy May)のイラストも、本文も、オリジナルの感動は伝えきれていない。)

④ Pompeii...Buried Alive! (Edith Kunhardt)

ベスビオ山(Mount Vesuvius)のふもとの町ポンペイで人びとは平和に暮らしていた。しかし、ベスビオは火山(volcano)だった。約2千年前、地下では溶岩とガスが混ざり合い、いまにも火口から噴きだそうとしていたが、人びとはこのことを知らなかった。いつもと変わらず、朝、市場にさまざまな売り物が運び込まれ、大きな家では奴隷が朝食を作っている。朝食後、市場に人が集まり、公衆浴場では多くの男たちがぐつろぎ、町にはぎわいを見せている。突然、地面が揺れ、火山が噴火。人びとは慌てふためく。黒煙が太陽を覆い、夜のように真っ暗に

なる(The day became as dark as night.)。小石(pebbles)や熱い灰(hot ashes)が逃げ惑う人びとに降りそそぎ、ついには町全体が埋まってしまった。その上へ溶岩の川が流れ落ち、町は全滅。プリニウス(Pliny)は少年時代、対岸からこの光景を見て、作家になってから記録に残した。月日がたち、ポンペイの上に新しい町ができ、この出来事は忘れ去られたが、プリニウスの記述が役に立ち、遺跡が発掘された。大昔の生活が明らかになったのである。今日、ポンペイ遺跡は広い野外博物館のように見ることができる。ベスビオ山については噴火しないか科学者たちが目を光らせている。

(ポンペイの噴火が迫っていること知らない人びとを、No one in the house knew something terrible was going to happen.とかNo one in the street knew something terrible was going to happen.と繰り返して憐れんでいる。45頁には、固まった火山灰の穴に石膏を流し込んで明らかになった、何も知らずに死んだ人と飼い犬の最後の姿がイラストで描かれており、衝撃的だ。)

④④ The Titanic : Lost...and Found (Judy Donnelly)

1912年4月10日、イングランドからアメリカに向けて新造船タイタニック号が出港。6-7頁に見開きの断面図(プールやスカッシュのコートもある)次頁で街の背景にシルエットを描き、その大きさを示す(4ブロックの長さに11階建てビルの高さがあった)。二重底で最下部は16の防水隔壁からなり、史上もっとも安全な船(the safest ship ever)と専門家が太鼓判を押した。ところが14日深夜マスト上の見張り台(crow's-nest)の見張番(the lookout)が見つけた氷山にぶつかってあつけなく沈没する。2,227人の乗員に対して救命艇(lifeboats)は1,100人分しかない。カリフォルニア号が10マイル先にいたが、無線のスイッチは切られており、救難信号弾にも気づかなかった。凍える寒さの中、女子供を優先的に乗せたボートは日の出まで漂い、58マイル先から来たカルパチア号(the Carpathia)によりやく救助された。生存者はわずか705人だった。この事故の教訓から船の救命艇は人数分装備して、無線は切らず、氷山を見張る飛行機が飛ぶようになった。時がたち科学者ロバート・バラード(Robert Ballard)が調査に乗り出し、カナダ沖に沈んでいるタイタニック号を1985年夏に発見。予想に反し海底で粉々にはならず、美しい原形をとどめていた。ロバートは何も取らず、タイタニックの平安を守るよう船内にメッセージを残した。子供のときにこの船の乗客だった高齢者はこのニュースにとりわけ感銘を受けた。

(ポンペイの実話と同じく悲惨な未来を知る著者はこう書く。“The Titanic has begun its first voyage. No

one guesses this will also be its last.”(13)本書は全編現在形で語ること、臨場感と緊迫感を高めている。氷山に衝突後も、“They still think they are on a ship that cannot sink.”(19)と迫りくる悲劇を知らずにいる乗客(挿絵の家族は笑顔だ)が身近に感じられて、生々しい衝撃がある。映画でも描かれた最下層にいる貧しい乗客、小説にもなった船上で演奏をつづけた音楽家たち、「紳士らしく死ぬ」(I will die like a gentleman)と盛装して甲板に残った男性、夫と残った妻など、小さな本ながら、深い感動を味わえる。)

④⑤ Tut's Mummy : Lost...and Found (Judy Donnelly)

少年王(boy king)ツタンカーメン(Tutankhamen)が亡くなり、死者の国で安楽に暮らせるように豪華な埋葬品が用意され、遺体はミイラにされ、王家の谷(the Valley of the Kings)に葬られた。3千年以上の月日が流れ、1800年代(in the 1800s)、古代エジプトへの関心が高まり、考古学者たちは王家の谷で発掘作業に没頭していた。ほとんどが盗掘されたあとだったが、英国人のハワード・カーターは、ツタンカーメンの墓を掘り当てようとしてあきらめなかった。カーナボン卿(Lord Carnarvon)の資金援助で作業をつづけ、ついに墓所への階段を掘り当てた。ハワードは理解者のカーナボン卿を英国から呼び寄せ(It takes two whole weeks!)扉を開いた。ツタンカーメンの名前を見つけ、宝の山と安置されたツタンカーメンのミイラを発見する。

(1922年の劇的な実話である。カーナボン卿が急死してマスコミは「ミイラの呪い」(the mummy's curse)と騒ぎたてたが、墓を開いたハワード自身は長生きしており、本書では一笑に付している。それより、ツタンカーメンの父の墓はまだ見つかっていないと新たな発見に期待を寄せている。)

STEP 5 小2～小4

④⑥ Baseball's Best : Five True Stories

(Andrew Gutelle)

ニューヨーク州クーパーズタウンの野球殿堂博物館(the Baseball Hall of Fame)。野球の大スターが200名以上記念され、毎年、何十万もの人たち(hundreds of thousands of people)が訪れる。本書は、殿堂入りした5人の実話を紹介する。まずは1932年ワールドシリーズ第3戦(the third game of the 1932 World Series)でホームランを予告する(call his shot)ベーブ・ルースことジョージ・ハーマン・ルース。スタンドの国旗を指さし、カブスのピッチャーから特大ホームランを打った。

テレビのない時代で伝説になった。次は、ジョー・ディマジオ。1941年5月、スランプだった強打者の快進撃が始まり、7月17日まで56試合連続で(in fifty-six games in a row)ヒットを打った。この記録が終わった日、彼は観衆からスタンディングオベーションを受けた。次は、ジャッキー・ロビンソン。1947年、ドジャースに入団し、半世紀以上にぶりに黒人選手がメジャーリーグで活躍。差別と闘い、盗塁(stolen bases)で名をはせた。28歳の遅いデビューのため記録は控えめだが、1962年に黒人初の殿堂入りを果たした。次は、プエルトリコ出身のロベルト・クレメンテ。3千本安打(3,000 or more base hits)を達成した10人目になったが、ニカラグアへ大地震の救援物資を運ぼうとして飛行機墜落事故で急死。その死を悼み、引退5年以上の原則を破って殿堂入りを認められた。最後は、ベーブ・ルースの714本のホームラン記録を1974年4月8日夜にみごと塗り替えた、黒人選手ハンク・アーロン。755本の新記録は、2007年に、バリー・ボンズによって破られるが、ハンクは「後輩が自分自身の夢を追いかけるインスピレーションになる」と喜んだ。

(He congratulates Barry. Hank goes on to say that he hopes breaking the record “will inspire others to chase their own dreams.” (48)という締め括りの文が示すように、殿堂入りした大スターにあこがれて野球を始めた新世代の選手が新たな記録を打ち立てるところに、メジャーリーグの醍醐味があり、観客を感動させる新たなドラマが生まれるのだろう。)

④⑦ Dinosaur Hunters (Kate McMullan)

恐竜ハンターはジム・ジェンセンが有名で、これまでにない巨大なスーパーザウルスを発見し、「恐竜ジム」のあだ名がつくほどだ。化石(雨で地中のミネラルが骨を石に変える)は昔から発見されていたが、正体は不明だった。中国人は竜の骨と思い、薬にして飲んだ。絶滅した生物のものとしたベルナル・パリッシーは投獄(put in prison)された。ギデオン・マンテルは妻が見つけた大きな歯の化石の形がイグアナのものと類似することを知り、イグアナを巨大化したイグアナドンを想定した。Dinosauria「恐竜」(恐ろしく大きなトカゲの意)と1842年に命名したのはリチャード・オーウェンである。1850年までに、恐竜フィーバーはアメリカにも達した。大陸横断鉄道の敷設やゴールドラッシュにより、恐竜の化石は数多く発見された。骨を巡ってコープとマーシュ両博士間で醜い争いも起こった。見つけた骨を掘り出し運ぶ技術は進歩している。恐竜ジムのスーパーザウルスは120フィートの長さがあるが、さらに大きな恐竜の骨が見つかっており、今後も新たな発見が期待できる。古

生物学者(paleontologist)は、箱型のテーブルに化石を並べてジグソーパズルのように恐竜の骨を組み合わせている。足跡や卵の化石も、恐竜の生態を知る手掛かりになっている。これまでに、300種以上の恐竜が発掘されているが、5千種以上存在したと考える恐竜ハンターもあり、まだまだ発見が期待できる。

(恐竜の歴史が概観できる本。子供たちに人気の恐竜がどのように発見され命名されたのかがよくわかる。化石への興味もわき、その発見が恐竜学を更新していることが実感できるように書かれている。)

④⑧ Moonwalk : The First Trip to the Moon

(Judy Donnelly)

1969年7月16日フロリダから、3人の宇宙飛行士(Neil Armstrong, Edwin “Buzz” Aldrin, Michael Collins)が乗るアポロ11号(Apollo 11)がサターンV(the Saturn V)ロケットで打ち上げられた。目的地は、月。月は人類にとって謎であった。1600年代になって望遠鏡の発明(the invention of the telescope)により、その正体が少しずつわかるようになった。月に行くという夢は、ベルヌ(Jules Verne)の1865年の小説の中でロケットを使って実現する。この本の影響を受けて科学者になった人たちがロケットの実験を進め、第二次世界大戦中はドイツがイギリスを攻撃するのに使用。世界初の人工衛星を成功させたソ連に後れをとったアメリカは、ケネディ大統領が1960年代の終わりまでに人間を月に送りこむと宣言し、科学者が総力を結集して、この目標に向けて邁進する。12回も失敗を繰り返し、3年の歳月をかけ探査機を月面に着陸させる。それから優秀なパイロットたちが候補者として、宇宙に無事飛び立ってあらゆるトラブルに対処できるように、遠心機(centrifuge)やシミュレーター(simulator)での過酷な訓練に耐えた。小さな手違いが死につながるミッションが成功するかどうかはだれにもわからなかった。窓から青い地球が遠ざかって、太陽が照りつける中、浮遊するハンモックで寝起きして3日を過ごし、ついに目的地の月に到着。コリンズが司令船のコロンビアに残って(たった一人で25回も月を周回!)、オルドリンとアームストロングが着陸船イーグルで月面に降りた。“That’s one small step for a man, one giant leap for mankind.” はアームストロングが降り立ったときの最初の一言だった。アメリカの国旗を立てたあと、ホワイトハウスからニクソン大統領が労をねぎらった。二人は月の石や砂を採集し、地球に情報を送る実験器具を設置して、イーグルでコロンビアに再結合。帰途についた(Soon the *Eagle* joins up with the *Columbia*. The three astronauts are back together—and on their way home!). 60時間後に、3人の宇宙船

は迎えの船が待つ太平洋上に無事着水。月から病原菌が持ち込まれていないか警戒して3週間は家族と触れ合うこともできなかったが、その後は、全米をパレードし、3人は23か国を旅した。人びとは全人類の成功と考えて彼らを大歓迎した。

(アメリカが宇宙開発で冷戦中のソ連に後れをとって国の威信をかけたのがアポロ計画だったが、人類初の月面着陸の快挙は、アメリカだけでなく、全世界の人びとをわがことのように感動させた。これは、宇宙から地球を見た3人のアメリカ人宇宙飛行士の悟りにもつながる。著者は、国を越えた人類のかけがえのない宝である地球を締め括りの段落でこう表現している。“In the years to come, human beings will travel farther and farther into space. They will make wonderful discoveries. But we may find that the most perfect world in the universe is the one we know best. The planet Earth.” (48))

④⑨ **To the Top! : Climbing the World's Highest Mountain**
(S. A. Kramer)

吹雪の中、二人の男は、氷と岩からなる巨大な山の麓に立っていた。これから、世界一高いエベレスト初登頂に挑戦するのである。二人はほんの数か月前知り合った。ニュージーランド出身のエドモンド・ヒラリー(Edmund Hillary)は16歳まで雪を見たことがなかった。ネパールのシェルパ族(the Sherpas)であるテンジン・ノルゲイ(Tenzing Norgay)は山岳ガイド。共にエベレストの頂に立つことを長年夢みてきた。イギリスの遠征隊に招かれ、1953年3月10日にカトマンズを出発。重い荷物の中には、酸素タンクもあった。トラやワニのいるジャングルからシェルパ族が「チョモランマ」(Goddess Mother of the Worldの意)と呼ぶ氷のエベレスト山へ。ベースキャンプを設置。謎の怪生物「雪男」(the yeti)の出没がうわさされるような場所だった。ヒラリーとテンジンが組んで頂上を目指す。ちょっとしたミスが命取りとなる危険な山で、二人は文字どおり助け合う。ヒラリーが足を踏みはずすと、テンジンがすぐ反応してロープを引き上げる。40フィートの壁が立ちはだかると、ヒラリーのアイデアで、狭い亀裂中をすねを使って後方へよじ登って行った。上り終わると、今度は、非常に危険な狭い尾根がつづく。They feel as if they've been climbing forever. (36)そして、雪の頂上に出た。They've made it—first to the top of the world! 山頂に立った二人は握手し、抱き合った。下界を見おろすヒラリーは、心の中でこう思った。“Nothing above us, a world below.” 二人はヒーローとなった。英国では若きエリザベス女王の戴冠と同じ日にこの偉業が報じられた。テンジンはネパール

最高の勲章を、ヒラリーはナイトの爵位を授与された。

(本書は、人種を越えた友情の実話でもある。著者は、二人の優劣を論じる議論を退け、“Each knows he could not have succeeded without the other.” (45)と書き、お互いの協力で登頂に成功したことを二人が知っていたと確信している。その後、南極探検にも行ったヒラリーは、貧しいシェルパ族のために学校や病院を建てようと資金集めもした。1980年に無酸素単独登頂する(In 1980, he reaches Everest's summit without an oxygen tank and all alone.)ラインホルト・メスナーにも言及しているが、著者はあくまでヒラリーとテンジンの初登頂があつてこそと考えている。“He and Tenzing stay friends.”(46)という人種を越えた友情が印象に残る。)

⑤⑩ **The Trojan Horse : How the Greeks Won the War**
(Emily Little)

今から3千年前、難攻不落の城壁に囲まれたトロイア王国は、エーゲ海(the Aegean Sea)と黒海を結ぶ海峡を通るギリシアの船から通行料をとっていた。ギリシアのスパルタ王の妻ヘレネ(Helen)がトロイア人に拉致され、パリス王子と無理やり結婚させられることになる(be forced to marry Paris, prince of Troy)と、がまんの限界(the final straw)だった。ついに軍隊を送り込み、戦争となる。戦いは互角だった(Both sides are equally skilled.)。指揮するオデュッセウスは城壁内に入って戦わない限り、トロイアには勝てないと悟る。10年も戦って、オデュッセウスはやっと妙案を思いつく(Suddenly Odysseus thinks of a way to get inside Troy—a way to win the war. It is an extraordinary plan.)。巨大な木馬をつくって、その腹の中に兵士たちを隠して、あたかも戦争をやめて引き上げたかのように装ったのである。トロイアの王プリアモス(King Priam)は、戦争の女神アテーナーに捧げようと中に入れるよう命じる。そして、戦争が終わったと思い込んで浮かれて酒を飲み寝入ったところで、ギリシアの兵隊が出動し、町中に火を放った。火事は3日つづき、トロイア王国は滅びた。メネラーオス(Menelaus)は妻ヘレネをスパルタに連れ帰ることができた。

(400年後、詩人のホメロスがこの戦争を『イーリアス』(Iliad)に書き、それを手掛かりに1870年に発掘を開始したシュリーマン(Schliemann)が遺跡を発見。トロイアと戦争が事実であったとしたが、アテーナー像と木馬は見つかっていない。——同じ神々を信じ、戦争が始まると両国ともアテーナー像に捧げものをして勝利に導いてもらおうとするのがおもしろい。敵がつくった怪しげな木馬を城壁内に入れてしまうのも女神への信仰ゆえで、そのあたりを本書は理解しやすいように書いてある。)

A Guide to Random House's STEP INTO READING: Building the Foundation of Reading English

Koichi YOKOYAMA

This paper is about 50 books from Random House's STEP INTO READING series, which consists of 5 steps or levels: Step 1 for preschool-kindergarten through Step 5 for grades 2-4. Because students' abilities vary, younger students can access each step according to their level and eagerness.

Step 1 books are actually picture books with one or two simple sentences on each page. Children who have learned the alphabet begin to learn to read with these books, likely guessing the story from the colorful illustrations and reading aloud the rhyming, patterned sentences. *The Poky Little Puppy*, for example, contains the following fun-to-read sentences. "Run, run, run! Roly-poly. Pell-mell. Tumble-bumble."

Although Step 1 books may seem light on content, there are impressive masterpieces like Margaret Wise Brown's *I Like Stars* and Raymond Briggs' *The Snowman*. Even Aesop's *The Lion and the Mouse* is included in this beginning level. The editors' priority, however, is to get the young reader interested in reading whatever the book is. Using famous characters such as the Snowman, Sesame Street characters, and P.J. Funnybunny (who appears in Step 2) seems to be an effective way to encourage. The results are *The Snowman and the Snowdog*, *I Spy: A Game to Read and Play*, and *P.J. Funnybunny Camps Out*.

Step 2 is characteristic of nonfiction books like *Bones* (which explains how bones work in the body), *Feeding Time at the Zoo* (which describes a zookeeper's job and what animals eat at the zoo), *Planet Name Game* (which teaches about the sun and the 8 planets in the solar system), and *The Statue of Liberty* (which tells how the iconic statue in New York City was created). While this may sound academic to young readers, thanks to the authors' techniques and the illustrators' colorful pictures, these books are sure to spark a lot of interest in unfamiliar things.

If students are interested enough, they can read Step 3 books on their own: Recommended fiction includes Deborah Hautzig's Little Witch series (of which *Little Witch Goes to School* is the best) and Leo Lionni's masterpieces (*Alexander and the Wind-Up Mouse*, *Fish is Fish*, and *Frederick*, the latter of which explains the usefulness of being a poet). The nonfiction counterparts are *Dinosaur Days*, *Truth or Lie: Dinosaurs!*, *Trains!*, *Hungry, Hungry, Sharks!* and *Dolphins!*, all of which are undoubtedly most children's favorites.

The person who has reached Step 4 can read Hans Christian Andersen's *The Little Mermaid*, but for some intelligent learners, history readers must be even more enjoyable: For instance, *Discovery in the Cave*, *Ice Mummy: The Discovery of a 5,000-Year-Old Man*, *Pompeii...Buried Alive!*, *Tut's Mummy: Lost...and Found*, *The Titanic: Lost...and Found*, all of which deal with great discoveries in human history. And the true human stories of the Titanic are well worth reading, as is an amazing biography of *Helen Keller: Courage in the Dark*.

Students who have reached Step 5 can choose whatever they like by reading the advertisement on the back of the cover. For example, "One false step can send you hurtling down a ten-thousand-foot drop. One wrong move can bury you beneath an avalanche of snow. You are climbing Mount Everest! Here is the true story of Edmund Hillary and Tenzing Norgay—the first people ever to reach the highest spot on the planet!" *To the Top! : Climbing the World's Highest Mountain* is one of the best Step 5 books that avid readers cannot miss, as is *Moonwalk: The First Trip to the Moon*, both of which showcase the greatest feats of human achievement in history.

1977年のスーパーカー・ブームとは何だったのか ——日本の子供たちと自動車業界に与えた影響——

横山 孝一*

(2025年11月28日受理)

はじめに——人生を変えたスーパーカー

1977年(昭和52年)のスーパーカー・ブームからもう半世紀になる。当時、小学5年生(11歳)で現場を見た一人として、人びとの記憶から薄れつつある実態を振り返り、その意義を総括しておきたい。

「スーパーカー」と聞くと、ブームの真っ只中にいた者は『対決! スーパーカークイズ』(1977年7月4日～78年10月2日、東京12チャンネル月曜19:30～20:00放送)主題歌「あこがれのスーパーカー」(ケイ・ふじやま作詞・作曲、高田弘編曲)が頭の中で流れ出すだろう。「スーパーカー、スーパーカー、スーパーカー、スーパーカー、僕のあこがれ、僕の恋人、スーパーカー!」

日本国中の子供たちがランボルギーニ・カウンタック、フェラーリBB、ポルシェ930ターボなどのスーパーカーに熱狂したのはなぜだったのか。この社会現象はその後、どのような影響を及ぼしたのか。本論で明らかにする。

1. スーパーカーとは何か

「スーパーカー」(supercar)という語を幼稚と思ってはいけな。一般社団法人日本スーパーカー協会が設立されている今では信じがたいことだが『スクランブル・カー・マガジン』1982年2月号はブーム後に、意識してスーパーカーという語を避け、ランボルギーニ・ミウラを「イタリアン・エキゾチック」(11)、「スーパーなスポーツカー」(15)と呼んだ。(スーパースポーツカーならわかるが、スーパーなスポーツカーとは!)

カウンタック 25th アニバーサリー(1988)の紹介で某自動車評論家も「世の中ではスーパーカーと呼んだことがありますけど、世界中ではこの車をイタリアン・エキゾチックと呼んでいます。なるほど姿かたちもエキゾチックなものです」と気取って講釈した(DVD『最強のランボルギーニ』アドメディア参照)。

1969年11月の東京オート・ショーで初めてミウラがわが国にお目見えしたとき、老舗の『CAR グラフィック』誌(CG誌)100号(1970=01)はエキゾチックカーという

言葉も知らなかったのか、「ミッドシップにV12を置いた世界最速、最豪華の市販2座GT」(73)と表現せざるをえなかった。「世界最速のスーパーカー」といえば明快なのに! 実際、supercarは研究社『新英和大辞典』によれば、初出が1920年のれっきとした英語なのだ。

なるほど、ブーム時は欧米でも一般的な語ではなく、「和製英語」と信じられていた。ただ義広は『自動車もの知り大百科』(1977年11月)で欧米では「エキゾチックカー(異国情緒豊かな車)」「エキサイティングカー(興奮する車)」正確には「スーパースポーツカー」と呼び「『スーパーカー』というのは日本でしか通用しない言葉だ」(35)と指摘している。

CG誌はたかが子供に何がわかるかという横柄な態度でスーパーカー・ブームを毛嫌いし、21世紀になってから『スーパースポーツカー・レビュー』という題の本を出して、ご丁寧に「少年たちへのレクイエム」(11)を書いてくれた。スーパーカーという用語を避けて、「フェラーリやマセラティをはじめとするスーパースポーツカー、いわゆるイタリアン・エキゾチックカー」と呼び、ブームに冷ややかだった理由を「皮相な狂騒に手を貸して本質を見誤るの愚を避けたかったからである」(11)と述べている。「スーパーカー」は本質を見誤る愚かな命名だったのか?

人間の並の能力を超えた存在がスーパーマン(人気のクリストファー・リーヴの映画新シリーズは1978年にスタートしたが、白黒のテレビ版は再放送で日本でもおなじみだった)なら、並の自動車の見た目と性能を超越したクルマが「スーパーカー」と呼ばれるのはごく当然のことだろう。

では、最初に「スーパーカー」と呼んだ日本人は誰だったのか。謎と見なされているが、出版物で見るかぎり、やはり、ブームの火つけ役であるマンガ家池沢さとし(現・池沢早人師、1950-)と考えるのが自然だ。

『サーキットの狼』第2巻(1976年3月31日刊、『少年ジャンプ』掲載は1975年夏頃)で読者の人気を勝ちとることになる「公道グランプリ」について「国産

GT カーから外車のスーパーカーまでのありとあらゆる車種の結集だった!!」(76 以下、傍線は引用者)と次の頁にランボルギーニ・ウラッコを描いている。ちょっと地味で、見落としがちな初出だ。2 か月後の第3巻ではもっとインパクトがある。マセラッティ・ボーラが登場するとき、次のように効果的に「スーパーカー」の語が現われる。(以下、固有名詞の表記は出典に合わせる。)

マセラッティ・ボーラはロータスとおなじくエンジンをミッド(まん中)につみ、四七一九cc、三一〇馬力で、最高速度二八〇キロをほこる。フェラーリやランボルギーニとならびイタリアンスーパーカーの代表的な車である!

(第3巻77、以下、原文にない句読点の追加は引用者)

時速 280 キロ!(1977 年4月ブーム真っ最中に発売の第9巻では「わが国で最高速度のベスト記録 谷田部の日本自動車研究所のテストコースで実速 257.14km/h」とボーラの性能が本物であることを追記している)——わが国の運輸省は「道路運送車両の保安基準」を施行し、1975 年から、速度警報装置の装着を義務化した。高速道路を 100 キロを超えて走ると車体がガタガタ揺れだし、キンコンカンコン鳴った国産車しか知らない当時の子供たちにとって、スーパーカーは想像を絶する夢の乗り物と感じられたのである。

池沢が「スーパーカー」という用語をいち早く使った証拠は、1976 年 11 月 30 日に出版された第6巻の解説だ。レーサーの桑島正美はこう書いている。

最近の子どもたちの外車スポーツ・カーに対する熱の入れようは、想像以上にたいへんなものようだ。夏休みになると、街道沿いにある外車専門のディーラー(代理店)には、カメラとメモを持った小・中学生がドッと群れをなし、セールスマンをとまどわせたと聞く。(186)

1976 年夏には『サーキットの狼』の読者のあいだで早くも「スーパーカー」ブームが始まっていたようだが、速いレース車に乗っている専門家でも「外車スポーツ・カー」と呼び、新たな呼び名をまだ知らなかった。

池沢はどのような意味で「スーパーカー」という語を使ったのだろうか。排気量が 1600 cc しかない比較的安価なロータス・ヨーロッパでレースに参加した主人公風吹裕矢はボーラを見て「すげえ! 日本じゃ一〇〇〇万円以上もするマシンで公道グランプリに出てくるたァ、豪せいなもんだぜ」(第3巻78)と述べている。

第4巻(1976 年7月31日刊)の扉では、自身が所属

している「オーバー二二〇キロ・カークラブ」について、「フェラーリなどの超スーパーカーが走る姿は、まさに『サーキットの狼』の公道グランプリだ!!」と紹介した。この年に、フェラーリ・ディノ、ボルシェ 930 ターボ、マセラッティ・メラクを自分の車にしていた池沢は、「超」をつけているので微妙だが、子供の読者とは違い、最高速度 200 キロしか出ないロータス・ヨーロッパ SP はスーパーカーとは考えていなかったようだ。

日本に上陸したばかりのボルシェ 930 ターボを新車で買えたということは、『サーキットの狼』の印税が莫大で、それだけ人気を博し、やはり 1976 年にはブームが過熱しはじめていたことを示している。

事実、第3巻(1976 年5月31日刊)から毎回巻末に「★特別プレゼント★ 世界名車シリーズ」で6~7台を描いている。最初に紹介するのはもちろん主人公の愛車だが、興味深いことに、ほかのクルマと違って最高速度を記していない。ブームではロータス・ヨーロッパ SP を当然スーパーカーと見なしていた子供たちに配慮したのかもしれない。

池沢による「スーパーカー」の定義は英語 supercar と変わらない。「世界を代表する超高性能車といえば、イタリアのフェラーリ、マセラッティ、ランボルギーニの三社が、王座をわかちあっている」(第4巻52)と書いており、これは当時の「イタリアンエキゾチックカー」に相当し、現在(2025 年)高校生高専生がふだん使っている『ジーニアス英和辞典』に載る supercar の訳語「超高性能自動車」とピッタリと対応している。

第4巻では、スーパーカー・ブームに押されてついに、スーパーカーの王様、ランボルギーニ・カウンタックを登場させている。『サーキットの狼』を描きはじめたときは存在も知らなかったそうなので、自ら火をつけたブームで子供たちが先に気に入ってしまったクルマを、急きょ出すことになったようだ。だから池沢の絵はまだカウンタックを描くことに慣れておらず、不格好である。

池沢はイタリアンスーパーカーを本格参戦させ、導入としてランボルギーニ社創立の逸話を紹介する。当時の子供ならだれでも知っていたこの話も、子供向けには『サーキットの狼』が初出だった。感動的なおなじみの話を引用してみよう。

農機具とエアコンであてた実業家フェルッチオ・ランボルギーニはフェラーリを買った。その車の気にならない点をおん大エンツォ・フェラーリにじか談判しようと面会をもとめるが、あってもらえず、ついに、ハラをすえかねたランボルギーニは、みずからフェラーリを上まわる車をつくろうと決心した。

(第4巻53)

このあとには、同じく、当時の男の子ならだれでも知っていた話がづく。「現在、両社の最速モデルは、フェラーリ・ベルリネッタ・ボクサーの三〇二キロ！ランボルギーニ・カウンタックは三〇〇キロ！ わずか二キロの差で、フェラーリが世界最速車として君臨している」(53)。

後年、どちらの車も 300 キロなど到底出ないと伝説が壊されたことは周知のとおりで、**沢村慎太郎**(1962-)が名著『**スーパーカー誕生**』(初版 2008 年)で構造面から解説している。(ブームの最中から BB の最高速度に疑問を呈する識者はいた。『世界からやってきた!! スーパーカー大集合』(1977 年)で**春山徹久**は「いかに目いっぱいアクセルを踏みこんでも(といっても日本の公道では不可能だが)フェラーリ・ミュージックの音質が変わらないという余裕が、この名車のすぐれたところだ。カタログ・データの三〇二 km/h が実際にマークできようが、高速巡航の安定性に文句のつけようがない」(44)と夢を壊さない書き方で指摘している。「そんな速度死んでも出ない」と皮肉る物書きはこの姿勢を謙虚に学ぶべきだろう。)

なお、イタリアに飛び、カウンタックの設計に携ったパオロ・スタンツァーニに取材した沢村は、フェラーリ打倒に燃えるフェルッチオ・ランボルギーニの逸話が単なる宣伝用で「そういう伝説はすべて作り事なのだ」(沢村 165)と聞いてきたことを手柄とした。(子供時代に信じた伝説をことごとく壊すのが大人と思っていないか?)

沢村慎太郎の本は、わが国のスーパーカー・ブームを批判的に眺め、1960 年代にレーシングカーの駆動レイアウトを採用しはじめた「高性能ミッドシップ市販車」(10)の系譜こそが国際的に通じる「スーパーカー」だと説いている。最高速度 300 キロ以上はもちろん、2006 年末、実際 402 キロ出した**ブガッティ・ヴェイロン**(当時 2 億円)までを扱い、21 世紀の現代まで続く supercar の歴史を描きだすことに成功している。

沢村は同じミッドシップ市販車でも「高性能」とまでは言えぬ非力なロータス・ヨーロッパはスーパーカーとは見ない。ランボルギーニ・ミウラをスーパーカーの始祖と見なし「すべてはミウラから始まった」(107)と指摘する。スーパーカー・ブームを知る者には、実感として説得力がある。『サーキットの狼』中、風吹裕矢の義理の兄となるプロ・レーサー、飛鳥ミノルの車として、**ランボルギーニ・ミウラ**は第 1 巻(1976 年 1 月 31 日)の 111 頁から登場している。一目見るなり、「うおーっ、すげえ！ランボルギーニ・ミウラだ！」と主人公が魅了されるのはまさに、スーパーカーを見たときの子供たちの反応そのものだった。

「凄いパワーに凄い恰好。そして玄人が唸るほどの、見たこともない斬新な設計。それこそがランボルギーニに必要で、それこそがスーパーカーと呼ばれるクルマの命だったことを」(311) 沢村慎太郎はスタンツァーニの悟りとして、スーパーカーがスーパーカーたるゆえんを明らかにしている。

そして、池沢さとしはこの「スーパーカー」の本質とその魅力をだれよりも早く見抜き、伝道師のごとく日本国中にスーパーカーの存在を知らしめた。まったく凄い人である。映画『**サーキットの狼**』(1977 年)の予告篇で「現代のスーパースター池沢さとし」と紹介されたのはそういった意味合いを込めてのことだろう。ちなみに、この予告では「スーパーカー VS ロータス・ヨーロッパ」の文字も踊る。子供たちはみなロータス・ヨーロッパをスーパーカーと信じていたが、クルマに詳しい大人たちはロータス・ヨーロッパが「ライトウエイト・スポーツカー」(lightweight sports car)だとちゃんとわかっていたのだ。

2. 池沢さとしの『サーキットの狼』

池沢さとしの「スーパーカー」の概念は沢村慎太郎が導き出した現代の定義を逸脱するものではなかった。とはいえ、わが国の子供たちがロータス・ヨーロッパをスーパーカーの仲間を含めるなど、1977 年のスーパーカー・ブームでいう「スーパーカー」が英語の supercar とズレがあることは周知のとおりだ。

スーパーカー・ブームの回顧本は「スーパーカー」の定義から始めるのが通例になっている。毎回、似たり寄ったりで凡庸な定義が目立つが、日本に関していちばん正解に近いのは、おそらく、横浜にあったスーパーカー専門店シーサイド・モーターに勤め、1980 年の倒産後独立したキャステルオート社長、**鞍和彦**(1951-)の言葉だろう。日本の子供たちが夢中になった「スーパーカー」とは、「漫画『サーキットの狼』に出てきた車種」(『大人のスーパーカー』90)のことである。

作者の池沢さとしは、スーパーカーが何かちゃんと知っていたが、読者の子供たちはマンガに出てきた車を広く「スーパーカー」と認識したのだ。もちろん中心となるのは、イタリアのスーパーカー。御三家フェラーリ、マセラッティ、ランボルギーニと、アメリカのフォード傘下で量産されたデトマツ・パンテラ(第 1 巻 15 頁に登場)だ。これらイタリア生まれの未来的なデザインの車からはずれるドイツ車、**ポルシェ 930 ターボ**(リアエンジン)が含まれるのは、最高速度 250 キロと、当時斬新だったターボ・エンジンが当然関係しているが、『サーキットの狼』第 6 巻の忘れがたい初登場の仕方も大きな要因だった。

おっ…ウソだろう？ グングンおいあげてくるマシンが…!? ポ、ボルシェだ！ ボルシェもただのボルシェじゃねえ。あのいようにはりだしたオーバーフェンダーは!? ま、まさかボルシェ・ターボ!! まぎれもねえターボだ！ いよいよ日本に上陸してきたのか!! (41-42)

遭遇した主人公の興奮が読者に伝わり、930ターボは別格扱いされて、カウンタック、BBと並ぶ人気を博した。風吹裕矢の最初の愛車ロータス・ヨーロッパとライバル早瀬左近が最初に乗っていたボルシェ・カレラRSは実際はスーパーカーとは言い難いが、スタート時に主役級の車であったため、子供たちはスーパーカーととらえた。

実を言えば、国産車GTを含む軽量級のスポーツカーの物語として描きはじめたマンガに、イタリアのスーパーカーを登場させたのが転機だった。著者の池沢さとしもスーパーカーの魅力にとりつかれてしまい、ロータス・ヨーロッパから乗り換えた結果、『サーキットの狼』はスーパーカーのマンガに変貌したのだ。

国産車については、警察官の沖田が運転したパトカー**フェアレディ240ZG**は意見が分かれるところだろうが、公道グランプリで前年度優勝したというピーターソンの**トヨタ2000GT**は、文句なしにスーパーカー扱いだった。この車は海外の自動車マニアのあいだでも人気が高く、日本の代表的 supercarと見なされている。

アメリカ唯一の2人乗り、**シボレー・コルベット**と、イギリスの**アストン・マーティン V8** はマンガ中レースの参加車として姿を見せるだけで、どう分類するか迷うところだろう。『自動車もの知り大百科』のただ義広はトヨタ 2000GT とともに「スポーツカー」扱いしているが、高島鎮雄（監修）の『スーパーカー・世界の名車全百科』（1977年12月）では、「スーパーカー勢揃い!!」としてコルベット、アストンマーティン V8、パンサーJ72までも含めている。池沢のマンガを離れ、スーパーカー関連本、スーパーカー・ショー、『対決！スーパーカークイズ』などで取り上げられたことで、スーパーカーに格上げされたのである。

21世紀、筆者は、英国車の専門店**ケントスピード**の修理工場で、懐かしいアストン・マーティン V8 と再会した。「アストン・マーティンはこれじゃなきゃダメで、なんとか動くようにしてくれって言うんだ。なんでだろう」と不思議がっている社長に「スーパーカー・ブームの車だからですよ」と教えてさしあげた。当時子供だった者にはわかってもらえるだろう。

『サーキットの狼』（連載1975年1月～79年6月、本は1976年1月～81年4月刊行）はいま読み返すと、第1巻扉にあるとおり「レースという男の戦い」を描いたマンガだ

とわかる。この巻でレーサー生沢徹が「スピードに挑戦する世界的レーサーを…」と解説を書き、以後、数多くのレーサーたちがわが国のモータースポーツを盛り上げるため、読者から未来のレーサー、日本初のF1レーサーが誕生することを願って「解説」を引き受けている。

池沢はとにかくレース好きで、前作のギャグ・マンガ『あらし！三匹』第14巻(1974年2月)でもゴーカートによるグランプリ・レースを物語の途中で唐突に描きだし、「スリップ・ストリーム」を解説していたほどだ(140)。

『サーキットの狼』第2巻扉で池沢は、F1レーサーの夢の途上で亡くなった**風戸裕**選手をモデルにしたことを明かしている。1974年6月2日、富士スピードウェイでレース中多重事故に巻き込まれ、25歳で亡くなった人だ。

主人公の風吹裕矢は暴走族の一匹狼から公道グランプリをきっかけに同じ夢を抱き、欧州で日本を代表するF1レーサーとなり、義兄の飛鳥ミノルとトップを争って一緒にゴールする。第1巻でランボルギーニ・ミウラの助手席に乗せてもらって、プロレーサーのテクニックに驚くのは、4年半もかけて描く大長編マンガの最終回の伏線だったのだ。

池沢さとしはマンガの印税で本物のスーパーカーを乗り継いで、主人公そのままに、A級ライセンスを取得し、プロのレーサーとしてデビューした。解説を書いた先輩レーサーたちはみな池沢の運転の才能を認め、本編が実体験のテクニックに基づいた説得力に満ちた描写だと保証している。『サーキットの狼』はレース・マンガの金字塔と再評価できよう。

当時小学生だった読者の一人として作者に申し訳なく思うのは、そんなテーマを全く理解せず、スーパーカーのカッコ良さしか見ていなかったことだ。スーパーカーが出てこなくなる第23巻からは買うのをやめてしまった。最終巻の第27巻までたった5冊で、カート、F3、F2、F1の勝利を駆け足で描かざるをえなかったのは、他の読者の多くも興味をなくしたからだろう。『サーキットの狼』の真の面白さはブームが遠く過ぎ去ったいま、大人の目でこそ味わえる。

「願わくば、近い将来、風吹裕矢につづく日本人レーサーの“グレーデッド・ドライバー（F1レーサー）”が生まれることを祈って、ペンをおきたい！」（第27巻189）と池沢さとしは締め括った。（1987年、**中嶋悟**が夢を叶え、日本人初の「グレーデッド・ドライバー」になった。スーパーカー・ブームで『サーキットの狼』がいちばん読まれた1977年から10年後のことだった。90年**鈴木亜久里**が日本GPで、2004年**佐藤琢磨**がアメリカGPで、それぞれ3位に入賞し、表彰台に立った。）

池沢さとしは同じあとがきで「なにより、多くの読者諸くんを読まれ、スーパーカー・ブームまで呼んだこと

は、至上の喜びです」(189)と感謝している。日本人のレーサーがF1レースで勝つマンガを描くのがいちばんの目的だったとしても、池沢さとしも、子供たちと同じくスーパーカーを愛していた。『サーキットの狼』は作者にとっては、莫大な富を生み出した成功物語でもあった。のちにこう回想している。

幸い連載中の『サーキットの狼』の人气が爆発し、一方で仕事の資料としても必要だという大義名分もあり、ついに、当時のディーラーである「シーサイドモーター」（懐かしい!!）にフェラーリ512BBとランボルギーニ・カウンタックを2台同時にオーダーしてしまった。（『サーキットの送り狼』42）

むろん、値段は立派な家2軒分である。池沢は子供たちがあこがれた人気の3大スーパーカーを、マンガの連載中に所有したのだ。まったく羨ましいかぎりである。

3. 『サーキットの狼』執筆前夜の世界のクルマ

スーパーカーが大ヒットするには、それなりの背景があった。『サーキットの狼』の連載開始は『週刊少年ジャンプ』1975年1月6日号（1974年12月10日発売）だが、世界の自動車市場は当時どのようなものであったのか。

『モーターファン』の「'74 世界オートレビュー」は、ブーム以前で「スーパーカー」の文字はないが、ブーム中に多数出版されるスーパーカー本と同じ内容である。

最初の頁は「スタイリングの話題作」。イタリアン・デザインのメッカであるトリノ・ショーは73年から隔年開催だが、フランクフルト・ショーやパリ・サロンでも、スーパーカーの美しいデザインを担当したことで有名になる「イタリアのカロッツェリアの大本営」の試作車が注目の的だった。イタル・デザインからはアウディ80「アツソ」、ベルトーネは、NSU Ro80「トラペーゼ」、ピニンファリーナはジャガーXJ12PFを出品した。

すでに忘れ去られた3台だが、元スーパーカー少年の目にはまぎれもないスーパーカーのスタイリングである。特に、**トラペーゼ**はランチャ・ストラトスそっくりだ。それもそのはず、デザインしたのは、ストラトスと同じ**マルチェロ・ガンディーニ**（1938 - 2024）だ。ランボルギーニ・エスパーダ、ウラッコ、カウンタック（もちろんカウンタックのこと）、ディーノ308GT4などを担当したことをしっかり明記している（7）。

ガンディーニはスーパーカーの元祖ランボルギーニ・ミウラも手掛けているから、**スーパーカーの生みの親**といえる。1966年3月のジュネーブ・モーターショーで発表し、68年の第55回パリ・サロンではカウンタックの原形となる**カラボ**（CG誌'68=12で紹介）を、1971年の

ジュネーブ・モーターショーで**カウンタック**（CG誌'71=09は「エンスージャストにとって、その夢の頂点に立つ車の一つ」と高く評価、26）を発表している。

映画『バック・トゥ・ザ・フューチャー』（1985-90）のタイムマシンとして有名な**DMC-12**（1981年約700万円）の生みの親でGMの副社長だった**ジョン・ザッカーリー・デロリアン**（1925-2005）はイタリアンデザインの秀逸さにいち早く目をつけた。1968年には、リトラクタブル・ライトを採用した**マセラティ・ギブリ**を愛車として乗り回し「自動車業界に身を置くものは一度はこういう車に乗ってみるべきだ」（CG誌'68=11、59）と語っていたという。

『モーターファン』の「'74 世界オートレビュー」に戻って「スタイリングの話題作」の続きを見てみよう。GM（ゼネラル・モーターズ）のシボレー・コルベットを使った試作車2台を見ると、ミッドシップ・エンジンに変えられ、スタイリングと共に、ミウラから始まったスーパーカーの影響を受けていることがわかる。派手なガルウィングは、デロリアンがスタイリングを依頼するイタル・デザインの**ジョルジュット・ジウジアーロ**（1938-）の作となる**DMC-12**（設計はロータス）を彷彿とさせる。

「スタイリングの話題作」の最後は、西ドイツの車、ビッター・ディプロマートCD。いまでは忘れられた車だが、目を引くリトラクタブル・ライトと流麗なボディはスーパーカーそのものだ。「スタイリングはかつてのCDより、フェラーリやマセラティの影響が強いようだ」（13）と指摘されている。

CG誌が1972年に、アメリカの自動車業界が「無公害化と安全化に追われて、スタイリングにまで手が回らない」なか「今やたとえ一時的ではあるにせよ、世界の自動車スタイリングの主導権は完全にイタリアの手中にあると言ってよい」（'72=03、98）と指摘していたように、池沢さとしが『サーキットの狼』を執筆する前夜には、時代はイタリアン・デザインが席卷し、イタリア発の美しいスタイリングのクルマが世界中の自動車マニアの注目を浴びていたのである。

それでは、1974年にはどんな新車が売られていたのか。スーパーカー・ブームのとき、子供たちが見かけて気になったクルマを「'74 世界オートレビュー」からあげてみよう。（カッコ内は引用と最高速以外、筆者の思い出。スーパーカーはショー以外ではなかなかお目にかかれなかったのも、例にあげた周辺の車について書く。ブーム当時、スーパーカーと混同され、のちに「B級スーパーカー」と呼ばれることになる魅力的なクルマも含む。）

イギリス——**MGB-V8**（ブーム中に見かけたMGBは74年後半にでた黒いラバーバンパーをつけた車だ。アメリカ

の衝突安全基準に合わせ旧来のファンには不評だったが、スーパーカー世代は、むしろ、新しさを感じたものだ）、**トライアンフ・スピットファイア**（小学校の新任教員が乗ってきた。いたずらされないように1台だけカバーをかけていた。「ロータス・ヨーロッパがとまってる」と友人から電話をもらい土曜日、カメラをもって戻った。少し前をめくってスピットファイアとわかった。やがて現われた先生に「トライアンフは最高にカッコいいです」と言ったら、あとでポルシェ924のカタログをくれた）、**ジャガーXJ12-S2**（最高速225km/h、顔はおなじみだが、2ドアが珍しかった）、**フォード・カプリ**（小学校前の駐車場にいつもとまっていた）、**ロールス・ロイス・シルバー・シャドウ**（0商事という金貸しのお屋敷前にあった）、**ファンタムVI**（初めて見たときは威風堂々たるボディに度肝を抜かれた）、**アストン・マーチンV8**（スーパーカー・ショーで初めて見た）、**AC 3000**（「だるま」セリカによく似た姿だがリトラクタブル・ライトで、スーパーカーのカードになった）、**TVR2500M**（1999年にタスカンで話題になったメーカー。2500Mは、写真では外見がMGに似て地味な印象だったが、初めて見た本物は十分迫力があつた）、**ジネッタG21**（ウィンカーがロータス・ヨーロッパそっくりだ）、**ロータス・ヨーロッパSP**（風吹裕矢の愛車は1974年には新車で買えた！）、**モーガン・プラス8**（クラシックカーの外観にV8を積み、210 km/h出た）、**ジェンセン・ヒーレー**（英国らしいオープンカー）、**パンサーJ72**（『対決！スーパーカークイズ』にも登場。古風な姿は1930年代のジャガーSS100だが、中身は1972年の技術）。

西ドイツ（ドイツ統一は1990年だ）——**フォルクスワーゲンVW1200**（塾の先生が乗っていた。当時は国産車並みに多く走っていて「カブトムシ」と呼ばれ、スバル360「テントウムシ」同様、子供たちは滑稽な姿をバカにした）、**VWカルマン・ギア**（最高速は145km/hほどだが、クーペスタイルは一目置かれた）、**ポルシェ911S**（駅前のホテルの駐車場にあった白い新車を見に行くと、高そうなスーツを着たオーナーの男が「ぜったいに触んなよ。おまえらのお父さんが乗ってる車を全部足しても買えない車なんだからな」と言った。その後、はとバスで東京を周ったとき、緑や赤の911を何台も見かけて国の豊かさを実感した）、**ワーゲン・ポルシェ914**（地味な見た目だが、ミッドシップでリトラクタブル・ライトを装備。友人が近所の人が青に乗っていると写真を見せてくれた。駅前の通りや外車中古車店でもよく見かけた）、**メルセデス・ベンツ450SL**（ヤナセで見た。父はセダンにあこがれていたが、筆者は2人乗りが気に入った）、**BMW2002ターボ**（BMWは当時は「ベンベ」と呼ばれ医者がよく乗っていた。まだ珍しくエンブレムは尊敬された。

BMW2002ターボは箱型4人乗りだが、映画『サーキットの狼』で風吹裕矢の恋人・早瀬ミキの愛車として登場し、スーパーカーと見なされた。地元で友人と写真を撮れたときは感動した）、**BMW3.0CSL**（ベース車をレース用に実に格好よくモディファイしている。この車もマンガで活躍し、茨城県神栖市のサーキットの狼ミュージアムに展示してある。筆者は柏で開催されたスーパーカー・ショーの入場券の抽選に当たって運転席に座ったことがあり、思い出深い車だ）。

フランス——**シトロエン2CV**（「走る犬小屋」などといけなす人がいるが、筆者は、オートロマンが車両を提供した柏のスーパーカー・ショーで初めて見たこともあり、そのユニークなデザインに感心した。むしろ、スーパーカーとは思っていない。最高速は2CV6でも110 km/hだ）。**シトロエンGS**（初めて見た友人から国道沿いの会社の駐車場にあると電話がかかってきた。筆者はフランスの大統領公用車になった**シトロエンCXパラス**が好きだ）、**シトロエンSM**（名はシトロエンとマセラティの頭文字。マセラティ・メラクの兄弟車だ）、**マトラ・バゲーラ**（スーパーカー・ショーで初めて見た。1977年7月のCG誌のオートロマン広告で「“白の幻想”が未来から駆けてきた」と宣伝された未来派のアンドレ・クレージュが関わったモデルで、筆者にはリトラクタブル・ライトのこの3人乗りの車が小型のスーパーカーに思えた）。**アルピーヌ・ルノーA110**（京都のトミタ・オートで数台見た。CG誌'77=2はスーパーカー・ブームを「奇妙な現象」と評し「真のスポーツカー・エンスーージャストに推選」36）、**アルピーヌ・ルノーA310**（仏車で子供たちがスーパーカーと認めた唯一の車。カードにもなった。庵野秀明（1960-）も好きだったようで『新世紀エヴァンゲリオン』（1995-96）で葛城ミサトの愛車に選んだ）。

イタリア——**フィアット・アバルト124ラリー**（このクルマをブームのとき知った人は、2016年、マツダ・ロードスター（ND型）をベースに新型が出たとき感慨を覚えたはずだ）、**アルファ・ロメオ・スパイダー**（古い印象が残るオープンカーだが、ピニンファリーナ社のデザインで人気があり、1993年まで生産された。アルファ・ロメオの赤い十字と大蛇を描いたエンブレムはセダンでも一目置かれた。ブーム中、ジウジアーロがデザインした**アルフェッタGT**がスーパーカー本に出て人気だった）、**アルファ・ロメオ・モンテリオール**（「ボディはベルトーネ製」と書いてあるが、この車も**マルチェロ・ガンディーニ**の作。スーパーカー世代は、スーパーカーと見なした。モンテリオールと聞くと、1976年のオリンピックを連想するが、モンテリオール万博出品車がもとになっている）。

「74 世界オートレビュー」の本命は、90頁からだ。

フェラーリは、**ディノ 308GT4**、**365BB**（最高速は302km/h「ランボルギーニ・ミウラが生産中止となった現在では世界で最も速い路上を走る車といえる」(90)）、**ディノ 246GTS**、**365GTB4**（デイトナ）、**365GT4 2+2**、**365GTC4**。個性的な車が勢揃い。まさにスーパーカーだ。

ランチアは、当然、**ストラトス**。**ベータ・クーペ**（丸目ライトだが、垢抜けしたデザイン。新車を地元の外車で見た。当時は街でも見かけたものだ）。

マセラティは「フェラーリ、ランボルギーニとならぶ世界最高のグランツリスモを作っている」(94)と紹介。まだ「スーパーカー」という言葉がないことがわかる。掲載されているのは、ブーム中あこがれた全モデルだ。**カームシン**、**メラク**、**ポーラ**、**インディ**、**ギブリ**。

ランボルギーニは、**ハラマ**、**ウラコ**、**エスパーダ**、**クインタック LP500**（その後カウインタック LP400として登場。「プロトタイプが71年に発表されて、大いに注目されたベルトーネ・ボディの完全ウェッジ・シェイプの2座クーペ」。ここでもスーパーカーという言葉は使われていないが「最高速は300km/hとフェラーリの365BBに次ぐ駿足ぶり」(97)と、ブームを牽引する伝説が早くも記されている。）

デトマソは、ボディデザインを手がけたカロツェリア・ギア（Ghia）の名前を冠して紹介。角目の2+2座クーペ、**ロンシャン**（最高速240 km/h）、4ドアセダンの**ドービル**（スーパーカーと認めなかった者もいたが、最高速からスーパーカー本に加えられることになる）。3種の写真が掲げられた**パンテラ**はスーパーカーそのものの姿で、最高速254km/h。

アメリカ——**ポンテアック・ファイアバード**（米車といえば、この車がおなじみだった。上級モデルがトランザムだ）、**シボレー・カマーロ**（「ムスタングの対抗車」(113)でわりとよく見かけた）、**コルベット**（ブームのときアメリカのスーパーカーと言えば、この車だった。それもそのはず、「アメリカ車中唯一の2シーター車」。「ミッド・エンジンのニュー・モデルが開発中で、早ければ75年モデルから出現するかもしれない」(114)と予告しているのは当時のミッドシップ・スーパーカーの流行を意識してのことだろう。フロントエンジン、リア駆動のコルベットがミッドシップ・レイアウトに代わるのは、ずっとあと。2019年の**C8**（第8世代）モデルからだ！）、**リンカーン・コンチネンタル**（ヘッドライトが隠れたスーパーカーを彷彿とさせる「コンシールド・ライト」を採用。昼間はライトカバーが下りているのが、子供には斬新に感じられた。アメ車はドデカくとにかく目立った。オーナーは暴力団関係者が多いようだったが、車に興味を持つ子供たちには概して寛容だったと思う）、**マーキュリー・クーガー**（2ドアのクーペでも全長

5474mm。どでかいので、走ってくるとすぐにわかった）、**ムスタング II**（ムスタングではなく当時はこう呼ばれていた。小型化して「スタイリングにはイタリアのギアの協力もおおいでいる」(119)そうだが、スーパーカー世代には、初代のマッハ・ワンのほうが人気があった）、**アバンティ II**（「工業デザイナーとして有名なレイモンド・ローウィのデザイン」(128)だ。一度見たら忘れがたい姿で、スーパーカー関連本にも取り上げられる）、**エクスカリバー SS**（1930年代ベンツSSK風のクラシックカーボディに現代のエンジンを積む。「ミルウォーキーのSSオートモビル社で少量の注文生産が行なわれ、なかなか人気がある」(128)。アメリカで作られていたとは知らなかった）。

スウェーデン——サーブ 99 L（2021年になって映画『ドライブ・マイ・カー』で話題になった赤いサーブ900ターボ16Sと基本的形は変わらない）、**ボルボ144**（ブーム中のボルボと言えば、ここから始まる角ばった無骨なボディが有名だった。ボルボはよく知らない国、スウェーデンの代名詞だった。なお、ブーム真っ盛りの1977年ジュネーブ・モーターショーで発表された**262C**はイタリアの名門カロツェリア「ベルトーネ」担当で、スーパーカー関連本に掲載された）。

日本——『サーキットの狼』連載開始前の国産車はどんな状況だったのか。**トヨタ**は、長く同じ姿を保つ高級車**センチュリー**、**クラウン2600デラックス**（「このクラスの需要は法人、官公庁用などがまだまだ根強く、オーソドックスで無難なスタイルが好まれる。フランスでシトロエンDSなどがごく自然に受入れられるのと事情が違うようである」(147)という指摘は、スーパーカーが日本で人目を引いたわけがよくわかる。平凡なクルマだらけだったのだ）、**セリカ・リフトバック**（『サーキットの狼』の公道レースにも登場するモデル。1967年型のムスタング・ファストバックをまねたデザインだが、だるま型の**1600ST**とともに21世紀現在でも人気が高い。ブーム中モデル・チェンジした新型はスーパーカー少年たちには不評だった）。**日産**は、**フェアレディZ**（「高性能スポーツカーとして世界的にも名の売れたモデル。2シーターのグランド・ツアラーは世界第2位の自動車生産国である日本でも、現在これだけしかない」(167)。写真で紹介されているのは、74年1月17日発売の**フェアレディZ-L 2 by 2**。実用性を高めるため、無理やり4人乗り用にデザインを変えた無粋なモデルだ。アメリカのマスキー法（1970年）の影響を受けた排ガス規制や、1973年10月に勃発した第四次中東戦争に伴う石油の急騰もあり、「フェアレディの代表車種であった240ZG——水冷直6、SOHC2393cc、150ps、最高速210km/hを含めて、すべての240系が販売を見合わせている」(167)。こんな

お寒い状況だからこそ、スーパーカーは日本の子供たちに歓迎されたのだ。ブーム中に、スーパーカーと見なされることもあった **スカイライン2000GT-R**について、「最速モデルとしてR380のエンジンと基本設計を同じくしたS20型直6DOHC搭載の2000GT-Rが昨年春に追加されたが、コスト高と時代の要求との不一致などから短命に終わったのは惜しまれる」(168)と著者が嘆くのは当然だ。自動車ファンでスポーツカーを嫌う人はいない)。

1974年の気になる車の紹介をつづけよう。**サニー・エクセレント1400クーペGX**、**チェリー・クーペ1200X-1**(平凡な顔立ちながらファストバック、プレーンバックがアクセントになって印象に残る)。三菱は、**ギャランGT0**(親戚のおじさん夫婦が乗っていたが、ブーム時は派手と思わなかった)、弟分の**ギャランFT0**、**ランサー1600GSR**。**マツダ**は、**ルーチェ**(「大鷲をテーマにした迫力あるスタイリングが特長」(186)が目立っていたが、ブーム時はカッコいいとも思わなかった)、**サバンナ・ロータリークーペGSII**(レースで活躍した海外名RX-3は一時期、池沢さとしの愛車だったのでマンガにも登場し、スーパーカーのデザインからはほど遠かったが一目置かれていた)。いすゞは、**117クーペ**(クルマに興味を持ちはじめたとき日本車なのにスーパーカーの雰囲気を感じとったのは、スタイリングがイタリアのギア社によるものだったからだ。「気品のあるそのたたずまいは発表後すでに8年もたつのにまったく新鮮そのものである」(193)とレビューの著者は絶賛する)。**ホンダ**は、**シビック**(本田技研工業のファミリーカーで筆者の父も新車で買った)、**ホンダZ**(親戚のおばさんが乗っていた。うしろのガラス窓がテレビ画面のようで間抜けに見えた)。**スバル**は、**レオーネ・クーペ1400GSR**(気になったのはクーペ・モデルだ)。**スズキ**は、**フロンテ・クーペGXCF**(広告で「につぼんのエキサイティング・ミニ」と謳って、「洗練されたヨーロピアンスタイル」をアピールしている(208)。スーパーカーのデザイナー、**ジョルジュ・ジウジアーロ**が関わっていたのだ。当時は都市伝説のように感じていたが、本当だった)。

以上の国産車は現在でも、レストアされて旧車ファンに長く愛されている。**ノスタルジック2デイズ**、**ながのノスタルジックカーフェスティバル**、**クラシックカーフェスティバルin 桐生**、**日本自動車博物館**(小松市)などで見ることができる。今見ると、なかなか個性的で魅力的だが、こうした歴史に残る日本車の中にあってもスーパーカーの存在感は圧倒的だった。

『モーターファン』の「74 世界オートレビュー」を手掛かりに、『サーキットの狼』連載前の世界の自動車市場を概観した。要点をまとめると、自動車デザインはアメリカからイタリアに主導権が移り、スポーツカーは

リトラクタブル・ヘッドライトを採用したイタリアン・デザインが流行していた。「世界第2位の自動車生産国」と自賛する日本は、フェアレディ240ZG、スカイラインGT-Rといった世界的な名車を出しながら、その流行から遠ざかるようしていた。イスラエルとアラブ諸国の戦争でガソリンが高騰する状況では仕方がなかったのか。

「74 世界オートレビュー」では「73年の終りから全世界をおそったいわゆる石油危機は、イタリアにおいても決して例外ではなかった」と書き起こし「フェラーリに代表される小量生産のグランツリスモの国」でディノは売れているが、「マセラティ、ランボルギーニの落ち込みも目立っている」と指摘。「デトマソは車の生産から手をひいてギアの名前が冠せられ、フォード社の支配が一段と強まった」(80)と解説している。

なるほど、1974年時点で『サーキットの狼』の主要なスーパーカーがほぼ出揃っていたのはこのような厳しい情勢のためだ。**フェラーリ308GTB**(1975)、**フェラーリ512BB**、**ランボルギーニ・シルエット**(1976)くらいしか新型は出なかった。しかし、イタリアン・デザインは、世界的に広まっていった。**ロータス・エラン**(1962)でアメリカの**コード810**(1935)のリトラクタブル・ライトを復活させていたロータスは、2代目**エリート**(1974)、**エクラ**(1975)にも採用し、イタリア風の風貌を与えた。さらに、ボディデザインが古びてきたヨーロッパの後継モデルとして、ジウジアーロによるウェッジ・シェイプ(くさび型)を採用し、イタリアのスーパーカーの姿を持つ**エスプリ**(1976)を発表。『007 私を愛したスパイ』(1977)でボンド・カーに選ばれ、潜水艇に変わる場面で広く知れ渡った。

911シリーズのおなじみの形でブランド・イメージが確立していた**ポルシェ**ですらリトラクタブル・ライトの**924**(1975)、ヘッドライトがミウラ同様に起き上がる**928**(1978)をラインナップに加え、イタリア風の斬新なスタイリングで世界的流行に乗り、顧客の新しい要望に応えた。この2台はスーパーカー・ブーム中、子供たちのあいだでドイツのスーパーカーと見なされた。値段がずっと安い**トリアンフTR7**(1975)でさえ、リトラクタブル・ライトゆえにスーパーカーの仲間に加えられた。これは、池沢さとしの『サーキットの狼』ではなく当時の出版業界のスーパーカー関連本・カードの影響である。筆者は父と三溪園に行く途中、陸揚げされたTR7の大群を見て路線バスを途中下車したことがある。赤・白・青・緑・茶、色とりどりのTR7が見渡す限り並んでいた。スーパーカーの顔を持つ廉価版でB級であることは感じられたが、魅力的なことに変わりはない。すっかり魅了されて、夢中でカメラのシャッターを切ったことを覚えている。

4. スーパーカー・ショー

スーパーカー・ブームの火つけ役は『サーキットの狼』の池沢さとしだが『週刊少年ジャンプ』を購読している小学生は筆者の学級にはいなかった。小学5年生で柔道を習いはじめ、道場主の孫Mくんが毎週読んでいるのを知った。彼は、筋金入りのスーパーカー狂だった。

スーパーカーとの出会いは人それぞれだろうが筆者の場合、短編映画『池沢さとしと世界のスーパーカー』を1977年のゴールデンウィークに見たのが最初だった。76年10月から見ていたテレビアニメの実写版『ドカベン』を祖母に連れられて弟と見に行ったとき同時上映された。肝心の『ドカベン』は「小さな巨人・里中くん」が出てこず、素人俳優の演技が下手すぎてつまらなかったが、疾走するスーパーカーを子供たち(追いかけるVWゴルフのサンルーフから首を出して写真を撮る男の子が記憶に残る)に紹介する18分はカッコよさに圧倒され、Mくんが熱中しているのはこれかと思い当たった。カウンタックやBBのリトラクタブル・ヘッドライトには心底驚いた。隠れていたライトが突然パカッと開くのだ。一文字隼人が仮面ライダーに変身するのをテレビで初めて見たとき、『燃えよドラゴン』でブルース・リーがヌンチャクを振り回すのを初めて見たときと同等の感動と興奮を味わい、たちまち好きになってしまった。

これは、スーパーカー・ブームにハマった子供たちの共通の体験だ。カウンタックとBBを所有して日本屈指のスーパーカー狂を自認する自動車ジャーナリスト西川淳(1965-)もスーパーカー座談会でこう熱弁した。

普通の車にはある丸いライトが無いわけよ。それが隠れてるうえに、パカッと出てくるわけ。ほんまに衝撃的やった。今の若い人たちには想像もつかへんと思うけど。(『語れ! スーパーカー』111)

感動はそれだけではない。地を這うような低い車高に、見たこともない美しいデザイン。ドアが上を開くカウンタックに惚れぼれとしたのはもちろんだが、フェラーリBBの美しさにも魅せられた。映画が終わった後、売店で見たマセラティ・ボーラの写真にもうっとりした。

この体験をきっかけに『サーキットの狼』のマンガ本に興味をもったのだが、正直言って実物の写真集のほうに眺めて楽しかった。まずは、4月に発売されテレビで宣伝していた二見書房のカード式『ザ・スーパーカー』(白いディノを正面から写した赤い箱にランボルギーニ、フェラーリ、ボルシェの主なスーパーカーの写真カードが入っている。裏には、車名と最高速度などのデータが記載されている。690円)を初めて一人でバスに乗って、地元デパートに買いに行った。(このシリーズは好評で

第2弾はヘッドライトを上げた青いカウンタックLP400、第3弾はドアを上げたカウンタック前でフェルッチオ・ランボルギーニ社長が腕組みする写真が表紙になった。第3弾には、ランボルギーニ社の縮小版豪華カタログが付いた。シリーズは「ヨーロッパ最新取材写真ベスト100枚!」の第4弾までつづいた。)

この頃には、行きつけの駄菓子屋もスーパーカー商品のくじがメインになっていた。ブームの回顧本掲載写真でおなじみのスーパーカー消しゴムや、スーパーカーが描かれたコーラの王冠も集めるようになったが、人気はカードだった。1972年12月から77年2月まで東映テレビアニメ『マジンガーZ』『ゲッターロボ』『グレートマジンガー』『ゲッターロボG』『UF0ロボグレンダイザー』1974年10月~77年3月まで東映実写テレビドラマ『がんばれ!! ロボコン』が子供の必見番組でミニカードが人気の的だった。スーパーカーのカードはちょうどこれらと入れ替わった。主役ロボットとそれを取り巻くライバルや敵の構図は、スーパーカーにも当てはまる。主役級のカウンタック、BB、930ターボ以外には、当然のようにボルシェ924やトライアンフTR7などのB級スーパーカーが混じっていたが、違和感はなかった。

大判のスーパーカー写真集をばらして、2段ベッドのある、弟と使う子供部屋の壁と天井に画びょうで貼った。3大スーパーカー以外にも、ミウラ、ミウラを改造した幻のイオタSVR、ボーラ、メラク、パンテラ、タバコのJSP(ジョン・プレイヤー・スペシャル)仕様の黒いロータス・ヨーロッパ(最初、霊柩車のように見えたが、見慣れると好きになった)など。さらに、棚には作ったプラモデルを並べた。青く塗ったアルピーヌ・ルノーA310もあった。

『池沢さとしと世界のスーパーカー』のカメラ小僧やMくんをまねて写真も撮りはじめた。亡き祖父が旅行で使った古いカメラをもらった。36枚撮りフィルムで72枚撮影可能なハーフサイズでありがたかったが写りはよくなかった。最初に見つけたのは赤いフェアレディZ。次は近所にあった白いトランザム(ボンネットには派手な不死鳥のステッカーが貼ってあった。デカールという言葉はずっとあとで知った)を撮った。やくざ稼業の人の車だが、親切に運転席も見せてくれた。でかい車体のわりにハンドルが小さくカッコよかった。『サーキットの狼』に出てくるアメ車が撮れてうれしかった。近所で初めてボルシェ(古い911Tだった)を撮ったときは、マンガの世界に近づけたと思った。

毎日スーパーカーに夢中になっていた頃、テレビCMで、スーパーカー・ショーのことを知った。「連れてって」と父にお願いすると「任せておけ」と約束してくれた。映画・写真・マンガでしか知らないスーパーカーの本物

の姿を、どうしてもこの目で見たくなかったのだ。

(1977年、日本全国に展開したスーパーカー・ショーについては、すぐれた回顧マンガがある。田中むねよし(1964-)が『BOLTS AND NUTS!』vol. 18~20で九州(佐賀ほか)のブームの始まりから絶頂期・終焉までを実体験として描いている。特にvol. 19「出撃! スーパーカー・ショー」が出色の出来で、初めて本物を見た興奮、父親との思い出、家庭での団欒が感動的に描かれている。「あの日ほどの心の昂ぶりを覚えることはもう——(略)やはりないと思う」(30)という一節に共感を覚える。)

父に連れられて弟と3人で上京した。1977年7月3日の日曜日、大井競馬場の駐車場で「世界のスーパーカーフェスティバル」を見るためだ。緑と赤のポルシェ911Sがとまっている東京駅からタクシーに乗ると「晴海でもやってますけど」と運転手が言ったのには驚いた。晴海の東京国際見本市会場では「77 ワールドスーパーカービッグショー」が開かれていたのだ。

ワクワクしながら長い列に並び、ようやく入場して、晴天の下、目に飛び込んできた本物スーパーカー(黒いウィングのついたカウンタックLP500S、赤い365BB、紺のストラトス、水色のパンテラ、幻のイオタetc)は、思っていたよりもずっと車高が低く、存在感が圧倒的で、すさまじいオーラを放っていた。黄色い柵で近づくことができないため、まぶしいほど輝いて見えた。(なんと翌日から放送開始となった『対決! スーパーカークイズ』にはこのショーの写真も使われた。車体の一部を見せて車を当てるクイズでは色ですぐストラトスとわかった。)

カウンタックLP500Sの特大ポスターを買ってもらって大喜びで帰った1日は田中むねよしのマンガの雰囲気とそっくりで、忘れがたい思い出になっている。たぶん、多くの少年たちも同じ気持ちだったろう。

「世界のスーパーカーフェスティバル」で特筆すべき点は、柵の外にも多くの外車が展示されていたことだ。アストン・マーチンV8、ロータス・ヨーロッパSP、赤いコルベット、BMW2002ターボは柵の中にあったが、上京する前に目にしていた Mustang・マッハ1、ベンツSL、ビュイック・スカイホーク(1975年モデルなので先述のレビューには出てこなかったが、当時大人気のアイドルピンク・レディーが宣伝した1977年夏のコカ・コーラ・スーパーカー王冠キャンペーンにも描かれた。『伝説のスーパーカー』85頁の写真参照)などは、柵がなく自由に近づくことができた。当時の子供でも、スーパーカーとは呼ばなかったこれらのスポーツカー、スポーティーカーはショーに彩を添え、柵の中にある車が別格であることを印象づけた。初めて見たイタリアのスーパーカーは桁違いに凄いクルマなのだと実感した。

スーパーカー・ショーはこの年、日本全国で開催され

た。7月末、筆者が住む市でも開かれた。主催した老舗デパートの1階に伊勢甚とペイントした銀色のポルシェを展示して予告し、開催日にはこの911Sを会場の駐車場に移動させてイベントを盛り上げた。しかし、入場してすぐ落胆した。東京で見たのと同じ車が並んでいたからだ。巡回してくるとわかっていれば、晴海会場のほうを見ておけばよかったと思った。(8月には、母の実家がある柏でもスーパーカー・ショーがあった。駅のそばの商店街に貼ってあったポスターで、親戚一同が集まった日から数日後にあると知り、同じ歳のいとこと祖父母宅に残って、隣家のおじさん夫婦に連れて行ってもらった。こちらはオートロマンが提供したクルマで、内容が全然違っていたので良かった。)

地元で開かれたスーパーカー・ショーに行った級友はわりと多く、5年3組のクラスだけでもスーパーカーで大いに盛り上がった。スーパーカー消しゴムでレースをしたことがよく回顧本に出てくるが、それよりも夢中になったのがスーパーカーを探して写真に撮ることだった。

7月15~24日に晴海で「ラ・カロツェリア・イタリアーナ '77」が開催されて、行きつけの写真屋が生写真を店頭で販売した。級友の家も写真屋で、父親が撮って来た写真を売っていた。スーパーカー・ショーで自分で写真を撮ったこともあり、袋に入れてくじのように売る駄菓子屋のカードよりも価値があると思った。

ところで「ラ・カロツェリア・イタリアーナ '77」については、日伊デザイン交流協会の趣旨も知らぬ子供のスーパーカー・ショーにしてしまったと当時のCG誌('77=10)が「敢えて苦言を呈した」(125)。駆けつけた子供たちの関心がイタリア名門カロツェリアの優秀なデザインにあったことを完全に見逃している。展示車のランボルギーニ・ブラボーはベルトーネ、フェラーリ・レインボーとディノ・コンペツィオーネはピニンファリーナ、アルファロメオ・ナヴァホはジウジアーロの作だと理解したはずだ。

(三本和彦の『いちばんくわしいスーパーカー』(1977年8月)はレインボーやナヴァホの写真を掲げ「スーパーカーをうみ出す魔術師たち」の題でカロツェリアを解説。「イタリアの3大デザイナー」としてベルトーネ、ピニンファリーナ、ジウジアーロをあげている(66-79)。また、ブーム中に出回ったガルウィングドアを上げたカラボ(カウンタック以前にガンディーニがデザインした試作車)のカード裏には「カロツェリア」の題名で「ランボルギーニはベルトーネ、フェラーリはピニンファリーナ、マセラティはジウジアーロといった、メーカーと、カロツェリアの組み合わせで、おくりだされたものである」と書かれている。当時のスーパーカー少年たちにとっては常識である。)

筆者は1978年夏、晴海で伝説になったクルマの一部をよみうりランド開催のショーで見た（野外で雨が降ってきて係員が大慌てでシートを被せはじめて、写真が撮れなくなったことを覚えている）。すべて試作車で、性能は不明だった。子供たちがスーパーカーに夢中になったのは、まずは外見であったことがよくわかるだろう。

話が脱線したが、子供たちはスーパーカーの美しい姿、珍しい形に魅了され、カメラをもって街に繰り出すようになった。自動車ライター兼イタリア語翻訳家になった**武田公実**（1967 - ）が書いた「1977年のこと。少年のころの思い出と共に。」が参考になるだろう。

街中で本物を見るチャンスなどめったに無かった当時のことから、駄菓子屋に通いスーパーカーカードやプラモデル、排気音を収めたドーナツ盤などの周辺グッズ収集に精を出した。また「〇〇通りにミウラが出没する！」「〇〇町でデイトナ発見！」などという出所も判らないような噂話に胸をときめかせ、毎週土曜日の放課後には同級生たちと自転車を連ねて、地元名古屋の外車ショップや修理工場を『探索』して回るのも重要な『研究活動』の一環だった。とはいえ、実際にこの目で見たりカメラに収められたエモノはせいぜいロータス・エクラやポルシェ924、最高でもデ・トマソ・パンテラ程度。それでも当時の我々にとっては宝石のように輝いて見えた。（『今日からはじめるスーパーカー』28）

シーサイドモーターや、エリートスポーツといったスーパーカーを売る店の近くに住む都会の子供と違い、通学路を朝ミウラが通って小学校が大騒ぎになったことが一度あったきりで、筆者の住む市でも、1日歩いてでもイタリアン・スーパーカーに出会うことはまずなかった。それでも、仲間と写真を撮りに行くのは楽しかった。

いま思えば、小学2年生の頃、同じ地元デパートの「世界のカブトムシ展」で見たヘラクレスオオカブトにあこがれて、近くの森にカブトムシを採りに早起きして出かけたことがあったが、スーパーカーを探しに行くのはあの時と基本的に同じ気分だった。ワクワクしながら出かけ、ささやかなエモノに大喜びしたのだから。

（ちなみに、ふるさと水戸でフェラーリの新車売る店ができたのは筆者が小学校卒業間近の頃だ。千波湖畔にある文化センター周辺で小学校の写生大会があったとき、真新しい308GTBとオープンのGTSが入ってくるのを目撃し、スーパーカーが大好きだった筆者と仲間たちは画板を放り出して、反射的に追いかけた。あとで監督の先生に呼び出され、「おまえたちは本当の、スー馬鹿一だ」と怒られた。）

5. スーパーカーの写真交換

『サーキットの狼』第9巻（1977年4月30日）には、かつて『仮面ライダー』本編で番組の影響を受けた仮面ライダーごっこが描かれたように、池沢のマンガが引き起こしたスーパーカー・ブームに熱狂する子供たちの姿が描かれている。沿道でカメラを構える少年たちは飛鳥ミノルのミウラを見て叫ぶ。「ランボルギーニ・ミウラだ！ カッコイイ!!」「わああ、まってくれーっ」「もっと写真とらせてくれっ」（148）。主人公の風吹裕矢は作者の分身として感想を述べる。「近ごろ、チビッツファンがすごいなァ。どこの道路でも、カメラをもった子どもが、まちかまえている」（149）。

筆者もクラスの友達と写真を撮りに行った。N くんが出かけたときは青いメタリックのコルベツトを追いかけて、慌てたN くんはカメラを落として壊してしまった。写真を撮っていると、公園で遊んでいた子供たちも集まってきた車を取り囲んだ。5人で出かけたときはミッドシップの三兄弟、ロータス・ヨーロッパ、フィアット X1/9、ポルシェ 914 が走っているのを見つけた。足の速い二人は駅前の信号で止まっているところを写真に撮ったが、出遅れた筆者と他の仲間たちは、X1/9と914がリトラクタブル・ライトを上げる大サービスを遠くから見て悔しがった。後日、ロータス・ヨーロッパが駅の南口にいるのを見つけ、運転席に座らせてもらった。地面のすぐ上を寝そべるように乗り込んで、手を伸ばし、ハンドルを握った。これがスーパーカーなんだと感激した。助手席にカノジョを乗せたところを撮って名刺の住所に送ってあげたところ、若いオーナーの S さんは大喜びして、『サーキットの狼』にも出てくるスナックポルシェ前で撮ったフェラーリ 365BB の写真（『対決！スーパーカークイズ』の解説者だった**切替徹**のサイン入り！）を送ってくれた。

当時は写真の現像とプリント代がかなり高額で、親の反対でブームが下火になる前に級友たちはクルマの写真撮りに行くことを禁止されてしまった。この頃になると、駅前に住む芸術肌の M くんにもある程度認められて、撮った写真を交換し合い、一緒に写真を撮りに行くようになった。父が連れて行ってくれた大田区の池本自動車では黄色いディノを撮り、走り出た赤いパンテラ GTS を一緒に走って追いかけた。その後 M くんは音楽をやりたくて東京の学校に進学し、有名なフォトグラファーになった。父が亡くなったとき葬式の写真を撮ってくれた。数十年ぶりで再会したとき、筆者は真っ先に動画で愛車のロータス・ヨーロッパ S2 を見せた。「夢を実現したんだね」と言われ、嬉しかった。筆者は彼が撮った車の写真をはっきり記憶している。駅前の和菓子屋前に駐車した赤いランボルギーニ・ミウラ（『サーキットの狼』

に登場する潮来のオックスのモデルになった関根氏の車)はピンボケだったが、つくばサーキットを走るオレンジ色のカウンタックからカメラがよくなり、家の前の通りで撮ったリトラクタブル・ライトを上げた白いオペル 1900GT や名古屋ナンバーの青いミウラの写真はプロ級のうまさだと思った。富岡畦草『車が輝いていた時代』(2003)のような写真集を期待したいところだが、ネットで最近の芸術性の高い作品を拝見すると、本人はきっと公開するレベルではないと思っているにちがいない。

M くんには教えられ『モーターファン』の「写真交換/売買」コーナーを知った。北海道から沖縄まで日本全国のスーパーカー・ファンが生写真を交換し合う頁だ。

写真、ネガ交換 当方：ランボルギーニ フェラーリ マセラッティ デトマソ ランチャ ポルシェなど
ほとんど有り 君の自信の物求む ただし路上の物に限る 当方はドリームカー以外すべて路上 売り可 写真 100 円 ネガ応談 下の写真は鈴鹿サーキットで写したオレンジの 934 ターボです。

といった感じで文面と自慢の写真が並ぶ。フェラーリ BB、カウンタック LP500R、マセラッティ・メラクなどが夜でもないのにリトラクタブル・ライトを上げている。カメラを構えたら、スーパーカーのオーナーはライトを上げて応えるという暗黙の了解があったのだ。

そして重要なのは、「路上のもの求む」「全部公道の物を求む」「展示会の物はなし」「全部路上」「ショーだめ」「必ず路上にかぎる」「絶対路上の物」「ショー以外のもの」という注文が示すように、スーパーカー・ショーではなく公道で撮った写真が珍重されるという点だ。たしかに、路上を走るスーパーカーの写真は見応えがあり、今ではたいへん貴重なものになっている。最良の例は『伝説のスーパーカー』(2010)の巻頭頁を飾る「永遠のスーパーカー小僧」青木勇人のコレクションを参照されたい。白や黄色のパンテラ、赤いイオタ、銀の 930 ターボ、赤いストラトス、白いトヨタ 2000GT が、当時の野暮ったいトラックや乗用車の中で、いかに光り輝いて見えたかがわかる。他にも、ポルシェ 924、914、フィアット X1/9、BMW2002 ターボ、オペル 1900GT、TR7 が撮影されており、リトラクタブル・ライトや漫画のおかげで、これらがスーパーカーの重要な仲間として扱われていたことが確認できる。

ちなみに「写真交換」の引用は『モーターファン』1979 年 9 月号の 288-89 頁。ブームは去ったと見なされている頃だが「編集部からお知らせ：写真交換/売買欄は、現在申し込みが多数あり、掲載までに時間がかかりますので、しばらくの間申し込みの受け付けを休止いた

します。どうぞご了承ください」とある。当時は京都の童夢本社前で撮った**童夢 P2** の写真が旬だった。たしかに子供全員が夢中になったブームは終わっていた。本当にスーパーカーを愛するマニアだけが残った。この 1979 年は、国産のスーパーカーが市販されるかもしれないという画期的な時期だったのだ。

6. スーパーカーが国産車に与えた影響

イタリアのスーパーカーを初めて知ったとき、日本にはスーパーカーはないんだろうかと思った。M くんは晴海のスーパーカー・ショーで写した**トヨタ 2000GT** の写真を見せてくれた。カウンタックや BB と並んでも、決して引けを取らない美しいスタイリングに魅了された。生産中止になっていたが、リトラクタブル・ライト車であることがスーパーカーのあかしと思えた。

カメラを持って街を歩くことは一昔前の国産スポーツカーと出会って、そのカッコ良さを再評価するよい機会となった。20 代の若者はオープンカーの**ダットサン・フェアレディ**や**トヨタ S800** を自慢した。『サーキットの狼』に出てくる**コスモスポーツ**も普通に走っていた。初代**シルビア**や**ハコスカ GT-R** も見られ、昔はスーパーカーにもっと近い車があったんだと感じた。

『自動車もの知り大百科』で、1969 年の第 16 回東京モーターショーに出品されたい**いすゞベレット 1600 MX**を知り、衝撃を受けた。オレンジ色のボディはデトマソ・パンテラそっくりでリトラクタブル・ライトを採用していた。日本初の中ドエンジンで、重量約 900 kg、全高は 1100mm の低さだった！ イタリアの**ギア**社担当のスタイリングは非現実的美しさだったが、いすゞは本気で市販化を考えていたようだ。1970 年に、デトマソ・マングスタにちょっと似た固定式ライトの発展形を発表。しかし、そこまでだった。ただ義広はこう書いている。「いまでいうスーパーカーの国産第一号はこの車かもしれない。残念なことに市販はされなかった」(79)。

遅れていると思っていた日本の自動車業界はイタリアのミウラ(1966)から始まったミッドシップカーとスーパーカーのスタイリングの流行を知らないわけではなかったのだ。速度警報装置を義務づけたり、サイドミラーを禁じたりする**行政の圧力**が強すぎたために、世界第 2 位の自動車生産国でありながら世界の動向に背を向けざるをえなかったのである。スーパーカー・ブームは役人どもが考えた愚劣な政策に対する異議申し立てだった。子供たちがクルマに対して抱くスーパーカーの夢こそが業界の未来を切り開くのだ。

それに最初に気づいたのが**マツダ**だった。スポーツカーを禁じる禁欲的な雰囲気を一気に吹き飛ばす新型車は、スーパーカー・ブームの末期に発表された。その名

はサバンナ RX-7 だ。『自動車アーカイヴ 11』にその歴史的意義がこう記されている。「国産ではトヨタ 2000GT 以来というリトラクタブル・ヘッドライトを採用した」(177)。1978 年 3 月の発表会は、級友たちと自転車をつれて見に行った。途中、車で通りかかった男の先生に見つかり「どこへ行くんだ。危ねえぞ」と注意されたが、へっちゃらだった。

展示会の様子は「マッハグリーン」色の車の横に立つ子供たちの写真を掲載した『乗りたい！昭和のスーパーカー』にこう書かれている。「ブーム後半の 78 年に発売されたサバンナ RX-7 は和製スーパーカーとして子供たちにも大人気だった。ディーラーには連日、子供たちが押しかけた」(15)。

赤いサバンナ RX-7 を表紙にした CG 誌 1978 年 6 月号によると「ヘッドランプをリトラクタブルにすることは当初からの目標であった」が、「専らコストの観点から固定式にすることを命じられた」という。固定ライトでは話にならない。検討の末「最後の段階でデザイン室側の主張が通り、電動式リトラクタブルに決定された」(43)。RX-7 はポルシェ 924 やトライアンフ TR7 のように流行のスーパーカーの外見を手に入れたのである。

値段は、最上級のリミテッドで 169 万円。同じ CG 誌の外車店の広告を見ると、カウンタック 1800 万円、BB 1900 万円、パンテラ GTS 新車 1180 万円、924S 新車 485 万円（三和自動車はリトラクタブル・ライトを上げて走る写真で宣伝）。価格上のライバル TR7 は 76 年式でも 195 万円。ちなみにロータス・ヨーロッパは 71 年式が同じ 195 万円だった。CG 誌の海外ジャーナリスト、カール・ルドヴィグセンは RX-7 の破格の安さを「君やぼくでも買うことのできるスポーツカー」(50)と表現。はたして発表会があつてすぐ、筆者が住む街に、色とりどりの新しい RX-7 が出現した。M くんは、駅前の歩道橋から撮った写真を見せてくれた。デザインがポルシェ 924 に似ていると揶揄する者もいたが、スーパーカーのカードにもなっていた車に譬えられるとは、すばらしいと思った。RX-7 は同種の車を渴望していた大人たちが飛びついた。カメラを向けると、喜んでライトを上げてくれたので、オーナーになった人たちもスーパーカーのリトラクタブル・ライトに憧れていたのだろう。

1978 年 3 月にはさらに驚くことがあった。男の子全員が夢中になったブームの終焉を飾るにふさわしいクルマが第 48 回ジュネーブ・モーターショーで発表されたのだ。童夢ゼロである。一緒に車の写真を撮った仲間も、カッコいい日本のスーパーカーだと認めた。それもそのはず、林みのる(1945-)と由良拓也(1951-)のデザインはブームをよく研究している。よく見ると、ガルウィングのドアはカウンタック、フロントガラスはストラトス、

オレンジ色のウィンカー・カバーは BB の影響が濃厚だ。カッコいいところをうまく組み合わせたのだ。しかも、車高はわずか 980mm。意識的に、カウンタックの 1,070mm より低くしたのだ。童夢ゼロはおもちゃ業界も大歓迎して、約 4 億円を稼いだ(『グッとくるスーパーカー』81)。運輸省が生産を認めれば、わが国にランボルギーニのようなスーパーカーメーカーが現われたかもしれない。行政の頭の固さが残念でならない。

その後は、ブームが過ぎても敢えて居残ったスーパーカー好きのマニアが知ることである。童夢は赤と黄緑の市販モデル 2 台を作製したが、アメリカでの発売も断念し、童夢 P2 は幻と消えた。

代わりに「スーパーカー」とは呼べないが、スーパーカー顔の国産車が異様なほど出現するようになった。RX-7 の成功を受けて、国産車メーカーが申し合わせたようにリトラクタブル・ライトを一斉に採用しはじめたのだ。『自動車アーカイヴ 11』から主なものを紹介してみよう。

マツダ サバンナ RX-7 (1978-85) のあと、コスモ 2 ドアハードトップ 2000EGI XG-X (1981-90) が出た。堂々たるリトラクタブル・ライト車で、イタリアのエンブレムがついていても違和感はなかった。**ユーノス 100** (1989-94)。**ユーノス・ロードスター** (1989-97) は世界中で大ヒットした。(後年、筆者の同僚が中古車を安く買って来たときは、真っ先にライトをポンと上げて見せてくれた。) このロードスターの原形は一目瞭然、リトラクタブル・ヘッドライトの**ロータス・エラン** (1962-75) である。ロータスは 1990 年に 2 代目を投入したが、ずっと安いマツダのユーノス・ロードスターのほうが正統の後継車に見えた。エランは不人気で、韓国の起亜に引き取られて、**ピカート**という名前で格安でわが国に再登場した。買った人はエンブレムをロータスのものに貼り替えて乗った。

三菱 カッコいい**スタリオン** (1982-89) を 1981 年にスーパーカーの聖地ジュネーブ・ショーでデビューさせた。(ちなみに、後継車の **GTO** (1990-2001) について、池沢さとしは次のように感じた。「「フェラーリが安い 4 人乗りのクルマを出したらこうなるんじゃないか」って思えるスタイリングに見えてしまう」(『サーキットの送り狼』195)。

スバル アルシオーネ (1985-91) は、スバル初のスペシャルティカー。「リトラクタブルライトの低いノーズと高いリアデッキを持つウェッジシェイプ・デザイン」(236)を見ると、スーパーカーを連想せずにはいられない。筆者は高校 3 年生のとき、赤信号で家の車の後ろに止まった姿を見て「これはスーパーカーだ」とふと思ったほどだ。

いすゞ 117 クーペのあと、**ピアッツァ** (1981 - 89) を発表。1981 年 6 月 6 日より発売。千波湖畔で開催された大試乗会に父と出かけ、さまざまなグレードと色の車に乗ってみて、**ジウジアーロ**のデザインはさすがだと感じた。「ウェッジシェイプを基調としながらも丸みを帯びたラインでまとめられている」「電動式 1/4 リトラクタブルのヘッドライトカバー」(244) が実に個性的だった。黒いピアッツァ・ネロはヤナセで販売され、外国の出自が印象づけられた。

トヨタ コルサ 3 ドア・リトラ 1500GP ターボ (1986)。**MR 2 1600G リミテッド** (1984-89) は日本初の市販ミッドシップ・スポーツで、若者がターゲットだ。ロータス・ヨーロッパによるミッドシップ・レイアウトの一般化 (大衆化と言ってもいい) はこの車で完成された。**MR 2 2000GT** (1989-99) はフィアット X1/9 風の先代のウェッジシェイプから曲線的スタイルを得てフェラーリ風になった。筆者は某自動車関係者から研修で来日した韓国人技術者がこの車が通るたびに「またフェラーリが来た」と繰り返すので参ったという話を聞いたが、無理もないと思う。筆者自身、1989 年 (平成元年!) 開催の第 28 回東京モーターショーでこの **MR 2** とフェラーリ **348 t b** を見て、性能はともかく見た目はほとんど変わらないと感じたものだ。ちなみにアメリカでは、MR 2 と同時期に**ポンティアック・フィエロ GT** (1984-88) がアメリカ車初のミッドシップカーとなった。燃費の規制に対応した格安のスポーツカーで 86 年にファストバック化して「いわゆるフェラーリ風のスタイルとなった」(『自動車アーカイヴ 12』34)。筆者はたまたまこの頃ハワイとロサンゼルスで、この車をたくさん見かけた。日本同様、若者たちは手の届くスーパーカー顔のクルマを渴望していたのだろう。フィエロはフェラーリ 308GTS やカウンタックのレプリカのベース車にも使われた。その**メラ**と**プローバ・カウンタック**はわが国にも輸入された。

スプリンター・トレノ 3 ドア GT-APEX (AE86 型、1983-87) は、しげの秀一 (1958-) のマンガ『**頭文字 D**』(1995 - 2013) で有名になった。夜明け前、山向うの旅館へ豆腐を届けに出るときパカッと開くリトラクタブル・ライトが高級スーパーカーが庶民のものになったことを実感させてくれて、スーパーカー世代には感慨深かった。3 代目セリカ (1981-85) はウェッジシェイプにポップアップ式ヘッドライト。不評だった 2 代目に替わり人気を取り戻した。ロータスの創始者**コーリン・チャップマン** (1928-82) が「高性能車には高性能な思想がある」と宣伝した**セリカ XX** (1981-86) は部品が一部共用ということもあり**ロータス・エクセル** (1982-92) と兄弟車のようにそっくりだ。B 級スーパーカーというジャンル

なら、もう差はなくなっていた。北米向け**スーブラ** (1986-93) の **3.0 GT ターボ** なら、スーパーカーと張り合えたかもしれない (4 代目は『**ワイルド・スピード**』(2001) で「おまえには買えないよ」と言った金持ち男の黒いフェラーリ F355 に勝った)。**セリカ 2000GT-FOUR** (1989-93) は世界ラリー選手権 (WRC) で大活躍した。

なお、原田知世主演で話題になったデート映画『**私をスキーに連れてって**』(1987) には、スーパーカーのようにカッコよくリトラクタブル・ライトを上げる赤い国産車が颯爽と登場する。**トヨタ・カローラ II リトラ GP ターボ** (1986) だ。若者の手に届くカローラにまでスーパーカーの装備が加わったのだ。原田知世の相手役三上博史演じる矢野文男の愛車であり、これさえあれば、理想の恋人もゲットできると思わせる映画だった。

ニッサン エクサ (1986-90)。**シルビア/ガゼール** (1983-88) クーペとハッチバックの R-X は、1979 年のデビュー時はアメ車風の顔だったが、リトラクタブル・ヘッドライトに変更されると、イタリア風スーパーカー顔になった。**180SX** (1989-98) は若者向けだった。「半リトラクタブル・ヘッドライト」を個性的な特徴とする**フェアレディ Z (Z31 型)** (1983-89) は「第一級のヨーロッパ製スポーツカーにも見劣りしない高いパフォーマンスを追求」(126)。外観は歴代 Z 中もっともスーパーカー風だ。

ホンダ 今では信じがたいことだが何でもかんでもリトラクタブル・ライト車にしてしまった。**バラード** (1983-86) と**バラード・スポーツ CR-X** (1983-87) は半リトラクタブル。クイント・インテグラ (1985-89) は 3 ドア、4 ドアセダン共にリトラクタブル。アコード (1985-89) エアロデッキとセダン、アコードの兄弟車で 4 ドアセダンの**ビガー** (1985-89)。1978 年の初代の**プレリウド**はスーパーカーとは無縁だったが、2 代目 (1982-87) と 3 代目 (1987-91) の**プレリウド**は、リトラクタブル・ライトのスーパーカー顔である。

7. 国産市販スーパーカー、ホンダ NSX の登場

スーパーカー・ブームが去った後も、やはりランボルギーニ・カウンタックは魅力的で凄い、と思わせる映画があった。1981 年 12 月公開の『**キャノンボール**』だ。冒頭、荒野の一本道を黒い**カウンタック LP400S** (池沢さとしが買ったのもこのタイプで、黄緑がサーキットの狼ミュージアムに展示されている) が激走。アメリカ人が誇る**トランザム**のパトカーが追いかけてきて、一時、並走するが、そこから凄まじい加速で走り去る姿を空撮している。ハル・ニードム監督の前作『**トランザム 7000**』(1977) の主役もスーパーカーの王様には脱帽ということだろう。

主人公のJJ（パート・レイノルズ）は救急車でレースに参加するので、東海岸から西海岸へ横断する参加車で興味深い車は、ロジャー・ムーア版ジェームズ・ボンドを気取る英国人（本人が演じる！）が乗る**アストン・マーチンDB5**（スーパーカー世代には古い）とアメリカで大人気の赤い**フェラーリ308GTS**（当時の人気コンビ、ディーン・マーティンとサミー・デイヴィスJr.が乗る）を除けば、やはり美女2名が乗る**カウンタック**が主役だ。男性警官をセクシーなジャンプスーツ姿で惑わして、スピード違反を大目に見てもらう場面が楽しかった。

ジャッキー・チェンが日本人として出演しているのも見どころだったが、コンピューター搭載の日本車が何だったか言える人は少ないだろう。超平凡な**スバル・レオーネ・スイングバック**。そもそもこの乗用車の名を知っている人は少ないにちがいない。

ところが、2年後の1983年12月に公開された続編の『**キャノンボール2**』では異変が起る。再び冒頭で、**ランボルギーニ・カウンタックLP500S**（今回は白）が、パトカーを蹴散らす。白いペイントが水で洗い流されて赤い姿になってまたも同じパトカーを抜き去るのが痛快だった。しかし胸のすく活躍はそこまで。カウンタックは故障で乗り捨てられ、本編のレースには登場しない。スーパーカー世代が好きだった**ポルシェ928**は参加直前に後ろのGM製トラックに踏み潰されてしまう。代わりに目を引くのが、『**007 私を愛したスパイ**』（1977）の敵ジョーズ役で有名になったリチャード・キールを相棒にしたジャッキー・チェンが運転する、**三菱スタリオン**なのである。

リトラクタブル・ライトを装備した黒いスタリオンは第1作の黒いカウンタックのようにスタイルが良く、空中を浮遊したり、火を噴いて加速したりしてパトカーをまく。テレビドラマ『**ナイトライダー**』（1982-86）のナイト2000と同じリトラクタブル・ライトのトランザムの白いパトカーに追いかけられると、スタリオンは湖に飛び込んで、なんと潜水艇に変身して脱出するのである。『**007 私を愛したスパイ**』の**ロータス・エスプリ**を彷彿させるスーパーカーぶりに、スーパーカー世代の筆者は感慨ひとしおだった。

スーパーカー・ブームを経て、国産車が大きく変貌したことはすでに書いたが、スーパーカーの姿かたちを手に入れた日本車が世界を席卷する時代に入っていくのである。兆候は『**キャノンボール2**』の前年にあった。1982年9月号の『**CAR GRAPHIC**』誌は、「**2-2.80級GTスタリオンとそのライバルたち**」で**三菱スタリオン2000ターボGSR-III**に着目。ライバルである**ポルシェ924ターボ**、**マツダ・サバンナRX-7GT-X**、**トヨタ・セリカXX2800GT**との共通点について「リトラクタブル式の車は、

ヘッドライトを起こすと途端に表情がファニー・フェイスになるから面白い」（54）と指摘。リトラクタブル・ヘッドライトが国産スポーツカーに標準装備されるまでになっていたのだ。

同1982年9月に出た北川亘『**最新版 自動車もの知り名鑑大百科**』では、スーパーカーでずっと売ってきた**ケイブンシャ**のシリーズなのに、**イタリアン・スーパーカー**を一掃している。（これを見たときには本当に驚いた。1台も載せていないのだ。）本を開くと、「これが新時代の国産車だ！」とリトラクタブル・ヘッドライトをもつ試作車**トヨタ SV-2**と、それを忠実に市販化した**トヨタ XX2800GT**の写真が目飛び込んでくる。流れをつくった**マツダ・サバンナRX-7**の**SE-リミテッド**に関し「マツダの作るロータリースポーツカーで海外でも人気が高く、レース、ラリーでも活躍している。」（81）と記す。**トヨタ・セリカクーペ 1800ST**はミウラをまねて「クルリと起き上がるヘッドライト」（95）が特徴だ。ニッサンの**EXA**（エクサ）と呼ばれる**パルサークーペ**は「ハッチバックとはまったく別の大胆なボディをもつ。リトラクタブルライトも備える。FF方式。」（124）。これは、『**キャノンボール2**』同様、日本車が本家本元の**イタリアン・スーパーカー**に代わったことを宣告しているようだ。（**カウンタック**は**クアトロバルボレ**（1985）、**アニバーサリー**（1988）とモデルチェンジして1990年まで生き延びたが、**ホラチオ・パガーニ**（1955-）による最後の**カウンタック**は格好が悪くなり古さは隠せなかった。）

もちろん、**RX-7**や**スタリオン**は“**supercar**”とは呼べない。1980年代に本物のスーパーカーを創ろうと日産が1985年**フランクフルト・モーターショー**で発表したのが**MID4**だった。ミッドシップ+フルタイム4WD+4WSに、**VG30DETT**型ツインターボエンジン（330ps）を搭載。筆者はひと月後の東京モーターショーで見て、リトラクタブル・ライトを備えた姿は**フェラーリ BB**に似ていると思った。市販への期待が高まる中、次の1987年東京モーターショーで待望の**MID4-II**が登場。こっちも見たが、BBの影響を脱して存在感も増したと感じた。が、これで日産の挑戦はあっけなく終わってしまった。

代わりに、**トヨタ 2000GT**以来の国産スーパーカーを市販したのが、**ホンダ**だった。華麗なる出現はなんと、池沢さとし自身が『**サーキットの狼II モデナの剣**』（「週刊プレイボーイ」1989年から1995年まで連載）で描いている！単行本は第6巻「戻ってきた男!!の章」。この戻ってきた男こそ、**ロータス・ヨーロッパ SP**で本シリーズ『**サーキットの狼**』を有名にした**風吹裕矢**だ。**フェラーリ**のテストドライバーで**エンツォ・フェラーリ**の寵愛を受けた**イタリア人**とのハーフの新主人公・剣

(来日してカー雑誌を手伝う)は、未明の常磐高速で、恋人リエの運転する車の助手席から、リトラクタブル・ライトを上げて追い抜いてゆく見慣れぬ車を目撃する。

「なっ、なによ。今のフェラーリみたいなカッコウしていたわ」「見たことねえぞ。しかしあの加速はハンパじゃない。もしかして、あの車は、近々デビューするという日本の……」(10-11)

『サーキットの狼』でボルシェ 930 ターボが初登場する場面を思い起こさせる印象的な導入だ。

後日、剣は新聞で「ホンダ「NSX」発売——国産最高の 800 万円台！——」と読み「あの時の車だ……ホンダの新しいスーパーカーだったのか！」(30)と納得する。ホンダ NSX は「NS-X」という名で 1989 年 2 月のシカゴオートショーで初公開され、10 月開催の東京モーターショーの目玉になった車だ。MID4-II と入れ替わるようにして出た国産スーパーカーに筆者は感無量だったが、スーパーカー・ブームの火つけ役だった池沢さとしも「スーパーカー」と認めたのである。NSX は池沢の愛車となり、1992 年に走りの純度を極めた **NSX-R**(タイプ R)を特に高く評価することになる。「大人」になった風吹裕矢の愛車として登場させたところに池沢の感無量さが感じとれる。NSX を運転した新主人公の剣も「これは…フェラーリと NSX に同じドライバーが乗った場合、NSXの方が速く走れるぞ!」(154)と感想を述べている。

これをもって、日本のスーパーカーがフェラーリを超えたとは言わないが、世界のスーパーカーに負けない車をつくれるまでに日本の自動車メーカーが成長したと結論づけることができよう。そして、わが国を席卷したスーパーカー・ブームがあつてこそ、この偉業が完成をみたといっても過言ではあるまい。

8. 日本人の誇り、トヨタ 2000GT

スーパーカー・ブームの影響は自動車業界の人にとどまらない。フェラーリやランボルギーニなどイタリアのスーパーカーのオーナーになることを人生の目標にした人もいた。梅澤春人(1966-)は黒いカウンタック LP400 を買って、マンガ『カウンタック』(2004-12)を描いた。しょぼい人生を送っていた主人公・空山舜に、25 年前小学生のときに書いた手紙が届く。カウンタックを買うという当時の夢を思いだし本気で奮闘しはじめる。その後、LP400 を手に入れて 21 世紀のスーパーカーを負かすストーリーは夢物語と感じざるをえなかったが、子供のときの夢と対峙する場面には大きく心を揺さぶられた。

筆者が『サーキットの狼』で有名になったロータス・ヨーロッパに一時乗ったのも、夢を忘れなかったからだ。

スーパーカー・ブームの頃、こういう車はすぐに壊れて維持が大変なんだよ、と何度も大人たちから聞かされていたが、少年時代からの夢で、一度は乗ってみたかったのだ。外車雑誌の個人売買欄で 350 万円のマセラティ・メラクを見つけたときも、たとえ壊れても 1 回乗ればそれだけの価値があると思って、電話したこともあった。幸い(?)先客がいて買うことはできなかったが。

前述の、M くんに自慢したロータス・ヨーロッパ S2 は程度が良くギアチェンジもスムーズで回頭性にすぐれていたが、古い車の扱いは楽ではないと思い知った。まず、エンジンを始動させる儀式から学んだ。ブレーキは相当前から踏まなければ止まらなかった。パワーウィンドウは意外だったが、その分重いドアをぴたり閉めるのも苦労した。しかし、いちばん気を遣うのは渋滞時だ。前の車が動かないと、水温計がみるみる上がって後ろから湯気が上がる。エンジンを切って休ませる必要があった。エンジンキーとは別にドアや前後のフードなどやたらと鍵が多いのも古い車ならではの。

それでも寝そべるようにハンドルを握っているときは幸せだった。給油していると、決まって同世代の男性が近寄ってきて思い出話が始まった。サービスエリアで、愛妻を連れた元スーパーカー小僧がいきなりビデオ撮影をはじめたこともあった。フェラーリ・テストロッサのオーナーが来て「運転席に座らせてください」と言ったこともあった。はるかに高価な車に乗っている人なのに「子供のとき憧れましてね。うわ〜低い」とはしゃいだ。お返しにフェラーリのハンドルを握らせてもらったが、普通の乗用車のようなドライビング・ポジションに拍子抜けした。昔、S さんのロータス・ヨーロッパに乗せてもらったとき、カウンタックも同じ姿勢で乗ると聞いて、スーパーカーは寝そべって運転するものだと思い込んでいたのだ。

黄色いロータス・ヨーロッパ S2 はすごく気に入って、夜中に駐車場に眺めに行ったり、コックピットに座ってもの思いにふけったりしたが、いくつも長いトンネルを抜けて帰って来たときに突然、アクセルのワイヤが切れ、ペダルが床についてしまった。走行中で冷や汗が出たが、端にうまく避難することができた。しかし、高速道路のトンネル内でこれが起こっていたらと考えると、二度と乗る気にはなれず、泣く泣く手放すことになった。(「昔、私も持ってたけど、乗っているより修理工場に入っている時間のほうが長かったよ」と話しに来た人もいたので、やはりそういう車なのだった。)

「外車は壊れる」「つくりが悪い」はスーパーカー・ブーム時の大人たちの決まり文句だった。なつかしい MGB の顔をもち軽快に走るミッドシップカー MGF は、池沢さとしが『21 世紀の狼』で主人公の最初の車に選んだ。

150 万円で買って何年か乗ったことがあるが、雨の日に外に駐車すると、幌の隙間から雨水が流れ込んでシートの上に大きな水たまりができることもしばしばだった。

このようなトラブルを考えると、やはり国産車が安心できる。スーパーカー・ブームの恩恵は、スーパーカーの美しいスタイリングをもつ壊れない日本製の車を安く手に入れることができるようになったことだ。筆者は、ガルウィングドアを採用した2台のクルマトヨタ・セラ（50 万円の中古車だったが、天井もガラスの室内はスーパーカーの未来的な雰囲気。上に開くドアは頑丈で座ったまま上げ下げができた）と「軽のスーパーカー」の異名をとるマツダ AZ-1（中古車は105 万円で買った。ガルウィングドアはやわでつり革で降ろす前に勝手に下がってきたが、カウンタックやテストロッサに影響を受けたスタイリングは魅力的だ。ロータス・ヨーロッパに似た低い着座姿勢でアクセルを踏み込むと、ターボエンジン音が背中で響き心地よい）を代表例にあげたい。

とりわけ、マツダ AZ-1 が気に入っている。NSX と同じ 1989 年第 28 回東京モーターショーで発表され、1992 年 10 月に発売された。原形の AZ-550 スポーツ・タイプ A はリトラクタブル・ライト車だった。カウンタック同様、ガルウィングドアに付いているサイドウィンドウは全開にはならず、小さな窓が数センチ開くだけだ。高速道路で走行中垂れ下がってくるドアミラーを元に戻すため手を伸ばすのにぎりぎりの寸法だった。愚痴ではない。軽自動車の安い値段でカウンタック風のスーパーカー気分を味わえると言いたいのだ（カウンタックのオーナーには笑われるかもしれない）。機関が壊れる心配はなく、しかも法定速度内でスリルを楽しめる。「軽のスーパーカー」という呼び名を疑う人も、乗れば、少なくとも「エキサイティング・カー」であることがわかってもらえるだろう。

1977 年のスーパーカー・ブームがなかったとしたら、たとえバブル経済で資金に余裕ができたとしても、このようなクルマは絶対に現われなかったにちがいない。

最後にトヨタ 2000GT について書いておきたい。この名車は、首都高速道路（1961 年着工、67 年全線開通）と東名高速道路（1962 年着工、69 年全線開通）を背景に、1964 年 10 月 1 日の東海道新幹線（東京～新大阪間開通）と 10 月 10 日の東京オリンピック開幕で、日本じゅうが盛り上がる中「世界の車と肩を並べる高級スポーツカー」が待望されて誕生した。1965 年の東京モーターショーで一般公開されると「当時の国産車の常識を覆す美しいフォルムに会場は騒然となった」（『週刊トヨタ 2000GT』スタートアップ DVD、デアゴスティーニ参照）。1967 年 5 月 16 日発売、70 年 8 月生産中止まで 337 台が手作りされた。茨城県谷田部町の日本自動車研究所でスピード

トライアルが行なわれ 72 時間連続走行の平均速度記録 206.18km/h など 3 つの世界記録を樹立した。まさしく「スーパーカー」と呼ぶに足る国産車だ。クレヨンしんちゃん映画『嵐を呼ぶ モーレツ！オトナ帝国の逆襲』（2001）では活気ある懐かしい昭和の象徴として描かれている。『The 絶版車 File 高度成長期を支えた名車 1950-1969』は「性能、希少性、スタイルなど、どこを取っても日本を代表する名車として文句なし」（5）だと最大級の賛辞を送っている。

その美しさを池沢さとしが再発見したのだ。初めて見たときの感動をこう回想している。

ハタチの頃、この世で一番カッコいいクルマに乗ってるんだ……という思いでフェアレディ Z に満足していた。が、ある日近所で見たこともない魅力的なクルマの後ろ姿が目飛び込んできた！ 商店街だったので、ダッシュでそのクルマ目がけて駆け出した。追いつくことはできなかったが、後端の「TOYOTA 2000GT」という文字は確認できた。それにしても低い車高と、丸みを帯びたテールエンドからの優美な姿は、一瞬で僕のハートを直撃した。

（『サーキットの狼 Legend TOYOTA 2000GT』6）

池沢さとしはオーナーとして2年間乗って、その後、ロータス・ヨーロッパに乗り換えたのだが、池沢の評価は意外なほど高いのだ。スーパーカー・ブームの人気車ベスト3 といえば、1 位カウンタック、2 位 BB、3 位 930 ターボ。これは不動で、4 位以下はミウラやイオタ、ボーラ、ストラトス、パンテラ、ヨーロッパなど好みが多分かれたが、ブームを築いた張本人は「池沢早人師が選ぶスーパーカー・ベスト5 発表！」でこう考える。

- 1 位 トヨタ 2000GT
- 2 位 ロータス・ヨーロッパ
- 3 位 ポルシェ 930 ターボ
- 4 位 ランボルギーニ・カウンタック
- 5 位 ランチャ・ストラトス

（『乗りたい！』21）

「僕にとって、あのミウラ以上に美しいと思えるスタイリングはない。永遠の憧れである」（『サーキットの狼 Legend LAMBORGHINI MIURA』6）とか「後にも先にも、「このクルマとなら死んでもいい！」と思えるのは一台しかない。それほど強烈なインパクトを受けたのが 365GT/4BB だ」（『サーキットの狼 Legend BB』6）とか、「クルマをただの物体以上に恋いこがれさせるのは、このディーノで終わっているような気がする」（『モデナ

の剣』第13巻、37)と絶賛している車が含まれていないのは大いなる謎だ。しかし、われらの風吹裕矢が「F1では純日本製マシン「カミカゼ」で開発に迫われながらも何度か勝利をあげた唯一の日本人でしょ!!」「たしか今は、「カミカゼ」ブランドのデザイナー兼オーナーで、イタリアのミラノに本拠地をかまえているんですよ」

(44-45)と『モデナの剣』第6巻で再登場したことを考えると、理解できるのではないかな。

『サーキットの狼』では「くそ〜っ!このまま東洋の黄色んぼにオレたちのヨーロッパの伝統をあらされてたまるか!」(第26巻、30)といった人種差別を受けながら、谷田部のオヤジさんが後援者となり「純日本製F1マシンゼロ戦007」と「純日本の新チーム“神風”」(156-57)を発表。第二次世界大戦のように白人を相手に戦ったのである。

公道グランプリ前年の優勝者で悪役の、隼人ピーターソンの愛車としてトヨタ 2000GTは『サーキットの狼』第1巻で早くも登場し、「わが国が世界にほこる本格的スポーツカー」(176)と紹介されていた。池沢さとしのマンガに大きな影響を受けた俳優の唐沢寿明(1963-)も、ホンダ NSX とトヨタ 2000GT を愛車にした。「トヨタ 2000GT を買った時点で、もうほしいクルマはないんですよ」(『サーキットの送り狼』110)とまで言っている。

池沢自身も手放したことを後悔し「日本人みんなの誇り」と絶賛する(DVD『サーキットの狼 Legend』11)。

1977年5月に東京晴海の国際見本市会場で開催された「サンスター・スーパーカー世界の名車コレクション」にはカウンタックやBBなどイタリアのスーパーカーにまじって白いトヨタ 2000GTの雄姿があった。筆者はMくんの写真アルバムで初めて見て「日本のスーパーカー」と聞いて誇らしく感じたことを思い出す。

こうして見ると、1977年のスーパーカー・ブームは、世界最高峰のクルマに遭遇した日本人(子供も大人も)がトヨタ 2000GT が象徴する高度経済成長期の心意気と競争力を再認識し、石油ショックで沈滞する自動車業界が世界と競い合って、ホンダ NSX というスーパーカーと、ロータス・ヨーロッパが象徴したスーパーカー風の廉価版スポーツカー(RX-7、MR2 など)を多数生み出す契機となったことがわかる。子供たちはカウンタックやBBに夢中になりながら、無意識的に、日本でこのような車がつくられることを期待していたのだ。トヨタ 2000GT をみれば、それが可能だとわかっていたのだろう。身近なロータス・ヨーロッパは、望めば買える範囲の国産車がきっと現われることを示していた。夢を実現してくれた日本の自動車業界に感謝したい。日本人としての誇りは、スーパーカーに憧れたときから昭和を生きるみんなの心の中に息づいていたのだ。

おわりに——ガンディーニを超えて

2024年3月13日、鬼才マルチェロ・ガンディーニが、トリノ・モーターショーで有名なイタリアのトリノ県のリーヴォリという町で亡くなった。85歳だった。

幕張メッセで開催された「オートモビルカウンシル2024」(4月12~14日)は急きょ「In Memory of Marcello Gandini」という特別展を企画し、故人の輝かしい業績を偲んだ。ランボルギーニ・ミウラ P400 (1968)に、カウンタック LP400 (1975)、4人乗りのエスパーダ (1970)とディーノ 308 GT4 (1974)、『サーキットの狼』の池沢さとしが5位に選んだランチア・ストラトス (1975)の計5台が展示され、スーパーカー・ショーを彷彿とさせた。

1970年代に子供たちが受けたスーパーカーの衝撃とは、結局、ミウラ、カウンタック、ストラトスに代表されるガンディーニ作の何にも似ていない車の美しいデザインだったのだ。子供の頃に憧れたイタリアのスーパーカーはカロツェリアのデザイナーの抜きんでた才能の賜物にほかならなかった。2002年に、東京都現代美術館で開かれた「ARTEDINAMICA 疾走するアート:フェラーリ&マセラティ」では、ピニンファリーナやジウジアーロの業績が美術品として再評価された。芸術の国イタリアならではの自動車デザインの凄さを多くの人びとが感じたのは「ラ・カロツェリア・イタリアーナ '77」以来だったかもしれない(撮影禁止が不評だったが)。

キャステルオートの鞍和彦が企画したDVD『MIURA Cool Running』を見ると、箱根ターンパイクや首都高速横羽線を激走するスーパーカーの原点ランボルギーニ・ミウラは走る芸術品そのもので、歴史に名を残すだけでなく今でも人びとを圧倒す力を秘めているように思われる。しかし、2025年現在の十代の若者に、カウンタックとBBの写真を見せれば「何ですか、その古い車は?」と訊かれるはずだ。最新のランボルギーニとフェラーリの載った雑誌を見せれば、間違いなく、そっちのほうが「カッコいい」と言うだろう。デザインには流行があり、かならず古びていくものなのだ。

2021年、ランボルギーニ社から新型のカウンタック LPI 800-4 (最高速355km/h、約3億円)が限定発売されたとき、ランボルギーニ社スタイルセンターのドイツ人、ミッチャ・ボルカートがオリジナルを忠実になぞった新デザインにスーパーカー・ブームを知る者は大喜びした。が、ガンディーニは違った。「私にとってカウンタックは過去のものであり、再解釈されるべきものではない」(WebCG「第27回:追悼マルチェロ・ガンディーニ(前編)」参照)と批判的だった。

カウンタックに代表される楔型のスーパーカーは画期的で、後ろ姿ですら「マルチェロ・ガンディーニって男

は天才だ！」（『カウンタック』第2巻、140）と叫びたくなるのはわかるが、もう過去の話だ。2002年に日本人の**奥山清行**(1959-)がフェラーリ創業55周年モデルであるエンツォ・フェラーリをデザインしたという快挙でさえ今は昔だ。元スーパーカー小僧たちにとって、日本人がピニンファリーナ社のデザインディレクターになったという2004年のニュースは、時代の変化を痛感させた。

2001年に東京モーターショーに出品され2006年10月に発売された**青木孝憲**(1975-)デザインの**光岡オロチ**にも驚いた。自慢のカウンタックを並べた**西川淳**は、「人々の関心は、悔しいかな、10対1でオロチに集まっているんですね。こっちがたとえばエンツォ・フェラーリのように最新モデルならもう少し違ったのかも知れませんが、それにしても、すごい人気ぶり。人々が周囲に群がるその光景こそ、スーパーカーブームの再来でした」（『ミツオカ大蛇のすべて』75）と報告した。エンツォのデザインは奥山清行なのだから、この時点ですでに、日本人同士の競争だった。筆者もオロチの実車を見たが、当時新型のフェラーリやランボルギーニと比べてみても、圧倒的な存在感だった。それは、光岡進会長が「テストロッサやカウンタックと並んでも、幼稚園児から爺さんまでが注目するようなクルマでなきゃいかん」（23）と厳命し、青木がその無謀ともいえる挑戦をやり遂げた成果だった。オロチは「フェラーリの真似事」を脱している。オロチに乗った**土屋圭市**は、街ゆく人びとの反応を次のように語っている。

エンジンをスタートさせ、六本木を後にする。しばらく走ると、街行く人が振り返る。それも、クルマ好きかどうかはもちろん、老若男女問わず。この街はフェラーリやポルシェ程度では誰も驚かない。そんな六本木でこれだけ注目を集めるのはスゴイ。この優越感はスーパーカーにとっての気持ち良さのひとつだ。（『ミツオカ大蛇のすべて』6）

光岡オロチ以後、老若男女が驚くクルマは生まれていない。時代は、いよいよ電気自動車の新時代に入る。1977年のスーパーカー・ブームの熱気を知る者として、老若男女が振り返るだけでなく憧れる「スーパーEV」が、既成概念を打ち破るまったく新しいデザインで、日本人の手によって創造されることを期待したい。

引用文献

池沢さとし『あらし！三匹』第14巻、集英社、1974年2月。
――『サーキットの狼』全27巻、集英社、1976年1月～1981年4月。
――『モデナの剣』全25巻、集英社、1990年2月～1995年

8月。

――『サーキットの送り狼』飛鳥新社、1996年12月。
――『サーキットの狼 Legend』CARTOP MOOK 全12巻、交通タイムス社、2004年12月～2007年7月。
――『21世紀の狼』第1巻、ゴマブックス、2016年12月。
WebCG「第27回：追悼マルチェロ・ガンディーニ（前編）」
<https://www.webcg.net/articles>（2025年11月5日閲覧）
梅澤春人『カウンタック』第1巻(2005年2月)、第2巻(05年5月)、集英社。
北川亘『最新版 自動車もの知り名鑑大百科』ケイブンシャ、1982年9月。
鞍和彦『MIURA Cool Running』DVD、キャステルオートサービス。
栗田一雄（文）、小泉正徳（写真）『世界のスーパーカー』秋田書店、1977年6月。
沢村慎太郎『スーパーカー誕生』文春文庫、2015年11月。
高島鎮雄（監修）『スーパーカー・世界の名車全百科』小学館、1977年12月。
ただ義広『自動車もの知り大百科』ケイブンシャ、1977年11月。
富岡畦草『車が輝いていた時代』日本カメラ社、2003年10月。
春山徹久『世界からやってきた!! スーパーカー大集合』KKベストセラーズ、1977年5月。
三本和彦『いちばんくわしいスーパーカー』立風書房、1977年8月。
『大人のスーパーカー』日経BP社、2005年1月。
『CAR グラフィック』82(1968年11月)、83(68年12月)、100(70年1月)、二玄社。
『CAR GRAPHIC』123(1971年9月)、128(72年1月)、130(72年3月)、196(77年7月)、199(77年10月)、207(78年6月)、258(82年9月)、二玄社。
『CAR GRAPHIC スーパースポーツカー・レビュー』上巻、二玄社、2006年12月。
『CAR MAGAZINE』296「スーパーカーは男のおもちゃです」2003年2月号、ネコ・パブリッシング。
『語れ！ スーパーカー』KKベストセラーズ、2014年7月。
『今日からはじめるスーパーカー』ネコ・パブリッシング、2008年9月。
『グッとくるスーパーカー』徳間書店、2017年10月。
『The 絶版車File 高度成長期を支えた名車1950-1969』インフォレスト、2006年9月。
『The 絶版車File 蘇る名車の時代1970-1979』インフォレスト、2006年4月。
『The 絶版車File 時代を走り抜けた名車1980-1989』インフォレスト、2006年6月。
『最強のランボルギーニ』DVD、アドメディア、2010年。
『自動車アーカイヴ 11 80年代の日本車篇』二玄社、2004年9月。

『自動車アーカイヴ 12 80年代のアメリカ車篇』二玄社、2005年4月。
 『週刊トヨタ2000GT』DVD、デアゴスティーニ、2011年9月。
 『スクランブル・カー・マガジン』82年2月号、企画室ネコ。
 『伝説のスーパーカー』学研、2010年10月。
 『日本のショーカー 1 1954～1969年』二玄社、2006年11月。
 『日本のショーカー 2 1970～1979年』二玄社、2007年4月。

『乗りたい！ 昭和のスーパーカー』笠倉出版社、2016年9月。
 『マツダ・ロータリーのすべて』三栄書房、2012年2月。
 『ミツオカ大蛇のすべて』三栄書房、2007年2月。
 『Motor Magazine』843「大特集 The Super Car」2025年10月号、モーターマガジン社。
 『モーターファン』1974年4月臨時増刊号「'74 世界オートレビュー」、1979年9月号、三栄書房。

What Was the Supercar Boom That Swept Japan in 1977 ? —Its Impact on Japanese Children and the Automotive Industry—

Koichi YOKOYAMA

The term “supercar” is proper English, but it was in Japan in 1977 that the word gained widespread recognition and unique cultural significance. It all began when manga artist Satoshi IKEZAWA (born in 1950) featured beautifully designed Italian high-performance cars—such as the Maserati Bora and Lamborghini Countach—in his street racing manga *Circuit no Ookami (The Wolf of the Circuit)*, referring to them as “supercars.”

Supercar shows sprang up across Japan for children eager to see the real thing, captivating nearly every upper-grade elementary school boy. Rooms overflowed with supercar books, posters, trading cards, toys, and stationery. Armed with old, worn-out cameras handed down from their fathers or grandfathers, these children wandered through downtown streets in search of cool cars.

Of course, encountering a true supercar was rare. More often, they were drawn to photograph not only mass-produced American icons like the Chevrolet Corvette, but also cult favorites like the Lotus Europa beloved by the manga’s protagonist, the BMW 2002 Turbo driven by the hero’s lover in the film adaptation of *Circuit no Ookami*, and affordable mid-engine cars like the Porsche 914 and Fiat X1/9. This is why the Japanese concept of a “supercar” differs from the English definition, often encompassing sports cars with relatively modest performance.

The popularity of supercars also had a significant impact on Japan’s automotive industry. Although sports cars faced official disapproval during the oil crisis triggered by the Fourth Middle East War, Mazda launched the RX-7 in March 1978. With its retractable headlights—a feature children considered essential for any true supercar—it became a global sensation. Unfortunately, Japan’s true supercar, the Dome Zero, unveiled at the Geneva Motor Show around the same time, never reached production. However, the 1980s saw the emergence of various Japanese cars featuring retractable headlights. Among them was the stylish Mitsubishi Starion, which appeared in *Cannonball Run II* and stepped in to showcase supercar credentials in place of the Lamborghini Countach.

The Japanese automotive industry’s dream of creating a car to rival Italy’s Lamborghini and Ferrari faced setbacks, notably with Nissan’s MID4 project, which failed to progress beyond two prototype unveilings at the Tokyo Motor Show. However, Honda ultimately fulfilled this ambition by launching the NSX in 1990. Satoshi IKEZAWA, who had personally owned numerous Italian supercars, immediately purchased one. In *Ken of Modena*, the sequel to *The Wolf of the Circuit*, he gave the NSX his seal of approval, declaring it a “Japanese supercar” capable of rivaling Ferrari.

Japanese people, who cherish democratic values, held the relatively affordable Lotus Europa in high regard as a beloved supercar. As a result, Japanese automakers began producing numerous “supercars” in the Japanese sense—meaning vehicles that were accessible to anyone who desired one. The Toyota MR2, for example, featured a Ferrari-like appearance. Accessible and popular Japanese cars like the AE86—featuring retractable headlights and an iconic role in *Initial D*, the manga that gained popularity across Asia—emerged as a direct result of the 1977 supercar boom.

ノンフィクション作家、上坂冬子の50冊 ——償いは済んでいる——

横山 孝一*

(2025年11月28日受理)

はじめに

戦争の時代を知る昭和一桁生まれの上坂冬子(1930-2009)は晩年、齒に衣着せぬオピニオンリーダーとして人気を博した。亡くなる2年前に緊急出版した『これでもいいのか日本 戦後60年の失敗』(2007)では「自由主義国家として一見鷹揚に構えつつ、実は進路もリーダーシップも失って萎えていく国家に、私は困惑するのみだ」(184)と日本の将来を本気で憂えていた。

マンガ家の小林よしのり(1953-)は1997年に『女性セブン』誌で上坂と対談したとき「政治家も民主教育を受けた世代になっていますからねえ。だから上坂さんのような人たちに繰り返し繰り返し書いてほしいんですよ。ホントの話を語り継いでもらわないと、かなりヤバイ時期にきています」(『日本人よ、もっと悪人になりなさい』164)と嘆いている。

戦争を知らない世代の日本人が現代の感覚で正義を振りかざし、先祖を断罪する風潮に危機感を抱いたのだ。「いい加減にしろ!」「お詫び」「断罪」好きのパフォーマンス」の題で、上記の死後出版の本に収録されている。

ノンフィクション作家の上坂冬子は、癌で入院中にベッドの上で『戦争を知らない人のための靖国問題』(2006)を書いた。癌の摘出手術と抗癌剤治療にもかかわらず3年後に転移して帰らぬ人となった。78歳だった。

生身の作家が「ホントの話」を永遠に語りつづけることはできないが、遺された本が長く読み継がれることは可能だ。本稿は、戦争を知らないわれわれが読むべき上坂冬子の作品を紹介する試みである。多くの著作から50作を厳選して内容を紹介したが、まずは以下の抜粋を読んでいただきたい。『償いは済んでいる』(1995)で総括した、上坂冬子の戦争に関する持論である。

「過去の日本が犯した過ちを、自分は生涯の恥として心に刻むという立派な人もいますが、私には立派すぎて思い上がりにさえ感じられます」(214)

「そもそも戦争に人道を求めるのがまちがいで、戦争と

なれば負けているほうはもちろんのこと、勝っているほうも集団ヒステリー症状となります」(212)

「日本が相手かまわず一方的に戦争をしかけ、あげくの果てに何の償いもせずのうのうと経済大国に君臨しているかのように認識するのは、不勉強による誤解です」(208)

「戦時中の残酷な話を聞いて、ひどい、ひどいと批判するのは簡単です。しかし、調べれば調べるほど私には簡単に批判すまいという思いが湧いてきます。批判する前に少なくとも、ならばどうすればよかったのか、あるいは自分がその場にいたらどうしたであろうか、と自分で自分に問いかけることにしています」(60)

「なかには日本がいかにアジアで悪事を働いたか、しかもそれに対して何の償いもせず、いかに罪の意識に欠ける国民であるかと口走る人もいます」(16)

「日本はかけがえのない人の命をもって、戦後にお詫びや償いを済ませてきました」(16-17)

満州事変の前年に生まれ15歳で終戦を迎えた上坂冬子はわが国の戦争、敗戦後の復興、高度成長、停滞を体験した。大学で物理を学びたかったが、地元トヨタに就職。『職場の群像』でデビューし、オフィスガール向けの本を多数書いたが、国際婦人年だった1975年頃に、日本の伝統文化を破壊する過激なウーマンリブ運動に賛同する気になれず、戦争に関する秘話をあらゆる人々から訊きだすノンフィクション作家に転向した。

東京ローズ、川島芳子、ハル・ライシャワー、汪兆銘、李登輝といった歴史上の興味深い人物たちの実像に光をあてた一方で、名もなき人々の悲惨な戦争体験も数多く書き残した。特に、BC級戦犯として戦後に死刑になった人々の遺族を取材した『巣鴨プリズン13号鉄扉』『遺された妻』『償いは済んでいる』は上坂の最高傑作である。戦後に、千人以上の同胞たちが平和のため犠牲になった。償いは済んでいる。上の引用は取材の成果である。

以下、50作品を選んだ。上坂冬子のインタビュー術は卓越している。戦争秘話発掘以前にその才能は開花している、初期の作品にも注目していただきたい。

1) 職場の群像——私の戦後史

(1959年、中公文庫、1981年)

戦後、名古屋の新興企業だったトヨタ自動車に就職し、労働組合と会社側の橋渡しをする人事部労務課に配属になった著者は、「緩衝地帯」の事務職員として首切反対闘争を目の当たりにする。指導者のガンさん、木野さん、坊ちゃん等のなまの声を紹介しながら、朝鮮動乱の特需で会社が好調となり、ストを忘れ、労使関係が穏やかなものに変化していく様を記録している。

(著者は当初、物理学校を目指していたという。トヨタの入社試験の英会話は、真珠湾攻撃の生き残りで捕虜第一号になった酒巻和男から受けた。本書は「思想の科学研究会」同人のとき発表。「上坂冬子」の筆名を得た。本文中には早くも、上坂が得意とする、興味深い人物の話しぶりの再現が散見できる。「ウンそういえばこっちでまだ初年兵の頃、上官があんまりイバリやがるんで、みんなでひとつやっちまえというわけだ。当番が飯を運んで行くときに、飯の上に頭のフケをみんなでパラパラふりかけておくんだ。フケメシと言ってね。なに喰わぬ顔してそいつを当番が持って行くだろハッハハ……。上官は知らぬが仏さ。おみおつけにツバを入れるなんてのはしょっちゅうさ」(87)。軍隊ではおなじみの慣例だが、実に生きいきと記録されている。)

2) 結婚するあなたへ (三秀書房、1967年)

アメリカやソ連(モスクワ)の女性たちからも現地でも話を聞き、日本では女性たちのなまの声を集めて「女は二三、四、男は二六、七才でめでたく式をあげる」(70)現代の結婚観をあぶりだす。最後の「今にして思えば」では、今日まで結婚しなかった理由を告白。チャンスを逃したことを残念がり、自分を反面教師にするよう読者に呼びかけている。

(「私たちが予想する結婚」では二、三人の子供を育てあげてしまった後の女性の人生を考えさせて、その先が見えすいていると著者は不満だ。やはり平凡な結婚では満足できなかったようだ。)

3) 新良妻賢母講座——夫のねうち 妻のねうち

(文研出版、1968年)

30 半ば独身の門外漢が 1960 年代後半の日本の家庭を取材。社会に出て毎日仕事で忙しい著者は男に同情的で、専業主婦の家事を気楽なものに見なして、夫婦の立場を

対等とは見ていない。自身の孤独を癒すために買った金魚から、男が結婚する理由がわかったという。「水槽の中の金魚のような妻」(13)を男は求めていると。浮気も容認し、騒ぎ立てる妻をたしなめる。著者にとっては、「夫と妻はそれぞれの道に邁進し、お互いに高め合っていくなんていうのは、むしろバカバカしいとさえ思う」(147)。男女平等で女に気を使いすぎる現代の夫を弱くなったとあきれる上坂冬子は、「閨白制」を残し「大黒柱」として君臨する夫を求めている。

(取材した家庭は戦後民主主義が根づいて、方向性は 21 世紀のいまを予感させるものだが、上坂の結婚観は戦前に逆行するような古風さがある。)

4) おんなの世渡り (1974年、文春文庫、1983年)

雑誌『マダム』(鎌倉書房)に連載したエッセイ集。「あとがき」によると「四十女はたくましく、悲しい」がテーマ。巻頭の「女ひとりマイホームを買う」は35歳で女の平均寿命75歳を意識して自由が丘に木造二階建ての古い家を買ったいきさつを書く。40歳を過ぎ、おなかがつき出て、結婚も遠ざかるが「海外旅行と行きずりの恋」などで男との出会いにまだ期待している。

(評論家の肩書で独身生活をユーモラスに綴っている。子供の数を話題にされユーモアで返す話術が見事。)

5) お母さんには不思議な力がある——気がつかないその影響力の秘密 (青春出版社、1977年)

① 吉行めぐり (淳之介・和子・理恵の母)

作家・吉行エイスケの妻で、有名になる3人の子の母となったが、美容院の仕事が生活の中心だった。

② 永登代 (六輔の母)

東京生まれ東京育ちのお嬢さんだが、戦争中は疎開で苦勞。子供の舵取りは考えず、本人の満足を優先した。

③ 村上富士子 (龍の母)

小学校教師をつづけ、寂しかった子供時代を村上龍は自分で乗り越え、芥川賞を受賞した。

④ 畑トキエ (正憲の母)

動物王国を築くムツゴロウの母親は産婆として家計を助け、無学だった夫を医者にした。

⑤ 石原光子 (慎太郎・裕次郎の母)

有名人の兄弟を育てたのは自立した母親だった。

⑥ 前川はつ子 (清の母)

末っ子を信じつづけ、前川清は歌手として成功。

⑦ 森しま (南海子の母)

リフォームデザイナーの母は、大阪の女実業家。

⑧ 橋本久江 (海原千里・万里の母)

歌手姉妹の子供時代、母親は焼き肉屋経営で苦勞。

⑨ 平山マサ (徳之島16人の子の母)

42歳で16人目を生んだ自信に満ちた母親像にこんな女の人生もあったのだと納得する。

⑩小沢さくら（征爾の母）

満州に嫁いで「大陸的」な大らかさを身に着け、放牧のように世界の名指揮者を育てた。

⑪王登美（貞治の母）

戦前から台湾人の夫と中華ソバ屋を経営して店を大きくしていった。その苦労の中、ホームラン王が育った。

⑫広中マツエ（平祐の母）

文化勲章受章者の母は後妻として苦労。広中家の夫と姑に疎まれるが、15人の子に慕われた。

⑬丹羽としへ（上坂冬子の母）

10人の子育てと家事にあけくれても社会から取り残されることのなかった我が母への絶大なる信頼を吐露する。ウーマンリブに距離をおく著者の原点がわかる。

（有名人の母を訪ね、子育ての秘訣を聞こうとするが、人それぞれで、意表を突かれることもしばしば。多様な母親像に接した上坂は、自分の母も含め、偉大な存在感に圧倒される。）

6) 特赦——東京ローズの虚像と実像（文藝春秋、1978年、改題『東京ローズ——戦時謀略放送の花』中公文庫、1995年）

1976年7月、東京ローズとして前線のアメリカ人向けに謀略放送を行ない戦後、反逆罪で6年2か月ウエストバージニア州の女子刑務所に服役。市民権を剥奪されたままシカゴで日本製品の雑貨店を経営しているアイバ・戸栗を、著者の上坂は真っ赤なパンタロンスーツで突撃取材するが逃げられてしまう。そこで、シカゴ日系市民協会の特赦支援委員会会長のクリフォード・上田を訪ね、コネをつくる。1977年1月にフォード大統領から特赦を勝ちとると、独占インタビューが実現した。（日本語を教えた先生の言葉と七福神の土人形のお土産を用意して喜ばれたが、日本にいるポルトガル語のできない日本育ちのポルトガル人の夫フィリップ・ダキノ（1945年4月上智大教会で結婚。赤ん坊はすぐ亡くなった）のお祝いのメッセージは無視した。）

著者の上坂は東京ローズの男性版ともいえる川北友彌（1921年カリフォルニア生まれ）にも関心を持ち、本人を取材。大江山の収容所で通訳だったが、戦後、ロサンゼルスで捕虜虐待の容疑をかけられて反逆罪の死刑判決を受けた。ケネディ大統領の特赦で自由の身になったが、アメリカに戻ることは許されていなかった。

また、謀略放送を指導した元参謀本部陸軍中佐の恒石重嗣と元NHKゼロ・アワー班長、満潮英雄（1905年カリフォルニア生まれで、東京ローズの台本をすべて書いたばかりか終戦の詔書を英訳して世界にアナウンスしたと

いう）にも直接会って話を聞く。東京ローズが13人いたというのは嘘で該当者は5、6人。アメリカ国籍は戸栗のみだった。恒石元中佐は、軍刀をガチャガチャさせて捕虜の中にいた元シドニー放送の解説委員カズンズ少佐に協力を強制したと明かす。

戦後、アメリカ人の記者たちを東京ローズに引き合わせた火付け役のレスリー・中島の住む豪華マンションも訪れた。また、裁判傍聴のため渡米して留置所に入れられ、二度とアメリカ入国をしないと誓わされたという夫のダキノとも会って、本人の口から思いを聞き出した。10年の刑を宣告された妻に待つと言ったが、疎遠になり、カトリックなので再婚はしていないが、女性と暮らしている。「ローズの夫」として半生を振りまわされた個人の悲劇だった。

1943年、軍部が文化学院を接收して謀略宣伝本部基地となった駿河台技術研究所の様子も調べ上げた。日本通のオランダ人ニコラス・シェンクによると、恒石は否定したが、キャンプの捕虜は猫の肉を食べたらしい。心臓病で順天堂病院に入院したカズンズ少佐のため捕虜たちが協力してストロベリーアイスクリームをつくって食べさせた逸話が感動的だ。

著者の上坂はダキノとローズが暮らした世田谷区池尻の大家にも話を聞き、巣鴨でローズと同じ部屋だったという石井栄子（米軍収容所の食糧を日本軍の敗残兵に渡したかどで1年服役）を知り、会いに行った。3畳しかない独房は嘘で、オルガン、タイプライター、学習机も完備した20畳の広さの居間で、東京ローズ作詞作曲の『巣鴨パラダイス』を歌ったのが思い出だと聞き、仰天する。さらにもう一人、一時期、同じ部屋にいたというのが、九大生体解剖事件の看護婦長・筒井静子だった。予想に反して会えた彼女からも、巣鴨パラダイスは裏づけられた。冷房完備で、白パンにバターが出て、タバコとマージャンはそこで覚えたという。この取材で、東京ローズの実像が見えた。祖国アメリカの忠誠心とは関係なく、移民の父が苦労して貯めた財産を相続するために米国に帰ると言ったというアイバ・戸栗は「日米両国の谷間で必死に生活の場を守る完全な個人だったのではないか」（317）。何度会っても打ち解けなかったローズに対して、上坂は初めて「愛すべき一市民のイメージ」を抱くことができたという。

（本書は整理して書かれていないため、やや読みにくいかもしれないが、体当たりのノンフィクション作家上坂冬子が、当時まだ健在だった歴史上の人物たちを訪ねて、驚くべき秘話の数々を聞き出すことに成功している。）

7) 愛と反逆の娘たち——西村伊作の独創教育

（1979年、中公文庫、1983年）

お茶の水にある文化学院は自分の娘に理想の教育を施すため、自由主義者の西村伊作が大正10年に創立した。学監に歌人の与謝野晶子を迎え、文学は親友の佐藤春夫が教えた。6人の娘（アヤ、百合、ヨネ、ソノ、ナナ、九和）に取材し、著者は「奇人」ともいわれた伊作の姿を浮き彫りにする。戦争中も文部省の管轄外で男女共学。軍事教練も国民服も無縁で、紀元2600年も祝わなかった。在学中に2か国語以上修得した娘たちはアメリカなどに留学し、6人中4人が外国人と結婚した。伊作は姉妹が夏を日本で過ごせるように軽井沢にそれぞれ別荘を与えた。戦争中ベルリンから中立国スイスに単身逃れた四女ソノの冒険はとりわけすごい。不敬罪で逮捕された伊作は戦後に文化学院校長に返り咲き、昭和32年、膵臓癌で亡くなっている。小国民だった著者は特権階級の伊作に違和感をおぼえながら、自由を守った信念は相当なものだと認めざるをえなかった。

（前作の『東京ローズ』の副産物。謀略宣伝本部基地となった文化学院自体を調べることになったのは、捕虜のシェンクが伊作の五女ナナと結婚していたため。二人は戦後、ブラジャーの会社を立ち上げて財をなした。）

8) ちょっと素敵な女の考え方 ——幸福は待っていてもやってこない（青春出版社、1979年）

第一線で活躍する女性たちを自宅に訪れインタビュー。独身の上坂は、恋の成就のその後と仕事と家庭の両立に興味津々。女性の自立がブームの時代に、主婦業を大事にする女心に共感を示している。

①加藤登紀子

東大生歌手は獄中の全学連のリーダーと結婚し愛を貫き歌いつづける。

②森英恵

結婚生活に退屈して友達と店を始める。ファッションショーを喫茶店で開き、英外相の依頼が来て、世界的なデザイナーになった。夫は退職して社長におさまる。

③池田理代子

『ベルサイユのばら』で大成功した女性漫画家は編集者の夫を捨てて、乗馬クラブで気ままに暮らす男と再婚。惚れぬいた夫に満足して、深夜、仕事に打ち込む。

④佐藤陽子

9歳でソ連に渡って12年学び、さらにパリで修業した天才バイオリニスト。フランスで恋した外交官の夫とはその後別れた。

⑤熊谷榎

日本画壇の第一人者だった故・熊谷守一の次女。山で知り合った夫とは離婚して9年になる。引き取った下の子は全寮制の学校に入れ、スケッチブック片手に世界を旅行。恋もあきらめておらず、自己愛が強い。

⑥辻協

夫婦で陶芸家。多摩の小山の上に窯場を持ち、4人の子を育てる。夫は同志、ライバル。

⑦森下洋子

天才バレリーナ。松山バレエ団でパートナーになった清水哲太郎と結婚。活躍できる年齢を考えて、赤ちゃんよりもバレエを優先する。

⑧太田治子

太宰治の遺児。不倫の子として肩身の狭い思いをし、寮母の母と貧乏に苦しむ。NHK「日曜美術館」の司会者に抜擢される。結婚の場合、母は山奥で暮らす覚悟だ。

⑨大橋歩

持ち込み原稿が認められ「平凡パンチ」の表紙を7年半描く。彫刻家の夫は多摩美大で教える。家庭優先だが、依頼の仕事が来ると血が騒ぐという。

⑩山本誠子

女流棋士。俳優座の山本圭と結婚。理解ある夫を得て、70歳くらいまで碁をつづけるつもりだ。

⑪吉沢久子

戦後時代の寵児となった評論家・古谷綱武と同棲。妻となって選手交代。家事評論家として活躍する。

⑫広中和歌子

翻訳家。お茶の水女子大卒業後、渡米。ハーバード大学に通う数学者と結婚。アメリカ生活20年で修得した英語を武器に、主婦業のコマギレ時間を使って『四十歳の出発』を日本に紹介し『華岡青洲の妻』を英訳した。

（上坂のインタビューの進め方と、それをユーモラスに報告する文章が見事で、楽しく読み進めることができる。有名人の伝記として、時代の証言として価値がある。）

9) 心ひかれた男たち——男子の本開を聞く

（PHP、1980年）

主に『主婦の友』に発表したインタビュー集。

①長谷川五郎

オセロゲームを考案し1億5千万円の特許料が入っても製薬会社の社員をつづけ、質素に暮らしている。

②土岐雄三

酒と女に入れあげた作家は72歳になり、年金暮らし。

③岸部シロー

ケチと言われているが、趣味のいい家で古本にお金をかけ優雅に暮らしている。寺田虎彦の稀観本を提供された上坂はその生き方に感服する。

④徳田虎雄

年中無休の総合病院を8つ切り回す原点は、弟の死。

⑤辻信太郎

若い女性が楽しく働く、五反田のお花畑のような会社サンリオの社長52歳は、元・山梨県庁職員だった。

⑥永瀬昭幸

受験戦争こそ青少年の精神を鍛えると考え、一流証券会社をやめ、東進スクールを始めた。夢は総理大臣。

⑦中内功

主婦の立場でスーパー・チェーンのダイエーを展開。大衆の味方で、文化産業の担い手になると抱負を語る。

⑧太田博之

テレビドラマ『銭形平次』に出演する元子役スターが人気脚本家と始めた小銭すしチェーンが大成功。

⑨山下富可一

戦前から山を掘っていたが、金が出て年収1億円に。

⑩近江正俊

大東亜共栄圏で幻と化した夢を戦後に実現。子供二人を東京に残し、夫婦でインドネシアに渡り、日本語教授。

⑪吉村正

江戸時代の古料理店を始めた産婦人科医。昔ながらの分娩を推奨する。

⑫松下幸之助

85歳になった「経営の神様」の一代記。公職追放令で昭和21年にPHP研究所を始めた。実業の人に圧倒される。

⑬大平正芳

キリスト教徒だが、長男を難病で亡くし痛手を受けた。同居した妻の両親を大事にした。上坂は総理大臣公邸で話を聞き、誠実な人柄に感心するが、リーダーとしては政策や発言が控えめすぎるとやきもきする。しかし最後には、「鈍牛」ならではの強靱な自信を見る。

(出世した男たちの魅力を小文にまとめる。人生哲学を聞きだす話術と、それをおもしろおかしく報告する手腕が見事。それぞれ、とても楽しく読める。)

10) 巣鴨プリズン13号鉄扉——BC級戦犯とその遺族

(1981年、中公文庫、1995年)

・はじめに——『世紀の遺書』とアガペの像

福岡空襲で母を亡くしB29の飛行士4人を斬首した元死刑囚の冬至堅太郎が実質の編集長となって巣鴨拘置所内でまとめた戦犯死没者1,068名中集められるだけ集めた遺書が『世紀の遺書』(昭和28年12月1日刊)であり、その収益金でつくったのが東京駅前にあったアガペの像である。

①13号鉄扉

池袋の高層ビル「サンシャイン 60」はA級戦犯(平均年齢64歳)7名とBC級戦犯(平均37歳)52名が絞首刑になった(他、銃殺1名)巣鴨プリズンの跡地に建てられた。その下には「永久平和を願って」という石碑がある。処刑第1号の母親は玩具の刀を持たせたことを悔い、最終号の母は「いくさなんかなけりゃいいのに」と嘆いたという。

②血染めの足型

巣鴨絞首刑第2号の福原勲(大尉)29歳が、美志子夫人25歳に血染めの足型を残した。「子どもは任せたぞ」という短冊を毎日見て3歳と1歳の子を育て上げた。子供たちには、新しい日本のために喜んで死んで、お前たちを守ると書き残していた。

③以来、一言もふれず

片岡正雄(陸軍曹長)は仏印で食糧を略奪したゲリラを処刑して絞首刑になった。「平和の捨石になる」と刑を受け入れ、7歳と2歳の娘には決して悪いお父さんではないと書き残した。弟の正義が兄嫁と結婚して子供を育てたが、夫婦で兄のことは一言もふれなかった。

④日記の中の妻

鴨緑丸の捕虜の死で絞首刑になった朝鮮捕虜収容所の眼科医、水口安俊33歳の獄中日記。結婚し内地で3か月暮らした雪子夫人の手紙が喜びであり、書斎に並べたい本を空想したりしていたが、面会で義兄から雪子の離婚届を見せられると、以後、日記から雪子の名前は消えた。

⑤チリ紙に書かれた自叙伝

本川貞(憲兵中尉)は、昭和20年3月9日筑波で墜落したB29の飛行士の報復処刑に立ち会って関ヶ原の実家でMPに逮捕されジープで巣鴨に連れて行かれた。トイレトペーパーを貼りあわせた紙に歌集を残している。

⑥だから死んでもいいとは言わぬ

鴨緑丸内地護送隊長の都子野順三郎は、重傷者処分に関わったとして絞首刑になった。妻の政子は官司の免許をとり、家を継いだ。靖国神社の国家護持について訊くと「どんなに立派に祀ってやるといわれても、だから死んでもいいという人はこの世に一人もいないでしょう」(259)と言ったという。

⑦故郷の水音

撃墜した米艦載機の3人を処刑した石垣島事件では7名が絞首刑になったが、藤中松雄(海軍一等兵曹)はその一人。巣鴨では妻の写真を飾り、水洗便所の水を流して故郷の水音を思いだした。

⑧戦犯タクシーの苦悩

戦後、巣鴨を釈放された朝鮮人の戦犯は祖国韓国からは裏切り者扱いされ、日本政府に補償を求める。帰国もできず、「同進タクシー」を創立して、絞首刑・銃殺になった同胞23名のためにも闘いをつづけている。

⑨余った遺体

巣鴨の処刑者は久保山火葬場で焼かれたが、戦犯ではない遺体も混じっていた。田村勝則17歳は東京の空襲で家を焼かれ、北海道の少年保護施設である興農塾に入り、米軍宿舎で食糧を盗み、追いかけてきたヤング一等兵を殺害して、巣鴨で絞首刑になったのだった。

(本書は『償いは済んでいる——忘れられた戦犯と遺族

の歴史』で扱われる人物と一部重複するが、遺書や日記を使って本人の思いを浮かび上がらせ、良質の短編小説のような味わいがある。))

11) 遺された妻——BC級戦犯秘録

(1983年、中公文庫、1985年)

第一章「遺された妻」では満島捕虜収容所所長として絞首刑になった中島祐雄による珍しい痛烈な天皇批判を紹介。第二章「事件と妻」ではパターン死の行進事件とカイリル島捕虜殺害事件での死刑の真相を追う。中心となるのは第三章「遺書と妻」。23人の未亡人から公表の承諾を得て、遺書を掲載。死を前にした元軍人の悲痛の叫びに圧倒される。キリスト教によって天国に入ることには希望を見出す者もいれば、花山信勝教誨師の指導で仏に帰依する者もいた。妻に感謝し、家族を見守っていると言いつた者も多い。平和の礎として死んでゆくことに納得しようとする夫も、遺された妻も、戦争にはもうこりごりである。戦争さえなかったら、こんな悲劇には遭わなかったのにとというのが共通の感慨だった。

(『巣鴨プリズン13号鉄扉』の続編。上坂は日系人強制収容所の非を認めたアメリカの民主主義に感動し、BC級裁判の非も認めさせようと思い、本書を書いた。みんなを不幸にする「戦争」を心底憎んだのは未亡人だけではない。戦争が終わって妻子との日常生活を突然奪われた元軍人も同様だったことを明らかにしている。)

12) 慶州ナザレ園——忘れられた日本人妻たち

(1982年、中公文庫、1984年)

紀元2600年(昭和15年)小学4年生だった著者は当時の朝鮮人差別を体験的に知っている。それゆえに韓国の金龍成が、茨城県在住の宣教師・菊池政一と協力して、韓国の慶州で日本人妻たちを保護する施設の最高責任者になっていることに興味を持った。本書は、ナザレ園に住む日本人女性の個人的体験と金龍成の思いに耳を傾けている。

収容されている16名中、日本国籍は8名、両国籍4名、韓国籍2名、無国籍2名である。創氏改名制度によって日本人名になっていた留学生と、朝鮮半島出身者と知らずにつき合い親の反対を押し切って結婚した例が目立つ。村上ハルはタイピストとして働いているときに明治大学に通う徐と同棲。父の反対を押し切って朝鮮に渡ると、妻子がおり、妾として暮らすはめになった。夫の死後、本妻の長男に愚痴られナザレ園に来た。自分の子はなく、自室の壁に貼った幼児のカラーグラビアを眺めるのが唯一の楽しみだ。臼田多満子はモダンガールで中央大学の康基敏に熱海に誘われ一緒になったが、韓国で夫は妓生と暮らし始めたため、在韓アメリカ兵に身を売って生活。

ナザレ園入居8か月で寝たきり老人となる。川村ハチエは鮮鉄で父より役職が上の福太郎を婿養子に迎えるが、敗戦後の混乱で生き別れる。再婚していた夫と34年ぶりに再会するが夜中に大喧嘩し、残していったお金で酒浸りとなり、脳卒中で死亡。金田香代は日本人の仏具商の家を飛び出し、水商売で楽に暮らし、韓国人の子をあちこちで4人産んだ。カトリックに入信し、今では「いつもイエスさまと一緒に」。奥野タキ子は戦後、夫の故郷に渡り、本妻と子供が存在を知り、妾として同居。再婚で正妻の座を得たが、夫の後追い自殺に失敗して後遺症が残る。館そのゑは50歳のときカマキリが目飛び込んで失明。六・二五事件で3人の子を失ったらしいが、癌で死んだ夫の希望どおり民族服を用意した。田島タキエは独立国の妻として韓国に渡るが、夫が全財産を持ち逃げされ鬱病になり、マッカリの立ち飲み屋を経営。今では、ナザレ園の炊事係になっている。久保上フミは韓国人妻になったが、反日の嫁いびりに苦しんだ。高田信子は、徴用で夕張炭鉱で働いていた小作農の朝鮮人と結婚し、夫と韓国に引揚げたが、その後、夫は博打に入れ込み、愛人を持つようになった。3人の子のうち末っ子の娘を連れてソウルに出て、朝鮮人の両親を持つ高信子として生きてきた。山田鈴江は朝鮮の動乱で親日派の夫が蒸発し、山田家は崩壊。8年後、別の女と同居しているのを知った。昭和56年10月6日に、ナザレ園は創立10周年を祝った。金龍成は収容されている日本人女性を「同胞」と見なし、同情している。「あとがき」では、著者への形見として草履を預けていた村上ハルが、長年の希望がかない、52年ぶりに日本に帰国して、都内の老人ホームに入居。「やっぱり故郷で死にたいですよ」というのが本音だった。

(朝鮮人にうしろめたさを感じる上坂冬子だが、事実は、民族を超えた純愛はまれで、韓国で苦労した日本人女性の望郷の思いがあるばかりだ。)

13) 男装の麗人・川島芳子伝

(1984年、文春文庫、1988年)

「東洋のマタ・ハリ」と伝説化された女スパイ川島芳子の実像に迫った書。上坂は中国から来日した芳子の姪の川島廉子にも取材し、新資料を駆使している。

清王朝八大世襲家の筆頭である第十代肅親王は清王朝復辟を夢みて、ロシアの侵略を阻止するために満州独立を願う支那浪人の川島浪速と意気投合。大正3年、子供のいない浪速に第十四王女、金壁輝を養女として贈った。7歳の少女は芳子と名づけられ、豊島師範付属小学校、跡見高女で学び、浪速が東京の豪邸を引き払って長野県松本市に移ると、松本高女に編入した。17歳のとき断髪、自殺未遂を起こした(59歳の浪速が何かしたか)。

20 歳で、日露戦争で日本側に協力した蒙古の將軍の次男、カンジュルジャップと結婚するが、初夜の腰布団を公開できず、やがて離婚。上海の公使館付武官補佐官の田中隆吉少佐の愛人となり、板垣関東軍高級参謀指揮下で、日本軍のスパイとなり、満州事変、上海事変で暗躍し、熱河作戦で宣撫活動に従事。戦後、蒋介石の国民党に逮捕される。清王朝復辟のため、満州人として蒋介石と敵対したことは認めたが、中国の民衆（百姓）の幸せを願っていたと自信があった。取り調べではカンジュルジャップ、田中隆吉、秘書の小方八郎らに迷惑がかからないように注意したらしい。昭和 23 年 2 月、北京監獄の一隅で「漢奸」として銃殺刑になる（後頭部を一発撃たれた）。42 歳だった。前歯が抜け、アイドル的美貌は失われていた。遺骨を野尻湖畔の家で受け取った川島浪速は 9 か月後に死去。満州事件勃発 18 年後に二人の本葬が執り行われた。墓は、正鱗寺にある。

（「戦争とかかわって運命を狂わせた女性について著作をつづけている」（256）上坂冬子は彼女を「侵略日本の犠牲者」（142）と位置づけている。自身を「僕」と語る気さくな手紙も紹介しており、芳子の存在が身近に感じられる。）

14) 女の胸算用（中央公論社、1984年）

日本経済新聞（夕刊）と『正論』に連載したエッセイ。「戦争—日本人同士にしか通じない思い」は捕虜収容所の調査でオーストラリアを訪れたとき、「二度と戦争が起こらぬよう」という思い（憲法第9条）が通用しないことを痛感した体験談。「教科書問題—“右傾化”を嘆く人々へ」では、戦争反対と叫ぶ日本人に神国日本を信じた戦前の狂信を重ね、「戦争はおきるときはおきものだとふてぶてしく腹を据えて、じっくり大局を見すえる」必要を説いている。「老後保障」では10人の子を育ててまだ借家暮らしの両親を心配していたが、75歳の母がトヨタ社員の車に10メートルもはね飛ばされて急死。胸算用が通じない現実を知る。

（「おわりに」で最愛の母を亡くした衝撃が明かされている。）

15) おばあちゃんのユタ日報

（1985年、文春文庫、1992年）

ソルト・レーク市で88歳のおばあさん寺沢国子が自ら活字を拾い『ユタ日報』を出しつづけている。今でこそ570部だが、昭和14年に夫が病死して後を継ぎ、真珠湾攻撃で76日間発行停止処分をうけて再刊すると、日系人の強制収容所で広く読まれるようになった。日系一世は祖国日本への愛着が消えず、記事はFBIに睨まれながら日本の敢闘を伝えていた。一方、二世は日系アメリカ人

の名誉のためにドイツ軍と戦ってアメリカで信用を得た。日報はその健闘ぶりも伝えている。差別はひどかったが、言論と出版の自由は守られ、日系人の味方をする白人もいて、昭和20年1月2日には収容所から解放された。が、それは『ユタ日報』が大きな役割を終えた日でもあった。（昭和59年秋、上坂は国子から話を聞き、米国から持ち帰ったトランク4個分のバックナンバーを読み込んで、翌年3月1日から信濃毎日新聞に4か月連載、この本をまとめた。寺沢国子は1991年95歳で亡くなった。戦争中、日系アメリカ人一世と祖国日本をつないだ日本語新聞の全容を明らかにし、その功労者に光を当てた労作だ。）

16) ひとり暮らしの味かげん（海竜社、1986年）

「数少ない旧友」海竜社社長の下村のぶ子に勧められて出した随筆集。母を亡くした悲しみはつづいている。

「私の仕事など、今さら何であろう。私にとって生き甲斐そのものであった母を亡くし、さらにそのショックで倒れた父を目の前にしながら、私としては、せめて父にもう一度酒を注いで「ウマイ！」と舌つづみを打たせる日のくるまで、私自身の人生を放り出すつもりでいる」（110）と書いている。「悲しみを救った一冊の本」では、同じく母を亡くした読者の手紙から本の力を知る。（巻頭の「伴奏のない人生」は同じ5年間でも子どもがいればその成長でその歳月が実感できたはずだと書いて、結婚しなかったことへの未練が読みとれる。上坂の随筆のおなじみのテーマである。）

17) 貝になった男——直江津捕虜収容所事件

（1986年、文春文庫、1989年）

直江津捕虜収容所に収容されたオーストラリア軍捕虜300人中60人が死んだ。飢えと寒さと虐待のためだった。連合国は責任を追及して8人を絞首刑にしたが、所長は含まれず、12年の獄中生活の後、昭和32年に出所。遺族の家を回り、仏壇に手を合わせたという。どんな人物だったのか。昭和55年春、上坂は直江津駅前のいかや旅館を拠点に調査。処刑された戦犯遺族の話を聞く。保身のため責任を回避して逃げとおしたと噂された所長は一足違いで亡くなっていたが次男に会うことができた。上坂はさらにオーストラリアに飛び、元捕虜で直江津高校に手紙を書いたリー中尉からも話を聞く。脚気の脚に火をつけられたという虐待の一例がお灸とわかり誤解が解け、再会を約束する恋人（現夫人）宛の手紙が検閲をすり抜けて届いていたことも判明する。鸚鵡と綽名され所長室に閉じこもってばかりいた「やる気のない」所長の心の内に迫り、その謎を解く。

（所長は目の不自由な姑を抱え、上官の温情でアッツ島玉砕の運命を図らずも逃れた人だった。戦争に翻弄され、

関りを避けようと貝のようになった。戦後は、癌の妻を看病するために病院の夜警になり、死別後再婚したのは、精神分裂症の女を助けるためだった。——以上は、地元の『新潟日報』の夕刊に小説の代わりに連載され、好評を博した。感動的な締め括りの一文は並の小説を超える。「後妻となった人の病名を聞いた瞬間、私の体の中を閃光が走り、そしてそのあと、私は長いあいだ胸の奥に溜まっていた謎の塊が、美しい虹となって消えていくのを感じていたのである」(197。)

18) 奄美の原爆乙女 (中央公論社、1987年)

日本民間放送連盟主催の九州・沖縄地区ラジオ番組の最優秀賞を決める予選審査員として鹿児島県の南日本放送制作の「忘れられた島」を選んだのがきっかけで、著者はこの本を書いた。戦時中、大島紬を織っていた若い娘たちは女子挺身隊として長崎に送られ、1945年8月9日午前11時2分、被爆した。夜勤のため熟睡していた重武ヤスエは地獄を見た。結婚後は、3人の子供の下で2人が聾者で、夫は61歳で原因不明で亡くなり、自身も原因不明の疲労感に悩まされている。牧窪マメ子は生き延びて結婚したが、次女は生まれながら足が不自由だった。寿山キヨも結婚して3人の子を持ったが、次男は8歳のとき髪が抜け落ち、末娘は15のとき血小板が減少、自身も目まいと頭痛で家事がうまくできない。著者が最初に会ったのは爆心地から3.6キロの松風寮で被爆した豊田サチエ。この主婦が、奄美大島の被爆者の掘り起こしと被爆者手帳取得促進活動を始めた番組の主人公だった。アメリカに8年占領された大島は被爆者が差別を恐れて長崎での体験を隠し、被爆者を保護する法律ができて情報が届いていなかった。被爆者問題の専門家・平井茂が昭和59年に調査を行ない、長崎県被爆者手帳友の会で奄美の救援が提案された。深堀勝一会長は長崎の惨状を少年時代に目の当たりにし敗戦を聞いて「よかったあ」と言ったカトリック信者だった。協力した生活指導部長の磯田泰子は頭蓋骨を開いて突き刺さった木切れをとる手術を受けて頭皮にケロイド状の傷が残っている。昭和60年、長崎の原爆病院で牧窪マメ子は左手首のガラス片を摘出、40年間のしびれから解放された。川上ミナエは指と指のケロイドを切り離し、手を広げることができるようになった。そして念願の手帳を手に入れた。友の会は7万6千人の圧力団体となったが、結婚差別を恐れて補償を敬遠する二世、三世がいることに深堀会長は頭を悩ませている。

(戦後40年もたつて被爆者手帳を手にした奄美大島の元女子挺身隊。本来、島で高級反物の大島紬を織っているはずの乙女たちが軍需工場の仕事に駆り出され、原爆の被害にあった。その隠れた史実に光を当て、被爆の悲惨

な現実を時空を超えて身近に生なましく感じさせる本である。)

19) 宰相夫人の昭和史 (1988年、文春文庫、1991年)

竹下登夫人直子さんから時代をさかのぼって池田勇人夫人満枝さん(福田赳夫夫人は辞退、田中角栄は夫人の代わりに令嬢の真紀子さん)までをインタビューする。上坂のお酌で中曽根康弘夫人の薫子さんは夫の国防論の真意を熱弁。満枝さんは、暗殺されたケネディ大統領の葬儀に参列した夫が見たトルーマンやアイゼンハワーのように老醜をさらさず、65歳のとき池田が喉頭癌で早く亡くなったことを本望だったろうと受け入れていた。

(上坂は、初の自民党総裁選の候補者たちをNHKテレビのためにインタビューした経験がある。大平正芳には、その頃から好感を持っていたようだ。夫人の志げ子さんとは対照的に、ベーチェット病のため26歳で亡くなった長男正樹さんの思い出を大事にしつづけた首相の素顔に共感を示している。)

20) 女が振り返る昭和の歴史

(中央公論社、1989年2月)

満州事変・日中戦争・日米開戦・敗戦と戦後の復興が自分の人生と重なる昭和5年(1930年)生まれの著者が、『婦人公論』を手掛かりに、昭和恐慌からの世相を女性の事件中心に紹介。出席した昭和天皇御在位六十年記念式典までを振り返る。第二部はノンフィクション短編を3編収める。大正時代に一柳子爵令嬢と結婚して戦時中帰化し天皇を戦犯裁判から守ったウィリアム・メレル・ヴォーリズ、敗戦後すぐ日本に「ララ物資」を送るよう手配した日系人、浅野七之助、昭和18年佐賀県武雄市に満州娘に日本の婦道を教える如蘭塾を創立した野中忠太。

(上坂は、自分と同じ42歳の独身OL奥野彰子が勤務する滋賀銀行から9億円を横領して競輪狂のタクシー運転手に貢いで逮捕された事件に共感している。聖戦を信じる少国民だった著者は敗戦後、すべての価値が一変した国に期待感を抱き、新制高校一期生として自宅から15分で通えるトヨタ自動車工業株式会社に就職。文筆業で独立すると、国際婦人年の昭和50年にはニューヨークでアメリカのウーマンリブ運動の大御所ベティ・フリーダン(当時54歳)にインタビューするまでになった。しかし、「ボーボワールと違って家庭を尊重する」という彼女の言葉が心に残っているといい、伝統的な家庭を破壊する日本の「進歩的婦人団体」には反対した。その結果、OL(以前はOGと言った)向けの依頼が来なくなって、戦争に翻弄された人々について書くノンフィクション作家に転向したのである(144-46参照。))

21) 生き残った人びと

(1989年7月、文春文庫、1992年)

『奄美の原爆乙女』を読んだメリー・藤田80歳から手紙をもらい、アメリカにも広島で同じ体験をした日系人が千人ほどいると知った上坂は調査のため渡米。シアトル、サンフランシスコ、ハワイ、サンノゼ、ロサンゼルスへ話を聞きに行く。被爆した日本人女性が戦後、アメリカの日系人に嫁ぐことが多かったのだ。8月6日、黄泉の国か悪夢と思われる恐ろしい体験をした彼女たちはいま、広島医師会が派遣する医師団の検診を待望する。原爆の影響と思われるいろいろな病気が現われているからだ。

(表紙に被爆者・平山郁夫画伯の『三人姉妹』を使用。広島での個人の体験はさまざまだが、そのすさまじさに圧倒される。被爆後の突然の病気が原爆の本当の恐怖を実感させる。「一つの爆弾が何人殺せば気がすむのかね」(下巻78)という被爆者の遺言が心に響く。米国の最新教科書に掲載されている正当化の主張(下巻98-99)も紹介しており、被爆の現実の世界に周知させる必要がある。)

22) ひとりで暮らす ひとりで生きる

(1991年、講談社+α文庫、1993年)

日経新聞連載「シングルライフ」を中心にした随筆集。ひとり暮らしに引け目を感じていた上坂は独身を勧める気はない。ゴールデンウィークに残業帰りのトヨタ社員の居眠り運転で75歳の母親を亡くし、正常に戻るまで5年かかったという。愛する肉親を失った哀しみを独りで耐えなければならなかったことを踏まえ、結婚はすべきと説く。35歳で家を買ったときの母の悲しげな顔を思いだす。独身生活は、病気になるのが不安で、テレビが友だ。それでも「癌で死にたい」(127-29)では自分の死を見事なまで予想している(告知を希望し延命措置は拒否)。何も悪いことをしていないのに両親(父親は母の3年後死去)を理不尽なかたちで奪われ、神も仏もないことを痛感し、結婚祝い頼まれた色紙に「あてになるのは自分だけ」と書くたくましさ身を着けた。さびしいが、自由で、仕事の充実感がある。

(「ちょっと強靱」では1975年の国際婦人年、日本のウーマンリブ運動の平等論についていけず、戦後史発掘にテーマを切り替えたことを打ち明けている。上坂冬子の真の活躍はそこから始まったのだ。)

23) 思い出すだに腹が立つ——日本の偽善を糾す

(光文社、1993年)

新潟市主催の憲法記念日講演会に招かれたのに、憲法にしがみつき「非武装中立」「自衛隊違憲」を叫ぶ社会党議員団の反対でキャンセルされてしまった。また、今

さら日韓併合や日韓基本条約にケチをつけて慰安婦を盾に特高警察官だった父(極右を取り締まっていたのに)まで持ち出されて糾弾される。本書は、上坂冬子の怒りの反論だ。

(戦後の反戦主義者は、批判的であるはずの戦時中の軍国主義者と精神構造がそっくりだと実感させる。)

24) 硫黄島いまだ玉砕せず

(1993年、文春文庫、1995年)

本書は、産経新聞取締役が連れて行ってくれた雑談の場から生まれた。上坂が目にしたのはすでに亡くなっていた和智恒蔵(1900-90)。1985年2月19日、硫黄島で日米兵士が再会した合同慰霊祭(その感動的な和解の場を目撃したアメリカ人高校生マイケル・R・ジャコビーのレーガン大統領に宛てた「平和への手紙」は三省堂の高校の英語教科書にも掲載され話題になった。本書巻末にも収録)の陰の立役者であったことを明らかにした。

和智は硫黄島警備隊司令(海軍大佐)で、「硫黄島陸海軍の歌」を作詞していたが、玉砕の4か月前に本土に呼び戻されて生き残った。戦後、余生を供養に捧げようと天台宗の僧になった。「寿松庵恒阿弥」としてGHQに慰安渡航の申請を出したが許可は下りなかった。そんななか1951年に、部下の山蔭25歳が上陸許可を得て埋めた日記を取りに戻るが、突然「バンザイ」を叫んで、投身自殺する事件が起こる。和智は死霊に招き寄せられたのだと主張して、再び慰霊の必要を説いた。そして1952年1月27日、やっと和智の希望が叶って、上陸。観音像を2体設置して祈りを捧げることができた。長期滞在調査によって、コメカミに拳銃自決の穴があいた頭蓋骨や、髑髏が欠けている骨格(千体?)が見つかった。記念品として米兵が持ち帰ったらしい。名前がわかる11人分の遺骨を持ち帰った和智は、1980年代前半まで有志を連れて遺骨収集に尽力した。リチャード・ニューカムの著書『硫黄島』の巻末に髑髏を返還するよう呼びかける一文を掲載してもらって、3つ戻った。85歳になる和智恒蔵の人生最大のイベントは硫黄島協会会長として関わった1985年の合同慰霊祭だった。意識して裏方に徹していたことは記録映像で明らかだが、戦勝記念とさせなかったのは和智の功績だ。僧侶の自分がアメリカ人牧師と抱擁する演出もうまくゆき、日米二つの記念碑を境に立っていた日本人とアメリカ人が和解するきっかけとなった。役目を終えた和智は、妻が一足先に亡くなる前に妻子と同じカトリックに改宗し、89歳で亡くなっている。

(硫黄島に慰霊に行ったあとで参議院議員に立候補して落選するなど人間臭い面も描かれているが、遺骨収集のきっかけを作った人物であることは間違いない。慰霊の気持ちは純粹だったと思われる。)

25) **南の島のマリア** (1994年、改題『時代に挑戦した女たち』文春文庫、1997年)

①鄭宝玉

帝国女子医学専門学校(現・東邦大学)卒の鄭宝玉は敬虔なクリスチャンで、姑を亡くし5人の子が成人すると、沖縄の離島僻地医療のため、那覇から空路一時間半の北大東島の診療所に赴任。島民に慕われたが、家庭に恵まれない15歳の中学生にいたずら目的で扼殺される。63歳だった。少年犯罪のためタブー化した1979年の事件を知った上坂は、彼女の功績を称え遺族に翻訳を贈った。

②愛新覺羅溥傑の次女・孀生

ラストエンペラーの弟は、長女が周恩来首相に嘆願の手紙を書いたおかげで撫順戦犯管理所から文通を許された。しかしその後、彼女は伊豆の天城山でクラスメートと心中。中華人民共和国の良き一公民として87歳で亡くなった溥傑を見届けたのは、次女の孀生だった。

③ミドリ・島内・レダラー

日系老人のため、ニューヨークの駆け込み寺的活動を行ない、第3回エリス島栄誉賞を受賞したミドリは、父を太平洋戦争中、日系人の強制収容所で亡くしていた。

④緒方貞子

国連難民高等弁務官として活躍する緒方貞子の個人史を聞きたくて上坂はジュネーブを訪れた。祖父も父親も外務省で、日系二世の家庭教師から英語を習い、高度な英語力を身に着けた。ジョージタウン大学で学び、カリフォルニア大学で博士号を取得した。博士論文は『満州事変と政策の形成過程』として日本でも出版されている。

⑤ハル・ライシャワー

1955年、サタデー・イブニング・ポストの記者として、学者のライシャワーと出会い、結婚。駐日アメリカ大使夫人となる。日本で話題になった夫の「尊厳死」の真相と太平洋への散骨について詳細を語る。ライシャワーの墓はないので、家の窓から見える海に話しかけるといふ。

⑥板垣四郎大将夫人・喜久子

1938年、永田町小学校2年生のとき級友だった末娘と53年目の再会を果たした上坂は、彼女から借りた母親の私家版歌集と、自分の父親(警察部特高課で働き戦後、公職追放にあった)が書いた私家版の自分史などを引き、戦後の苦労を対比させる。

(上坂は板垣喜久子を扱ったこの「あとがきにかえて」で、自分の父親についても詳しく語っている。度量衡店を営営したり、自動車教習所校長を務めたりしながら、筆まめだったようだ。上坂の文才は父親譲りらしい。)

26) **償いは済んでいる——忘れられた戦犯と遺族の歴史**

(講談社、1995年)

戦後50年、戦後補償問題を蒸し返しだした人々に対し、

忘れられたBC級戦犯の悲劇を振りかえり、彼らの生贄によってサンフランシスコ平和条約が結ばれたと説く。

①責任を取る

由利敬中尉(26歳)。大牟田捕虜収容所の所長として、盗みと脱走を繰り返した「札つき」の処刑を命じたため、昭和21年4月25日、日本で最初に巣鴨プリズンの絞首台に上った。赤ん坊の自分を抱いた母の写真と婚約者の女学生の写真を身に着けているのを教誨師の花山信勝が目撃している。上坂はこの元婚約者を訪ね、長崎県の五島列島・福江にある母子の墓参りをしてこの章を締め括る。

②なぜ、ひとりだけ

本川貞憲兵中尉(41歳)。東京大空襲の翌日、撃ち落とされたB29の瀕死の飛行士を刺した7人中、ただ一人死刑になった。巣鴨プリズンでご飯粒でトイレトペーパーを張り合わせた用紙に歌や自画像などを子供たちのために残した。

③恨みの二ヵ月

石垣島の海軍警備隊員7人。撃ち落とされたB29から落下傘で脱出した3人を殺害したため処刑された。井上乙彦大佐は無差別爆撃に対する処置で、全責任は自分にあるから部下たちを助けてほしいと嘆願書を出したが、叶わなかった。昭和25年4月7日の彼らの絞首刑を最後に、死刑はすべて中止になった。朝鮮戦争が始まったからだ。

④親たちの悲劇

石垣島事件で処刑された幕田稔大尉(31歳)の母は翌日の処刑を予感して再び会いに行った。室蘭捕虜収容所の通訳兼所長として絞首刑になった平手嘉一大尉の父は、自分の髪が真っ白に変わっていることに気づきかえって心配をかけると思って、巣鴨プリズンの息子に会わずに北海道に帰った。

⑤巣鴨プリズンというところ

サンシャイン60を建てたときに行方不明になった巣鴨プリズンの13号鉄扉は1981年、雑司ヶ谷霊園で発見された。戦犯の遺体は横浜の久保山火葬場で焼かれていたが、場長がひそかに保存し、日本独立後、60等分して遺族に届けられた。

⑥厳寒の三角州にて

直江津(現・上越市)の三角州にあった捕虜収容所でオーストラリアの捕虜60人が寒波で死に、関係者8人が絞首刑になった。秋山米作軍属(38歳)は無実の罪だと書き、青木勇次衛生曹長は盲腸炎の捕虜の治療に尽力していた。精神を病んで入院した青木は夫人を見て微笑んだため、処刑されてしまった。

⑦天竜川のほとりにて

満島捕虜収容所(長野県)では5人が絞首刑になった。所長の中島祐雄大尉は、何もやましいことはないと呼び出しに応じた。平松貞次軍属は、発電所建設現場で働く

捕虜に煎り豆を差し入れて喜ばれたが、義眼の人違いで処刑された。

⑧立ち直った未亡人たち

元宮司だった都子野順三郎大尉（44歳）は、地獄船鴨緑丸事件（捕虜は戦勝国側の爆撃で死亡）の護送隊長として絞首刑になった。未亡人は戦後初の女性宮司の資格を取り、愛媛の戦犯たちの慰霊碑を建てた。大牟田捕虜収容所の所長として処刑された福原勲大尉（29歳）の妻は子供をしっかりと育て、夫の忠告どおり仏教に帰依した。

・エピローグ 戦後補償を論ずる前に

戦後50年を前に湧きおこった戦後補償問題はすでに国家間で解決済みである。「日本が相手かまわず一方的に戦争をしかけ、あげくの果てに何の償いもせずのうのと経済大国に君臨しているかのように認識するのは、不勉強による誤解です」（208）と指摘して、戦争という不条理を戦後いやになるくらい味わった戦犯と遺族に思いを致している。平和は、彼らの生贄によって成ったのだ。その平和な世の中の安全地帯から戦争に人道を求めたり、安易な批判や反省を繰り返したりするのは無意味である。

27) 腹立ち日記（小学館、1995年）

『女性セブン』編集部から「毎週一度ずつ腹の立つ話」を依頼されてできた本。上坂冬子はいつでも怒っているイメージが定着したようだ。夫婦別姓を希望する女に「それほど自分に執着して生き続けたいなら結婚しなければいいではないか」（55）、「南京大虐殺はでっちあげ」と言ってお詫び辞任した永野法務大臣に「いったら詫びるな、詫びるならいうな」（124）と忠告。「南京大虐殺なども、まだその真相は分からないほど戦争は一筋縄で語れるものではないのだ」（137）と書く。細川首相の侵略戦争発言や「いい子ぶり」の戦時中の自慢も退け、慎重な検証を求めている。

（本は自分の子供なので的外れな批判は許せないという「酷評と優しさ」は理解できるが、大学生の姪が気軽に言ったことばに激怒した「あの一言が許せない」は身内の話であり、公表すべきではなかった。）

28) 三つの祖国——満州に嫁いだ日系アメリカ人

（中央公論社、1996年）

1966年にタトル日本支社から清王朝の中国宮廷料理の英文の本『COURT DISHES of CHINA』の著者ルシール・デービスがラストエンペラー溥儀の妹（二格格）の夫の弟と結婚した日系アメリカ人ユキコと知った著者は本人とも会い、その半生を明らかにした。

父・田島隆之はアメリカに渡り、レタスを氷詰め列車でカリフォルニアから東部に運び、「レタス王」として大成功するが、映画『エデンの東』同様に、事故で氷が

解けて破産し自殺。原作者のスタインベックはこの実話を利用したらしい。ユキコは、満州国から留学中の鄭子罕と恋に落ちて満州に渡る。祖父は満州国の初代総理大臣、父・鄭禹は奉天市長というエリート一家。しかし、大家族になじめず、不妊治療を受けて 欣満を出産するが、愚かな日本は真珠湾を攻撃、満州国は幻と化した。夫は北京で米兵めあてのカフェを開くが、米軍の引き上げで倒産。ユキコは見切りをつけて、アメリカ国籍を利用し、日本に脱出。17歳年長のアメリカ人ケネス・デービスと恋に落ち、メキシコで離婚手続きをして、世田谷区経堂で式を挙げた（デービスも妻子がいて子供は脳に障害があった）。日本に戻って2年ほど、1952年のことだった。二人は、大正期の皇族が住んだお屋敷にハウスボーイと庭師を住み込ませ、パーティーを開くなど優雅な生活を送った。ユキコは華道池坊の正教授一級を取得して、「いけばなインターナショナル」の鎌倉支部初代会長に就任し活躍したが、中国では、鄭禹は漢奸として銃殺され、1956年に北京で正式に離婚した次男の前夫は服毒自殺した。1976年に、ユキコは成長した 欣満からアメリカに会いに来たいという手紙をもらう。中国政府から許可を得るのに苦労。（その間、愛する夫デービスは肺がんで死去。）1978年7月に28年ぶりの再会が実現。しかし、アメリカに一緒に来た娘一家と同居し、母子は衝突、ユキコは、「私を捨ててパパを殺した張本人」となじられる。結局、独居に戻り、華道で暮らしている。1995年には45年ぶりに北京を訪れ、日本のアニメ「一休さん」が好きという二格格との再会を果たした。

（「偽満州国」がもたらした悲劇。満州国に嬉々として生まれたという意味の 欣満は、新中国で紅路と改名せざるをえなかったという。7日で戻ると約束しながら娘を捨て、2年後に再婚を決めた「早業」に、上坂は日系アメリカ人女性のしたたかさを感じているが、母の世話を口実に中国を脱出した娘も相当したたかである。自殺した 鄭子罕が気の毒だが、繊細では激動の時代を生き延びることはできないというのがこの本の教訓かもしれない。）

29) 原発を見に行こう——アジア八ヶ国の現場を訪ねて

（講談社、1996年）

物見高い上坂が発案し、名古屋に本社をおく中部電力の殿塚常務取締役が賛同、元東大大学長で日本原子力産業会長の向坊隆が太鼓判を押し、この企画は実現した。親しい殿塚氏のほか、日本原子力産業調査役と日本原子力発電株式会社の広報部長も加わって、4人の旅が始まる。総電力量の30%を原子力発電に頼る日本に対し、3基が稼働中の中国はまだ1%。しかし原爆の威力から原子力をPRし、8基を増設予定で、パキスタンに中国製原子炉

を輸出する。インドは『ワシントン・ポスト』に杜撰さと秘密主義を酷評されていたが、アメリカの反インドに反発し、差別的待遇と闘っている。パキスタンの税関で上坂は200ドルの賄賂を要求した職員に名前を訊き名札を写して撃退。イスラム教の小国は大国インドの動向をうかがいながらカナダから輸入した原子炉を使う。1日5回祈るモスクが発電所内に完備されている。韓国電力公社はニューヨーク株式市場に上場するほどで、11基が総電力量の36%を賄う。台湾は1981年と83年から2基が稼働。原発のごみは中国本土とロシアの双方が引き取りを希望しているという。フィリピンは建物はできているが、マルコス大統領の負の遺産として廃止。タイは天然ガス埋蔵がわかり原発は持たない。インドネシアも1基もないが、用地を提供して外国に運営を任せて電力のみ買い取る方式を考えている。無人島が3千もあるので、廃棄物の処理には困らない。最後に、上坂は六ヶ所村の原燃サイクル施設を再訪。道路がよくなり、立派な文化交流プラザは1997年3月完成予定。村長は人類の未来のために「原子力のメッカ」をめざしている。アジア各国の原発を見た後で、日本の用意周到な対策を「いささかノイローゼ気味」(277)と感じながらも、日本の実力に感動している。

30) 南の祖国に生きて——インドネシア残留日本兵とその子孫たち(文藝春秋、1997年)

1997年1月、上坂冬子は、ジャカルタのホテルで開かれた残留日本兵の集いに参加。インドネシアの独立発展に寄与した元兵士とその家族取材した本である。

ジャカルタの都心から30分ほどの緑地にあるカリバタの英雄墓地には、独立戦争に参加して亡くなった日本人も眠る。「大東亜戦争」中の1944年に、小磯国昭首相は将来に独立を約束して、45年3月にはインドネシア独立準備委員会を認めた。しかし、敗戦。2日後の8月17日には初代大統領となるスカルノが独立を宣言しているが、その文面をつくるのに4人の日本人が立ち会っていた。1958年、芝の青松寺の、インドネシア独立軍の参謀指揮官であった市来龍夫と吉住留五郎の顕彰碑にスカルノが碑文を寄せたのはその1人、西嶋重忠の依頼だったからだ。エリートは日本軍の貢献をある程度認めているが、1974年に田中角栄首相の訪問時に反日暴動事件が起きているように恨みも残っていた。それに、インドネシアに残った日本兵全員が日本軍の約束した正義のために独立戦争に加わったわけではない。敗戦が決まり、戦勝国で宗主国のオランダ軍が戻ってくると、戦犯として裁かれるのを恐れたり、日本がアメリカの植民地になると思い込んだり、なかにはインドネシア人に脅されて仕方なく協力した者もあった。その数、約千名。生き残ったのは

300名ほどで、残りはこの異国の地で戦死した。

上坂は以上の史実をまじえながら、1979年に107名の生き残り「ヤヤサン福祉友の会」を発足させ「月報」を180号も出しつづける乙戸昇(元日本陸軍少尉)から協力を得て、本書を完成した。多くは現地女性と結婚し、イスラム教に改宗している。1963年に国籍申請が認められるまでは差別もあって、苦労が多かったらしい。日本企業の進出でインドネシア語ができる人材として活躍し、二世もインドネシアの経済発展に貢献している。資金難のヤヤサン福祉友の会に推計5千万円も寄付したのは、戦時中3年間スラバヤの海軍給養施設で働いて戦後に、新富町の飲食店「すずろ」を経営する小倉みゑである。この篤志家の「ミエ奨学基金」で日系インドネシア人が多く日本の大学に留学している。乙戸昇はインドネシアで「日系」という新種族が栄えることを願っている。

31) ハル・ライシャワー(講談社+α文庫、1999年)

ハル・ライシャワー(1915-98)が亡くなると、日本のマスコミは一斉に上坂にコメントを求めた(318)。それは本書の初版(1994)でカリフォルニア州ラホーヤにあるライシャワー邸にまだ元気だったハルを訪ね、直接その生涯を聞いていたからである。——明治の元勲松方正義公爵と、群馬から生糸とともに渡米してニューヨークで貿易商となって財をなした新井領一郎を祖父に持つハルは子供の頃から英米の家庭教師に教育を受け、当時交友はなかったが、宣教師の子で東京生まれのエドウィン・ライシャワーがバスケットボール部のキャプテンとして活躍していたアメリカンスクールに編入。信者の母親の影響で米国のクリスチャンサイエンス系のプリンシピア大学に進学した。排日法の時代だったが、友人に助けられた。太平洋戦争中は群馬県勢多郡に疎開。竹槍訓練が行なわれ、モンペが嫌いでスラックスをはき地元の子に「非国民!」となじられた。終戦は地元の人々とは対照的に家族で大喜びした。果たして「クリスチャン・サイエンス・モニター」紙の記者が迎えに来て、助手として上京。アメリカ人のボーイフレンドも多く、フィアットで通勤。「サタデー・イブニング・ポスト」に寄稿して外人記者クラブの役員になる。そして1955年3月の子を連れて研究のため来日中のエドウィン・ライシャワーと出会う。夫人を心臓病で亡くしたばかりだったが翌年、45歳と40歳の二人は結婚し、新婚世界旅行の船旅には子供たちも同行。反抗もあったが、いきなりアメリカ人の子供の母親になった。1959年12月にはアメリカ国籍を取得。夫の勤務先であるハーバード大学で韓国語を学び、燕京研究所所長として夫が韓国に出張した際は同行して助けた。ライシャワーは三崎にあった松方の別荘で書いた論文が認められ1961年から5年4か月間、駐日

米国大使となる。ハルと一緒に全国 39 か所を回り歓迎された。1964 年 3 月ライシャワー大使は沼津の 19 歳の日本人青年に右股を刺され、虎の門病院で大量の輸血を受ける。「これで本当の日米混血になった気がします」と笑ったが、この輸血がもとで、死ぬまで肝炎に苦しむことになった。ハルの人生最良のときは 1986 年、10 年かかったノンフィクション本 *Samurai and Silk* (『絹と武士』) をハーバード大学出版部から刊行したこと、1987 年 10 月、皇太子ご夫妻をボストンの自宅にお迎えしたことだった。脳卒中を患い日本語が喋れなくなったライシャワー博士は晩年アジアの発展のため太陽光発電の会社と関わったが、肝硬変で亡くなり、遺骨は遺言で太平洋にまかれた。美智子皇后がその死を悼んで和歌を 4 首贈り、初版はその和歌で締め括られている。上坂が取材したとき夫の遺志を継ぐハル未亡人は太陽光発電の日米合弁会社の会長として、ライシャワー家の母として、悠々自適の生活を送っていた。亡くなったとき、上坂は「この世での役割をみごとに果たし終え」(318)たと見た。その役割とはもちろん、日米の懸け橋ということだろう。

(戦後すぐ群馬に尋ねてきたアメリカ人の軍用ジープを見て自動車が懐かしくなり勝手に乗り出してみたというエピソードがすごい。戦前からアメリカの教育を受けた彼女は、戦後、アメリカの駐米大使夫人として日米親善に尽力。昭和・平成の天皇陛下からも認められた日本人女性だった。上坂も戦後の平和に寄与したハルに尊敬の念を抱いて本書を執筆したようだ。)

32) 揚輝荘、アジアに開いた窓——選ばれた留学生の館 (講談社、1998年)

金子堅太郎伯爵からデパート経営を勧められ、1909年渋沢栄一を団長とする全米視察に参加して松坂屋初代社長となった伊藤次郎左衛門祐民(1878 - 1940)が、55歳の定年を自ら決めて退職、自宅の揚輝荘にアジアの留学生を住ませた、知られざる社会貢献に光を当てた本だ。1943年、東条英機首相が戦争末期につくらせた「南方特別留学生」制度より 7 年も前に始まっていること(128)から、上坂は政治とは無関係な個人の善意と見て、数少ない関係者に取材した。敷地内の衆善寮で世話をしたのは東京帝大でインド哲学を学んだ三上孝基寮長。留学生たちは彼を慕って、戦後も名古屋に会いに来た。中には、タイの日本大使館の参事官になって再来日した者もいた。1945年3月の名古屋空襲で揚輝荘の大半は焼け、留学生たちは道半ばで帰国を余儀なくされ、中国の留学生などは日本で学んだ過去を隠さねばならなかった。上坂は、そうした個人の苦勞と努力に思いを馳せながら、アジアと日本の民間のささやかな交流を価値あるものだったと

評価している。日本で日本人と楽しく過ごした少年時代の思い出を何人かの元留学生が語っているが、たしかにそれこそが、伊藤次郎左衛門祐民と三上孝基寮長がもたらした価値ある成果なのだろう。

33) 我は苦難の道を行く——汪兆銘の真実

(1999年、文春文庫、2002年)

大東亜戦争末期、東京で開催された大東亜会議で中国を代表して演説の筆頭に立った汪兆銘。しかし本国でも台湾でも「漢奸」(売国奴)と蔑まれ、「閣下」と敬った当の日本人も「日本の傀儡」と顧みることがなかった。上坂は日本との和平に賭けたこの童顔の美男子、温厚な文人政治家の実像を求め、二女・汪文彬をインドネシアに尋ねる。帝国女子医専(現・東邦大学)卒業の経歴を持つ彼女は、カトリックの修道女医師として働いていた。最初は父親について語ることを断固拒否したが、一緒に自動車事故に遭い、上坂に心を開いた。来日して知っていることをすべて語ってくれただけでなく、アメリカでひっそり暮らしていた元私設秘書、何文傑(長女の夫)に紹介状を書いてくれたのである。そして何文傑は世界でただ一つの自家製資料を提供してくれた。汪兆銘は、孫文の教えを忠実に守る愛国者だった。中国が日本軍に到底勝てない現実を見て、中国の滅亡を救うために日本との和平に応じたのだった。彼は蒋介石と対立することになったが主席の座は望まず、南京国民政府を重慶からの還都と思っていた。しかし合流する同胞はなく、日本政府は重慶と交渉をつづけるほかになく、汪兆銘の面子は丸つぶれだった。1935年に狙撃され胸に残っていた銃弾で歩行が困難になり、名古屋帝大附属病院で摘出手術を受けたが、1944年11月10日、61歳で死去した。蒋介石は南京に葬られた汪兆銘の墓を爆破して、首脳たちを銃殺。上坂が見に行ったときにはなくなっていたが1994年にはさらしものとして跪像まで設置された。長男は父親の非を認めて自由を得たが、妻の陳璧君は拒否して1959年に68歳で獄中で亡くなっている。

(汪兆銘について知りたい人にとって必読の書。上坂は大東亜戦争を共に戦った日本人として汪兆銘の名誉回復に責任を感じている。誠実な人柄が偲ばれ、日本人読者はみな同じ思いかもしれない。)

34) 虎口の総統——李登輝とその妻

(文春文庫、2001年)

日本名・岩里政男こと李登輝は、台湾出身の日本人として京都大学在学中に学徒兵となり、東京大空襲の遺体処理などを経験。兄はフィリピンで戦死し、靖国神社に祀られている。台湾に戻ると、蒋介石の国民党が住民を虐殺する二二八事件を起こし、戒厳令がつづく。日本人

として育った曾文恵と結婚した李登輝はアイオワ大学で学んだあと、コーネル大学に3年留学して農学の博士号を取得。台湾大学教授に迎えられ、蔣経国総統の信頼を得て、台北市長、副総統となり、経国の急死で台湾人初の総統の座に就く。台湾のリーダーとして12年民主化を進め、憲法も改正し、国民投票によって信任を得るが、2000年に後継者が敗れ、国民党主席も辞任して引退した。戦後国連で中華人民共和国に取って代わられた中華民国の危険な国民党に入党して、内側から民主化を成し遂げ、独立を警戒してはミサイルを飛ばす大陸とも密かにつながりながら、李登輝は民主化の影響力を及ぼしつつけた。（上坂は、大平正芳首相のようにひとり息子を亡くしている李登輝の内なる悲しみにも光を当てた。長男の憲文は妻子を遺し、32歳のとき鼻の癌で亡くなった。両親を尊敬する彼が書いた文章を引いた「補章 息子の遺稿にみる李登輝とその妻」が泣かせる。無宗教の上坂は関心が薄かったが、夫妻はキリスト教信仰の力で人生の危機を乗り越えたと信じている。）

35) 上坂冬子の上機嫌 不機嫌

(2002年、集英社文庫、2003年)

『産経新聞』『正論』『女性セブン』ほかから集めた随筆集。愛用しているワープロの生産中止を「メーカーの傲慢」と批判。携帯電話もワープロもすぐ買ったが、コンピューターに手こずり「IT革命なんて」。防衛大学の卒業式に汪兆銘のことを話し、平和には武力が必要と持論で締めると、小渕首相が「上坂さんはいいなあ、思った通り喋れて。私ら思った通り喋ればエライことだ」(98)と羨ましがられた。人気俳優の石坂浩二が浅丘ルリ子と離婚して老母の介護目当てに再婚したとき非難する女性が多かったが、上坂は石坂を支持している。

(愛する母の老後を見てあげられなかったことを悔やんでいたのだ。子供は親の面倒を見るべきだというのが、上坂の変わらぬ信念である。)

36) 日本はそんなに悪い国なのか (PHP文庫、2005年)

小泉首相が公約であった2001年8月15日の靖国参拝を近隣諸国への配慮から2日早めたことに呆然とした上坂は、首相の慰霊参拝を実現すべく本書を書き、瀬島龍三や中曽根康弘と対談。「追悼・平和祈念のための記念碑等施設の在り方を考える懇談会」の報告書などの資料も巻末に掲載している。

(1985年に首相の公式参拝を実現したのにその後中国にお伺いを立てて中止した中曽根康弘の自己弁護は一読の価値がある。国際政治の難しさを痛感させられる。)

37) 「北方領土」上陸記 (2003年、文春文庫、2005年)

2002年6月21日に、平成14年度第2回日本側ビザなし交流に参加して、根室港から4時間半かけて国後島へ、そこから13時間かけて択捉島へ、4泊5日の船旅だった。1855年の日露通好条約で認められていた北方四島が15年戦争の最後で不当占拠されてしまった。50年以上がたち、元島民(根室市の5人に1人は北方領土の引揚者とその子孫)は半数が亡くなっているのに対し、問題の島は今ロシア人に完全にとって代わられている。年金の優遇等で居ついた住民は、年間200日が雨天か曇天の択捉島に現代の日本人が住むのは無理とまで言っている。私有地の登記簿は根室に無事保管されており、北方領土返還は急務だ。しかし、上坂は二島先行論者の鈴木宗男議員に反対する。歯舞諸島と色丹島は北方領土のわずか7%の大きさしかないのだ。ソ連は四島返還をこの二島にすり替えたが、ゴルバチョフ書記長、エリツィン大統領、森首相と会談したプーチン大統領が四島に言及するようになり、希望が出てきた。

(北方領土四島は入試にも出題されるようになったが、その後また返還交渉は停滞したままだ。上坂はこの問題が解決しないかぎり戦後は終わらないと考えている。)

38) 私の人生 私の昭和史

(2004年、集英社文庫、2006年)

十人きょうだい(男7人、女3人)の4番目の次女として東京に生まれた。父は内務省の役人で、転勤で前橋や長野にも住んだ。日本は神の国で神風が守ってくれると信じていたが、父の故郷・豊田市で敗戦を知る。新制高校を卒業後はキュリー夫人にあこがれて東京物理学校に行きたかったが、自宅から通えるトヨタ自動車工業に就職。組合の闘争と関わり『思想の科学』に寄稿して、『職場の群像』を出版。この本がきっかけで会社を辞め、婦人記事を書くようになった。しかし「異常な男女平等論」にはついていけず「過去の遺物」として出版界から放り出され、結果として「戦中戦後の秘史」を書くノンフィクション作家になった。

(自伝は『女が振り返る昭和の歴史』(1989)もあるが、本書では自分が生きた時代のニュースの代わりに自分が手掛けた作品について書いている。執筆のきっかけだけでなく内容も紹介。著者自身によるブックガイドとして楽しめる。)

39) ほんとうは、どうなの?—原子力問題のウソ・マコト

(PHP、2005年)

ウラン燃料の燃える部分はわずか5%。燃え残りからプルトニウムを取り出してウランと混ぜて燃やす「プルスーマル」(和製英語)なら95%が再利用できる。青森の六ヶ所村(昭和天皇は1985年のつくば万博で電力館を

見学し放射性廃棄物の処分先と知る)で核燃料サイクル施設が建設され、いざりサイクルのためのテストが実施されるといふときに、「19兆円の請求書」という怪文書が出回って『週刊朝日』が「上質な怪文書」と評価した。原子力を基軸とする「エネルギー基本計画」が止まってしまい、素人ながら国家の非力を嘆く上坂は、原子力の識者を訪ね、この本で対談した。資源に乏しいわが国の長期的なエネルギー戦略を考え、1954年に日本における原子力予算を最初に通した中曽根康弘(元総理大臣)、東京大学原子核研究所で助手の経験のある有馬朗人(元文部大臣)、『私も原子力が怖かった』を書いた評論家の竹村健一、歌人の与謝野鉄幹・晶子夫妻の孫で、大学卒業後、日本原子力発電株式会社に就職した与謝野馨(自民党政調会長)ら6名と語り合っている。本の表紙は、小さなプルトニウム燃料を人差し指と親指でつまんでいる写真。これ一個で四人家族が四か月使える電力が賄えると本文中で二度力説している。

(原発の安全性を信じきって識者たちが決して使わない過激な言葉で、原子力を忌避する人たちを批判している。中国が同様の方式で新しい発電所を稼働させると聞き、先を越されることに焦りを感じたりもしている。2011年の福島第一原子力発電所の事故を知る現代の読者には、愚かに見えてしまうかもしれない。)

40) 新版「生体解剖」事件——B29飛行士、医学実験の真相 (PHP、2005年 ※初版は毎日新聞社、1979年)

敗戦の3か月前、本土無差別爆撃の帰りに墜落したB29の飛行士12人中8人が、昭和20年5月17日～6月2日、九州大学医学部で麻酔を多量に使い、解剖手術で殺された。大本営が「適当に処置せよ」と命じたのを、笹川拓軍医見習士官が師である岩山福太郎に「生体解剖手術」の話を持って行った。1回目は肺摘出と代用血液の海水注射、2回目は胃の全摘出と心臓の切開と縫合、3回目は頭蓋骨をはずして脳の観察、4回目は海水注射の効果を中心に実施した。6月19日深夜、敵機大編隊による空襲で、笹川は焼夷弾の直撃で、岩山教授に右足切断手術を受けるが死亡。終戦となり、岩山教授は口外せぬよう厳命して資料と標本を焼却。捕虜は広島原爆で死んだことにする工作は匿名の投書で失敗し、治療を誤解されただけで恥じることはないと言書を書き、独房で縊死した。裁判は、昭和23年3月11日～8月27日まで横浜地方裁判所で行なわれた。軍司令官らに絞首刑判決が出されたが、マッカーサー元帥が昭和25年10月に再審減刑を行なった。絞首刑を免れた飛巢一郎助教授は、当時の個人の無力に同情する著者に対して、「自分さえしっかりしておれば起きなかったこと」と深く反省していた。著者の上坂は、これで救われた気分になる。

(安易な誹謗中傷はせず「もし自分が医師だったら生体解剖を拒否できたであろうか」(7)と問いながら書いている上坂でさえ、本の最初に写真を掲げた12名のアメリカ人飛行士に同情。医者としてやってはいけないことをした岩山教授の、医学者の興味を優先させた異常さをいぶかっている。焼夷弾が当たって死んだ笹川軍医見習士官は罰が当たったように読めてしまう。岩山未亡人も夫の行為を恥じたように、たしかにあつてはならない悪であった。斬首刑も平和ないまから見れば同様に感じられるかもしれない。しかしそれでも昭和20年6月20日、前夜の空襲で母を失ったばかりの夏木健太郎大尉が4人の飛行士を立て続けに斬りまくったというエピソード(118)には、思わず同情してしまう読者もいるはずだ。なお、アメリカ人飛行士の摘出した肝臓を焼いて食べたという「人肉試食事件」は上坂によると、事実無根で、調査官が作文した供述書に脅して署名させたのが真相だという。第二部で詳述されているが、戦争中の出来事は何が本当だったのかよくわからないことが多い。)

41) 戦争を知らない人のための靖国問題

(文春新書、2006年)

中国と韓国の抗議で中断している首相の靖国神社公式参拝。1951年(昭和26年)9月8日サンフランシスコ平和条約が調印されると、吉田首相は閣僚と衆参両議長を引き連れて公式参拝を行なっている。なぜそのときに文句をつけなかったのか。もっとも、この平和条約に署名していない中国と韓国に口を出す権利はない。独立後すぐ日本政府は「戦傷病者戦没者遺族等援護法」を施行し、1953年には戦犯にも遺族年金を支給する一部改正を全会一で決めた。罪人と位置づけた人々を永遠に侮蔑する中国の文化は、日本人には異様だ。A級戦犯としてスケープゴートにされた東条英機大將は独善的なところがあつたが、東京裁判で天皇を守ったことは評価できる。本人も国民に敗戦の責任をわびている。問題化するのは、1985年、中曽根康弘首相が私的諮問機関「閣僚の靖国神社参拝問題に関する懇談会」で準備した憲法に則ったやり方で公式参拝したあと知人を通して北京に問い合わせ、やめるよう言われてからである。上坂は中曽根本人からそう聞き「飛んで火に入る夏の虫」と嫌味を言った(142)。靖国神社に祀られている戦死者の多くは家族との再会の場と明言して亡くなっている。国のために命を捨てれば神としてその霊を祀るというのは、国家と国民の約束事だ。しかし、戦争を知らない世代が主流となるなか、上坂自身も戦時中の死生観を「バカでしたといわざるをえない」(18)と認めている。日本国民に支持されるには、神道や天皇にこだわる必要はないという大胆な考え方を披露して、国立追悼施設を硫黄島に建てる提案

までしている。

（「靖国問題に終止符を打つ！」という広告帯がついた本だが、最後の代替施設案を見ては、靖国神社不要論と感じてしまう。「戦争に行く、今度父さんの顔を見たら東京の靖国神社に母さんに連れられて来い」(17)といった当時の日本人の家族の約束事は遺族が亡くなれば解消されると思ったのだろうか。)

42) 教育の忘れもの——東京の学生寮・和敬塾

(集英社、2006 年)

広告帯で「東京のど真ん中に 50 年の歴史を持つマンモス学生寮がある。」と宣伝。和敬塾。目白通りに面し、椿山荘と元総理大臣の田中角栄邸の間にある。村上春樹が昭和 43 年に数か月住み、早稲田大学文学部演劇科に通った学生寮だ。『ノルウェイの森』と短編の「螢」に描かれて有名になった。早大理工学部出身の技術者前川喜作（前川製作所社長）が昭和 30 年に創設。敗戦後、人間形成を重視して、道徳心を取り戻すべく旧制高校のパンカラで思索的な雰囲気復活させた。入寮者はみなお立ち台で爆笑を誘うポーズをとったり、お部屋回りをして大声で自己紹介し、先輩たちの説教を受けねばならない。塾内講演会には、湯川秀樹、E. O. ライシャワー、三笠宮寛仁、中曽根康弘、福田恆存、植村直己、江藤淳などの著名人が来て色紙を残している。上坂は塾の方針に賛同して、オーケストラ指揮者やアメリカ人弁護士、おかめ納豆社長などにインタビューを行ない、仲間意識がいまも続き、和敬塾の寮生活がいまの自分をつくったと感謝していることを明らかにした。

（村上春樹については「まえがき」でふれている。上坂は人間集団の見事な結末に純粋に感動しているが、村上のような個人主義者には耐えられない生活だろう。小説で印象に残る右翼っぽさは本書ではあまり感じられないが、元軍国少女の上坂には、男たちの生活の古めかしさが懐かしかったのかもしれない。)

43) 人間のけじめ (海竜社、2006 年)

「靖国問題から少子化時代まで 日本をとりまく愚をただす！」が宣伝文句の随筆集。「けじめ」は、歴史・良識・戦争・暮らし・老いに分類されている。まず歴史のけじめでは、A 級戦犯の東条英機元首相に敬服。憲法第 9 条について「泥棒がまだ居るのに警察をやめるようなものだ」と皮肉っていることを評価している(16-17)。良識のけじめでは、「思い出のトヨタマン」の中で独り立ちしてまもないころ豊田英二社長に話しかけられた昔を回顧している。暮らしのけじめでは、卵巣癌を「健康過信のツケ」と見なす。老いのけじめでは、帰郷するとかならずウナギ丼を取ってくれた母の電話のダイヤルを

早く回せない老いを、言葉がすんなり出ない自分の老いと重ね合わせて回想している。

（一社員のままではトヨタ社長と親しく話すこともなかっただろう。ノンフィクション作家として独立し、数々の著名人と互角に話すその後の成功がこのエピソードに垣間見える。）

44) これでは愛国心が持てない (文春新書、2007 年)

第一部「ロシアの日本人銃撃殺害事件」第二部「靖国問題ふたたび」からなる。2006 年夏、根室沖で日本人漁師がロシアの国境警備艇の銃撃で殺された。いわゆる北方領土問題である。靖国神社を首相や天皇が公式参拝できない靖国問題とともに、「戦後の二大未処理問題」として扱い、持論を展開している。

（遊就館とアリゾナ記念館の解説を比較。さらにソ連とアメリカの戦争中の残虐行為を紹介。戦争裁判が済んでいるのに加害者日本をことさら印象づける左翼マスコミと「お詫び」を繰り返す政治家のせいで、庶民は愛国心を持てなくなった。教育基本法改正も愚劣極まる。）

45) ときめき老後術——ひとり暮らしの骨董さんまい

(海竜社、2007 年)

昔から陶磁器が好きだった上坂は、骨董集めが趣味となった。深夜にコレクションの古い皿や小鉢を眺めるのが何よりの癒しだった。素人ながら、骨董の老舗専門誌『目の眼』（里文出版）の依頼を受け、お気に入りの品（萩焼、九谷焼、京焼、伊万里焼、豊楽焼などのカラー写真）を紹介する連載エッセイを書いた。それをまとめたのが本書である。母親に「欲しいものがあるなら無理してでも買っておきなさい」(93)と励まされ、「人生も、骨董も、チャンスは一度逃したら簡単には戻らないものだ」(33)という考えで買い集めた骨董品はなるほど写真でその魅力が感じとれる。

（著者の特徴をユーモラスにとらえた似顔絵イラストも見て楽しいが「惜しむらくは挿絵が少々気に食わない」(210)と本人はケチをつけている。もっと美しく描いてもらいたかったのだろう。)

46) これでいいのか日本 戦後 60 年の失敗

(大和書房、2007 年)

宣伝帯には「緊急出版!! どうなる日本! 混迷脱出のためのヒント!」と記されている。保守系雑誌『正論』初出の原稿を下敷きにした本書は、平和憲法を戴くわが国の衰退ぶりについて「自由主義国家として一見鷹揚に構えつつ、実は進路もリーダーシップも失って萎えていく国家に、私は困惑するのみだ」(184)と嘆いている。露骨な反日政策で国を束ねる近隣諸国については「私は

他国をみだりに擲擧すまい」(183)と自制しつつも、「国家のために犠牲になった人々を祀った靖国神社」に首相が参拝できない現状や「近隣諸国との友好の邪魔になるようなら、事実であっても手加減して教えるべし」といった追従やへつらいによって「国家として私たちがすんなり誇りを持てるような輪郭」(204-05)をどんどん失っていく日本に危機感を抱いている。

(晩年の上坂の日本の将来を憂う気持ちがよく表われている。いまなお傾聴に値する指摘だ。)

47) 対論・異色昭和史 (PHP 新書、2009 年)

雑誌『思想の科学』で上坂冬子をデビューさせた創刊メンバーの一人で名づけ親の一人でもあった鶴見俊輔(戦前、ハーバード大学で学び、戦後、京都大学に招かれた哲学者)と対談。戦時下の思い出や戦後の苦労などを親しく語り合う。上坂は大学者を相手に堂々と互角に議論。戦争に反対できなかった「親父」をあげつらうのをなだめ、憲法九条の理想を語りだすと「神学の話じゃなくて、憲法の話ですよ。憲法は現実的な規範として扱われなきゃ意味ないじゃないですか」と釘を刺している。それでも九条信者丸出しの鶴見は「九条ってのはマナーなんだよ」と説教をつづけ、上坂はこう応じる。「日本は負けた上、マナーを要求されたんじゃない帳尻が合わない。レスラーたちは自分の力があるからじっとしていられるんでしょう。マナーは強い力を持った場合にのみ成立するものです。軍隊を持たない変形の国家がどうしてマナーを主張できますか」(110-11)。

(学問があっても純粹培養の学者の話は戯言に聞こえてしまう。三島由紀夫の自決についても、上坂は残された息子に同情し「ああいう死に方は世俗的に言うと無責任ね」(196)と世間の常識に根ざした感想を述べる。これがノンフィクションを扱う上坂の長所なのだ。)

48) 上坂冬子の老いの一喝 (産経新聞出版、2009 年)

『産経新聞』4 月 20 日掲載の遺稿「枝葉末節な禁煙の理由」を巻頭に掲げる。世間の過度の嫌煙にあきれ、吸い過ぎでガンになるのも個人の問題とし、肩身の狭い喫煙者に同情している。本書所収の他のエッセイでも、過度のセクハラ騒ぎとエコロジー万能主義にうんざりしていることを表明。45 歳の中国人映画監督が撮った『靖国』の反対騒ぎにもうんざりして、公開を楽しみにしていると書いた。「ガンの虚実を見定めん」では3年前にとったガンが転移したことを告白。ガダルカナル島慰霊の旅のあと予定どおりパリに行ったが、具合が悪くなり、成田空港から救急搬送され入院した。「“主婦の味”に生き返る」では、3年前の手術が卵巣ガンで子宮もすべて一掃したことを明かし、友人のベテラン主婦が

炊いてくれたご飯とみそ汁を病室でおいしく食べたことを写真入りで報告している。

(広告帯で親友の曾野綾子が「上坂冬子」という名前を聞いただけで皆が笑顔を禁じえないような魅力的な生涯でもあった」と述べている。そのとおりだろう。)

49) 日本人よ、もっと悪人になりなさい

(ワック文庫、2009 年)

漫画家の小林よしのり(1953-)との対談本。「政治家も民主教育を受けた世代になっていますからねえ。だから上坂さんのような人たちに繰り返し繰り返し書いてほしいんですよね。ホントの話を語り継いでもらわないと、かなりヤバイ時期にきています」(164)と現代の感覚で正義を振りかざしながら日本の過去を断罪する風潮に、小林は危機感を募らせていた。しかし上坂はこう答える。「でも公平にみて昭和ヒトケタの出番は限界ですね。老兵としては片隅で目をヒカらせてはいますけど、青年よ屍を越えて行けという心境です」(205)。結局、気鋭の女性作家も癌に倒れてしまった。小林よしのりは本書の序文「上坂冬子さん追悼の記」で、「亡くなる直前まで、人から注目されるような仕事をされていたことは、本当に幸せなことだと思います」(7)と賛辞を贈っている。

(上坂は小林よしのりの『いわゆる A 級戦犯』(2006)が「生まれてはじめて読んだマンガ」(128)だったと明かしている。上坂はよく勉強している小林と意気投合して、彼に後を託したようだ。)

50) 死ぬという大仕事 (小学館文庫、2012 年)

2009 年 4 月 14 日、午前 9 時 50 分、穏やかな最期を遂げた上坂冬子の最後の本。オピニオン誌『SAPIO』が全面協力し、上坂と担当医師(猿田先生と井上先生)の対談がメインとなる。2005 年に卵巣がんが見つかり、卵巣と子宮を切除して5年間何もなければ完治と言われていたが、3年で再発転移していた。「病気を診ずして病人を診よ」が建学の精神である慈恵医大病院に入院。抗がん剤の副作用で水も飲めなかったのが緩和ケアに切り替えて、フランス料理のランチをおいしく食べられるようになった。上坂は肝が据わっており、精神科のケアは不要で、宗教はお断りだった。家も売って延命治療は望まなかった。井上医師は「気持ちいいですよ」(142)と楽に死ぬことを約束し、そのとおりになったらしい。(日本人の2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで死ぬ。上坂は3か月で退院させられるがん難民の問題を重視し、大学病院が最後まで責任を持つ医療を望んだ。しかし、それでは採算がとれないばかりか、医師のケアまで必要となる難問であることが第4章で明かされる。しかし、上坂の理想は、国民全員が望む医療だろう。)

Nonfiction Writer, Fuyuko KAMISAKA's 50 Books: War Atonement Was Made through the Execution of Ex-Soldiers

Koichi YOKOYAMA

Fuyuko KAMISAKA (1930-2009) was born the year before the Manchurian Incident and experienced Japan's defeat at the age of 15, so she was well aware of both the excitement and the misery of the Sino-Japanese War and the Pacific War. After graduating from high school, she joined the human resources department of Toyota Motor Corporation in her hometown, where she observed labor union activities firsthand and wrote *Portraits of My Workplace*, making her debut as a writer. Initially, she wrote many books targeting unmarried female office workers, but in 1975, the International Women's Year, she could no longer keep up with Japan's radical women's liberation movement, which she believed was destroying traditional Japanese culture and family values. She then shifted her focus to non-fiction, interviewing those involved in the war to uncover its hidden stories.

Ms. KAMISAKA traveled not only in Japan but also in the United States, Australia, Russia, South Korea, China, Indonesia, and other countries around the world, interviewing many people and writing many books. Among them, she shed light on historical figures of interest to readers, such as Iva TOGURI, known as "Tokyo Rose," who conducted propaganda broadcasts targeting American soldiers during the Pacific War; Yoshiko KAWASHIMA, known as "the Mata Hari of the East," who was a princess of the Qing Dynasty and became a spy for the Japanese army; and Wang Jingwei, who worked tirelessly for peace with Japan as the head of the Nationalist Government in Nanjing. Additionally, she conducted numerous interviews with Haru Reischauer, the Japanese wife of Edwin Reischauer, who served as U.S. Ambassador to Japan under the Kennedy administration in the 1960s, and with Lee Teng-hui, the former Japanese-born president of Taiwan who democratized the island, crafting vivid biographies of these figures.

Fuyuko KAMISAKA was a renowned nonfiction writer who could converse on equal terms not only with the president of Toyota Motor Corporation but also with Japanese prime ministers such as OHIRA, NAKASONE, and OBUCHI. However, she did not only interview famous people. She also met with and listened to many unknown individuals who had endured hardships during and after World War II. These included former Japanese soldiers who contributed to Indonesia's independence, Japanese women who had married Koreans and were then living out their retirement in the Japanese-only nursing home in South Korea, and Japanese people who had survived the atomic bombing of Hiroshima but were still battling the fear of atomic bomb-related illnesses in places like Amami Oshima Island or the United States (Seattle, Hawaii, Los Angeles, etc.).

This article is an attempt to introduce 50 books by Fuyuko KAMISAKA, who longed for marriage but remained single, created these books as "her own children." While all of her books are noteworthy, the most outstanding are the three volumes she wrote after interviewing the families of Class B and C war criminals who were executed by hanging at Sugamo Prison after being separated from their loved ones following the end of the devastating war: *Sugamo Prison Gate 13* (1981), *The Wives Left Behind* (1983), and *The Atonement Is Complete* (1995). After seven years of occupation by Allied forces, Japan signed the San Francisco Peace Treaty and regained its independence as a peaceful nation. As a foundation for this, over 1,000 former soldiers were ruthlessly put to death, not to mention the well-known execution of the 7 Class-A war criminals, including General Hideki TOJO, who was the prime minister at the outbreak of the Pacific War. By the 50th anniversary of the war's end, even the Japanese had forgotten this fact. The atonement for the war was completed through their sacrifices. All Japanese people deeply felt the tragedy and folly of war and vowed never to wage war again. Fuyuko KAMISAKA wanted this fact to be known not only to the Japanese but to people around the world.

映画脚本『マキオのひとり旅』を読む ——生源寺美子の小説との比較——

横山 孝一*

(2025年11月28日受理)

はじめに

東映教育映像部は2024年に創部70周年を迎え、いまなお良質の道德教材を制作しつづけている。『東映教育映像カタログ 2024－2025』では、長い伝統を受け継ぎ、「上映時間が短い教材でも魂を込めることは可能です。これからも私たちは、記憶に刻まれる教材づくりをめざし、映像の力で社会に貢献していきます」と誓っている。「記憶に刻まれる教材づくり」という理念は、たしかにみごとに実践されていたと思う。

1970年代、東映教育映像部がわが国の小学生向けに制作した児童劇映画は、全国の小学校で上映されていた。なかでも『マキオのひとり旅』(1973)は忘れがたい秀作だ。筆者は四年生のとき体育館で見たことをはっきりと覚えている。内気な同年齢のマキオが東京のおばさんの家に遊びに行くことに決め、名古屋からひとりで新幹線に乗るが、迎えがなく、自力で家を探して訪ねていく。ところが、おばさんは赤ちゃんの急病で留守。生意気な5歳のいとこ・チアキと留守番をするはめになる。怪獣映画やロボットアニメのようなアクション場面は皆無なのに、四年生全員がスクリーンに見入り、日常の生活で自分の身にも起こりえるささやかな冒険に魅了された。上映後「おもしろかった」と話題になり、主役の井上泰に共感が寄せられた。ファンになった女子も多く、嫉妬したリーダー格の男子が「おれのほうがイイ男だろうが」と悔しがらるほどだった。後日、クラスメートが原作本を見つけてきた。金の星社から出ていた生源寺美子の同名小説だった。

筆者もまちの産業祭のバザーでたまたま古本を見つけ買ってもらい、以後、生源寺美子の『マキオのひとり旅』は愛読書になった。児童文学の最高傑作として読むたびに深い感銘を受けている。2015年に生源寺さんが101歳で亡くなったとき、意外なほど扱いが小さかったので、本誌(2016)に「生源寺美子の児童文学——作品案内」を寄稿した。デビュー作『草の芽は青い』(1966)から『はるのてがみはなにいろ?』(2002)まで72冊読んだ

が、やはり『マキオのひとり旅』がずば抜けてすぐれた傑作だった。この本を読むきっかけとなった教育映画はソフト化もされず、文字どおり幻と化した。ネット上の情報も少なく、もう一度見てみたいと思っていたところ、拙文を読んできた漠の家(三鷹台にあった子供の本の古本屋)店主八重嶋さんから連絡があった。生源寺美子の蔵書が入荷したので見てほしいとのことだった。

小さな店内に積み重ねられた段ボール箱の中に、期待した生原稿や同人誌はなかったが、ウィキペディアに「翻訳」として紹介してある『はえろミッキー』『はばたけゲイネック』と、「児童映画(16ミリカラー35分)マキオのひとり旅 東映株式会社」と書かれた、黄色い表紙の映画脚本を入手することができた。

国際武道大学でフランス語を教え、ソニア・ドローネの絵画をわが国に初めて紹介したという八重嶋佳枝さんのご厚意にこたえ、ここに脚本の全貌を原作小説と比較しながら紹介する。子供時代に映画を見た人たち、本を読んだ人たちに喜んでもらえれば幸いである。

映画脚本

すべて手書きで、誤字脱字も散見されるが、そのまま示す。最初のページは緑の紙に「企画意図」が記されている。生源寺美子の原作の要約であるとともに、企画者が的確に読みとった本のテーマが明示されている。

企画意図

小学校四年生の主人公マキオ君が春休みにひとり旅をしてやってきた東京のおばさんの家。そこで、とんだハプニングから姪の五才の女の子と数日間をすごすこととなります。迷惑至極なその数日間の体験を経る中で、ふだんお母さんから「ひっこみ思案で頼りない子」とみられていたマキオ君は、次第に生命あるものへのいつくしみ・自立心・年下の子への心づかい・責任感・大人の世界への理解などが、心の中に芽生えてゆきます。その結果「人の役にたつ

ってうれしいことだ」と言う充実した幸福感を感じとれる少年に成長してゆきます。全国の同年代の少年少女諸君に、たまには自分自身を試みてほしいと言う気持で企画しました。

教育映像部らしい教育者の視点で「道徳」に役立つ要素を発見している。生源寺美子も同じ思いだったろう。次のページには以下のデータが載る。

企画 中村稔
原作 生源寺美子 金の星社版「マキオのひとり旅」より
脚本 酒井修 大西竹二郎
監督 大西竹二郎
撮影 大山年治

中心となるのは監督の大西竹二郎だ。「駿河台座談インタビュー」によると、1931 年埼玉県生まれ、明治大学文学部仏文科卒。東映の教育映像部で 43 年間に 200 本以上の短編映画を撮った人である。

それでは、映画を見ていくことにしよう。原作の最初の文章は「名古屋から東京までは、新幹線ではたったの二時間」（フォア文庫、7 頁）だが、新幹線は映画の中で効果的に使われている。新幹線は当時子供のあこがれの乗り物で、それにひとりで乗るのだ。カッコいい乗り物は絵になり、映画の題名もうまく入る。「でも、新幹線にはじめてののというのに、マキオはちっとも、たのしくありませんでした」（8）もうまく映像化されている。

- 1 名古屋城の情景
- 2 名古屋駅付近 俯瞰
新幹線が走っていく。
題名タイトル
『マキオのひとり旅』
- 3 走る新幹線（内）
マキオ（9 才）が不安そうに坐っている。
（心の声）「……もし、おばさんが迎えにきていなかったらどうしよう……」
走る車窓。
（心の声）「その時は、手帳にかいてくれた通りに行けば大丈夫かなあ……」
とまた手帳を開いてみる。
- 4 海岸線を走る新幹線
スタッフタイトルが出る。
- 5 東京大俯瞰（20 倍ズームレンズ）
新幹線が走って行く。
- 6 東京駅、ホーム

ひかり号が着く。
列車から降りるマキオ……キョロキョロと探す。
マキオ、心細そうにホームにとりのこされる。
ボストンバッグをかかえてしゃがみこんでいる。
泣き出したいのをこらえている。
手帳をとり出す。
キャストタイトルが流れる。

- 7 構内の公衆電話
呼び出し音が鳴るが、だれも出ない。マキオ、ますます、かなしくなる。
- 8 国電の走り
- 9 新宿駅 ホーム
マキオ「……新宿でのりかえて……京王線、京王線……」
- 10 京王線の走り
企画、演出タイトル
- 11 ××駅
マキオ、改札口を出て、手帳を見ながらキョロキョロする。

原作小説では「列車が東京駅にすべりこむと、えみ子おばさんが、すぐかけよってきてくれました」（10）と、駅に迎えが来ているのに、映画では、いるべきおばさんがいない。マキオは自力で、おばさんの家を探すはめになる。小説では 4 月に三年生になる設定だったが、映画では 9 歳に年を上げ、より行動的な少年に変更している。名古屋の家の様子も小説とはだいぶ違う。

- 12 郊外の道
マキオ、疲れた表情で歩いて行く。
道のわきに坐りこんでしまう。
心細くなるマキオ、名古屋の両親のことを思う。
- 13 名古屋のマキオの家
八百屋、いそがしく働く両親
マキオ「せっかくの春休みだろ、どうしても東京のおばさんとかへ遊びにゆくよ！」
（父）耕一「マキオのような弱虫がひとりで行ける訳がないだろ。」
マキオ「いけるさ！ ぜったい行くよ！」
（母）春子「おばさんに迷惑かけるだけよ。家にいるのが一番いいの。」
マキオ「うちにいたってつまんないや！ どこにもつれてってこないじゃないか!!」

いつもいそがしいいそがしいって!!」
耕一「マキオ! おとうさんたちは仕事してるんだぞ!!」

春子「あなた……（とおさえて）マキオ……本
当にひとりで東京へ行けるかい？」

マキオ「うん!」と首をたてにふる。

14 郊外の道

マキオ、立ち上って歩き出す。

15 交番前

お巡りさん、マキオに方向を教える。

16 小住宅街の道

同じような住宅が丘の上に並んでいる。

マキオ、来る。

一軒の家の前で表札をたしかめる。

マキオ「あった。これだ!」

うれしくなって玄関のベルを押す。

返事がない。又、押す。静かだ。

映画のマキオは、自分から東京行きを希望したのだ。
本では母親が慢性の盲腸炎の手術を受けるため、東京の
おばさんにめんどろを見てもらいに行くのだから大違い
だ。映画では実家は八百屋に変えられ、母は元気に働い
ている。おばさんに連れられて家に着き、玄関でにらみ
合う原作本でのチアキとの出会いも、当然違っている。

マキオ「どっかで、すれ違っちゃったのかなあ」

その時、マキオの頬になにかが当たる。

お面が木の陰にかくれる。

見まわすマキオ、玄関の方に進むように見
せかけて、急に振りむく。

鉄砲を向けている背の高いお面とバッタリ。
男の子のよう。

チアキ「おまえは、だれだ!!」

マキオ「ぼ……ぼく、名古屋のマキオです。」

チアキ「うそでしょう! しょうこは?!」

マキオ「えッ?!……」

チアキ、ポンととびおると小さな子、家
の中にかけこむ。

マキオ、ついて、玄関に入る。

17 家の中

マキオ「きみ、チアキちゃんだろ？」

チアキ「入っちゃあ、だめ!（と鉄砲をかまえ
る）」

マキオ、思わず、ボストンをおとして両手
をあげる。

電話のベルが鳴る。

チアキ、飛んでゆく。お面をあげて、

チアキ「はい、はい、〇〇です。ア、おかあち
やま、うん、きたわよ。変なお兄ちゃ
ん! 大きい兄ちゃんだって言ったの
に、小っちゃい兄ちゃんじゃない。う
ん、かわる。（と受話器をつき出す）」

マキオ、あわてて上りこみ、

マキオ「ぼ、ぼく、マキオです。」

18 病院の電話口

叔母のえみ子が青い顔で話している。

えみ子「ごめんなさいね。むかえに出掛けようと
したら、ヒサオが急に病気になってし
まって……、いま病院にいるの。駅に
呼び出しのアナウンス頼んだんだけど
連絡とれなかったようね。」

19 家の電話口

マキオ「ええ……」

チアキが鉄砲を撃ちまくる。

えみ子の声「あなたがくるからって、チアキにお
留守番させておいたのだけど、おと
なくしてる？」

玉がとんでくる。

マキオ「（よけながら）ええ……」

20 病院の電話口

えみ子「それでね、来た早々、悪いんだけど、ヒ
サオの病気は腸へいそくって言って、
手術しなければならぬかも知れない
の、それで、今夜、どうしても帰れそ
うにないのよ。」

21 家の電話口

マキオ「え?!」

えみ子の声「叔父さんも出張で留守だし……」

マキオ「じゃあ、二人だけでお留守番するの？」

22 病院の電話口

えみ子「できるかしら?……名古屋に電話して、
父さんかだれかに飛んできてもらいま
しょうか？」

23 家の電話口

マキオ「う……ううん!（と首を横に振る）大丈
夫だよ。電話なんかしないで。」

えみ子の声「そう? そうね、マキオ君、もう四
年生のお兄さんですものね。大丈夫
だよ。」

マキオ「はい、そりゃあ、大丈夫です。」

えみ子の声「おとなりのおばさんには電話でよく
たのんでおくけど、戸閉りをお願い
ね。それから、ガスはあぶないから
つけないでね。」

24 病院の電話口

えみ子「それから、晩ご飯はおすしでもとって、
チアキが電話番号知っているから、…
…もし言うことを聞かなかったらうん
と叱っていいのよ……もしもしきこえ
ている？」

25 家の電話口

マキオ「はい、はい……じゃあ……（と受話器を
おき）変なことになってしまったなあ
……」
と座りこんでしまう。
そこへ、また、玉が的中する。
マキオ「コラッ!! 言うことをきかなかったらし
かってもいいんだぞ!!」
チアキ、キョトンとして、ワア!!と泣き出
す。
マキオ「（一人言）……こんなことになるんだっ
たら名古屋にいた方がよかったかなあ
……」
マキオ、なさけなくなってベソをかき始め
る。
チアキ、泣くのを忘れて、不思議そうにマ
キオの顔をのぞきこむ。

原作本では打ち解けるきっかけを求めてにらみ合う
心理描写がおもしろいが、映画のほうは絵で見せようと
アクションを重視している。お面をかぶって鉄砲のおも
ちゃを撃ってくるチアキの登場はなかなか強烈で、見る
者を引きつけ、男まさりの幼稚園女兒の存在感を印象づ
ける。にらみ合いの末にあいさつを交わし、打ち解けた
ときに赤ちゃんが病気になって救急車で運ばれる原作本
の展開は読む者を引きつけるが、35 分の映画ではすで
に入院している設定だ。東京駅に迎えに来なかった謎の
答えを電話で明かし、手ごわそうなチアキと会ってすぐ、
一緒に留守番するという「試練」に直面するのだ。

26 家の中（夕または夜）

タンスの上に飾ってある一家の写真。
マキオ、のぞきこむ。
母親に抱かれているヒサオ。
マキオ、出てくるときの母親の言葉を思い
出す。

27 名古屋のマキオの家

春子、ボストンに着換えをつめながら、
春子「ヒサオちゃんは、それは可愛い赤ちゃんだ
よ。だから、お姉さんのチアキちゃんもミ
ルクをあげたりして、とっても可愛がって

いるんですって。マキオもこんどいったら、
うんとかわいがっておあげ……」

マキオ「（仕度しながら）うん！」

28 家の窓辺（夕から夜）

マキオ、沈んでいる。
チアキ、やってきて、無邪気に言う。
チアキ「ヒサオ、きっと死んじゃうね。」
マキオ「バ、バカな事いうなよ。」
チアキ「だって、さっき電話でそういったんでは
よ？」
マキオ「……」
チアキ「にんげんはね、死んだらお空に飛んでく
のよ。お空って天国よ。天国ってとっ
てもいいとこなんだって。」
マキオ「天国なんてないんだよ。」
チアキ「あるもん！ ヒサオのはねがはえて、お
空にふわって飛んでいくの。こうやっ
て、フワア、フワア……て。」

29 イメージのカットイン

ベッドのヒサオ、点滴をうけている。
マキオ、たまらなく可哀そうになる。
マキオ「やめろ！ ヒサオちゃんがお空にとんで
いったらもうここへはかえってこれれ
ないんだよ！ ミルクをのませてあげ
られないんだぞ!! チアキのバカ!!」
チアキ「（驚いて）ヤダッ！ ヒサオがいなくな
っちゃ……」
マキオ「じゃあ、お空にとんでく話なんかやめろ
よ。」
チアキ「（しゃくり上げて）うん。」
と、しょんぼりする。
マキオ可哀そうになる。
マキオ「よし、そんならおいのりしよう。」
チアキ「おいのりって？」
マキオ「ヒサオちゃんがお空にとんでいかないよ
うにおいのりするのさ。」
チアキ「おいのりしたらきつとなおるの？」
マキオ「ああ、きっとヒサオちゃん元気になる
よ。」
窓外の空に星が光りはじめる。（特撮）
マキオ「あのお星さんにお問い合わせ。（手をあ
わせて）ヒサオちゃんがよくなりますよ
うに、早くこの家に帰ってきますよ
うに。」
チアキも真似て、
チアキ「ヒサオちゃんがお空にとんでゆきません
ように。」

チアキ、片目をあけて、マキオをみて、また目をつぶる。
星が夜空にまたたいている（特撮）

30 家の中（夜）
おすしの食べ終わったうつわが二ツ。
蒲団がひいてある。
マキオ、自分だけサッサとパジャマに着替えている。
マキオ「さあ、はやくねてしまおうよ。」
時計七時前。
チアキ「（つまんなそうに）いつもはまだテレビを見ているよ。」
マキオ「今夜はとくべつだよ。」
と蒲団にもぐりこみ、頭からすっぽりかぶる。
チアキ「こわいの？」
マキオ「（首を出して）バカ、さきにねちやうぞ！」
チアキ「大丈夫よ、あたしがついてれば！ ドロボーがきてても、これがあるもん。」
と鉄砲をかまえて撃ってみせる。
電話のベルが鳴る。
二人、顔を見あわせる。
チアキ、電話を受けて、
チアキ「ハイ、水野です。ええ、わたしチアキですけれど？ どうしてわかるの？……お兄ちゃん？ 蒲団にかくれてますよ。」
マキオ「（あわててはい出し、受話器を横どり）もしもし……どなたですか？ アッ！ おかあさん?! あーよかった……」

31 名古屋のマキオの家（夜）
電話口、耕一も聞き耳を立てている。
春子「なにかあったの?! ア、もう里心がついたのね。だから、ひとり旅は無理だっていったでしょ。」

32 家の中
マキオ「ち、ちがうよ！ 大丈夫だよ、ちゃんとこうして無事についたじゃないか!! おばさん？ ちょっと用があつて……いまいないけど……帰ってきたら、かあさんから電話があつたことつたえておくよ。チアキちゃんがまってるから、じゃあね！」
と電話を一方的に切る。

33 名古屋のマキオの家（夜）
春子「（受話器を置きながら首をひねり）マキオ、

なんだか様子が変わね。」
耕一「初めて他の家に行つてとまるのだからこうふんしているのだろう。」
春子「そうね……だけど、あの子、うちではなにひとつできないのに……大丈夫かしら……」
耕一「まあ、無事に東京に到着したことはたしかなんだから、まずは一安心さ、なにかあれば向うから電話をかけてくるだろう。」
春子「そうね。」

34 春雷。風をともなつて樹木が怪物のようにゆれる。

35 家の中（夜）
雨戸が、カーテンがゆれる。
蒲団の中のマキオとチアキ、マキオ、眼玉だけ出して、
薄暗がりの中を見まわす。
壁掛けのお面が稲光りする。
天井から釣るしてあるヒサオのオルゴールが風にゆれると突然まわり始める。
置物の人形が……
玩具の怪獣が……動き出す。
マキオ、あわてて蒲団をかぶる。
チアキ「お兄ちゃん、二階のアマドのカギしめたかしら？ お兄ちゃんてば！（とゆする）」
マキオ「うるさいなあ……（不安になり）しょうがないや。」
と起き出し、電気をつけて、暗い階段へのぼって行く。

36 二階の部屋
パチンと電気がついて、マキオが、雨戸をたしかめる。
閉っている。
ホッとなった時、激しい雷の音。電気がパワーッキえる。
マキオ、恐怖の表情。
階下からチアキの悲鳴。
チアキの声「お、おにいちゃまあ！」
マキオ「どうした?! ま、まってくれよ！ どうなっちゃったんだ、これは……」
手さぐりで、はいまわる。
チアキの声「おにいちゃま、たすけて！」
マキオ、やっと階段を見つめる。

37 階下
マキオがお尻からつたわっておりてくる。
何かにぶつかる。
マキオ「ヒヤァ！」
白い物が闇の中にゆれる。

マキオ、口があわない。
 パツと電気がつく。
 毛布の中からチアキがはいだす。
 マキオ、フーと息が抜ける。

チアキ「だれかがチアキをよんだの、雷様かしら？ きみがわるいからおふとんのなかにもぐったら、でられないんですもん。」

マキオ「雷様がよぶわけないだろ。」
 チアキ「だって、こえがしたんですもの。」
 マキオ「きみの悪いこというなよ。トイレに行けなくなっちゃった。」
 チアキ「（窓又は縁側をさして）そこでしちゃいなさいよ。」

マキオ「……ないしょだよ。」
 鍵を外し、戸を開けると、髪の毛がモジャモジャの女のひととバツタリ顔があう。

マキオ「ギャア!!」
 と棒立ちになる。
 チアキ「おとなりのおばちゃん！」
 おばさん「この子が名古屋のお兄ちゃんだね。おかあさんから電話があったので様子をみにきたんだよ。」
 マキオ、ヘナヘナとなる。

ヒサオのために二人でお祈りする場面は特撮入りで、マキオがお兄ちゃんぶりを発揮して感動的だが、原作本を読んで初めてその深い意味がわかる。死が何かわからないチアキと違い、マキオは死を意識し始める。映画で省かれた「子ネコと花びら」の章で、家の二階の窓から子ネコの死骸を見つけたチアキは天国に飛んでいく瞬間を見ようと待っている。マキオは動揺し、ソビエトの月宇宙船ソユーズ十一号で地球に戻った三人の宇宙飛行士が操縦かんを握って死んでいたニュースをふと思いだす。映画では、ヒサオが吐く場面もなく、母親の手術を心配することもないので、死の重いテーマはあまり感じられない。その代わり、原作より怖がりのマキオをおもしろおかしく描いた。親元から離れて、知らない家で過ごす夜の怖さは映画ならではだ。わざわざ追加しただけあり、小学校の体育館で大いに盛り上がったことが記憶に刻まれている。

朝、チアキがいなくて慌てる場面は原作どおりだ。

38 家の表

雨戸に朝の日射しが強い。

39 家の中

マキオ、目をこすってめざめる。

チアキの蒲団は静かだ。
 マキオ「チアキちゃん！」
 返事がない。
 家の中をさがす。
 台所のテーブル上にパンとバターの食べたあと。
 大きな紙に大きな字の手紙。
 《おみまい いきます。 チアキ》
 マキオ、部屋の雨戸を開ける
 太陽が一杯入ってくる。
 壁のお面もお人形もそのままだ。
 マキオ、空気を胸一杯にすう。
 心の声「……さてよ、チアキちゃん、一人で病院に行けるのかなあ……知らなきゃあ、一人でいくわけないな、あんな小っちゃな子が……。」

40 通り

チアキが通る車に手をあげている。が、とまらない。
 チアキ「へんなの。みんな、へんなタクシー。とまれ！ ストップ、おかねは、おかあさんがもってますよ！」
 後ろでどこかのおじさんが見ている。
 男の人「あれはタクシーと違うんだ。どこ、いくの？」
 チアキ「しりつ病院。ヒサオちゃんが入院してるの。」
 男の人「じゃ、おじさんもどうせ通るところだけどね。」
 チアキ「ワァ、つれてって！ でも、おじさん、わるい人？ いい人？」
 男の人、わらいだす。
 男の人「心配だったらやめなさい。」
 行きかかる。チアキ、あわてて追う。
 チアキ「だってさ、ママがさ、知らない人とお話したり、つれてってもらったらいけないって言ったんだもん。」
 ぶつぶつ言いながら男の人を追う。

41 家近くの坂道

服に着換えたマキオがキョロキョロしながらくる。
 マキオ「……病院のおばさんに電話してみようかなあ……でも、行ってなかったら心配かけちゃうしな……。」
 マキオ、不安になって、走り出す。

42 別の道

マキオ、走ってくる。

勿論、チアキの姿はない。
マキオ「……こまったなあ……チアキのバカ……」

43 表通り
マキオ、さがしながらくる。
マキオ「もう怒った、チアキなんか知るもんか!!」
ひきかえそうとする。
その脳裏に――

44 イメージ（葦の中、又は林の中）
チアキが悪漢（例の男の人）に抱きかかえられ、悲鳴をあげながら、連れ去られる。

45 もとの道
マキオ「……おばさん、悲しむだろうなあ……」
しょんぼりしたマキオの前に母の顔が浮ぶ。

46 イメージカット
春子「なさない子ねえ、チアキの面倒ひとつみられないの!!」

47 もとの道
マキオ「だって、勝手に迷児になっちゃうんだもん!」
プイ!と横を向くと、お巡りさんが立っている。
お巡りさん「やあ、君は、昨日の坊やだね!」
なんだ、また迷児になったのかい?」
マキオ「ううん! ぼくじゃあないんだ。しんせきの小さい女の子なんだよ。もしかしたら、ゆうかいかも……」
お巡りさん「ゆうかい?!」

48 家近くの坂道
マキオは走り、お巡りさんは自転車をこぐ!

49 家の前
マキオ、いきせき切ってくる。
チアキ、玄関前にツクネンと座っている。
マキオ「ア!! あれ?」
チアキ「どこにいったの! チアキ、ズーッとまっていたのよ。」
マキオ「チアキこそ、どこにいったんだよ!」
チアキ、首をすくめ、チロと舌を出す。
お巡りさん「ゆうかいされたっての、この子かい?」
マキオ「えっ……うん……そうなんだけど……」
お巡りさん「（笑って）君、だれか、他処のおじさんが連れていこうとしたの?」
チアキ「ううん! あたし、そんなことしないもん、知らないひとについてっちゃあいけないっていわれてるもん。」

お巡りさん「偉い、偉い! （マキオに）この子の方が君よりよっぽどしっかりしているようだなあ。」

マキオ「……（くさる）」
お巡りさん「でも、ま、よかった。（チアキに）赤ちゃんが入院してるんだってね、心配だね、ときどき見廻りにきてあげるから、頑張るんだよ。（マキオに）君は、また迷子にならないようにな!（マキオの頭に手をおいて去って行く）」

チアキ「おにいちゃん、迷子になっちゃったの?」
マキオ「ち、違いわい。チアキこそ病院どうしたんだよ! 人に心配させて!」
チアキ「……だって……だって、あいたかったんですもん……ママとヒサオに……」
しゃくりあげる。
マキオ、かわいそうになる。

50 家の中
蒲団がひいたまま、
マキオ「……うちにいればこんなことしなくてもすんだのに……」
たたみにかかる。
押し入れに入れようとして、よろけて、蒲団におしつぶされる。
チアキ、ケラ!ケラ!笑う。
マキオ「（首を出し）チアキのお陰でまだ朝ご飯を食べていないから力が入らないんだぞ。」
玄関のチャイムが鳴る。
二人、顔を見合わせる。
チアキ「おとなりのおばちゃんかな?」
マキオ「……（肩をすぼめてふるえる）」
チアキ「アッ! パパが帰ってきてくれたのだ!!」
飛びだしてゆく。

チアキの面倒を見る責任を負ったマキオが混乱するのも当然だ。見知らぬ土地で、いなくなったチアキを見つけねばならない。しかも、そのチアキは無邪気にも、知らないおじさんについてしまうのだ。ハラハラする場面だった（「ついていっちゃだめ!」と思った）。原作小説では丸正さんの店員が危ういところを見つけて、チアキをオート三輪車で店に連れて帰るが、映画ではお巡りさんが登場して、再会は店ではなく家に変更されている。知らない男の人に結局ついて行かなかったチアキはほめられ、教育映画的な教訓が込められていたようだ。

こうして物語は、原作と映画共通のもっとも忘れがたい人物の登場となる。小学生当時ははっきり理解できなかったが、社会で苦労しているオールドミスと障害者を初めて身近に感じる経験だった。

51 玄関

“おかえりなさい！” 開けたチアキ、びっくり。黒いスカーフで頭からあごまで、スッポリ覆い、長いスカートをひきずるようにはいたおばさんが立っている。チアキの見つめる目。

魔法使いとおばさんの顔がフラッシュカットする。

おばさん、ペラペラといきなり話す。

おばさん「大変、おそくなりまして。私は、立花家政婦会から参りました菅谷ひろみと申します。おかあさまのご連絡でお手伝いにあがりましてございます」

チアキ、目をまん丸にしてうなづく。

マキオもおどろいている。

ひろみ「あの……あがらしていただいてよろしいですか？」

二人、顔を見合わせる。

ひろみ「よろしゅうございますね。ホホホ……わたくし、じつは耳が遠いんでございます。ですからなるべく大きな声で、はっきりとおっしゃってくださいませね。」

さっさと上ってゆく。

二人、思わず身を寄せ合う。

そこへ、電話のベル。

チアキ「（受話器をとり）はい、あつ、おかあちゃん！ いまね、魔法使いのような……」

マキオ「（受話器を横取り）マキオです！ ええ……家政婦？……ええ、きました。」

52 病院の電話

おばさん「連絡するのがおくれてごめんなさいね、安心していいのよ、家のことは、いっさい、その家政婦さんにまかせていいのですからね。」

53 家の電話

マキオ「はい……ヒサオちゃんのぐあい、どうですか？」

54 病院の電話

おばさん「ええ……いま様子をみている状態なんだけどね……でもお医者さんがつ

いているんだから大丈夫よ。」

55 家の電話

チアキ「（口を寄せて）チアキ、おにいちゃんといっしょに、はやくママとヒサオちゃんが帰れますようにってお星様においのりしたのよ。」

56 病院の電話

おばさん、思わず眼頭をおさえて、おばさん「チアキちゃん……ありがとうね……家政婦さんにかわってくれる。」

57 家の中 電話口

マキオ「あの……おばさん……おばさん。」

ひろみ、エプロンをかけようとしている。

チアキ「オ、バ、サ、ン!!」

ひろみ「（気付いて）ハイ、ハイ、ア！ お電話、わたくしにでございますか……（と受話器をとる。）ハイ、奥さま……はい、ご安心下さい。はい、お二人のめんどうは、私が責任をもちまして……はい、かしこまりましてございます。失礼いたします。」

電話を終えると、ひろみ、家の中を見まわし、蒲団の散乱や、台所の様子を見て、

ひろみ「もう、お食事は済みですか？」

マキオ「……（グーとなりお腹をおさえる）」

ひろみ「あら、まだ、朝のお食事も？……じゃあ、私がお仕度しますが、何をお作りしましょうね。」

流し台のわきの野菜カゴを調べて、

ひろみ「ポーチド、エッグ、オン、スピニチなんていかがでしょう？」

マキオ、チアキに、

マキオ「ね、ポーチドなんかって知ってる？」

チアキ「魔法使いのお料理の名前みたいね。」

その間にも、おばさんの料理は進行する。

マキオは遠くから、チアキは歩きまわりながら、鼻をぴくぴく。

ひろみ「さあ、できましたよ。」

二人は食卓にかけよる。

マキオ「なんだ、ホーレン草が入っているのかア……」

バターいためのホーレン草の上に、めだま焼がのっかっている。

ひろみ「おいしいですよ。さあ、早くめしあがれ。」

でも、マキオはホーレン草はにがて。

おばさんの前の大皿には山盛り。

チアキ「おばちゃんも、朝ごはん、まだだったの？」

ひろみ「いえね、すませてまいりましたんですけど、なにしろホーレン草が大好きでございましてね。あら、ぽっちゃんもホーレン草おきらい？」

マキオ「うん。」

ひろみ「これはね、からだの血を清めてくれるんですよ。だめですよ、めし上りませんと。」

と自分の箸でマキオの口へ。

マキオ、首を振る。

ひろみ「ホホホ、よくよくおきらいね。もったいない。それでは……」

と、いいながら、自分の皿へ。パクパクと喰べる。

二人びっくり。

チアキ「（小声で）この人、やっぱり魔法使いよ。ごはんの時でもスカーフとらないもの。」

ひろみ「え？　なんでございます？　おじょうちゃんも、おきらい？」

チアキ「どうしてごはんの時もスカーフとらないの。おぎょうぎわるいですよ。」

ひろみ「ホ、ホ、ホ、失礼いたしました。このスカーフは、私の耳かくし。」

チアキ「耳かくし？」

ひろみ「はい。」

スカーフをとる。補聴器のコードが耳からブラウスの胸に続いている。

マキオ「しってる。それ、ほちよう器だろ。」

ひろみ「はい。このきかいが、私の耳なんでございますよ。」

チアキ「おばちゃん。どうしてつんぽになったの？」

マキオ「（あわてて）わるいよ、そんなこと聞いちゃ。」

チアキ「どうして？」

ひろみ「（笑いながら）ストマイつんぽ。」

マキオ「ストマイつんぽって？」

ひろみ「長い病気を致しましてね。ストマイってお薬を沢山注射いたしましたの。そしたら病気が治った替りに、つんぽになっちゃいました。だからストマイつんぽ。ほほほほ。」

チアキ「へんなつんぽ。」

マキオ、なんだか気の毒になってくる。

58 庭

ひろみが洗濯物を干している。

横にくっついて質問をあびせるチアキ。

チアキ「おばちゃん、子どもいないの？」

ひろみ「ええ、一人いたんですけど、赤ちゃんのとき死んでしまったんですよ。」

チアキとマキオ、顔を見合わせる。

ひろみ「私は一人ぽっち。これから、もう一度お嫁にいくつもりなんですもの、ほほほ。」

チアキ「フーン、じゃあ、おばちゃん、おねえさんなのね、まだ。」

ひろみ「ほほほ、うれしいこと言ってくださいます。ほんと、おばちゃんは、これからいいおむこさんをみつけないんですよ。」

マキオ「チアキ。」

チアキ「なーに？」

マキオ「あんまりなんでも聞いちゃわるいよ。」

チアキ「だってよく調べとかなないと。もしわるい人だったらどうする？」

マキオ「そ、そうか。」

チアキ、すました顔で、

チアキ「おばさんはヘビどしですか、サルどしですか？」

ひろみ「ヘエ？　さあ、なにどしでしょう、ほほほ……」

チアキ「じゃあ、なんさいですか？」

ひろみ「ほほほ、さあ、幾つでしょ。十三、七ツ。」

チアキ、変な顔でマキオのところにくる。

チアキ「十三、七ツだって。おにいちゃん。十三、七つっていくつ？　若いの、年より？」

マキオ「む……（と困る）」

チアキ「ほんとに、へんなおばちゃんだね。」

庭で、おばさんが調子っぱずれの声で讃美歌を唄っている。

(F0)

59 台所

きれいに片付いている。

チアキ「あのおばちゃん、いっしょにとまっていくのかしら？」

マキオ「チアキはどっちがいい？」

チアキ「きのうみたいにこわいのやだし……でも、いっしょにねると魔法使いの夢、みちゃうね。」

マキオ、クスツと笑う。

玄関が開いて“ただいま”と男の人の声。

チアキ「あっ、おとうちゃまだ！」

60 玄関

出張帰りのおじさん、泰司がいる。

チアキ「おとうちゃま！ ヒサオちゃんが病気になるってね。そいでね……」

泰司「うん、今病院によっておかあさんに聞いて来たよ。やあ、マキオ君、すまなかったねえ。」

マキオ「おじゃましています。」

泰司「こっちこそ、君がいてくれてどれだけ助かったかわからないよ。ありがとう。」

マキオ、照れくさい。

泰司「ほんとに助かったよ。さすがに、お兄ちゃんだね。」

61 勝手口

ひろみが、買物から帰ってくる。

ひろみ「お肉と白菜買って来ましたよ。おいしいロールド・ベツツアイをお作りしましょうね。」

ひょいと泰司に気付いて、あわてる。

床にはいつくばって、

ひろみ「これは、これは、私、家政婦会の……」

泰司「どうもどうも、お世話になりましたね。」

ひろみ「いえ……私は菅谷ひろみと申しまして、どこも悪いところはなく、いたって健康でございますです。」

泰司、キョトンとなっている。

チアキ「このおばちゃん、耳が聞こえないの。」

泰司、ははんと納得。

ひろみはポケットから紹介状を差し出す。

ひろみ「はい、これが紹介状でございます。」

泰司「そりゃ、どうも。で、今日の分、いくらお払いすればいいんでしょう。」

ひろみ「はい、そこに書いてございますです。」

で、明日は、何時頃お伺いすればよろしいでしょう。」

泰司「明日は私もいますから。」

ひろみ「はあ？」

泰司「明日は、もう結構です。」

ひろみ「もういらない？ じゃあ、私はいらなくてでございますか。」

みるみるしょんぼりとなる。

マキオ、なんだか気の毒になる。

マキオ「おじさん、ちょっとお願い。」

62 廊下

マキオが泰司をつれてくる。

マキオ「おじさん、あのおばさん、明日もたのんであげて。」

泰司「うん……（困って）しかし、そう毎日たのんでたら、おじさん、いくら働いてもお金がたりなくなるんだよ。」

マキオ「……そうか……なんだか可哀そうなんだ……」

台所の方にもどる。

ひろみ、帰り仕度をしている。

マキオ「（チアキの耳に口寄せ）ねえ、おくってあげよう。」

チアキ、コックリとうなずく。

63 夕方の坂道

とぼとぼと帰るひろみの手をにぎりチアキが行く。後からマキオ。

チアキ「おばちゃん、また来てね、あのポーチドーンていうの、おいしかったよ。また作ってね。」

ひろみ「はい、はい、今日は本当に楽しうございました。おとうさまがご心配なさるといけませんから、もう、ここで結構でございますよ。」

マキオ「じゃあ、おばさん、元気でね。」

チアキ「バイ、バイ。」

ひろみ「ほほほ、バーイ、バーイ。」

笑いながら去る。が、その後姿の淋しそうなこと。

チアキ「おばちゃん、はやく、いいおむこさん、みつけてねえ!!」

ひろみ「（ふりむいて）ホ、ホ、ホ……（と深々と頭を下げる）」

チアキ「（マキオに）早くいいおむこさんみつかるといいね。」

二人、いつまでも見送っている。

遠ざかるひろみ。

64 丘の上の道（夕）

マキオとチアキ、帰って行く。

マキオの声「——世の中って、いろんな人がいるんだなあ……」

マキオ、両親を思い出す。

家政婦の菅谷ひろみは43歳の設定だ。1970年代の話である。評論家の渡部彰一が『知的風景の中の女性』（1977）で書いた次の文が参考になるだろう。「十六、七歳の女性から見ると二十歳の女性はすでに年寄りという感じなのである。いわんや二十四、五歳になったら、男性から見た魅力においてほとんど敵することは

できないと思う。まして三十、四十になった女性は、もしも一夫一妻の家庭制度が破壊されたら、いったいどこに安定した地位を得ることができようか。あるいはどこに男性のパートナーを簡単に求めることができようか」(講談社文庫、87-88)。魔法使いのように描かれたひろみがポーチド、エッグ、オン、スピニチを作ってマキオに食べさせようとする場面は「自分の箸でマキオの口へ。マキオ、首を振る」となっているが、作者の原作では「「わっ、きったない！」マキオは、むねをそらせてのけぞりました」(115)と同性の立場で遠慮なく書かれている。年齢と障碍から「いいおむこさん」探しは難しいと感じられた。しかしそれゆえに、マキオとチアキ同様、映画を見た筆者は、お婆さんの幸せを心から願わずにはいられなかった。マキオと一緒に「世の中って、いろんな人がいる」と感じたのだから、大西竹二郎監督率いる東映教育映像部の意図は果たされたわけだ。

このあとは、エンディングに向けた最後の挿話だ。おじさん(名前が書き間違えて「恭司」に代わる)が原作同様、ビーフン料理をごちそうすると言いだし、チアキが買い物に出るが、コンビーフを買ってしまう。心配するマキオをよそに、チアキは独力で解決する。ビーフンの歌を聴けるのがいい。これでマキオは安心して名古屋に帰れる。小説ではヒサオの病気は簡単には治らず、大学二浪中の「中山良助」が来るオープンエンディングだが、映画は退院のめどがつき、小説と違い、新幹線を再登場させ、駅での別れの場面を描く。

65 名古屋の店(夕)

いそがしく働く父、
そして、母、

66 丘の上の道(夕)

マキオの心の声「おとうさんたちも大変なんだな
あ……ぼくは、いままで、わが
まますぎたかなあ……」
二人、手をつなぎあって帰って行く。

67 家の中

電話口で恭司がむずかしい顔。
戸をあけてマキオたち上りこむ。
恭司「うん、分った、すぐ行く。(受話器を置いて)ヒサオがやはり手術しなければならないんだ、すまないが、また留守番してくれないかい？」
マキオ「はい！」
チアキ「やだあ!!」
恭司「今晚が山かも知れないんだ。」
マキオ「山って、死ぬかも……」

恭司「うっうん……そこまでは……」

チアキ「お兄ちゃんのうそつき! おいのりすればなおるっていったのに! (マキオの胸にうってかかる) うそつき!! うそつき!! ハリ千本のみなさいよ! のみなさいよ!!」

その目からみるみる涙があふれる。

恭司「チアキ、ききなさい! おいのりっていうのは、きいてもらえる時ときいてもらえない時があるんだよ。きいてもらえなくても、それはおにいちやんが嘘をついたんじゃないよ。」

チアキ「(すすり上げ) じゃ、だれなの? 神さま、お星さま?」

恭司「だれでもないさ。おとうさんもどうしてだかわからない。でもね、人間は、一所懸命おいのりしたくなるときがある。いまは、おとうさんも、そんな気持だ……(声をつまらせる)(気を取り直して) そうだ、お祈りをするってことは、みんなで一所懸命努力するってことかも知れないよ。」

マキオ「……」

チアキ「……」

恭司「だから、チアキもヒサオのために、もう少しがんばってくれなくちゃ。」

チアキ「……うん。」

68 夜の寝間

枕もとのたたまれた衣服からパーンすると蒲団の中のマキオ。となりの蒲団にチアキ。

マキオ「とうとう今夜もおるす番か。でも、おじさん、あんなによろこんでくれたなあ……ぼく、役に立ったんだ!!」

とうれしい。

チアキが寝ごとを云う。

チアキ「お星さま……ムニャ、ムニャ……しないで……」

マキオ、おき上つてのぞきこむ。

チアキの可愛い寝顔。

マキオ、正座しなおして、手をあわせる。祈るマキオの姿にカメラ静かにトラックアップしていく。

69 タイトル

――そして、一週間が、アッというまにすぎました。――

70 病院 外景

71 病室

ヒサオちゃんの明るい笑顔

みんなが来ている。

おばさん「こんなに元気になったのも、マキオちゃんやチアキちゃんが一所懸命お祈りしてくれたからよ。」

マキオ「本当に元気になってよかったね。」

チアキ「イナイナイ、バー」

おばさん「あと二、三日すれば退院できるそうなんだけど、……むかえにも行けなかったしおくてもいけないわね。今度のことは本当にごめんなさいね。なにからなにまですっかりお世話になってしまつて。」

マキオ「ううん！ とってもいい経験だったよ。」

恭司「お別れに今日のお昼はおじさんが腕によりをかけてスペシャル料理を作つてあげるからね。」

マキオ「ポーチド、オン、ス……ス？ スピニョンみたいだね。（と明るくはずんで、チアキを見ると）」

チアキ、いつになく、片隅でおとなしい。

72 家の中

恭司、料理の準備にとりかかっている。

恭司「あれ？ ビーフンがないなあ……」

マキオ「（ボストンを持って帰り仕度）ぼく、かってきます。」

チアキ「（急に）チアキがかってくる。」

恭司「え？ 大丈夫かなあ……」

チアキ「どうしてもチアキがかいにゆく。」

恭司「じゃあ、そこの××屋さんだよ。ビーフン、ひとつ、わかるね。そら（とがまぐちと手かごを渡す）」

マキオ「チアキちゃん、ついてってあげようか。」

チアキ「いいですよーだ！ もうこどもじゃないんですから！」

73 ××屋前

マキオ、物の陰からそつとのぞく。

店内で、主人からコンビーフを受けとり出てくるチアキ。かくれているマキオの前で、

チアキ「（コンビーフを見つめながら）コンビーフ？ ビーフン？（と首をひねり、お店にとってかえす）」

チアキ「あのね、ごめんね、おじちゃん、あたしまちがえちゃったの。コンビーフじゃなくて、ビーフンだったの。」

主人「あはは……コンビーフじゃなくて、ただのビーフンだったんだね。」

とビーフンとおつりを渡す。

チアキ、カゴをかかえて走って行く。

マキオ、あとをつけながら、

マキオ「（ふしをつけて、小声でうたいながら）コンビーフン、コンビーフン！ ビーフンとにているコンビーフン、チアキって、ほんとにかわいいやつ！ チアキー!!」

マキオ、思い切りとびあがって——
ストップモーション

74 東京駅

屋根からパーンダウン。

新幹線のホーム。

マキオを恭司とチアキが見送りに来ている。

恭司「すまんかったなあ、どこにもつれてあげられないで。せっかくきたのに、るす番させて、チアキのおもりばかりさせてなあ。こんどきたときはきつとうめあわせするからね。」

おみやげを手渡したりする。

マキオの心の声「なんにもなんないどころじゃなかった。いろんなしらなかったこと、わかったような気がするもん。ぼくの頭の中にはおみやげがぎっしり。とってもうれしいんだよ。」

恭司「（チアキに）おい、ピーチクパーチク、ひばりの子、どうしたんだい。いやにさっきから元気がないじゃないか。（チアキのあごに手をかける）」

チアキ「いやん！（と白目をむく）」

恭司「（笑って）さあ、そろそろのらないと……」
三人、ひかり号の入口の方へ——

マキオ「チアキちゃん、さようなら。」

チアキ「これあげる。（と鉄砲を差し出す）」

マキオ「これ、チアキちゃんのたいせつな……」

チアキ「いいの、あげる。」

マキオ「……」

チアキ「……（ニッコリ）」

マキオ「チアキ、ありがとう！」

のりこむ。

恭司とチアキ、手をふる。

車内のマキオ、鉄砲をふってみせる。

ベルが鳴る。

恭司とチアキ

ひかり号、動き出す。

窓越しのマキオ動いて行く。

チアキ「オニーちゃん、サヨーオナラ!! サヨーオナラ!!」

車内のマキオ、いつまでも手をふり続ける。

75 有楽町周辺

大都会の俯瞰、20 倍ズームレンズ、
ひかり号が遠ざかってゆく。

“終” タイトル

鉄砲をマキオに手渡すチアキは妙に女性っぽい。「いやん!」というセリフは映画のオリジナルだ。当時は気づかなかったが、いまこのスクリプトを読んでもみると、恋愛映画の典型的な別れの場面のように感じられる。小学四年生のとき感じたさわやかな感動は、思春期を前に異性への恋愛感情を予感させるものだったのかもしれない。教育短編映画に全力を尽くした大西竹二郎監督の手腕に思いを致しながら、もう一度、映画版『マキオのひとり旅』を見てみたいと切に願う。

おわりに

映画脚本を読んでみて、ムクドリが二階の雨戸の戸袋

に巣をつくっているエピソードが丸ごと省かれているのを知って驚いた。原作小説では重要な要素なので何度も読むうちに、映画の中にもあったと錯覚した。最初の晩にマキオが怖がったのは、無人であるはずの二階で物音がしたためだ。ムクドリの巣ができていたことがわかり、いつしかムクドリの卵がかえればヒサオも元気になるという信念となる。しかし、おじさんは以前ひなが巣だつまで臭いと音に悩まされていたのだ。原作本ではこんなところにも現実の厳しさを描いていた。それでもマキオはひなに希望を託し、おじさんの寝る部屋をチアキのと交換させ、ひなを見たいチアキの願いをかなえてやる。ひながかえったら手紙で知らせるというチアキにマキオは「夏休みにきつとくるよ」と約束し、ゆびきりをする。小説の締め括りはこうだ。「「おーい、マキオくーん。もういくぞう。」下からおじさんのよぶ声がしました」(182)。

映画と小説はそれぞれのよさがあって、甲乙つけがたい。確かなのは、東映教育映像部が企画制作した大西竹二郎監督の児童映画『マキオのひとり旅』を見なければ、生源寺美子の小説は読まなかっただろうということだ。1970年代の活気あふれる日本で育った幸運をありがとうと思う。筆者の映画と小説に対する強い関心は、このなつかしい昭和の小学校時代に芽生えた。

Reading the Movie Script *Makio's Solo Journey*: A Comparison with the Original Novel by Haruko SHOGENJI

Koichi YOKOYAMA

In the 1970s, short children's films produced by Toei Educational Films were shown in Japanese elementary schools as part of moral education. *Makio's Solo Journey*, directed by Takejiro ONISHI, was one such film. I was deeply impressed when I saw it in the school gymnasium as a fourth-grade student.

Toei's educational films are available only on 16mm reels in a few libraries across Japan and have never been released on DVD or Blu-ray. As a result, they are difficult to access today and have become “phantom films” that exist only in the memories of those who saw them in the past. Fortunately, a few years ago, I came across a rare handwritten screenplay at a used bookstore in Tokyo.

The original novel, *Makio's Solo Journey* (1973) by Haruko SHOGENJI (1914-2015), is widely recognized as a masterpiece of children's literature. During spring break, Makio, a shy elementary school student from Nagoya, visits his aunt's house in Tokyo. Due to the sudden illness of her baby, he ends up staying home with 5-year-old Chiaki.

How does the film depict this five-day adventure? This article compares the film's script with the original novel to reveal how the 35-minute film movingly captures Makio's emotional and personal growth.

仙洞句題五十首「花」の題、後鳥羽宮内卿歌について

難波 宏彰*

(二〇二五年一月二八日受理)

一、はじめに

『仙洞句題五十首』は、後鳥羽院の主催した五十首で、建仁元年（一二〇一）九月以降順次詠進し、同年十二月に点が付されたと推定される歌合である。

『新古今和歌集』が編纂される過程は、建仁元年（一二〇一）七月に和歌所が設置、建仁三年（一二〇三）四月頃までには、『新古今和歌集』の題材となるべき和歌が揃えるよう下命があったようである。

建仁元年（一二〇一）～建仁三年（一二〇三）までの歌会・歌合は、『六百番歌合』と『千五百番歌合』を中心に撰歌が行われ、『新古今和歌集』を中心に和歌の作品が集められていった。

『仙洞句題五十首』は、建仁元年七月に和歌所が設置されて直ちに後鳥羽院と藤原良経の間で企画された歌合である。題に「花」「二〇題」「月」「二〇題」「寄物恋」「一〇題の五〇題からなるものであり、勅撰八代集の中でも最も歌数が多い部立である「春」「秋」「恋」の部立を中心に題が設定され、各歌人が各題について五〇首の和歌を詠んでいる。

『新古今和歌集』を編纂するための和歌所が設置された直後の歌合ということもあり、『新古今和歌集』への意識が強いためか題が、春、秋、恋と限定されているように思われる。

また、『仙洞句題五十首』は、全体として三〇〇首の和歌が詠まれているが、その内の一二首が『新古今和歌集』に入集しており、当時としては、非常に特異な歌合でもあると考えられる。

『仙洞句題五十首』中の詠作歌人の一人である後鳥羽院宮内卿は、正治

二年（一二〇〇）から建仁三年（一二〇三）の『八幡若宮撰歌合』までの約四年間の作歌活動が確認されており、『仙洞句題五十首』は、後鳥羽院宮内卿の短い作歌活動の中でも中間地点にある。先に『仙洞句題五十首』で詠まれた和歌の一二首が『新古今和歌集』に入集していると述べたが、後鳥羽院宮内卿は、四首の和歌を『仙洞句題五十首』の中から『新古今和歌集』に入集させている。いわば、後鳥羽院宮内卿歌の名を世に知らしめた歌合の一つでもあった。

『仙洞句題五十首』の中で、後鳥羽院宮内卿歌は、五〇首の和歌を詠んでいるが、今回は、「花」を題に詠まれた二〇首を中心に考察していくものとする。

『仙洞句題五十首』については、石川一氏編者『仙洞句題五十首・水無瀬殿恋十五首 全注釈』（二〇二〇年二月二八日 勉誠出版）があり、歌合全体の研究があげられるが、それらの研究とともに、本論については、『仙洞句題五十首』の後鳥羽院宮内卿の和歌について考察していく。

二、仙洞句題五十首

『仙洞句題五十首』は、後鳥羽院の主催した歌合で建仁元年（一二〇一）九月以降順次詠進し、同年十二月に点が付されたと推定される。詠者は後鳥羽院・良経・慈円・俊成・宮内卿・定家の六人で、点者は後鳥羽院・良経・慈円・定家・俊成・寂蓮の六人。題は花・月を含む結題各二〇題と、寄物恋題一〇題の計五〇題。（注１）

題については、以下に示したものになっている。今回考察するのは、「花」の題二〇首である。

初春待花	山路尋花	山花未遍	朝見花
遠村花	故郷花	田家花	古寺花
花似雪	河辺花	深山花	暮山花
古溪花	関路花	羈中花	湖上花
橋下花	花下送日	庭上落花	暮春惜花
初秋月	月前草花	雨後月	松間月
山家月	月前竹風	野径月	沢辺月
月前聞雁	浦辺月	月照滝水	杜間月
月前秋風	江上月	月前虫	月前聞鹿
旅泊月	月前草露	菊籬月	暮秋曉月
寄雲恋	寄風恋	寄雨恋	寄草恋
寄木恋	寄鳥恋	寄風恋	寄舟恋
寄琴恋	寄衣恋		

以下、本文は、『新編国歌大観』に拠った。また、引用している和歌には新編国歌大観番号を付している。

三、仙洞句題五十首、「花」の題にみる宮内卿歌

仙洞句題五十首に入っている後鳥羽院宮内卿の和歌は、五〇首ある。その五〇首は、「花」「月」の題を含む結題各二〇首と「寄物恋」の題一〇首である。

今回は、後鳥羽院宮内卿の和歌「花」の題二〇首を考察していく。「後鳥羽院宮内卿」については、宮内卿と表記する。

初春待花

宮内卿

五 花ゆゑに春をばけふと待ちえても梢は雪のなほさゆるかな

五番、初春待花の歌の意は、「花を見たいという事で、春になったその日に花が咲く事を待つことはできるのだが……、梢は、花が咲いたように白くなっている。それは梢にとどまる淡雪であり、その白さは寒々しさを残してい

ることよ。」となる。

「花ゆゑに」は、花という理由でという意。「花ゆゑに」の用例としては、以下のようなものが上げられる。

はる花見にいでたりけるに、ふみをつかはしたりける、その返事もなかりければ、あくるあしたきのふの返事とこひにまうできたりければ、いひつかはしたりける よみ人しらず

春霞たちながら見し花ゆゑにふみとめてけるあとのくやしき

(後撰和歌集 春下 九九)

藤原顕綱朝臣

花ゆゑにかからぬ山ぞなかりける心ははるのかすみならねど

(千載和歌集 春上 四九)

花のうたとてよめる

道因法師

花ゆゑにしらぬ山路はなけれどもまどふは春の心なりけり

(千載和歌集 春上 六二)

があり、歌語としては、『後撰和歌集』あたりから見られるようになってくる。

「雪」は、春になっても消えずに残っている残雪、淡雪の事を指している。

雪の木にふりかかれるをよめる 素性法師

春たてば花とや見らむ白雪のかかれる枝にうぐひすぞなく

(古今和歌集 春上 六)

はる立つ日よめる

凡河内躬恒

春立つとききつるからにかすが山消えあへぬ雪の花とみゆらむ

(後撰和歌集 春上 二)

と、残雪の用例は多く、古今集以来、その数は多く存在している。この歌に関しても、梢に残る淡雪を花に見立てることで、初春の寒々しさを一層引き立てるものになっている。

初春待花を題に、梢に残る淡雪は、儚く消え去るものではあるが、暦が春になったのだからと、花の咲く姿を待ち遠しく想う気持ちを視角的に捉え、まだ来ぬ春を惜しむ心を詠んだものになっている。

山路尋花

宮内卿

一一 たづねかねふもとにさかぬ花の色を梢にやどす嶺の白雲

一番、山路尋花の歌の意は「まだ尋ねることはできていないが、麓では花は咲いていないようである、しかし、花の色と同じ白色を梢が宿している嶺の白雲であるよ。」となる。

「たづねかね」は、尋ねることができない意。「たづね」（尋ねる）に「かねる」（補助動詞）の、「することができない」の意がついたもの。

「梢」は、枝の末。幹のさきの意。梢は、和歌の中では、古今集以来数多く取り上げられている歌材である。

きのとものり

おとは山けさこえくれば郭公こずゑはるかに今ぞなくなる

（古今和歌集 夏 一四二）

しかし、「梢」、「花」、「雲」の取り合わせとなると、以下に上げた金葉集まで時代を降りなければ見られない。「梢」は春の歌で詠まれることはあまりなく、古今集く拾遺集の中では夏歌、秋歌、冬歌、恋歌でそれぞれ詠まれており、後拾遺集になって始めて春歌に現れる。そして、梢に宿る白い雲や霞、雪が花を見立てるこの表現形式は、平安末期以後に詠まれたものであると考えられる。

春宮大夫公実

春たちてこずゑにきえぬしら雪はまだきにさける花かとぞ見る

（金葉和歌集二度本 春 二）

遙見山花といへる事をよめる

藤原忠隆

よしのやまみねになみよるしら雲と見ゆるは花のこずゑなりけり

（金葉和歌集二度本 春 五二）

金葉集の春宮大夫公実、藤原忠隆の歌も、花の色を山の嶺の白雲を見立てているが、宮内卿歌も同様に花と雲を見立てたものになっている。

山路尋花を題に「梢」と「花」、「雲」との千載集より定着したとみられる形式で詠まれた和歌になっている。

山花未遍

宮内卿

一七 見わたせばふもとばかりにさき初めて花もおくあるみよしの山

一七番、山花未遍の歌の意は「見わたしてみると麓でばかり花が咲き初めているが、山の峰の方ではまだ花が咲いていない吉野山であるよ。」となる。

この歌は、『続古今和歌集』「八八」、『雲葉和歌集』「九三」、『歌枕名寄』「二〇四二」に入集している。

「ふもと」（麓）は、山のすそ。山麓をさす。

寛平御時、花の色霞にこめて見せずといふ心をよみてたてまつれ

とおほせられければ 藤原興風

山風の花のかかどふふもとには春の霞ぞほだしなりける

（古今和歌集 春中 七三）

「花もおくある」は、吉野山の麓に対しての「おく」である。この場合、吉野山は「山の名前」というより、奈良県吉野町にある大峰山脈北端の尾根一帯を指す広域地名であるため、ここでは峰（山の高い部分、稜線や頂上付近）や山腹と解釈する方がよい。類似の和歌表現としては、

よしの山霞も深く分入れば花のおくある春のあけぼの

（正治初度百首 慈円 六一四）

弘安百首歌たてまつりける時 後九条前内大臣

尋ねても誰かはわかむよしの山花より花の奥のしら雲

（新千載和歌集 春下 一一九）

が上げられる。「花もおくある」という表現は他には見られない。

また、「みよしのの山」は、大和国の歌枕。用例で上げたように、古今集以来、多くの和歌によまれ桜の名所として確立され、花を題材に詠まれることが多い。

題しらず よみ人しらず

春霞たてるやいづこみよしののよしのの山に雪はふりつつ

(古今和歌集 春上 三)

桜の名所である吉野山を中心にして、遠くに見える峰と山並みと手前の麓の花々を表現している。空間の広がりと視界の奥行き、また、麓の花（白色）と峰（若草色）の色彩のコントラストも表現された和歌になっている。

朝見花

宮内卿

二三庭の面を花にやつしておのれ又朝ぎよめする山嵐のかぜ

二三番、朝見花の歌の意は「庭の面が花で散らかり、みすばらしくなってしまうので、毎朝、山嵐のかぜのように掃除をしていることよ。」となる。

「庭の面」は、庭（屋外の空間）の表面、広がり。和歌では、以下の用例が上げられる。主に広々した庭（空間）に花や紅葉、藤などの植物がひろがり一面にその色彩で満たされる表現が多い。特に新古今集では「庭の面」（にはのおも／にはのも）が使用されることが多く、新古今集では七首の歌に使用されており八代集の中では、特に多い。

月の輪といふところにかかりて元輔惠慶などともににはの藤花を
もてあそびてよみ侍ける 大中臣能宣朝臣

ふぢの花さかりとなればにはのおもひもかけぬなみぞたちける

(後拾遺和歌集 春下 一五二)

すみあらしたる家にはに、桜花のひまなくちりつもりて侍りけ
るをみてよめる 源俊頼朝臣

はく人もなきふるさとのにはのおもいはなちりてこそみるべかりけれ

(詞花和歌集 春 三八)

近衛院御時、禁庭落葉といへる心をよめる 藤原公重朝臣
庭のおもにちりてつもれる紅葉は九重にしく錦なりけり

(千載和歌集 秋下 三六九)

「花にやつして」は、「やつす」がみすばらしい様を表すので、花によってみすばしくなってしまうという意。

「朝ぎよめ」は、朝の掃除の意。

延喜御時、南殿にちりつみて侍りける花を見て 源公忠朝臣

一〇五五とのもりのとものみやつこ心あらばこの春ばかりあさぎよめすな

(拾遺和歌集 雑春 一五〇〇)

「山嵐のかぜ」は、山から吹き下ろす風。山おろしの風の意。和歌でも多くの場面に用いられ、以下のような用例がある。

題しらず

よみ人しらず

こひしくは見てもしのばむもみぢばを吹きならしそ山おろしのかぜ

(古今和歌集 秋下 二八五)

庭一面に広がる花びらを、吹き下ろす風がその花びらを吹き上げ、掃除するという情景が朝日の情景とあいまって、白で埋め尽くされる美しい情景を醸し出す歌になっている。

遠村花

宮内卿

二九山たかみながめにかかるいく里ぞ花の梢は雪のむらぎえ

二九番、遠村花の歌の意は「山が高いので、じっと空を見つめると、遠くに見えるいくつかの里では、梢に雪が斑に残っている。その跡が花の咲いたように見える。」となる。

「山たかみ」は、山が高いのでの意。形容詞語幹に「み」がつくミ語法。

「…を…み」の形で「…が…なので」の意。(注2)

題しらず よみ人しらず

山たかみ人もすさめぬさくら花いたくなわびそ我見はやさむ

(古今和歌集 春上 五〇)

「ながめにかかる」は、じつとながめている空にの意。「ながめ」は物思ひして見つめる意。

百首歌たてまつりしに 二条院讃岐

をりこそあれながめにかかる浮雲の袖もひとつにうち時雨れつつ

(新古今和歌集 冬 五八四)

「雪のむらぎえ」は、雪の消えた跡が斑に残っている意。「雪のむらぎえ」の歌語は、八代集では、以下用例に上げた後拾遺和歌集、冬、四一四和泉式部歌の他には、新古今集での四首のみが見られる。新古今集以後使用されるようになった歌語であると考えられる。

題不知

和泉式部

こりつめてまきのすみやくけをぬるみおほはら山のゆきのむらぎえ

(後拾遺和歌集 冬 四一四)

崇徳院に百首歌たてまつりける時、

はるの歌

前参議教長

若菜つむ袖とぞみゆるかすがののとぶひの野辺の雪のむらぎえ

(新古今和歌集 春上 一三)

千五百番歌合に、春歌

宮内卿

うすくこき野辺のみどりの若草に跡までみゆる雪のむら消

(新古今和歌集 春上 七六)

視角的な遠近感を用いて、本歌合一七番歌同様に、遠くに見える山と近くの里桜のを用いて空間の広がりや視界の奥行きを表現している。特に近景に用いられた「雪のむらぎえ」は、宮内卿としての象徴的な歌語であり、色

彩豊かな歌になっている。

故郷花

宮内卿

三五へだてつる霞はよそになりはてて花にこもれるしがの山里

三五番、故郷花の歌の意は「視界を覆っていた霞は、どこか遠く他の場所に消えてしまった、満開の花の中に籠もれるように見える志賀の山里よ。」となる。

この歌は、『新続古今和歌集』「一三八」に入集している。

「へだてつる」は、隔てている、覆っている意。

「よそに」は、どこか遠くへ離れての意。

題しらず

素性法師

よそにのみあはれとぞ見し梅花あかぬいろかは折りてなりけり

(古今和歌集 春上 三七)

「こもれる」は、籠もれる意。中に閉じこもることができる、閉じ込められることができることを表現している。

寛平御時きさいの宮の歌合のうた よみ人しらず

吹く風や春たちきぬとつげつらん枝にこもれる花さきにけり

(後撰和歌集 春上 一二)

「しがの山里」は、近江国の歌枕、琵琶湖西岸の地。現在の滋賀県にあたる地域。『歌ことば歌枕大辞典』によれば、地理的特徴から、津・浦・波・山などとともに詠まれ、院政期以降急増し、『新古今集』の時代にピークを迎えるところある。(注3)

この歌の場合は、古代から歌枕として有名な「しが」を用いて、琵琶湖周辺や山里の風景を指しているものと考えられる。

白い霞に覆われ、何も見えかなったが、その霞も晴れて、眼前に見えるのは、満開の桜に覆われた志賀の山里であると、全体的に白のイメージを持たせつつ、視角の遠近を用いた広がりやの歌になっている。

田家花

宮内卿

四一花の本にかくてをへなむ春雨のふらばやなげの小山田の庵

四一番、故郷花の歌の意は「花のそばで、このような状態で時間を過ごしたいものだ、春雨が降ったならば……、粗末な山田の庵があるのだから。」となる。

「花の本」は、花の側。花の下の意。

鶯のなきつるころにさそはれて花のもとにぞ我はきにける

（後撰和歌集 春上 三五）

新院位におはしましし時、牡丹をよませ給けるによりみ侍りける

関白前太政大臣

さきしよりちりはつるまでみしほどにはなのもとにてはつかへにけり

（詞花和歌集 春 四八）

「をへる」は、「経る」の意。時間や場所を通過する、また、経過するという表現になる。

「ふらばや」は、降ったならばの意。仮定条件。

「なげの」は、「なげとは無の字なり」（注4）とある。ここでは、取り立てて言うこと無いような粗末なという意か。

粗末な山田の庵と花の描写をゆつたりと時間の過ぎ去る描写で詠まれている。春雨は、降っている時は、目に見えぬものとして詠まれることが多いので、ゆつたりと静かに流れる時間と風景が表現されている。

古寺花

宮内卿

四七むかしより植ゑけむ時を人しれぬ花にふりぬるいそのかみ寺

四七番、故郷花の歌の意は「（いそのかみの名の地のように古くて）昔からいつ植えたのかも分からない花と、人知れず一緒に過ごした「布留」の石上

神社であるよ。」となる。

この歌は、『夫木和歌抄』『一六四五四』に入集している。本歌には次の歌が上げられる。（注5）

やまとのふるの山をまかるとて 僧正遍昭
いその神ふるの山べの桜花うゑけむ時をしる人ぞなき

（後撰和歌集 春中 四九）

「いそのかみ」は、大和の国の歌枕。現在の奈良県天理市石上町。石上神社がある。かつては、僧正遍昭や素性が住んだ石上寺があった。「石上」は、『万葉集』以来、石上の中にある地名「布留」に続けて詠まれ、転じて「布留」との掛詞により「降る」に掛かり、また、「振る」にもかかるようになる。その他「古る」「古し」「古里」「経る」「ふるまふ」などに掛かる枕詞として定着した。（注6）以下の用例が上げられる。

ならのいそのかみでらにて郭公のなくをよめる そせい
いそのかみふるき宮この郭公声ばかりこそむかしなりけれ

（古今和歌集 夏 一四四）

石上の枕詞を中心にして、本歌である僧正遍昭の和歌の情景も借りつつ、遠い時間の想いを桜とともに詠んだ歌になっている。

花似雪

宮内卿

五三風ふけば峰の雲より散る花や空にしらるる春のあは雪

五三番、花似雪の歌の意は「風が吹くと、散る花が山の頂の雲間より見える、その光景は春の淡雪のように推し量れることだ。」という意になる。

「風ふけば」は、風が吹くの意。

延喜御時春宮御屏風に つらゆき

風ふけば方もさだめずちる花をいづ方へゆくはるとかは見む

（拾遺和歌集 春 七六）

「峰の雲より散る花や」は、山の山頂部分の雲間から散ってくる花の意。峰は、「山の頂き」を指していると思われる。

「空にしらるる」は、空を見て知る意に、暗に知る、推し量って知る意を掛ける。

熊野へまうでたまひける時、みちに花のさかりなりけるを

御覧じて 白河院御歌

さきにほふ花のけしきをみるからに神の心ぞ空に知らるる

(新古今和歌集 神祇 一九〇六)

花を春の淡雪に見立て、遠く見える山の頂より見える風景をモチーフに白に紛う二つの景物を詠んだ歌になっている。

河辺花

宮内卿

五九行く水のそこにやどれる花の色をやがてなにおふ白河の里

五九番、故郷花の歌の意は「流れている水の底に宿す花の色(白)は、花

見の名所にふさわしい、白河の里を宿しているよ。」となる。

この歌は、『歌枕名寄』「一五八八」に入集している。

「行く水の」は、流れていく水の意。

延喜御時御屏風に水辺梅花の開けたるかた有る所 つらゆき

むめのはなまだちらねども行く水のそこにうつれるかげぞみえける

(拾遺抄 春 一八)

「そこにやどれる」は、水底に光や影を宿す(映す)している意。

河原院に人人まかりて歌合しけるに、松臨池といふことをよめる

恵慶法師

たれにとかいけのこころもおもふらむそこにやどれるまつのちとせは

(詞花和歌集 賀 一六九)

のような用例がある。

「白河」(白川)は、山城の国の歌枕。比叡山と如意が岳の間に発し、北白河を西南に流れ、鴨川と合流した川。

平安中期以降白川の地には、白河院の御所や六勝寺など、貴族の別業や大寺院が作られ、行幸や御幸、花見の宴がしばしばとり行われた。それにともない

たかくらの一宮の女房花みに白河にまかれりけるによみはべりける
伊賀少将

なにごとをはるのかたみにおもはまし今日しらかはの花みざりせば

(後拾遺和歌集 春上 一一九)

のごとく桜の名所として詠まれるようになった。(注7)

ここでは、「花の色」の白と「白河の里」の白とが掛けられている。

桜の名所として古くから知られている白河の歌枕を中心に、川の水底に花の色(白)を宿すという技巧的かつ色彩豊かな歌になっている。

深山花

宮内卿

六五花といへば猶み山木の梢まで風をへだつる心ありけり

六五番、深山花の歌の意は「花が咲く頃になると、まるで深山木の梢は、

情趣を解するように風を遮るのだなあ(と気付かされた)」となる。

「猶」は、ここでは、比況の意で、「まるで〜のようだ」の意。「み山木の梢」がまるで情趣を解するように、思慮があるようになどを表す。

「み山木」は、深山に生えている木の意。山の奥深いところ。奥深い山に生えている木をさす。

女に物いはんとてきたりけれど、こと人に物いひければかへりて
わがためにかつはつらしと見山木のこりともこりぬかかるこひせじ

(後撰和歌集 恋六 一〇四二)

「へだつる」は、隔てている意。ここでは、深山木の梢が風を隔てる意。

二月ばかり良暹法師のもとにありやとおとづれてはべりければひとびとぐしてはなみなむいでぬるとききてつねはいざなふものをとおもひてたづねて遣しける 藤原孝善

はるがすみへだつる山のふもとまでおもひしらずもゆくころかな

(後拾遺和歌集 春上 七七)

などの用例がある。

「心あり」は、思慮がある。情趣を解する意。ここでは、「み山木の梢」に思慮があるのだというように擬人化した表現になっている。また、「けり」は詠嘆、気付きの意をもつ。用例としては以下がある。

源仲綱

山ざくらちるをみてこそおもひしれたづねぬ人は心ありけり

(千載和歌集 春下 九七)

深山木の梢がまるで情趣を解すように、風を遮るといふ擬人化した表現を用いて、花の咲く情景を詠んだ歌になっている。

暮山花

宮内卿

七一暮れぬとて人のみいづる山路かは花も今はとねにかへるなり

七一番、暮山花の歌の意は「日が暮れてしまったので、山路からは人だけが帰っていくのであろうか、人だけではなく、花もその根に返るように寝に帰っているらしい。」

「暮れぬとて」は、暮れてしまったと言つての意。

人のもとにしばしばまかりけれど、あひがたく侍りければ、物にかきつけ侍りける 在原業平朝臣

くれぬとてねてゆくべくもあらなくにたどるたどるもかへるまされり

(後撰和歌集 恋二 六二八)

「いづる」は、①出る・外に出る、②現れる・出現する、③出発するなどの意味がある。

大江千里

うぐひすの谷よりいづるこゑなくは春くることをたれかしらまし

(古今和歌集 春上 一四)

ここでは、「人のみいづる」で、人だけ出ていく意。山路を出て里に帰っていくことを表している。

「かは」は、詠嘆・強調の意。

「ねにかへる」は、根本に戻る意か。本質に立ち返る・根本に戻るといふ意の他に、以下の用例のように、(比喩的に)死ぬ・魂が根源に帰るなどの意も和歌の中では散見できる。

公実卿かくれ侍りてのちかのいへにまかりけるに、むめのはなさ

かりにさけるを見てえだにむすびはべりける

藤原基俊

むかし見しあるじがほにてむめがえのはなだにわれにものがたりせよ

(金葉和歌集二度本 雑上 六〇四)

返し

中納言実行

ねにかへるはなのすがたの恋しくはただこのもとをかたみとは見よ

(金葉和歌集二度本 雑上 六〇五)

ここでは、「根」に返ると擬人化して「寝」に帰る。と掛詞になっている。

「なり」は、伝聞・推定の意。

山路に咲く桜と人を擬人化の技法を用いて、空想の世界を創り出し、詠まれた歌になっている。

古溪花

宮内卿

七七春きて霞のふかき谷の庵花ありとても問ふ人ぞなき

七七番、古溪花の歌の意は「春が来たとと言っても、霞が立ちこめるような山深い谷の庵には、花が咲いているといっても尋ねてくる人はいないものだ。」となる。

「霞のふかき」は、霞が濃く立ちこめている意。視界がぼんやりしている情景が詠まれており、山深い場所を表している。古今集の用例にもあるように草ふかい、霞の谷などとして表現される。

深草のみかどの御国忌の日よめる 文屋やすひで

草ふかき霞の谷に影かくしてるひのくれしけふにやはあらぬ

(古今和歌集 哀傷 八四六)

「花ありとても」は、花が咲いていたとしても意。

十題百首御歌 後京極摂政

秋の夜に荻うちそよぐ風の音に花ありとてもいとはざらまし

(夫木和歌抄 秋四 五四〇四)

「問ふ人ぞなき」は、言葉をかけてくれる人がいない意。

霞ふるみ山のさとのわびしきはきてたはやすくとふ人ぞなき

(後撰和歌集 冬 四六八)

人里はなれた山深い谷の庵に咲く花を開けさの中で侘しさも表現した歌になっている。

関路花

宮内卿

八三あふさかや梢の花を吹くからに風ぞかすむ関の杉むら

八三番、関路花の歌の意は「逢坂山を見ると、梢に咲く花を風が吹きさらうのと同時に、その風にのった嵐が花の色を借りて霞のようにたち渡っているよ。逢坂の関の青々した杉むらを隠して。」となる。

この歌は、『新古今和歌集』「一二九」、『定家八代抄』「一五七」、『歌枕名

寄』「五七六五」に入集している。

「あふさかや」(逢坂や)は、近江国の歌枕。現在の京都府と滋賀県との境にあるのが逢坂山である。山城国と近江国との境で奈良時代以来逢坂の関が置かれ畿内と東国との境界として交通の要地であった。

「吹くからに」は、吹くとともに意。

これさだのみこの家の歌合のうた 文屋やすひで

吹くからに秋の草木のしをるればむべ山かぜをあらしといふらむ

(古今和歌集 秋下 二四九)

「嵐ぞかすむ」は、山上から吹き下ろすのではなく、杉群に立交る桜を水平にふく。(注8)ように、霞むことのない嵐が花によつて霞(白)のように霞むという表現。

「関の杉むら」は、逢坂の関の杉むらの意。逢坂の関では、もっとも知られている風景である。

弘長元年百首歌たてまつりける時、初春の心を

衣笠内大臣

あふさかの関の杉むら雪きえて道ある御世に春はきにけり

(続拾遺和歌集 雑春 四七〇)

花の風の舞う様子を、花の化身ともいふべき嵐と、逢坂の関の青々とした杉むらという色のコントラストをモチーフにして色彩豊かな、理知的な歌になっている。

羈中花

宮内卿

八九花にふる日数をしらずけふとてや故郷人の我をまつらん

八九番、羈中花の歌の意は「花を見ているうちに時間が過ぎ去ってしまった……。今日が里に帰る日なのに、里にいる親しい人たちは、私を待っていることであろう。」となる。

本歌には次の歌が上げられる。

題しらず

菅原輔昭

まだしらぬ古郷人はけふまでにこむとたのめし我を待つらむ

(新古今和歌集 羈旅 九〇九)

この歌は、『新後拾遺和歌集』「六一八」、『雲葉和歌集』「一三五」、『題林愚抄』「九五五」に入集している。

「花にふる」は、本来「花に降る（雨や雪が花に降りかかる）」という意味で使用される事が多いが、ここでは、「ふる日数」で「ある期間にわたる日数や、経過した日々」を指しており、時間の経過を表している。

「故郷の人」は、故郷にいる親しい人などの意。和歌の中ではあまり使用されない語であるように考えられる。『新編国歌大観』中、「故郷の人」と使用される用例は、約二〇例前後である。

里から山へ花を見に行ったことが詠まれている。花見の時間であるからそれほど長い時間の滞在ではなかったであろうが、里にいる親しい人が待っていてくれるかと……、実は宮内卿自身が里の人たちとの再会を待ち望む歌であつたのであろうか。

湖上花

宮内卿

九四花さそふひらの山風吹きにけりこぎ行く舟の跡みゆるまで

八九番、湖上花の歌の意は「花が比良の山風を誘って吹いたのであろう。散った花は、湖面を敷き詰め、舟の漕ぐ跡がはつきりと分かるほどまでになつて。」となる。

本歌には次の歌が上げられる。

題しらず

沙弥満誓

世の中をなににたとへむあさばらけこぎゆく舟のあとのしら浪

(拾遺和歌集 哀傷 一三二七)

また、この歌は、『新古今和歌集』「二二八」、『続歌仙落書』「二〇七」、『自讃歌』「八一」『題林愚抄』「一〇三〇」、『新三十六人撰』「二二二」、『定家八

代抄』「一五六」、『歌枕名寄』「六一二二」に入集している。

「花さそふ」は、花が誘つての意。花が誘うのは、以下の用例のように「嵐」や「風」の類いになるので、花が風とともに散る様子を表現する歌語である。使用されはじめるのは、平安末期、鎌倉初期である。平安から安定して定着したものではなく、新古今時代前後で使用された新しい歌語であるということがいえる。

水上落花といへることをよめる

源雅兼朝臣

はなさそふあらしやみねをわたるらんさくらなみよるたにがはのみづ

(金葉和歌集二度本 春 五七)

落花といふ事を

藤原雅経

花さそふ名残を雲にふきとめてしばしはにほへ春の山風

(新古今和歌集 春下 一四五)

「ひらの山」は、近江国の歌枕。現在の滋賀県高島郡から志賀郡、大津市に連なり、琵琶湖の西岸とほぼ並行する。春先は、比良おろしが嵐をもたらすので「比良の山風」などと詠まれる。

「こぎ行く舟の跡」は、琵琶湖を漕いで行く舟の跡。晴れて澄み渡る青緑の琵琶湖の湖面に白い花びら波（白）立つように舟の跡を残す表現。

比良の山風により花が散った湖面を舟が航行する様子が、一面の白色で彩られ幻想的な雰囲気醸し出す。色彩豊かな理知的な側面を引き出し、多くの歌集にも入集した歌である。

橋下花

宮内卿

一〇〇しなのぢや谷の梢をくもでてちらぬ花ふむきそのかけ橋

一〇〇番、橋下花の歌の意は「信濃路は、谷にある梢が蜘蛛手のように格子状になっていて、花が橋のようになって見える。まだ散っていない花を踏んで渡るようであるよ、木曾の架け橋は。」となる。

この歌は、『夫木和歌抄』「九四九三」に入集している。「しなのぢ」は、信濃路で、信濃国を通る道の意。

「くもで」（蜘蛛手）は、木や竹などを打ち違えに組んだ様子。格子。

「きそ」（木曾）は、信濃国の歌枕。木曾川上流域の山地で、後に中山道となる木曾路が通り、機内から東国への道筋であった。

木曾の歌枕を中心に、信濃路に咲く花を橋に見立て、その花の橋を踏むで谷を渡るといふ幻想的な歌になっている。

花下送日

宮内卿

一〇六住みなるる宿をかすみのほかにしていくな夜になりぬ花のしたぶし

一〇六番、花下送日の歌の意は「住み慣れている自分の家を霞（満開の花）が遠く空間と時間を隔ててどのくらいになったのであろうか、花の下で休んでいる間に。」という意になる。

「住みなるる」は、住み慣れている意。

くらまよりいではべりけるひとの月のいとをかしかりければくら

まのやまもかくこそなど思ひいでけるをききて 斎院中務

すみなるるみやこの月のさやけきになにかくらまの山はこひしき

（後拾遺和歌集 雑一 八五〇）

「宿」は、家、すみかななどの意。ここでは自宅。

「かすみのほかにして」の「ほか」は、①空間的・平面的に、ある範囲や区画・限界などのそとがわの部分。②ある場所以外のところ。『日本国語大辞典 第二版』の意味がある。ここでは、自宅を霞の空間的な外側に置くという意になる。「霞」を花に見立てれば、宮内卿は「花」が満開の場所にいることになる。その霞が自宅（宮内卿のいる場所）を隔てているということになる。

「花のしたぶし」は、花の下で休む、または、花の下でくつろぐなどの意になるか。平安末期から鎌倉期に歌語として定着したものと思われる。

道命法師

よしの山花の下ぶし日数へて匂ひぞふかき袖の春風

（新後拾遺和歌集 春下 八四）

「霞」を花に見立て、自宅との空間を隔てた幻想的な世界の中で時間を忘れ、桜を眺め、くつろぐという何か絵画の世界を思わせるような歌になっている。

庭上落花

宮内卿

一一二名残には花のみ庭の物とみる心はのこせはるのやま風

一一二番、庭上落花の歌の意は「春の山風が吹き去った名残として、庭には花びらだけが残されている。どうか、花を慕い想う心は残してくれ、春の山風よ」となる。

「名残には」は、春の山風が吹き去った名残の意。ここでは、用例にもあのような、花を散らしてしまった風の名残を表現している。

亭子院歌合歌

つらゆき

さくら花ちりぬる風のなごりには水なきそらに浪ぞたちける

（古今和歌集 春下 八九）

「こころはのこせ」の「こころ」は、花を慕い想う心の意。用例にも上げたように、ここは、散った花に対する想いを表現している。言わば、春の山風を擬人化したような表現である。

やよひのつごもりの日、花つみよりかへりける女どもを見て

よめる みつね

とどむべき物とはなしにはかなくもちる花ごとにたぐふこころか

（古今和歌集 春下 一三二）

紫式部

よのなかをなになげかまし山ざくら花みるほどのこころなりせば

（後拾遺和歌集 一〇四）

春の名残として庭に残る花びら、その花を散らした春の山風に対して花に

対して花を慕う心を残せと擬人化して詠まれた歌になっている。

暮春惜花

宮内卿

一一八暮れて行く春のかたみはこれのみと惜むにつけてつもる花かな

一一八番、暮春惜花の歌の意は「時が経ち、春が暮れていく春の形見はこれだけであるかと……、花を惜しむ気持ちが増すように地面に積み重なっていく花びらであるよ。」となる。

「春のかたみ」、「かたみ」は、過ぎ去ったものを思い出す種となるもの。思い出のすが。記念。なごり。などの意なので、ここでは、地面につもる花びらを指す。用例に上げたように、花びらを春の形見として用いる例は和歌の中で散見できる。

わがやどのやへ山吹はひとへだにちりのこらなんはるのかたみに

(拾遺和歌集 春 七二)

「つもる」は、上へ上へと物が積み重なる意がある。雪や塵の作例が多く見られる。ここでは、花びらが地面に積もる意。また、春を「惜しむ」気持ちも積もる意もここでは掛けられている。

また、「つもる」は用例にも上げたように、時間などと掛けて積み行く表現に用いることが散見できる。

鳥羽殿におはしましけるころ、常見花といへる心ををのこどもつ

かうまつりけるついでに、よませ給うける 白河院御製

さきしよりちるまでみれば木のもとに花も日かずもつもりぬるかな

(千載和歌集 春下 七七)

暮れゆく春への惜別の念を桜の花びらによせて、詠まれた歌になっている。「つもる」は和歌の中では、雪や塵などを取り合わせて詠まれることが多いが、花と取り合わせることで惜別の念を一層強くしている。また、「つもる花かな」という表現は、絵画の世界を思わせる色彩豊かな表現でもある。

四、おわりに

『仙洞句題五十首』に入集している後鳥羽院宮内卿の和歌、「花」の題二〇首について考察してきた。

『仙洞句題五十首』は、建仁元年七月に和歌所が設置されて直ちに後鳥羽院と藤原良経の間で企画された歌合である。それ故に『新古今和歌集』を強く意識していることは言うまでもないが、「花」の題に配された宮内卿歌二〇首中、次の二首が『新古今和歌集』している。

あふさかや梢の花を吹くからに嵐ぞかすむ関の杉むら
花さそふひらの山風吹きにけりこぎ行く舟の跡みゆるまで

ともに「花」をモチーフにした色彩感覚の豊かな歌である。

特にこの二首は、「関の杉むら」の緑、「舟の跡」の湖面の青緑と和歌の中に白と対照的な色彩を入れることで奥深い空間を醸し出しているとともに、自然詠というよりは、絵画的で幻想的な詠みぶりが評価されたと考えられる。『新古今和歌集』入集歌の一つの特徴ともいうべきものであるが、宮内卿もそうした表現形式を積極的に取り入れていたように思われる。

また、自然詠ではない幻想的な構図を用いた表現の和歌としては、

- ① たづねかねふもとにさかぬ花の色を梢にやどす嶺の白雲(二一番)
- ② 見わたせばふもとばかりにさき初めて花もおくあるみよしの山(二七番)
- ③ 庭の面を花にやつしておのれ又朝ぎよめする山嵐のかぜ(二三番)
- ④ へだてつる霞はよそになりはてて花にこもれるしがの山里(三五番)
- ⑤ 行く水のそこにやどれる花の色をやがてなにおふ白河の里(五九番)
- ⑥ 花といへば猶み山木の梢まで風をへだつる心ありけり(六五番)
- ⑦ 暮れぬとて人のみいづる山路かは花も今はとねにかへるなり(七一番)
- ⑧ 花にふる日数をしらずけふとてや故郷人の我をまつらん(八九番)
- ⑨ しなのちや谷の梢をくもでてちらぬ花ふむきそのかけ橋(一〇〇番)
- ⑩ 住みなるる宿をかすみのほかにしていく夜になりぬ花のしたぶし(一〇六番)
- ⑪ 暮れて行く春のかたみはこれのみと惜むにつけてつもる花かな(一二番)

の一首の和歌が上げられる。この中では擬人法や見立て、歌枕の伝統的なものを用いた物語性をもった和歌が詠まれている。

二〇首の中で半数以上が自然詠とは異なる幻想的な和歌を詠んでいるのは、『新古今和歌集』を強く意識していることがうかがえる。これは当然の事ではあるが、こうした現象は、新古今時代の和歌を詠む上での表現上の大きな特徴の一つであったことがわかる。また、新古今歌壇では他の勅撰和歌集には見られない大きな変化や指向が歌壇の中で歌人に共有されていたとも考えられ、宮内卿は御子左家歌壇の中にあり、それを忠実に体言していたことを意味しているように考えられる。

『仙洞句題五十首』中の宮内卿歌は、新古今時代の歌壇に則った和歌を多く詠んでおり、宮内卿らしさが凝縮されたものになっていた。

以上、拙い考察と和歌の解釈であったが、今後も、『仙洞句題五十首』中の宮内卿歌「月」題二〇題、「寄物恋」一〇題を丁寧に見直し、『仙洞句題五十首』中の宮内卿歌についての全体的な評価についても考察を進めていきたい。

注

- 1 新編国歌大観「仙洞句題五十首解題」による。
- 2 新日本古典文学大系『古今和歌集』二五頁、二三番在原業平歌脚注に拠る。
- 3 久保田淳・馬場あき子編『歌ことば歌枕大辞典』「志賀」三九七頁に拠る。
- 4 新日本古典文学大系『古今和歌集』四五頁、素性法師歌脚注に拠る。「なげとは無の字なり」(延五記)に従う。とある。
- 5 『仙洞句題五十首・水無瀬殿恋十五首 全注釈』三三頁。本歌の解説でも指摘されている。
- 6 久保田淳・馬場あき子編『歌ことば歌枕大辞典』「石上」九四頁に拠る。
- 7 久保田淳・馬場あき子編『歌ことば歌枕大辞典』「白川」四三七頁に拠る。
- 8 新日本古典文学大系『新古今和歌集』五四頁、宮内卿歌脚注に拠る。

参考文献

- 石川一氏編者『仙洞句題五十首・水無瀬殿恋十五首 全注釈』(二〇二〇年二月二八日 勉誠出版)
- 有吉保氏『新古今和歌集の研究統編』(一九九六年三月一日 笠間書院)
- 奥野陽子氏「纂輯後鳥羽宮内卿歌集稿」(『王朝』第三冊 一九七〇年一月一五日)
- 有吉保編『和歌文学事典』(一九八二年五月二五日 桜楓社)
- 久保田淳・馬場あき子編『歌ことば歌枕大辞典』(一九九九年五月二日 角川書店)

A Discussion on the Waka Poem by Gotoba-no-in-Kunaikyo in *Sendō Kudai Gojishshu* from Flowers

Hiroaki NAMBA

Gotoba-no-in-Kunaikyo (後鳥羽院宮内卿) was born and died at an unknown date. She entered the Go-Toba-in Imperial Poetry Club around the age of 16. She was highly acclaimed as a waka poet of the Shin-Kokin period, tracing her poetry composition activities reveals only four years of composition activity from 1200 to 1203 AD. Her waka poems, which were under the influence of the Shin-Kokin period, are characterized by a rich sense of color.

The *Sendō Kudai Gojishshu* (仙洞句題五十首) is a poetry contest organized by Emperor Gotoba no-in (後鳥羽院), consisting of fifty poems. It is presumed that the poems were submitted sequentially starting in September of the first year of the Ken'nin first year (建仁元年 1201), and that the results were announced in December of the same year.

The *Sendō Kudai Gojishshu* is a poetry contest planned immediately after the establishment of the Waka Office in July of the first year of the Ken'nin first year between Emperor Gotoba-no-in and Fujiwara-no-Yoshitsune (藤原良経). The themes comprised fifty subjects: twenty on “Flowers,” twenty on “Moon,” and ten on “Objects of Longing.” The themes were primarily drawn from the sections “Spring,” “Autumn,” and “Love”—the sections with the most poems in the eight imperial anthologies—and each poet composed fifty waka poems on each theme.

Furthermore, the *Sendō Kudai Gojishshu* comprises a total of three hundred waka poems, twelve of which were included in the *Shinkokin Wakashū* (新古今和歌集). This makes it a highly unusual poetry contest for its time.

Within the *Sendō Kudai Gojishshu*, Gotoba-no-in-Kunaikyo composed fifty waka poems. This study will focus primarily on the twenty poems composed on the theme of “flowers”.

「英語 A」「英語 B」2 科目連携による英語指導 —自律的な学習者育成を目指して—

熊谷健* 熊谷由里子*

(2025 年 11 月 28 日受理)

1. はじめに

21 世紀の国際化が進む中、日本においても英語力が求められることが多くなっている。具体的な一例として、高等教育機関在学中に、TOEIC 等の英語の試験で一定の点数を取ることが、進学先あるいは就職先から求められるようになっていくことが挙げられる。しかし、日本の高等教育機関に所属する学生のうち、外国語専攻の学生以外の学生が外国語学習に割く時間は多くない。忙しいカリキュラムの中では特に、限られた時間で最大の利益を生み出したいという学習態度が多く見られるようになっていく。短時間で労力をかけないで外国語が身につく方法は基本的にないため、その結果、学習意欲が欠如したままの学生が多く見られるのが今日の日本の現状¹⁾である。

こういった状況を打開するために、日本の高等教育機関に所属している英語教員は様々な工夫をしている²⁾。学習者の特性に適した教材選び及び授業の工夫、学習方法及び学習教材の開発、LL やラーニングコモンズの設計、学びやすいアプリ等のツールの導入、学習者自身が自分の学習過程を把握することができるように設計したポートフォリオの導入、TA 制度の整備、学校行事として TOEIC 試験を行うほかスピーチコンテストやプレゼンコンテストへの参加指導など、自律的に英語学習をする学生を一人でも増やそうとする工夫が実施されている。

本稿は、以上のような現状の下で、令和 7 年度に開講された群馬工業高等専門学校本科 2 年対象の必修科目「英語 A」「英語 B」において、2 科目の授業を連携させ、自律的な英語学習者の育成を目指した取り組みの実践報告である。第 2 章において背景と目的について述べ、第 3 章において 2 科目で共通に導入している「記号づけ」の概要を説明し、第 4 章で「英語 A」、第 5 章で「英語 B」における 2 科目の授業実践を述べ、第 6 章において考察を行う。

群馬高専において、「英語 A」は英文読解を中心とする

科目であり、「英語 B」は英文法理解を中心とする科目であるため、読解や文法解釈といったスキルが個別に学習されがちである。令和 7 年度に開講された本科 2 年生対象の「英語 A」「英語 B」の 2 科目において、筆者たちは共同研究^{3) 4) 5) 6)}において検討してきた「記号づけ」の利用による統一的な英語学習アプローチを用いた指導を行った。今年度は 2 学年の「英語 A」を熊谷健が担当し、「英語 B」を熊谷由里子が担当している。両者とも「記号づけ」を道具として英語を効果的に教える工夫を長年実施してきており、その実践が学生の英語力増強に還元できることを切に願っている。

2. 背景と目的

まず、本校における該当英語 2 科目に関して長年指摘されてきた課題について述べる。この英語科目について簡単に述べると、「英語 A」は英語で書かれたストーリーを読みながら英語の学習項目を勉強する科目であり、平成 13 年度までは「英語講読」と呼ばれていた。一方、「英語 B」は文法を中心とした科目であり、「英文法・作文」という名称であった。高専では本科生 1 年から 3 年までが高校生の年齢に該当するため、本校は「英語 A」では 3 年間検定教科書を使用している。「英語 B」は、以前、高校で学ぶべき文法項目を 1 学年と 2 学年の 2 年間で学ぶ形式を取っていた。そのような形態では、1 学年において関係詞や仮定法を扱わず問題があった。さらに、1 年目で半分の内容を学習し終えたことになるが、2 年生になる春には学習したはずの内容を忘れていくという問題も生じた。そこで、高校で習うべき文法項目の大半を 1 年目で終わらせて、2 年目はテキストを代えて、基本的には同じ内容の文法項目を学び直す形式に変更した。2 年間で終えていた内容を 2 度繰り返して学習することで学習効果を上げようとした試みである。具体的には約 50 単元の文法テキストから、25 単元ぐらいに圧縮されたテキストを使用し、2 年目はテキストと担当者を代えて、ほぼ同じ内

容を学習させることとした。教えている側からすると、この形式の方が効果的であるように感じられる。文法の学習項目が検定教科書の学習項目の順番と連動するようになったのもメリットの一つである。

また、本校では以前から、講読と文法の2科目の連携の難しさが認識されていた。文法を学び、その学んだ文法知識を利用した上で、英文の講読をすることが望ましいのだが、教師間の連携が必ずしもうまくいかない状況も生じた。その課題への対応策として、平成14年度、この2科目を統合し、1人の教員が講読と文法を扱う「総合英語」という科目に変更した。ところが、今度は別の問題が生じた。本校は1学年が5学科で構成されており、平成18年度から1・2年が混合学級の形態を取っている。英語講読と英文法が分かれている状況では、学年5クラスを横並びで同一教員が担当するのが一般的であるが、2科目を統合した形の「総合英語」は、持ちコマの関係上、複数の教員で担当することになる。つまり、2人の教員の均一性が要求される。教員間の連携の度合いが高くないと、クラス間で不自然に平均点が違ってくる。それまで以上に教員間の連携が要求される状況が生じたが、必ずしもうまく行くわけではなかった。この問題を解決するために、講読と文法の統合を解消する必要があると感じる教員が多数を占め、結果的に、平成26年度に元の2科目形式に戻ったのが今の状況である。

3. 「英語A」「英語B」を統合する「記号づけ」

今年度「英語A」「英語B」の2科目で使用している「記号づけ」は、岐阜大学名誉教授寺島隆吉氏が考案した記号づけ⁷⁾を筆者熊谷健が改良したもの^{8) 9)}を採用する。

(1) 記号づけ

- a. 名詞・代名詞に下線を引く。
- b. 時制動詞を丸で囲む。時制を含む助動詞は左半丸。動詞は右半丸。
- c. 前置詞句を()で括る。
- d. 等位接続詞に二重下線を引く。
- e. 従属接続詞を四角で囲み、従属接続詞に導かれる節を[]で括る。
- f. 叙述用法の形容詞に波下線を引き、下にCと書く。

この「記号づけ」を基本として使用し、5文型分析を徹底させ、英文構造を適切に理解することを目指している。文型分析においては、S (subject), V (tensed verb), O (object), C (complement)に加えて、必要に応じて、M (modifier)の概念も導入している。「記号づけ」と5文型分析を融合させるのがこの指導方法の特徴でもある。さらに、Cとなる要素として、名詞に加えて、叙述形容詞が

理解において重要であるので、近年は(1f)のようにCとなる叙述形容詞に波下線を引かせることにしている。

現2年生は昨年度からこの「記号づけ」を活用している。授業初期から記号分析を導入し、英文に品詞や構文要素の記号を付与させた。文構造を視覚的に把握できるため、学習者は自身の理解不足に気づきやすく、指導者も理解状況を迅速に把握できるのが利点である。

このような「記号づけ」を解説しているサイトがある。記号づけが分かりやすく説明されているので、以下のURLも参照されたい。

【ボイボ解説】記号付けと英文法(1) 記号付けとは

<https://www.youtube.com/watch?v=RIVFmvy7ERg>

【ボイボ解説】記号付けと英文法(2) 長文読解【修正版2】

<https://www.youtube.com/watch?v=ptTx5ia6IKw&t>

(令和7年11月28日閲覧)

4. 「英語A」の指導内容

第2章で述べたように、「英語A」はかつての「英語講読」である。英語で書かれたストーリーの中にさまざまな学習項目がちりばめられている。そのすべてを学習することはできないので、重要ポイントを繰り返し学習できるように配慮している。また、学生一人ひとりの学習活動が重要であるので、その学習活動が順調に行われているか、日々チェックしながらの授業デザインである。英語で書かれたストーリーを毎回適量のプリントに組み替え、学生が予習しやすいような工夫をしている。使用検定教科書は『Vivid』¹⁰⁾である。辞書を頼りに各英文に対して「記号づけ」をさせ、和訳を付けさせ、5文型分析をさせる。さらに、語彙を覚えてもらうために、『語源で英単語』¹¹⁾を使用し、英単語の内部構造に注目しながら、接頭辞・語根・接尾辞が学べるように指導している。英語学習において語彙教育は欠かせない。しかし、近年、辞書で調べる能力が低下していると感じられる。授業で毎回英和辞典を使う機会を設けており、辞書を忘れた学生には貸し出し用の辞書も準備しているが、辞書が引けない学生が多い。Google翻訳やChatGPTなどに代表されるAI技術の進歩により、辞書を引く労力を惜しむ傾向が見られる。自分の辞書を引き、ノートに書き込みながら英語を覚える作業は実質的英語力増強には欠かせないため、辞書を引かせ、ノートを取らせる指導を根気強く繰り返している。上記のプリントは毎回提出であるが、ノートは試験ごとに集めて学習状況をチェックしている。毎回のよう「小テスト」を実施している。5文型分析が5問、単語問題が4問、前置詞問題が1問の、合計10点満点である。自学自習が地道にできている学生はこの方法に従ってどんどん力を付けていく。全員がそのような状況になることを目指しているが、実際にはうまく行か

ないことも多い。

2年「英語A」を担当している筆者は昨年度1年「英語B」を担当し、文法のテキストは『総合英語 be 4th Edition: English Grammar 26』¹²⁾を使用した。「記号づけ」と基本文型の理解を徹底させること、英単語の構造に目を向け、接頭辞・語根・接尾辞を意識しながら語彙力を付けていくこと、リスニングとスピーキングのための基礎として、発音指導を繰り返すことを意識した。これらの基礎力を元に、今年度は「英語A」によって総合的な英語力の育成を目指している。その点で、本稿で述べる「英語B」との連携はさらにこの方向性を強化しているものである。

最近の学生を見ていると、中学校時代において、文法的なものや法則的なものの学習があまりなされていないようである。その中での「記号づけ」と5文型分析は学生にとって驚きにも近いものがある。音声指導に至っては言うまでもない。何度も英文を読ませられることもなかっただろうし、英語の発音指導を受けたこともないであろう。授業で語彙教育や音声指導をする余裕もないのかもしれない。辞書はもちろん使えない。中学校で使った経験もないのであろう。そんな中での高専英語教育のスタートであれば、「記号づけ」や5文型分析は学生にとって一見ハードルが高すぎるようにも思えるが、1年生で始めて2年目となると、法則的なものの学習に慣れてくるようにも思う。教授者としては、なるべく新しい概念と思われるものをインパクトが強く感じられるように導入するように配慮している。そのため、あえて専門用語を避けることもしない。本稿で後ほど解説する分詞構文および独立分詞構文についても、また関係代名詞がそのペアとなる前置詞と示す「前置詞随伴」や「前置詞残留」なども同様である。さらに、音声指導に関しては、「英語は連音・脱落・同化の繰り返しである」と称して、それぞれの音声現象を説明し、日本人にとって致命的な英語の子音連続に関しても、例えば、「鼻腔開放」「側面開放」などの現象は専門用語を避けることもせずに導入した方が学習効果が上がるように感じられる。分詞形容詞を扱う際も、分詞の後置修飾とも連動させ、「分詞は形容詞化する」というルールを導入している。これらの実践と効果については別の機会において検証が必要であるが、難しそうな様々な技を簡単に覚えながらゲームをクリアしていく最近の学生たちにとって、そのような技の名称を覚えることは難易度が高いようには見えない。むしろ、効果的であるように思う。

「記号づけ」に加えて、連音や脱落の記号づけを提示して英語学習を誘導すれば、やる気がある学生にとって、どこまでも英語力を上げていける時代でもある。ネット解説を見ることも用意にできるし、音声教材はいくらで

も入手できる。授業では可能な限り重要ポイントに絞って、そのような文法指導と音声指導、さらに語彙指導を繰り返し行っている。

以下では「分詞は形容詞化する」というルールとして導入している分詞形容詞、分詞の後置修飾、さらには「分詞は形容詞化する」の例外であると思われる分詞構文、そして、分詞構文の例外であるように思われる「独立分詞構文」に対して、記号づけを活用した授業実践として紹介する。

4.1 分詞形容詞（単語レベルの形容詞化）

以下の用例は中学校でも学習する現在分詞と過去分詞のペアである。

- (2) interesting/interested, exciting/excited,
surprising/surprised, tiring/tired

中学校では上記のような形容詞を動詞由来であることを認識させていないようである。特に、他動詞由来の分詞形容詞の理解に戸惑っている学生が多い。また、進行形なのか、分詞形容詞なのかの判断も曖昧なことが多い。

今回、「英語A」で扱った英文は以下のものである。

- (3) The future (of drones) will certainly be promising and exciting.

C

現在分詞 promising, exciting は動詞が分詞として使われており、「分詞は形容詞化する」の規則通りに、この場合、叙述用法 (C) となっている。分詞は右半丸であるが、この法則により、学生には波下線を引かせ、進行形ではなく、Cとなる形容詞であることを意識させる。これによって、「be 動詞と現在分詞」のペアを一つの○で囲む進行形との視覚的な差別化が明確となる。

4.2 分詞の後置修飾（句レベルの形容詞化）

次に、「分詞は形容詞化する」という規則を句のレベルまで拡張した例を示す。今回、「英語A」で扱った英文は以下のものである。

- (4) This can hurt people walking (on the street).

この場合、「分詞は形容詞化する」のルールが単語レベルから句レベルまで拡張している。現在分詞 walking が修飾語句 (M) on the street を従えて、動詞の性質を保ちつつ、名詞 people を修飾する形容詞の働き（矢印は修飾を表す）を兼ね備えている。分詞は動詞と形容詞の役割を分け持つ「分詞」という性質を如実に反映している。

この 4.3 節では分詞構文の指導について述べる。分詞構文は副詞的に使われるので、上記の分詞形容詞や分詞の後置修飾からすると、「分詞は形容詞化する」の例外と思われる。例のごとく、なるべくインパクトの強そうな表現を用いて、分詞構文は「副詞節の劣化版」と呼ぶことにする。分詞構文については、現 2 年生は昨年度の「英語 B」において、次のように単純化して学習した。

(10) 分詞構文規則

①時制がない→②主語がない→③接続詞がない

つまり、分詞構文の指導は分詞である特徴をそのまま利用する。「記号づけ」において、分詞は右半丸を付ける。○になるためには、時制が必要である。準動詞である分詞は時制がなく、左側が欠如していることから、「本来分詞の左側にあるべきもの」が連動して省略される。つまり、時制と主語の両方がないので文になっていない。それゆえ、さらにその外側に出てくるはずの接続詞もない。この三点セットである。このように分詞構文規則は分詞、つまり、右半丸であることから、①→②→③が自動的に導かれる。

次の用例 (11) は教科書からの例である。

(11) Feeling tired, I went (to bed) early.

分詞構文は副詞節の劣化版であり、省略構文であるから、以下のように省略されている部分を復元することもできる。復元は主節を見ながら行くと指導する。

(12) [Because] I felt tired, I went (to bed) early.

記号づけをさせながら指導することになるが、(11)の主節は過去形 went であり、分詞 Feeling は (12) において過去形 felt となる。つまり、主節と一致しているから時制が省略されたのである。主語 I も主節から復元し、文と文を結ぶ接続詞は文脈から判断するよう指示する。意味的に判断し、この場合 Because を補うことで、副詞節が完成する。「記号づけ」で分詞が右半丸であると理解できれば、それ以外は自動的に付いてくる。分詞構文規則 (10) を①②③の順番に復元していけばいいだけである。授業内では「分詞構文がなんとなく分かるようになってきた人？」と言いながら、手を上げさせる。学生は恐る恐る手を上げるが、説明の度に手を上げる人数が増えていく。

次に、学習の難易度を上げて、独立分詞構文に入る。独立分詞構文は比較的難しい構文であると認識されているが、上記からの流れで考えると、それほど難しい構文でなくなる。分詞構文は分詞が時制を欠いていることで、また、「記号づけ」では右半丸であることから、(10)の「①時制がない→②主語がない→③接続詞がない」が導かれる。独立分詞構文はこの分詞構文のルールのうち、「②主語がない」の例外であると考えられる。ここで、授業で使っている『語源で英単語』からの用例 (13) を見てみよう。

(13) I will play golf tomorrow, weather permitting.
②? ← ①

分詞構文の規則に従うと、①「時制がない」により、②「主語がない」になるはずが、「主語みたいなもの」が存在している。学校文法では時制がないと文と認定されないで、現在分詞 permitting の左に出現しているのは主語ではなく、「意味上の主語」と呼ばれる。②の部分が例外的になっている。記号づけすると、上記のように、セン○セン M, セン右半丸となる。

授業の説明は (14) のような流れとなる。

(14) 「分詞構文は分詞であるが故に、①時制がない。permitting」には時制がない。従って、②主語がない。はずである。ところが、weather という主語みたいなものがある。これが主語であれば、セン○で「文」になりそうである。「天気は許す」というつながりは、意味的には文だよ。でも、時制がないので、(学校文法では) 文にならない。じゃあ、weather は主語ではないの？ 実はこれを「意味上の主語」と呼ぶ。主語ではない。でもやはりごまかしのようだね。このように、主節の主語と分詞構文の「意味上の主語」が一致していない場合、主節とは独立した「意味上の主語」を残し、「②主語がない」の例外のようにになっている構文を独立分詞構文と呼ぶ。」

黒板に用例と記号づけをしながら、このような説明をするわけであるが、果たして理解できるだろうか？ 疑問人もいるかも知れない。準動詞の理解はどのような方法をとっても難しいものであるが、記号づけが有効に働くことが観察される。別の指導環境において追試してもらいたいと願っている。

さて、ここで、分詞構文の復元で見たように、独立分詞構文を復元する。独立分詞構文から、①→②→③の順番に副詞節を復元すると、以下のようなになる。

(15) I will play golf tomorrow [if weather permits].

さらに、今回の2科目連携が効果的であると、筆者が感じた例を取り上げる。今年度「英語B」で学生たちが学んだ用例も見てみよう。テキストは『総合英語 be 4th Edition: English Grammar 30』¹⁴⁾ である。

(16) a. The man left his car (with the engine running).
b. He listened (to me) (with his eyes closed).

「英語B」で学生たちが理解したばかりの、これらの例に見られる付帯状況を表す with という前置詞は独立分詞

構文と相性がいい。この構文は「with +O+C」と捉えることもできる。前置詞 with と「文もどき」(OC)の「コラボ企画」となっている。ここで、前置詞 with の代わりにコンマ(,)を使用すれば、上記で見た独立分詞構文そのものである。

- (17) a. The man left his car, the engine running.
 b. He listened (to me), his eyes closed

独立分詞構文は分詞構文と同様「副詞節の劣化版」であるが、このように見てくると、付帯状況を表す前置詞 with は、③の「接続詞がない」部分を補っていると言える興味深い構文である。

以上、4節では「分詞は形容詞化する」という法則を前提に、単語レベル(分詞形容詞)から、句レベル(分詞の後置修飾)に説明を拡張させる授業実践を紹介した。「記号づけ」と連動させて学生の理解が進むと、分詞の後置修飾の理解が関係節の理解にもつながる可能性も指摘した。分詞の後置修飾は「関係節の劣化版」(限定用法)といえるからである。また、それに対応して、分詞構文は「副詞節の劣化版」と位置づけることで学生の理解を助けるように思われる。

5. 「英語B」の指導内容

令和7年度に開講した、本科2年生対象の「英語B」では、主に文法に焦点を当てることが意図されており、「英語A」で採用した検定教科書に合わせた『English Grammar 30』¹⁴⁾を使用し、『English Grammar 30 Workbook』(いづな書店)¹⁵⁾も併用した。

「英語A」同様、記号を用いた文構造分析を授業における活動の柱とし、「考えさせる授業」を展開しつつ、教室を自由に移動し、「教えたり教わったりするアクティブ・ラーニング」のアプローチを取っていることが特色である。自由に移動させると学習者が雑談をしてしまう等の懸念が起こると思われるが、ほぼないのが実情である。学習プロセスが明確であり、時間内に「記号づけ」による文解釈を終えないと次の暗唱練習に入れないからである。暗唱も一人で暗唱してはいけないことにしており、必ず2人以上で暗唱させる。「英文の構造分析をして、日本文を見ながらその理解した英文を再生する(暗唱する)サイクル」を徹底させており、通常それで授業時間は終わってしまう。ここでの暗唱は、音楽で言ういわば合唱になるため、学習者が笑顔になることを挙げておきたい。「英語B」の具体的な授業内容は以下の通りである。

5.1 「記号づけ」読解法で文の構造把握をさせる指導

初めに当該授業における文法重点項目を解説し、「英語

A」と共通の「品詞ごとの記号を用いるアプローチ」を用いて文の構造理解を促す。具体的には、一斉授業のスタイルで重点項目の説明をした後、記号づけに入らせる。教科書の本文や練習問題の英文を全て元の英文に戻してプリント化し、学習者にそのプリントに直接書き込ませながら、できる限り多数の英文に記号を付けさせることで、文構造の把握を促していく。「英語B」においては、通常、問題演習が授業の中心になることが多いが、完全な英文を一文でも多くインプットさせることに焦点を当てたと言える。「記号づけ」読解法は同時並行して行われている「英語A」でも使うため、「英語B」学習者の抵抗が少なく、構造を把握できた英文の数が毎週増えて行くが、そのことは英文に記号を付けていることで学習者も自覚できる。英語の語順や特性、つまり英文法に関する知識が不十分だと記号は付けられず、結果として英文構造の分析・把握ができていないことが分かるからである。

5.2 グループによる協働学習

個人で「記号づけ」読解をさせていると、理解が及ばない箇所が明確化するため、次に「2名以上で」自由にグループを構成させ、記号が一致するまで議論させる。教室を自由に移動して良いことにすると、普段の付き合いがグループ形成に影響を与え、議論しやすいメンバーが自然に集まっている。記号の付け方即ち英文の分析について説明したりされたりしながら、学習者は文構造の理解を深めていく。グループで特定の学習者だけが説明役ばかりすることはなく、項目ごとに理解した方が解説をしていることが観察される。特に後期で扱う学習項目は、英語らしい特徴を持つ文法事項、つまり日本語話者にとっては理解しにくい項目が多く、後期になってますます、グループ内で質問が飛び交い活発に議論がなされた。グループ全員が分析できない場合は教員に質問することになるが、他のグループに質問を持って行き、2グループが協働して学習していることもある。

5.3 「アクティブ・リコール」による暗唱で定着を図る

「記号づけ」による分析が一致し、文の構造把握ができたグループは、次に、日本語を手がかりに英文を再生する暗唱活動に移行する。「アクティブ・リコール」¹⁶⁾という手法を応用しており、黒板に書いてある日本語の文章を見ながら学生は英文を声に出して再生する。「積極的に思い出す」という行為を繰り返すことで記憶が強固になることは知られており、グループ全員で声をそろえて教員に向かって暗唱を実演するよう指導している。グループによる暗唱が一定のレベルに達し教員に承認されると、授業における学習プロセスが終了となるが、複数で調子を合わせることは容易ではなく、何度も繰り返さな

ければ合格できない。構造を把握できた英文を暗記することは、基礎段階では特に効果の高い学習方法であるが、複数で合唱のようにリズムや呼吸を合わせようと練習することで自然に反復回数が確保され、結果として定着を後押しした。

6. 考察

以上、群馬工業高等専門学校のカリキュラムで個別に設定されている「英語A」「英語B」の2科目の指導を連携させて本科2年生を指導した内容について述べた。この実践によってもたらされた結果について考察を行う。

本来、個別に、週に1度90分の授業において約40人を指導する2科目で、同じ記号を用いた指導を行ったことで、即ち週に2回、統一した指導法で、主語・動詞・目的語・補語といった文構造を構成する各要素への理解を深めさせながら英文構造を分析させたところ、学習が分断されず、文構造を把握する力が身につく、英文の理解度が上がったことが観察された。近年の日本人英語学習者は、知っている単語の意味のみをつなぎ合わせ英文の意味を取ってしまう傾向、つまり語順によって意味を伝える英語の構造を意識しない傾向にあるが、英文の構成要素を把握できた学習者は、英語の語順に意味があることや、動詞によって文法が決定されていく英語らしさに習熟して行き、いわゆる「英語が読める」状態に近づいていく。令和7年度に開講された「英語A」「英語B」を受講した本科2年生は、ほぼ全員が「どうやって英文を読むか」を理解し、1年を通して繰り返し英文分析をしたことで、学習方法を獲得し、自律的英語学習者への道を歩んでいる。

さらに、英文に記号を付けることによって理解の過程が明確になることが大きな効果を生み出すことも観察された。学習者が英語を勉強する際に自分の弱点に気づきやすくなったことが大きな利点である。同時に、指導者も「記号づけ」を通して、学習者一人ひとりの理解状況を即座に把握できるため、どこで理解が阻まれているか把握することが簡単になり、英語指導が行いやすくなった。記号を付けさせたことで英語理解の過程を視覚化することができ、学習者が具体的なつまづきを発見できるようになったことが大きな成果であった。学習者の感想を聞くと、「自分は英語ができない」という漠然とした評価が消え、「後置修飾が理解しにくい」「関係詞はおおよそ分かったが、非制限用法が理解できていなかった」など、具体的に理解できない箇所を挙げるコメントが増えたことからこのことが分かる。学習者が、自分の理解が及ぶ箇所と及ばない箇所が把握できると、あまり躊躇せず質問できるようになり、令和4年度施行の学習指導要領¹⁷⁾において文科省が言う「主体的な学び」をさせる

ことが可能になった。

2科目を連携させ一つの英語学習方法を提案できたことによって、自律的に英語学習に取り組む学生が増加した。「分析しながら発見した疑問点は解消するという姿勢」つまり文法的根拠に基づいた読解姿勢が身につく、英語学習が継続するようになったと言える。こういった自律的学習者が多く生まれ、継続した学習によって自信を深めたためか、外部試験への挑戦者も増えた。本科2年でありながらTOEICや英検に挑戦し、多くの学生が400～500点台を取得し、更なる高得点を目指し継続して勉強している。2025年11月に発表されたTOEIC協会のデータ¹⁸⁾によると、2024年度にTOEICを受験した高専生は15,023人（本科1年～専攻科2年）であり、平均スコアは386点であった。本科2年においてそれを上回る数値を達成した学習者が多く生まれたことから、自律的な学習者が育ったことが分かる。

本実践によってこういった成果が得られたが、課題も浮かび上がっている。学習者のモチベーションおよび学習力には個人差が大きく、特に「記号づけ」で英文分析をすることに抵抗感のある学習者にとっては活用しにくい学習方法であることが挙げられる。文科省は1990年代より英文法軽視・コミュニケーション重視の姿勢¹⁹⁾であった。その流れの中で小学校・中学校と英語を勉強してきた場合、発話された英語や書かれた英語を大雑把に捉える姿勢が身につくについており、分析しながら丁寧に読むことを教えるこの学習方法に大きく違和感を感じる学習者もいる。こういった学習者へのさらなる支援が必要である。そもそも中学段階の学習項目が把握できていないと積み上がらないため、今後は、学習者の習熟度に応じた個別支援を充実させ、誰もが自律的に学習を深められるように指導法の改善を検討していきたい。

参考文献

- 1) 鳥飼玖美子、荻谷夏子、荻谷剛彦：『ことばの教育を問いなおす―国語・英語の現在と未来』、筑摩書房、東京、2019。
- 2) 日本リメディアル教育学会（監修）：『大学における学習支援への挑戦 リメディアル教育の現状と課題』、ナカニシヤ出版、京都、2012。
- 3) 熊谷健、熊谷由里子：英語形容詞の指導―リメディアル教育の観点から―、『全国高等専門学校英語教育学会研究論集』第36号、pp.115-124、2017。
- 4) 熊谷健、熊谷由里子：英語副詞の指導―リメディアル教育の観点から―、『東京工業高等専門学校研究報告書』、第48号、pp.1-7、2017。
- 5) 熊谷健、熊谷由里子：英語名詞の指導―リメディアル教育の観点から―、『全国高等専門学校英語教育学会研

究論集』, 第 37 号, pp. 195-204, 2018.

6) 熊谷由里子, 熊谷健: 英語 to-不定詞の指導手順に関する一提言ーリメディアル教育の観点からー, 『全国高等専門学校英語教育学会研究論集』, 第 38 号, pp. 21-30, 2019.

7) 寺島隆吉: 『英語にとって学力とは何か』, 三友社出版, 東京, 1986.

8) 熊谷健: 学校英語教育における効果的な文法教育を求めてー「記号づけ」の活用ー, 『群馬高専レビュー』第 16 号, pp. 11-12, 1998.

9) 熊谷健: 効果的な英文法指導の実践記録ー「記号づけ」から基本文型へー, 『群馬高専レビュー』第 24 号, pp. 11-19, 2006.

10) 築道明ほか: 『Vivid English Communication II』, 第一学習社, 広島, 2022.

11) 清水建二: 『連想式にみるみる身につく語源で英単語【増補改訂版】』, 学研教育出版, 東京, 2015.

12) 鈴木希明(監修): 『総合英語 be 4th Edition: English Grammar 26』, いいずな書店, 東京, 2022.

13) 熊谷健: 「文もどき」ー用語の導入とその意義ー, 『言語研究の現在』, pp. 291-301, 開拓社, 東京, 2008.

14) 鈴木希明(監修): 『総合英語 be 4th Edition: English Grammar 30』, いいずな書店, 東京, 2022.

15) 鈴木希明(監修): 『総合英語 be 4th Edition: English Grammar 30 Workbook』, いいずな書店, 東京, 2022.

16) Henry L. Roediger, III, and Jeffrey D. Karpicke, The Power of Testing Memory: Basic Research and Implications for Educational Practice, Perspectives on Psychological Science 1 (3), 181-210, SAGE Publications, 2006.

17) 「高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 外国語」, 文科省, 2018.

https://www.mext.go.jp/content/1407073_09_1_2.pdf
(2025 年 11 月 28 日参照)

18) 「TOEIC Program DATA and ANALYSIS 2025」, 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2025.

<https://www.iibc-global.org/hubfs/library/default/iibc/press/2025/p284/2025DAA.pdf?hsLang=ja> (2025 年 11 月 28 日参照)

19) 鳥飼玖美子: 『英語教育の危機』, 筑摩書房, 東京, 2018.

An Approach to Teaching English Effectively at a Japanese College of Technology

Takeshi KUMAGAI and Yuriko KUMAGAI

This paper elucidates how to teach English effectively to engineering students at a Japanese College of Technology under the influences of generative AI. More students, particularly those of a technological college tend to employ generative AI when they study English in their busy academic schedule. What seems considered important in this era of generative AI is time-efficiency for those students who would like to acquire comprehensive skills of English with limited amount of time. This study questions how much time can be saved when learning foreign languages, by explaining an approach taken in teaching basic English classes to 2nd year students at National Institute of Technology, Gunma College in 2025-2026. This is not an approach to teach students a time-efficient way to learn English by using generative AI, but an effective way to do so by using ones' abilities to analyze English sentences. Using their abilities to analyze English sentences and to perceive them precisely, they proceed the path to become fluent in English with their knowledge of it built and integrated inside them.

Both authors employed this approach in teaching English to 2nd year students there in 2025-2026 English courses. “English A,” instructed by Takeshi KUMAGAI, is usually focusing on developing English reading skills while “English B,” instructed by Yuriko KUMAGAI, is focusing on having students master the basic grammar of English. Twice a week throughout the year, those students analyzed many English sentences on texts closely, using this approach, thus gradually acquired some level of English comprehension skills to read English sentences correctly and to produce English sentences decently.

First, we describe the purpose and background of this study. The next chapter explains the English teaching approach using “sentence analysis using symbols to distinguish part-of-speech in English sentences.” Chapters 4 and 5 describe the actual teaching methods used in “English A” and “English B” classes at the school. Finally, we analyze how this approach helped the students acquire effective English learning methods.

Some of the 2nd year students, mostly 16 or 17 years old, among the students provided this English study method have already taken the TOEIC, and many of them achieved high scores of more than 400. The average score all the Technological college students achieved in 2024 aged 15-22 is 386, according to TOEIC Association; This is the outstanding result of this approach after comparing the two figures.

群馬高専環境都市工学科における 令和7年度実践体験型PBLの取組

渡邊 祥庸* 幕田 早紀* 萩原 伊吹* 狩野 僚大*
狩野 一華* 宮本 和弥* 後藤 瑛介* 金井 一露*

(2025年11月28日受理)

1. はじめに

1. 1 PBL概要

PBL には、Problem Based Learning と Project Based Learning の2種類がある。Problem Based Learning とは、答えが一つでなく、かつ解き方が決まっておらず構造化されていない複雑な問題に対して、学習者が協調しながら理解したり解決したりするという能動的な学習方法¹⁾と定義される。一方、Project Based Learning は成し遂げなければならぬタスクや課題にチームで取り組む学習²⁾とされる。これは、能動的な構成、状況的学習、社会的相互作用、認知ツールの活用による学習の機会を提供することで、現代の激変する社会状況に対応する新しい能力の習得のために有効であるとされている。

日本国内においては、文部科学省が実施した工学教育改革制度設計等に関する懇談会とりまとめ³⁾の中で、工学教育が社会の多様なニーズに応えること、Society5.0を実現することなどを念頭に、工学系人材の育成について、次のような記載がある。

“教員の意識改革も含め、学生が主体的に学び、進路を選択していく環境を確立し、深い専門知識と幅広い分野の知識の修得を可能とする教育体制の構築が重要である。既に日本企業がパラダイムシフトに晒され、危機感を持つ今こそ、PBL (Project-Based Learning) や産学連携教育とその促進策を実行すべきである。ここで言う「PBL」とは、単に問題解決学習 (Problem-Based Learning) とするのではなく、産業界や行政等との連携プロジェクトや教育プログラムを通じて、実社会と関係した生きた課題や挑戦課題を対象とする実践的教育 (Project-Based Learning) と定義し、学生が達成感 (充実感) を得られる教育を重点的に導入すべきである。”⁴⁾

PBLは1960年代にカナダの医学教育で実践が始まったと言われている⁵⁾。その後、医学分野のみならず工学分

野にも拡大してきた。日本国内で工学教育に導入されたのは、1985年前後と推測される⁶⁾。前述したGraaffら¹⁾、Topら²⁾の事例と、文科省の見解事例⁴⁾でPBLの捉え方が少し違うように、PBL実践が始まって以降、その実態は各種取組主体の目的に合致するように、その在り方はマイナーチェンジを繰り返しているようである。

1. 2 他高専におけるPBLの取組み

高専における取組み事例をいくつか紹介する。小山高専では、学科横断科目としてライフサイエンスの授業を設けており、この中でPBLを取り入れている⁷⁾。講義とPBLを組合せた授業を実施しており、PBLではグループディスカッションとその報告会を実施している。福井高専では4年次の学際科目である「プロジェクト演習」や専攻科の演習科目である「創造デザイン演習」において5学科の学生が集まってチームを組み、Project Based Learningを実施している⁸⁾。この内容は、各チームが与えられたテーマに従って、実際に企業等に出向き調査聞き取りを行うことで課題を見つけ、解決策を提案するものとなっている。福井高専では、このPBLの取組と福井県の伝統工芸を融合させるとともに、ジュニアドクター育成事業とコラボレーションしている⁹⁾。鈴鹿高専では、将来的な他分野の知識の融合化を狙い、①本科5学科すべての教員が学生を受け持つこと、②学生は学科の枠を超えて研究テーマを選んでよい、のルールを設けた上で、学科横断型のPBLが実施されている。1,2,4,5年生に対してPBL型の授業が実施されており、低学年でも実施されているのが特徴である⁹⁾。

この他多くの事例があるが、上述の通り、それぞれの高専で学科横断型の取組や地域色を取り入れた取組がなされており、マイナーチェンジを繰り返しながら、PBLをより良い取組にブラッシュアップしているようである。

2. 環境都市工学科におけるPBLの取組

2. 1 PBLの取組概要

群馬高専環境都市工学科では、4年生の総合プロジェクトⅡの授業で半年間かけてPBLを実施する。総合プロジェクトⅡの授業は週に4時限（180分）設けてあり、基本的にはその中でPBLを実施する。令和7年度は37名の学生を6グループに分けて実施した。自治体や企業の職員の方々に各班のファシリテーターを務めていただき、課題設定やその解決方法に関するアドバイスをいただきながらPBLを実施した。令和7年度の授業内容を表-1、各班の人数およびファシリテーターの所属、課題一覧を表-2に示す。表-1に示す通り、PBLでの取組内容は中間発表会、最終発表会の2回発表することとした（図-1）。

授業内ではPBLを便宜的にProject Based Learningと説明しているが、答えが一つでなく、解き方が決まっておらず構造化されていない複雑な課題を設定し、チームで解決に取り組むという意味では、Project Based LearningとProblem Based Learningの複合型の学習と言える。この学習を通し、チームでのプロジェクト進行の方法や、答えの

ない課題解決のアプローチ方法、自らの考えを人に伝えるプレゼン方法について学ぶことを目的としている。

2. 2 PBLに向けた準備

PBLを実施するにあたり、ご協力いただく自治体・企業の方々への協力要請は、前年度の1月に実施した。令和6年度は7社協力いただいております。そのうち4社は引き続きご協力いただけることとなった。取組む課題によっては、現地調査などの課外活動が必要となる。そのため、一班当たりの人数は最大でも6~7名にすべきと考え、新規で2社協力要請を行い、ご快諾いただいた。

半年間のPBLの授業のうち、第1回授業はガイダンスを実施した。第2回授業ではファシリテーターの方々と接する上での留意事項を学生に伝えるとともに、メールの署名の設定や、メール文章作成時の留意点について伝える回とした。ファシリテーターの方々と接する上での留意事項は、以下の事項を伝えた。

- ・ 礼節をもった態度で臨むこと。
- ・ 挨拶をする、御礼を言う、適切に報告・連絡・相談すること。
- ・ ファシリテーターの方々は、本来仕事をするべき時間にみなさんの対応をしてくださっていること。ファシリテーターの方の自治体・会社も、本来であれば会社のために仕事をしてもらうべき時間を、みなさんのために充ててくれていること。これらを踏まえた上で、敬意をもって対応すること。

表-1 令和7年度のPBL授業内容

回数	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	ファシリテーターの方々と接する上での留意事項説明
第3回	プチプレゼン（グループディスカッション、プレゼン練習）
第4回	PBL① ファシリテーター合流
第5回	PBL②
第6回	PBL③
第7回	PBL④
第8回	PBL⑤
第9回	PBL⑥ 中間発表会
第10回	PBL⑦
第11回	PBL⑧
第12回	PBL⑨
第13回	PBL⑩
第14回	PBL⑪
第15回	PBL⑫ 最終発表会



図-1 本発表の様子

表-2 令和7年度PBLのファシリテーター

班	人数	ファシリテーター所属	課題
1	7	群馬県安中土木事務所	自動運転が支える未来の日本～移動の自由をすべての人へ～
2	6	佐田建設株式会社	建設業界のイメージアップと3Kの改善策
3	6	技研コンサル株式会社	群馬高専周辺の渋滞と解決策
4	6	アマネックス株式会社	土木業界の人手不足解消へ～アニメーションでイメージアップ～
5	6	株式会社特殊高所技術	点群データを用いた第2体育館の損傷の可視化
6	6	波多野調査設計株式会社	群馬高専の構内の交通について考える～安全なキャンパスを目指して～

- ・ 自分の発言・振舞いが相手にどんな印象を与えるかきちんと想像して発言・行動すること。

第3回授業では、グループディスカッションとプレゼンの練習をするために、プチプレゼンを実施した。プレゼンテーマは大枠として、「近年の自然災害について」、「近年のインフラ事故について」、「地方自治体のインフラの状況について」の3つを与え、各班でこれらに関連したテーマを設定するものとした。なお、第1回授業の際にこれらの大枠のテーマを伝え、第3回授業に向けた準備を進められるようにした。また、学生にはこのプチプレゼンの目的として、下記3点を伝えた。

- ・ チームでの活動の練習（役割分担、仕事分担など）
- ・ 課題設定⇒調査⇒分析、考察⇒まとめ作業の練習
- ・ プレゼンの練習として人にわかりやすく伝える、納得してもらう術を習得する

2. 3 PBL実施内容

第4回目授業より、ファシリテーターに合流してもらい、PBLを始めた。課題設定、解決へのアプローチは基本的にはファシリテーターの方々にゆだねることとし、教員はそのサポートを担当した。学外での調査等の活動も可能とし、課外活動届を提出した上で、学外での交通量調査、道路幅員の測量、施工中の現場見学など実施した班があった。

3. 令和7年度PBL実施内容の紹介

3. 1 1班の実施内容：自動運転が支える未来の日本～移動の自由をすべての人へ～

1班は、人口減少に伴うバス本数の減少に着目し、群馬高専の周辺地域を対象とし、自動運転の活用を前提とした新たなバス路線の提案を実施した。群馬高専近辺の現況バス路線を調査した上で、バスを待てる時間について群馬高専生を対象としたアンケート調査（図-2）を実施し、この結果を反映した計画バス路線を提案した（図-3）。路線の決定は、商業施設、公共施設、病院など、アンケート調査で得られた利用頻度の高い地点を効率的に結ぶように設定している。

この提案により、近隣住民の主要施設へのアクセシビリティの向上や、高齢者の免許返納を促進する安心・安全な地域環境の構築、そして交通事故リスクの低減といった効果が期待される。詳細は、添付資料-1を参照されたい。

3. 2 2班の実施内容：建設業界のイメージアップと3Kの改善策

2班は、建設業における慢性的な人手不足を主要課題として設定した。この取組みでは、建設企業における若手社員の視点から、業界イメージの変化および働き方に関する実態を把握し、その改善策を検討することを目的とした。調査対象として、ファシリテーターが勤務する佐田建設株式会社の入社3～5年目の社員を選定し、入社前後の建設業に対するイメージの変化、近年の現場作業における業務内容の変化、ならびに業界のイメージ向上のために必要と考える施策についてアンケート調査を実施した。また、得られた回答内容を分析し、人材確保および働き方改善に向けた提案を行った。

バスを最大何分待てるか？

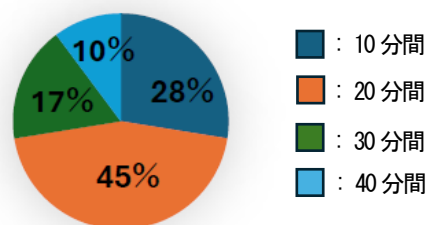


図-2 バスの待機時間に関するアンケート結果



図-3 新規バス路線の提案



図-4 建設業に導入されているドローンの一例

分析の結果、建設業の人手不足対策として、ドローンやICT機器などの最新技術の積極的導入（図-4、図-5）、総合職の人員増加、完全週休二日制の推進、建設ディレクター制度の導入による業務効率化などが効果的であることが示唆された。これらの施策により、残業時間の削減やワークライフバランスの改善が期待される。詳しくは、添付資料-2を参照されたい。

3. 3 3班の実施内容：群馬高専周辺の渋滞と解決策

3班は、群馬高専周辺における交通渋滞の解消を課題として設定した。本取組の目的は、同地域における主要な渋滞箇所を特定し、それに基づく効果的な渋滞緩和策を検討することである。

まず、群馬高専周辺の道路網を対象として渋滞箇所の現地調査を行い、複数の混雑ポイントを抽出した（図-6）。このうち、特に交通量が多く渋滞が恒常化している、前橋安中富岡線と関越自動車道側道の交差点を対象とし、その解消策を検討した。交通調査結果に基づき、新たな連絡路（バイパス）の設置を渋滞緩和策として提案した（図-7）。さらに、信号制御の最適化により、交差点通過効率を向上させる合理的な信号サイクル案を提案した。これにより、ハード対策（道路整備）とソフト対策（信号制御）の両面から渋滞緩和効果が期待される。この他にも渋滞緩和策を提案しているが、詳細は、添付資料-3を参照されたい。

3. 4 4班の実施内容：土木業界の人手不足解消へ～アニメーションでイメージアップ～

4班は、深刻化する土木業界の人手不足解消を主要課題に設定した。これを解決策の一つとして、業界イメージの向上に着目し、アニメーションによるイメージアップを図ることとした（図-8）。実際に1分弱のアニメーションを作成（図-9）するとともに、アニメーションをPRに用いることによるメリット・デメリットを整理し、



図-6 群馬高専周辺の渋滞箇所

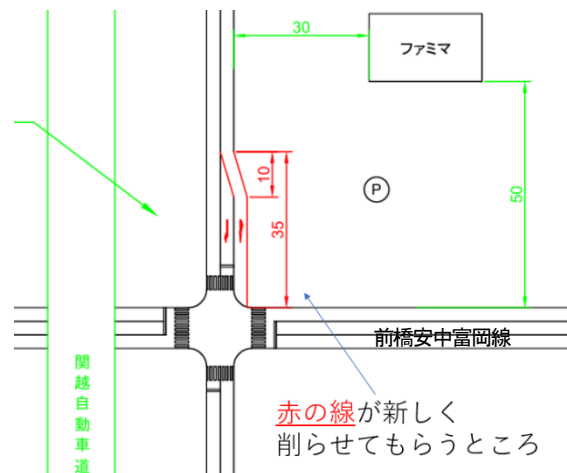


図-7 前橋安中富岡線と関越自動車道

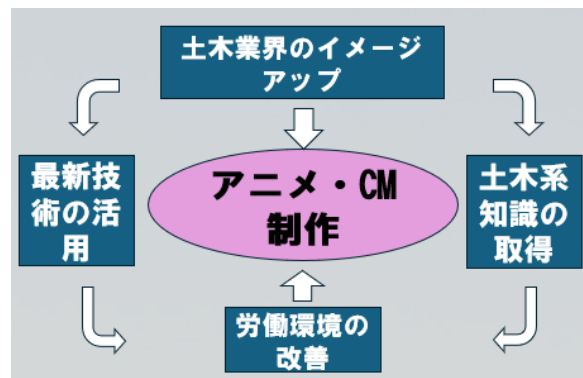


図-8 アニメーションによる土木業界のイメージアップ



図-5 建設業に導入されているICT機器（3次元点群データ）



図-9 実際に作成したアニメーションのタイトル画像

アニメーションを活用した効果的な宣伝方法を検討した。作成したアニメーションの活用案として、SNSや動画配信プラットフォームを用いた広報、学校教育や地域イベントでの上演、さらには土木学会等における広報資料としての利用を想定している。これらにより、若年層の関心喚起や土木業界への興味・理解の促進が期待される。詳細は添付資料4を参照されたい。

3. 5 5班の実施内容：点群データを用いた 第2体育館の損傷の可視化

5班は、竣工から44年経過した群馬高専の第二体育館において、ひび割れ、コールドジョイント、鉄筋露出などの劣化事象が確認されていること（図-10）から、その劣化状況の把握を主要課題として設定した。また、劣化状況の黒く方法として、従来の2次元図面上での表示でなく、3次元点群データによる可視化手法の有効性について検証した。まず、従来の非破壊検査手法を用いて劣化状況の調査を実施した。具体的には、打音検査による空隙・剥離の確認、シュミットハンマーを用いた反発度測定によるコンクリート強度推定、クラックスケールを用いたひび割れ幅の計測を行った。次に、地上レーザー測量により3次元点群データを取得し、従来の2次元図面と比較して、損傷状況を立体的かつ直感的に把握できる可視化データの構築を試みた（図-11）。詳しくは、添付資料5を参照されたい。

3. 6 6班の実施内容：群馬高専の構内の交通について考える ～安全なキャンパスを目指して～

6班は、群馬高専構内における交通安全性、特に歩行者と自転車の接触リスクに着目した。本取組の目的は、構内で発生し得る自転車と歩行者の接触危険性を把握し、主要動線であるメインストリートの交通環境改善策を検討することである。まず、群馬高専の学生を対象として、「構内で自転車と接触しそうになった経験の有無」についてアンケート調査を実施した。その結果、260名の回答者のうち約52%にあたる133名が「はい」と回答しており（図-12）、構内交通の安全性向上の必要性が明らかとなった。この結果を受け、多くの学生が利用するメインストリートを対象に、交通環境の改善案を検討した。提案した対策としては、ハンプの設置、ポールによる動線誘導、カーブミラーの設置、さらに白線による歩行者と自転車の明確な分離（図-13）など複数案を提示した。これらの案を、効果、導入費用、維持管理性、適用度といった評価項目に基づき比較した結果、白線による歩車分離が最も実現性と効果が高いと判断された。詳細な検

討内容については、添付資料6を参照されたい。



図-10 第二体育館壁面のコールドジョイント

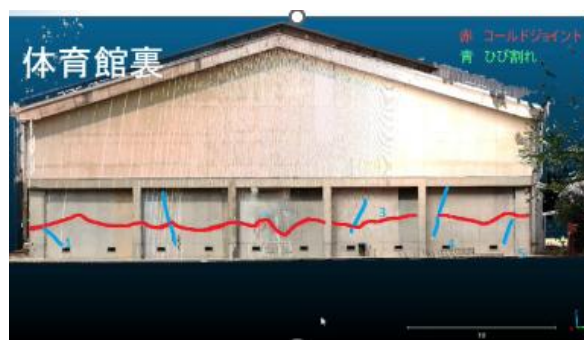


図-11 3次元点群データによる損傷の記録



図-12 群馬高専構内構内で自転車と接触しそうになった経験の有無



図-13 メインストリートに白線を引く提案

4. おわりに

本稿では、群馬工業高等専門学校環境都市工学科における令和7年度のPBL (Project-Based Learning) の取り組みについて、各班の実施内容とともに報告した。本PBLは、文部科学省⁹⁾が示す「産業界や行政等との連携プロジェクトや教育プログラムを通じて、実社会と関係した生きた課題や挑戦課題を対象とする実践的教育」を踏まえて設計したものである。

学生たちは、ファシリテーターと協働しながら課題設定から解決策の検討までを主体的に進める過程で、課題発見力や問題解決に向けたアプローチ手法を、それぞれのレベルに応じて身につけることができたと考えられる。さらに、ファシリテーターとの協働は、社会に出て働くことの意義や社会人として求められる基本的な礼儀作法の理解にも寄与した。また、グループワークを通じて成果物を取りまとめる過程では、建設業において不可欠なチームワーク能力や合意形成スキルを実践的に習得できたといえる。

この形式のPBLは、環境都市工学科において今年度で5回目の実施となる。今後も継続して実施する予定であり、学生やファシリテーターからのフィードバックを踏まえながら、より効果的な教育プログラムとなるよう改善を図っていく所存である。

謝辞

令和7年度のPBLは、群馬県安中土木事務所 神道正広様、佐田建設株式会社 大淵亮様、技研コンサル株式会社 嶋田琢磨様、田中秀和様、武藤雅哉様、アマネックス株式会社 小林雅人様、株式会社特殊高所技術株式会社 片村文崇様、波多野調査設計株式会社 坪根康雄様、

中村優作様にファシリテーターを務めていただきました。学生たちの取組に最後まで寄り添っていただいたこと、心より感謝申し上げます。

また、令和7年度のPBL本発表は、群馬テレビ株式会社の取材を受け、ニュースで取り扱っていただきました¹⁰⁾。このような機会を設けてくださったアマネックス株式会社 小林雅人様に、重ねて御礼申し上げます。

参考文献

- 1) Graaff, E. de & Kolmos, A.; History of Problem-based Learning and Project-based, Management of Change, 2007
- 2) Torp, L. & Sage, S.; Problems as possibilities Problem-based learning for K-16, Creative Education, Vol.5 No.1, January 26, 2014
- 3) R. Keith Sawyer; The Cambridge Handbook of the Learning Sciences Second, 2014
- 4) 文部科学省：工学系教育改革制度設計等に関する懇談会 取りまとめ, 2018
- 5) 伊藤通子：「高専教育と Problem-Based Learning ～富山高専における実践～」『放送大学大学院修士論文』, 2010
- 6) 久保猛志・松本重男：「金沢工業大学における工学設計教育」, 工学教育, 46(2), p.14, 1998-
- 7) 長田朋樹：小山高専における学科横断型 PBL 授業の実践ー健康と工学科に関連した授業の事例報告ー, 公益社団法人日本工学教育協会, 2024 年度工学教育研究講演会論文集, 2024
- 8) 小松貴大：福井高専ジュニアドクター育成塾における DX 革命を目指してー 伝統産業とのコラボを実現する福井高専型 PBLー, 福井工業高等専門学校研究紀要 自然科学・工学, 第 56 号, 2023
- 9) 大貫洋介, 崎尚和, 古谷博司, 平井信充, 川合洋平：鈴鹿高専における学科横断型 PBL 授業の導入, 工学教育, 67 巻 6 号, pp.40-45, 2019
- 10) 群馬テレビ・ぐんテレ：群馬高専 企業や業界の課題解決へ 最終発表会 群馬・前橋市 (25/09/29), <https://www.youtube.com/watch?v=ZWEIzQjLUk> (2025.11.25 閲覧)

Educational Practices of Experiential PBL in the 2025 at the Department of Civil Engineering, NIT Gunma College

Yoshinobu WATANABE, Saki MAKUTA, Ibuki HAGIWARA, Ryota KANOU
Ichika KANOU, Kazuya MIYAMOTO, Eisuke Goto and Ibuki KANAI

This paper presents the Project-Based Learning (PBL) initiatives conducted in the Department of Civil and Environmental Engineering at the National Institute of Technology, Gunma College during the 2025 academic year, with a particular focus on the activities implemented by each student group. The program was designed with the aim of providing practical education that addresses real-world and socially relevant problems.

During the PBL activities, students worked with external facilitators to define project themes and develop solutions. Through this process, they acquired—albeit with individual variation—skills in identifying problems and selecting appropriate approaches to address them. Interaction with the facilitators also offered students opportunities to learn about the significance of professional work in society and to gain an understanding of workplace etiquette expected of working professionals. In addition, the process of engaging in group discussions and consolidating project outcomes is considered to have fostered essential competencies required in the construction industry, such as teamwork and consensus-building skills.

自動運転が支える未来の日本

～移動の自由をすべての人へ～

萩原伊吹、今井和空、堀越菜月、下田郁花、石田響之介、堀田絢心、斎藤光成
安中土木事務所

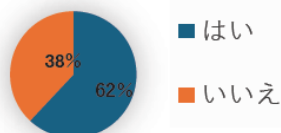
現状および課題

少子高齢化、人口減少によるバス本数の減少や交通事故の増加...
群馬県では車が発達している

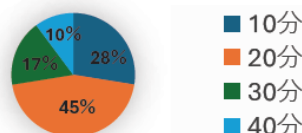
この現状に市民、高専生が不便を感じているのかどうか
アンケートを取り、新たなバス路線を作ることにした。

アンケート結果 ※アンケート回答者数：101人

免許返納後バスを使うと思うか



最大何分バスを待てるか



バスでどこに移動するか

→ 商業施設、公共施設、病院

新前橋駅を使う高専生
通学のためのバスがほしいか

→ 多くの人が使いたいと答えた

高齢者のバス需要はあり、バス路線は商業施設や公共施設を通るルートで、バスの周回間隔は20分以下が理想であることがわかった。

これらを踏まえて高専の近くでバス路線を策定すると

現況バス路線



計画バス路線



レベル	名称	対応者
0	自動運転化なし	運転者
1	運転支援	運転者
2	部分運転自動化	運転者
3	条件付き運転自動化	運転者
4	高度運転自動化	システム
5	完全運転自動化	システム

自動運転化

- ・レベル4の自動運転バスを導入できれば、バス路線を増やすことができる

おまけ 前橋市での実証実験

場所：前橋市（中央前橋駅～前橋駅）
期間：令和5年2月5日～29日
目標：R7年にレベル4の実証実験を公道で行う

昨年の実証実験での
速度時速25km→35kmへの速度アップ



得られる効果

- ・**アクセス性の向上**
新たな路線により、アンケート結果でも目的地として挙げられた病院やスーパー駅などの主要施設へのアクセスが向上
- ・**通院・買い物・通学がさらに便利に**
日常生活の移動がスムーズに。交通の不便も改善
- ・**安心して免許返納できる**
代替手段があり、より中央市街地付近を通ることで返納への不安が軽減
- ・**交通事故の減少**
自動運転技術の導入により、人間のミスが原因となる事故が減る。
- ・**渋滞の解消**
車同士や信号機などがリアルタイムでつながるため交通の流れを最適化できる。
- ・**環境負荷軽減**
自動運転化による交通の効率化によりCO₂排出量の削減が見込まれる。

建設業界のイメージアップと3K

2 班 佐田建設株式会社

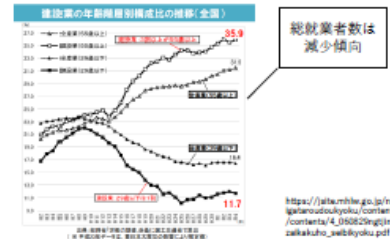
・狩野僚大・釜田拓弥・杉原菜々・主代悠翔・吉田慶吾・神山真輝

1. 背景

建設業において人手不足が深刻な問題となっている ➡ 建設業に興味を持っている若者が少ない

なぜ？

現代の若者と建設業界の古い価値観が合わない
多くの若者が「3K（きつい・汚い・危険）」のイメージを持っている
肉体労働が多い
作業環境
高所での作業
etc.



➡ 若者に伝えていくべき現状、問題点に対する改善案

2. アンケート

対象：佐田建設株式会社入社3年目～5年目 15人

Q1. あなたがイメージする建設業について、入社前と入社後の変化を教えてください。

入社前

- ・ 3K（きつい・汚い・危険）のイメージが強い
- ・ 薄給で睡眠時間が取れない
- ・ 職人さんが厳しく気難しい人が多そう

入社後

- ・ 3Kがあまり該当するような業種ではないように感じる
- ・ 肉体労働が想像以上に多い
- ・ 職人さんは優しい方が多く、普通に話しやすい
- ・ 夏の暑い日に現場に出て、きついと感じた
- ・ トンネル内など過酷な現場がある

Q2. あなたがここ数年間で建設業や現場作業について「変わったな」と思うことを教えてください。

- ・ 作業のDX化（機械化）が進んでいる（例：ICT施工、ペーパーレス化…）
- ・ 人手不足の深刻化
- ・ 施工管理の業界全体を見て、年々給料が上がっている
- ・ 残業が少なくなった。最初の現場が土曜日に出勤していたこともあり、今は自由に使える時間が多く感じる

Q3. 今後、建設業や工事のイメージアップをしていくにはどんなことをしたらよいか教えてください。

- ・ 威圧的な態度をとる人が減ってほしい
- ・ それぞれの生活スタイルにあった働き方ができるようになったら良いと思う。普通の生活を送る余裕がない現場もある
- ・ 日常業務のバックアップもなされていることをアピールできるよう、若手～中堅職員のPRや、社内での福利厚生面でPRを行ったほうが良いと思う

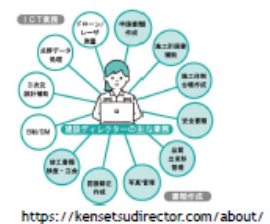
3. 実際に行っていること

- ・ ドローン測量
- ・ ICTやDX
- ・ 福利厚生の充実
- ・ 安全対策実施
- ・ 3次元起工測量



4. 改善案

- ・ 作業の効率化
- ・ ペーパーレス化
- ・ 最新機器の導入
- ・ レンタル物品の活用
- ・ 建設ディレクター



5. まとめ

建設業の人手不足に対する具体的な対策方法

- ・ 最新機器の導入
- ・ 総合職の人員増加
- ・ 完全週休2日制の実施



残業時間の削減、ワークライフバランスの改善



https://thumbac-illustr.com/1b/1bf105bba794dd92b275ae770397d61e_t.jpg

PBL最終発表会 2025/9/29(月)

高専周辺の渋滞を解決！

3班 梅本暖斗 狩野一華 佐々木彩柊 鹿田大翔 高橋凌大 長谷川夏輝

担当ファシリテーター：技研コンサル株式会社 様

目的

登下校の支障になっている渋滞を改善するため、渋滞箇所をピックアップし、ソフト・ハード面の対策を提案する

渋滞箇所



対策の提案 と 現地調査

○ファミリーマート元総社町店交差点

ハード 右折車線の追加

ソフト 信号のサイクルを変更

適切か調査

- ・道幅を計測
- ・信号が赤青の時間を記録
- ・車の通過台数を調べる

○国道17号の慢性的な混雑

ハード 一方通行の道路にする

ソフト 渋滞状況の電光掲示板の設置

○井野駅周辺の踏切による渋滞

ハード アンダーパス・オーバーパス

ソフト 踏切信号機の導入

適切か調査

- ・道幅を計測
- ・踏切の閉鎖時間を記録
- ・車の通過台数を調べる

まとめ

- ・国道17号など国や県で事業が進んでいるところもあった
- ・私たちが身近に実践できること → 公共交通機関の利用 選挙への関心
- ・みなさんの周りで起こる地域の問題について、関心を向けるきっかけとなっていたら幸いです！

土木業界の人手不足解消へ 株式会社アマネックス

4班 石井雄大、篠原千里、志村美月、F・真里亜、宮本和弥、村田一紗



1.土木業界の現状

主要インフラの老朽化

→ 維持管理の**人材が必要**

さらに深刻な人手不足問題に…

○原因

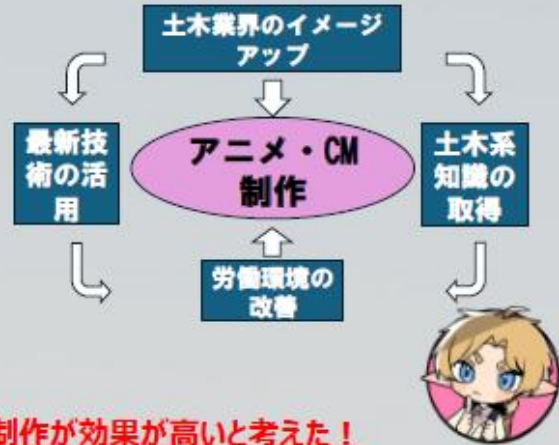
- ・就業者数の減少 ・若者の離職率の高さ
- ・年齢層の偏り ・職場環境のマイナスイメージ

○対策

- ・最新技術の活用
(DX、BIM、CIM、RTK、AI活用、クラウド利用、ドローン)
- ・労働環境の改善 ・SNSによるイメージアップ
- ・土木に触れる機会を増やす ・教育の場を増やす

土木業界のイメージアップがすべての対策のスタート位置

つまり…土木業界のイメージアップが最も重要である！！



→ **イメージアップにはアニメーション制作が効果が高いと考えた！**

2.見込める効果

○他アニメの効果

- **けいおん！、ほっち・ざ・ろっく**
バンドブームが到来。ギターを始めるきっかけ。
- **ゆるキャン△**
ソロキャンプを始める人が増える。キャンプ用品の売り上げ上昇。
- **ひかるの星**
囲碁のプレイヤー増加。
- **スーパーカブ**
女性のバイクライダーの増加。
- **その他**
アニメの聖地となった場所の観光客増加。



→ アニメをきっかけにブームや利用者の増加につながっている！！

○他企業の取り組み

- **大成建設：シンガポール編 新海誠**
高度な海外技術と社会貢献を情緒的に伝え、手の興味関心を引き出している
- **梶川建設：現場の女神**
建設現場で使われる道具をモチーフにしてキャラクターが登場。建設業界のゆるくかわいく描いた作品。
- **株式会社崎山組：「未来への架け橋」**
地域に根ざした基礎工事を未来への貢献として描き、地元の人材や若者の共感を引き出している。
- **福井県学生取り組み：土木アニメーション**
ダムがデスメタルをうたうアニメーション。インパクトがすごい。

3.メリット・デメリット

○メリット

- 1.コストパフォーマンスに優れている
- 2.言語や環境を選ばない
- 3.実写では表現しにくいことも表現できる
- 4.ストーリーにしやすい
- 5.出演者のイメージに左右されない
- 6.アニメーションの価値の高まり

○デメリット

- 1.リアリティが損なわれる
- 2.制作に時間がかかる



4.宣伝方法

1. SNS・動画配信で拡散

- X、Instagram、TikTok、等々に短く切り抜いた映像を投稿
- YouTubeで本編を公開し、制作背景や土木の魅力を説明
- 制作過程なども投稿して完成前から興味を引く

2. 学校・地域イベントで上映

- 学園祭、オープンキャンパスなどで上映
- 地域の防災フェス、建設イベントで上映ブースを出す
- 市役所・図書館・地域センターなど公共施設に放映を依頼

3. 業界関係へのアプローチ

- 土木学会などに持ち込み。広報材料として使ってもらう
- 建設会社や地元企業の社内モニターや説明会で流してもらう

点群データを用いた 第2体育館の損傷の可視化

5班 特殊高所技術

後藤瑛介 中野公輔 大塚充希 岡崎愛樹 間瀬遥香 森村權之

背景

竣工から44年が経過し、ひび割れ、コールドジョイント、鉄筋の露出が多数

一目で損傷が分かる図を作りたい

二次元損傷図では全体の劣化状態の把握が困難

3次元損傷図を作成する

打音検査
ハンマー

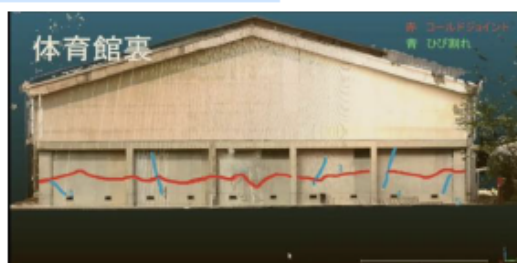
反発度測定
リバウンドハンマー
【JIS1155】

ひび割れ幅計測
クラックスケール

3次元測量
Scaniverse
Focus Core

**3次元
損傷図**

3次元損傷図



体育館裏側（東側）

— : コールドジョイント
— : ひび割れ

↓3次元損傷図動画↓



問題点

データに欠測部が多く、精度が高いとはいえない

原因

- ・測点数の不足
- ・周囲の植物まで反映されてしまったこと

課題

- ・より多くの測点からデータを取得したり、ドローンなどを活用して植物を反映させない
- ・多角度からスキャンをする

群馬高専の構内の交通について考える ～安全なキャンパスを目指して～

ファシリテーター 株式会社波多野調査設計
6班 金井一穂 金井大地 大塚翔太 菅谷美羽 橋本大史 野崎まり雅

背景・目的

班員の「構内で自転車とぶつかりそうになったことがある」という経験から同じような人がいるのではないかと考察。

高専の本科生を対象にしたアンケートを実施。

約2人に1人が構内で自転車とぶつかりそうになったことがあるという結果に。

1. 高専の構内を行き来する中で自転車・人とぶつかりそうになった等の経験はありますか。

詳細情報



学生が安心してキャンパスライフを送るには改善が必要

対策区間の選定

人通りが多い場所の危険箇所は必然的に一番危険になると考えた。そこで、学生の構内の通過ルートに関するアンケートを実施。

Formsを使用し、1～4年生向けにアンケート調査を行い、全体の約73%の学生がメインストリートを使用していることがわかった。

本PBLではメインストリートの交通環境の改善を目指す。



具体的な対策案の検討

群馬高専構内に適用可能な対策案として以下のものが挙げられる

ハード対策

物理的な対策を講じることで人の動き方を変える案

- ・カーブミラーの設置
→死角を視認可能にし、事故防止には効果的
- ・白線を引く
→歩行者と自転車の通行帯を視覚的に明確に区分
- ・ラバーボールの設置
→危険が潜んでいることを視覚的に伝達

etc...
比較的費用が掛かるが、目に見えて効果を実感しやすい。

ソフト対策

学生個人の安全意識を高める案

- ・ポスターの作成
→危険箇所や安全意識についての呼びかけ
- ・交通安全週間などの設定
→交通安全を呼びかけ個人の安全意識の向上
- ・VRなどを用いてシミュレーションを行う
→興味をもって学んでもらうことができる
拡張性があるが準備に労力が必要

etc...
費用を抑えることができ、拡張性もあるが個人に委ねられてしまうため効果を実感しにくい。

これらの案について費用対効果の面で最も有用である対策案を検討する

群馬発の新素材，こんにやく飛粉を活用せよ！ ～高専GCON2025における群馬レベルアップ大作戦☆の取組～

渡邊 祥庸* 坂本 真百合* 栗本 衣咲* 小林 孝太郎*

(2024年11月28日受理)

1. はじめに

高専GCON（KOSEN GIRLS SDGs ×Technology Contest）は、女性の科学技術分野への参画促進を目的として実施される全国規模のコンテスト¹⁾であり、2025年度に第4回を迎えた。日本の産業界では、依然として理系分野における女性活躍が十分に進展していない現状が指摘されており、同コンテストはその改善に向けた社会的機運の醸成を一つの目的として企図されている²⁾。

同コンテストでは、女子高専生を中心に編成されたチームが、SDGsの視点から社会課題を抽出し、技術開発、社会的活動、あるいは新規アイデアの提案を行う。審査においては、提案内容のイノベーション視点、実現性、さらには女性技術者・研究者の裾野拡大への寄与など、多様な観点から評価が行われる³⁾。

本稿では、GCON2025に群馬工業高等専門学校（以下、群馬高専）から参加した「群馬レベルアップ大作戦☆」の取組内容を紹介するとともに、高専GCONのコンテスト構成や特徴について整理する。これらの内容が、今後本コンテストに参加する学生および教育関係者にとって一助となれば幸いである。

2. 高専GCON2025概要

2. 1 コンテストスケジュール

表-1に高専GCON2025のスケジュールを示す。エントリー（一次）や、GCONカンファレンスなど、本選エントリーに必須ではないイベントもあるが、「群馬レベルアップ大作戦☆」は全てのイベントに参加した。

2. 2 エントリー（第一次）・GCONカンファレンス

エントリー（第一次）は、本選エントリーに必須ではない。しかし、エントリー（第一次）を行うことで、GCONカンファレンスをはじめ、主催者からのサポート

を受けることができる。

GCONカンファレンスは、9月7日～9月8日にかけて、国立オリンピック記念青少年総合センターで実施された。GCONカンファレンスのスケジュールを表-2に示す。GCONカンファレンスには、全国の高専から36のチームとともに、協賛企業の関係者も参加した。高専生チームライトニングトークでは、有志のチームが各々の取組を参加者全員に向けて発表した。「群馬レベルアップ大作戦☆」もライトニングトークに参加し、これまでの取組

表-1 高専GCON2025のスケジュール⁴⁾

時期	内容
5月15日	説明会開催・エントリー（第一次）スタート
7月18日	エントリー（第一次）締切 ※本選エントリーに必須ではない
9月7日～ 9月8日	GCONカンファレンス ※本選エントリーに必須ではない
10月8日	エントリー（最終）締切
10月中旬～ 下旬	書類審査・面談審査
11月上旬	本選出場チーム発表
11月7日	本選説明会
11月中旬～ 12月上旬	本選チームメンタリング
12月13日～ 12月14日	本選

表-2 GCONカンファレンスのスケジュール

時期	内容
9月7日	開会式
	高専生チームライトニングトーク
	高専生チームポスターセッション
	交流会
	ナイトセッション
9月8日	ワールドカフェ
	協賛企業ポスターセッション
	閉会式

*環境都市工学科

について紹介した。ライトニングトークは、発表のみで質疑応答は行われなかった。ライトニングトーク後のポスターセッションは、GCONカンファレンスに参加したすべてのチームが参加し、各チームの取組についてポスターで説明した。ポスターセッションには、運営、協賛企業の方々も各チームの説明を聴講し、本選エントリーに向けたアドバイスをしてくださった。群馬レベルアップ大作戦☆は、ライトニングトークを通じて事前取組内容を周知できたことから、ポスターセッションにおいて他チームと比較して多くの参加者に説明を行う機会を得ることができた。その結果、多様な視点からの助言を受けることができ、さらに共同研究の提案を受けるなど、本カンファレンスは極めて有意義な場となった。添付資料-1に「群馬レベルアップ大作戦☆」のGCONカンファレンス参加時点のポスターを示す。

2日目のワールドカフェは、カンファレンス参加者でランダムにグループ分けされ、「技術で実現させたい未来社会」のテーマでグループディスカッションを実施した。各高専からの参加者同士で親睦を深めると同時に、いくつかのグループはディスカッションの成果を発表した。企業ポスターセッションは、協賛企業の方々が自社の事業内容や取組をPRする場であった。

2. 3 エントリー（最終）・書類審査・面談審査

エントリー（最終）の後、書類審査が実施された。エントリーシート（最終）には、以下の内容を記載する必要がある。また、これらとは別にA4サイズ1枚で提案を紹介する資料を提出する。2025年度は、89チームがエントリー（最終）した。

- ・提案の概要
- ・解決しようとするSDGsの目標
- ・解決しようとするターゲットと提案の結びつき
- ・解決しようとする課題とその取組を始めたきっかけおよび、その提案でどのように社会が変わるか、
- ・これまでにない新市場・ビジネスチャンス、イノベーションにつながるポイントや自分たちの体験から考え出した独自性
- ・実現に向けた計画、具体的に取り組んだ内容と技術的裏付、今後の進め方
- ・チーム内の役割分担や外部の協力者の巻き込み方
- ・その他アピールポイント

書類審査は、エントリーシート（最終）をもとに実施され、89チームから24チームが通過した。この24チームに対して面談審査が実施された。

面談審査は、オンラインで20分程度実施された。その内容は、GCON公式HP¹⁾の審査基準に準じたものであり、概ね以下のものであった。

- ・提案テーマの背景と目的
- ・SDGsへの理解と自分との関り（自分たちの動機・想いとテーマ選択の背景）
- ・イノベーション視点（社会的インパクトの想像力、表現力や課題へのアプローチの独自性）
- ・実現への道程（先行研究の把握、技術課題の明確化、実践・検証の適格性や、外部関係者の巻き込み力）
- ・女性が活躍できる社会実現に向けた提案
- ・女性技術者・研究者の裾野を広げる提案

これらの面談審査を通過すると、本選出場の権利が得られる。2025年度は、書類審査に通過した24チーム中、12チームが本選出場を果たした。

2. 4 本選出場チームメンタリング

本選出場を果たすと、本選までの間にメンターの方に2回メンタリングを受ける機会があった。メンタリングは、添削や指導でなく、本選において各チームのプレゼン内容が審査項目に沿っているかどうかを確認いただく機会であった。ポイントとしては、わかりやすさ、なぜこの課題に取り組むか、自分たち主体で何をやったのか・考えたのか、社会実装に向けたビジョンやステップ想定などを確認いただき、ブラッシュアップするためのアドバイスをいただいた。

2. 5 本選

本選は、12月13日から12月14日にかけて実施された。13日には、開会式および本選におけるプレゼン資料の最終確認が行われた。14日には、ポスター発表および最終プレゼンが実施された。なお、13日は日経ビルにて開催され、14日は東京大学本郷キャンパス構内の伊藤謝恩ホールにて開催された。

14日は、午前中にポスターセッション、午後に最終プレゼンが行われた。最終プレゼンテーションの審査時間中には、協賛企業で活躍する女性技術者および研究者によるパネルディスカッションが開催された。

2025年度の本選では、企業賞が5チーム、優秀賞が2チーム、ならびに最優秀賞（文部科学大臣賞）が1チーム選出された。

3. 群馬レベルアップ大作戦☆の取組

3. 1 取組のコンセプト

群馬レベルアップ大作戦☆は，群馬県の特産品であるこんにゃく芋の加工過程で発生する副産物「飛粉（とびこ）」に着目した．飛粉の外観を図-1に示す．飛粉は，こんにゃく芋からこんにゃく製品の原料となる精粉（せいこ）を製造する際に発生する副産物であり，こんにゃく芋の皮および皮に近い実の部分乾燥させ，細かく裁断した後，分級することで得られる．食用には用いることができず，群馬県内で年間約4,000t発生する²⁾がその多くは廃棄されている現状がある．一方で，飛粉を有効利用するための取組は各産業で幅広く行われており，家畜飼料への少量添加や堆肥・土壌改良の利用³⁾，バイオエタノールの精製²⁾，生分解性ポリマーの飛粉からの試製⁴⁾



図-1 コンにゃく飛粉

など現在も拡大中である．建設分野では，道路法面や植生土壌における種子吹付の粘着剤として飛粉が利用されている⁵⁾．

群馬レベルアップ大作戦☆は，こんにゃく飛粉の保水性や粘性に注目し，以下の2つの活用を検討した．次節より，これらの検討内容について記載する．

①コンクリートの性質改善効果の検証

②高含水比地盤の改良効果の検証

なお，本選で発表した内容は，この2つとは異なる内容であるが，特許申請の関係で本稿では割愛する．

3. 2 コンクリートの性質改善効果の検証

コンクリートの性質改善効果について検討する上で，コンクリートに最も重要な圧縮強度について検証することとした．具体的には，設計基準強度21N/mm²のコンクリートを配合設計し，セメント量に対する割合で飛粉を添加した供試体を制作し，その圧縮強度を確認した．コンクリートに用いた材料諸元を表-3，コンクリートの示方配合を表-4に示す．また，試験ケースおよび飛粉のセメント置換率，圧縮強度試験結果を表-5に示す．飛粉をセメント置換したコンクリートの圧縮強度は，表-5に示す通り無添加のコンクリートと比べ，その置換率が上がるほど圧縮強度が下がる結果となった．

表-3 コンクリートに用いた材料諸元

材料	名称	物性
セメント	早強ポルトランドセメント	密度 3.14g/cm ³ ，比表面積 3,310cm ² /g
細骨材	砕砂	表乾密度 2.61g/cm ³ ，吸水率 2.37%，粗粒率 2.78
粗骨材	砕石	表乾密度 2.61g/cm ³ ，吸水率 2.37%
混和剤	高性能 AE 減水剤（レオビルド AP-8N）	—

表-4 コンクリートの示方配合

呼び強度	粗骨材 最大寸法	W/C	s/a	単位量(kg/m ³)				
				水	セメント	細骨材	粗骨材	高性能 AE 減水剤
N/mm ²	mm	%	%	W	C	S	G	Ad
21	20	51.0	44.0	168	323	744	998	2.586

表-5 試験ケースおよび圧縮試験結果

ケース名	材齢 (日)	最大荷重 (kN)			平均最大荷重 (kN)	圧縮強度 (N/mm ²)
飛粉置換なし	14	226.0	208.8	150.0	194.9	24.8
5%置換		133.5	119.9	108.2	120.5	15.3
10%置換		2.4	1.6	1.4	4.8	0.6

※5%置換，10%置換のケースでは，セメントの重量を各ケースの割合で飛粉に置換した

※各ケースで3本供試体を作成し，圧縮試験を実施した

図-2に供試体の写真を示す。飛粉の置換率が大きくなるごとに、供試体表面が豆板状になっていることがわかる。保水性、吸水性の高い飛粉の性質に起因し、置換率が増えるにつれてフレッシュコンクリートの流動性が低下したため、このような結果になったと考えられる。加えて、強度低下の原因は表-6、表-7に示す飛粉の成分にもあると考える。木原ら⁹⁾によれば、飛粉の成分には脂肪やタンパク質、糖分が含まれている。また、丹羽ら⁷⁾によれば、飛粉には脂質が1%程度含まれており、そのうち脂肪酸としてパルミチン酸、リノール酸などを含有していることが明らかになっている。これらは典型的な水和反応の阻害成分^{例えば8-10)}であり、水和が阻害されたことにより置換率が上がるほど強度が下がったものと推察される。エントリー（第一次）の段階では、コンクリートに対する検討をメインに据えようと考えていたが、圧縮強度が著しく低下したこの結果を踏まえ、方針変更をすることとした。

3. 3 高含水比地盤の改良効果の検証

豪雨による自然災害等でぬかるんだ地盤を想定し、こ



飛粉置換なし

5%置換

10%置換

図-2 コンクリート供試体の写真

表-6 こんにゃく飛粉の成分⁹⁾

成分	乾物中割合(%)
脂肪	0.64
タンパク質	26.21
炭水化物	47.87
繊維	2.81
灰分	8.25

表-7 こんにゃく飛粉に含まれる炭水化物の分布⁷⁾

成分	割合(%)
全糖分	48.75
でん粉	17.02
水溶性糖分	8.95
水溶性還元糖	2.46

れに吸水性のある飛粉を混ぜることによる地盤改良効果を検証した。

試験に用いる土は、群馬高専構内にある池（西湖）で採取した底泥を用いることとした。底泥の粒度は測定していないが、粘土またはシルトに該当する粒度が大半を占めると想定される。乾燥炉で110℃の状態を保ち、質量が変わらなくなるまで乾燥させた。乾燥させた底泥に対し、含水比が100%となるように水を加え、これに対して飛粉を添加しその一軸圧縮強さを評価した。含水比100%の底泥を図-3に示す。図-3の通り、土の表面に水が浮くような状態であり、飛粉を添加しない状態で一軸圧縮試験の供試体作成を試みたが、自立させることが難しい状態であった。図-4に一軸圧縮試験の状況を示す。また、表-8に実験ケースおよび一軸圧縮試験結果を示す。さらに、載荷試験の結果を図-5に示す。なお、飛粉の添加率は底泥の湿潤重量に対する割合である。一軸圧縮試験の供試体は、セメント協会標準試験方法（JCAS L-01）に準じて作成し、一軸圧縮試験は土の一軸圧縮試験方法（JISA 1216）に準じて行った。供試体は各試験ケースで1本ずつ作成し、試験を実施した。

表-8に示す通り飛粉の添加率は5%を最小とした。5%の添加でも泥濘状の底泥を供試体の締固めが可能な性状



図-3 含水比100%の底泥

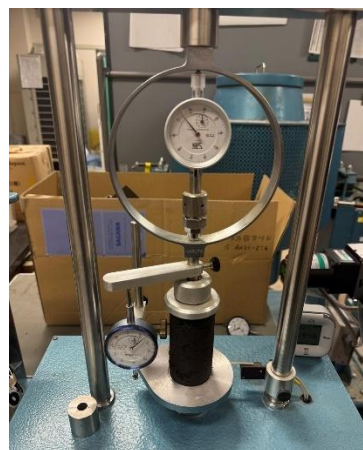


図-4 添加率5%の供試体の一軸圧縮試験状況

表-8 試験ケースおよび一軸圧縮試験結果

試験ケース	最大圧縮力 (N)	一軸圧縮強さ q_u (kN/m^2)
飛粉添加率 5%	25.6	13.0
飛粉添加率 20%	42.4	21.6
飛粉添加率 50%	214.1	109.0

※添加率は底泥の湿潤重量に対する割合

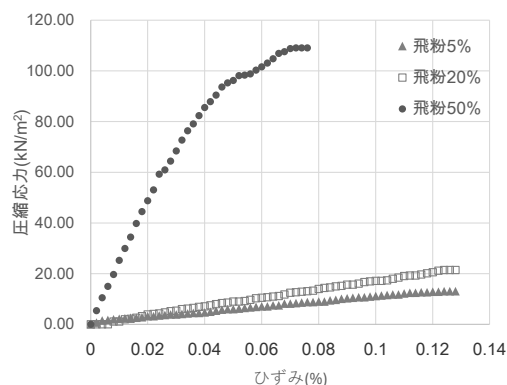


図-5 飛粉を添加した供試体の一軸圧縮試験結果

にすることができ、図-4の通り自立する供試体を作成することが可能となった。飛粉が底泥中の水分を吸うことにより、泥濘状態が改善され、土のせん断強度が向上したためと想定される。この効果は一軸圧縮強さ q_u にも現れているものと想定され、添加率が増加するにつれ q_u が増加する傾向が得られた。飛粉添加率50%の供試体で得られた一軸圧縮強さ $q_u=109.0\text{kN/m}^2$ は設計要領¹⁾によれば「粘性土地盤，硬いもの」相当の値であり，これは人が載っても極端な沈下を生じない強度である。飛粉を添加することで，図-3に示すような泥濘状態の土を，人が載っても問題のない状態まで改良可能なことを確認できた。

4. おわりに

高専GCON2025における群馬レベルアップ大作戦☆の取組を，コンテストの内容と共に紹介した。具体的には，①コンクリートの性質改善効果の検証，②高含水比地盤の改良効果の検証について紹介した。なお，本選で発表した取組については，特許申請の関係で本稿では割愛した。コンクリートの性質改善効果の検証においては，圧縮強度に着目し実験を実施したが，飛粉をコンクリートに添加するほど圧縮強度が低下する結果となった。高含水比地盤の改良効果の検証では，泥濘状の土に対し，飛粉を添加することで，人が載っても問題ない一軸圧縮強さまで改良することができた。

GCON2025の本選では，最優秀賞（文部科学大臣賞）と企業賞（鹿島建設賞）を受賞することができた。審査委員長の講評では，群馬県特有の2つの課題を同時に解決しようと取り組んだ点，地道な実験でデータを取得した点，実験中発生した課題をアイデアで解決した点，分かりやすく堅実なプレゼン，今後の伸びしろが評価された点のことであった。また，鹿島建設株式会社からの講評では，ユニークな手法で群馬特有の課題への対策を講じ，これを将来建設現場における活用に発展させることの期待を受け，評価いただいたとのことであった。

5. 今後の取組

引き続き飛粉の活用手法について，検討を進める。コンクリートへの活用では，分離抵抗への効果検証など強度とは別の視点から活用手法を検証する。

また，GCONの目的の1つに女性技術者・研究者の裾野を広げることがある。群馬レベルアップ大作戦☆もこの目的の一助として，今回の取組を，女子中学生等の未来の女性技術者・研究者に対して広く伝えていく予定である。

謝辞

本稿は群馬レベルアップ大作戦☆がGCONに参加し，各種検討を実施した2025年6月～2025年12月の期間の取組についてまとめたものです。この間，数多くの方々にご指導，御支援，御協力を賜りました。

株式会社荻野商会様には，こんなにやく飛粉をご提供いただきました。このご厚意なしに，本稿の成果は得られませんでした。厚く御礼申し上げます。

鹿島建設株式会社の小澤一喜様には，飛粉の有効活用について，数多くの技術的な御助言をいただきました。ここに深く感謝いたします。

住友大阪セメント株式会社の佐野匠様，林口幸子様には，飛粉をコンクリートに適用する検討において，数多くの技術的な御助言をいただきました。ここに深く感謝いたします。

学内においては，女性目線での課題設定，課題解決の視点から環境都市工学科の幕田早紀先生に多くのアドバイスをいただきました。厚くお礼申し上げます。

GCONカンファレンスでは，株式会社関電工様，東京水道株式会社様，鹿島建設株式会社様，株式会社リバナス様，株式会社アクセスネット様など，多くの方に御助言をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

最後に，審査員の先生方，運営の方々，協賛企業の方々など，高専GCON運営に携わったみなさまに心より感謝申し上げます。

参考文献

- 1)高専 GCON 公式 HP : <https://gcon.kosen-k.go.jp/> (2025年12月3日最終閲覧)
- 2)東京化成工業 TCI メール: 化学よもやま話～研究室訪問記～科学クラブを訪ねて～樹徳高等学校理科部～, No.180, 2019
- 3)農林水産省 アグリサチャー: コンニャク飛粉の堆肥代替利用, <https://agresearch.maff.go.jp/seika/show/214769> (2025年12月3日最終閲覧)
- 4)宮越俊一: こんにちはとグルコマンナンの化学, 化学と教育, 64巻, 6号, 2016
- 5)石川香織: 「コンニャク飛粉」有効利用法の検討 ;生物学的手法を用いた資源化, 高知工科大学大学院 工学研究科 基盤工学専攻 物質・環境システム工学コース 修士論文, 2002年
- 6)木原芳次郎・多田節子: こんにちは飛粉の成分, 農産加工技術研究会誌, 第4巻, 第2号, 1957.4
- 7)丹羽達也・前川邦子・衛藤英男・清水篤・清水康夫・加藤宏治: こんにちは飛粉の化学成分, 日本食品化学工学会誌, 第48巻, 第12号, 2001.12
- 8) N.L. Thomas, J.D. Birchall: The retarding action of sugars on cement hydration, *Cement and Concrete Research*, Volume 13, Issue 6, Pages 830-842, November 1983.
- 9)齋藤忠: 有機系および無機系材料を用いたコンクリートの凝結遅延に関する研究, 岡山大学大学院環境学研究科 博士論文, 平成26年9月
- 10)渡邊貴子: セメントの水和反応およびモルタル凝結・強度発現に及ぼすヒドロキシ基・カルボキシ基を含む低分子有機化合物の種類の影響, 法政大学大学院紀要. デザイン工学研究科編, 12巻, pp.1-8, 2023
- 11)東日本高速道路株式会社・中日本高速道路株式会社・西日本高速道路株式会社: 設計要領第一集 土工建設編, 令和2年7月

Exploring the Engineering Potential of Gunma-Derived Konjac Powder Residue as a Sustainable Construction Material ～Activities of the “Gunma Level-Up Operation☆” Team in KOSEN GCON 2025～

Yoshinobu WATANABE, Mayuri SAKAMOTO, Isaki KURIMOTO
and Kotaro KOBAYASHI

This paper presents the activities of the “Gunma Level-Up Project☆” that participated in the KOSEN GCON 2025 contest, together with an overview of the competition. The project focused on two experimental themes: (1) verification of the improvement of concrete properties, (2) verification of improvement effects on high-water-content soil. With respect to the improvement of concrete properties, laboratory tests were conducted focusing on compressive strength. The results revealed that the compressive strength decreased as the amount of tobiko (konjac processing by-product powder) added to the concrete increased. In the investigation of improvement effects on high-water-content soil, tobiko was added to muddy soil, and it was confirmed that the soil strength improved to a level of unconfined compressive strength sufficient to support a person standing on it.

During the final round of KOSEN GCON 2025, the team primarily presented their dust control measures, and this project won the Grand Prize and the Corporate Award.

とびこ

飛粉で土木改革

群馬工業高等専門学校 環境都市工学科
群馬レベルアップ大作戦 坂本真百合・栗本衣咲・小林孝太郎

とびこ

こんにゃく飛粉とは？

- ・群馬県の名産品「こんにゃく」に着目
- ・群馬のこんにゃく芋の生産量
→日本全体の90%以上
- ・こんにゃく製造過程の廃棄物「飛粉」
→群馬県だけで4000t/年排出



粉末状の飛粉



水を加えた状態

「飛粉」を使用し社会課題の解決、
産業廃棄物の有効活用を目指す

活用方法の検討

①コンクリートの強度・水密性・粘性を向上できないか？

飛粉をセメント・混和剤に置き換える

②粉塵対策に活用できないか？

群馬は「あかぎおろし」「からっ風」などの風が強い

飛粉の性質・・・保水性や水に混ぜると粘性が出る

→砂埃を抑えて視界不良や健康被害解決へ



③地盤の強度向上・改質に使用できないか？

吸水性に期待し、ぬかるんだ土に飛粉を混ぜて人が歩けるようになるまで改質

→大雨による土砂災害などの被害を軽減

他産業での活用例は…

魚のえさや家畜の飼料

生物学的手法を
用いた資源化

堆肥の代替として
こんにゃく畑に還元

SDGsとの関連

11「住み続けられるまちづくりを」

飛粉を地域課題の解決に役立て、安全で安心なまちづくりに貢献。

12「つくる責任 つかう責任」

飛粉を廃棄せず資源として活用し、持続可能な循環型社会を実現。

地域産業と環境課題を結びつけ、持続可能な社会の実現に挑戦します。



検討状況①飛粉入りコンクリートを作成

1.セメントの10%を飛粉に置き換え供試体を作成

- ・飛粉が水分を吸収
- ・強度が低下

コンクリートの圧縮強度(N/㎡)			
	置換なし	5%置換	10%置換
平均	24.8	15.4	0.24

短期間で実験を行うため早強セメントを使用、材齢14日

なし 5% 10%



2.飛粉に対する水を増やして再び供試体を作成（飛粉の置換量は全て5%）

- ・流動性が改善された
- ・強度がさらに低下

コンクリートの圧縮強度(N/㎡)			
W/B	5%	3.3%	2.5%
平均	0.21	0.22	0.15

※ W/B：水飛粉比 短期間で実験を行うため早強セメントを使用、材齢7日

5% 3.3% 2.5%



短期間で実験を行うため早強セメントを使用、材齢2日

⇒強度が期待できないため、別の案として・・・

- ・増粘剤として活用できるのではないかと検討中

検討状況②粉塵対策に活用できないか？

- ・グラウンドに1m四方の範囲で水と飛粉を混ぜたものを撒いたが正確な砂の量が計れなかった
- ⇒実験方法の見直しが課題

検討中の方法

⇒室内でバットの中に土を入れ、その上面に水と飛粉を混ぜたものを撒く。送風機で風を送りお皿に積もった土の量を測定する。



既存製品との比較から見える飛粉の可能性

飛粉を用いる⇒食品由来の高い安全性と生分解性、CO₂排出量ゼロ、粘性による持続力、耐候性、耐久性が期待できるのではないかと？

企業訪問

アドバイスいただきました！



検討状況③地盤改良材として使用

ぬかるんだ土に飛粉を混ぜその吸水性を利用して強度向上を検討

検討中の実験方法

- ⇒池底の土と飛粉を混ぜて土質試験を行う
- ・土壌汚染対策法に準拠した成分分析を実施し危険物質がないか検証



群馬高専レビュー要項

(令和6年9月5日改訂)

1. 名称について

本誌の名称を、群馬高専レビュー (THE GUNMA-KOSEN REVIEW) と定める (通称「高専レビュー」と言う)。
「高専レビュー」の発行は、年1回年度末までに行う。

2. 編集発行事務について

「高専レビュー」の編集発行は、教育研究委員会がこれを行う。

教育研究委員会には、常任編集委員若干名をおき、教育研究委員会委員長がこれを総括する。

事務は、総務課総務係においてこれを処理する。

3. 内容と目的について

「高専レビュー」は、高専教育の向上と本校教職員の研究成果を公表することを主目的とし、オリジナリティーのある未発表の論文を原則とする。

「高専レビュー」の掲載においては査読を行わないものとし、「査読なし論文」として取り扱う。

4. 投稿資格について

投稿者は、原則として本校の教職員 (非常勤講師は除く) および名誉教授に限る。ただし、共同発表に関しては本校の教職員が代表者である場合に限り、外部の研究・教育及びそれに相当する機関に所属する者についてのみ許される。

また、論文の投稿者名は、事前に提出する申込書に記された投稿者と同一であることとする。

5. 体裁について

(1) 印刷上の体裁

A4判、本文10ptフォント、ヨコ2段組とする。なお、特別のタテ書き原稿はタテ2段組とする。

(2) 掲載順について

論文は、理工系・人文系に大別し、その掲載は受理日の順とする。ただし関連論文はなるべくまとめる。

(3) 体裁の統一について

執筆要領の詳細は別に定めるが、論文提出について、体裁の統一上必要な修正を編集委員から依頼することがある。

6. その他

(1) 原稿の執筆・投稿・受理に関しては、別に定める「群馬高専レビュー執筆・投稿要領」による。

(2) 別刷の作成は、原則として、自己の研究費負担とする。

群馬高専レビュー執筆・投稿要領

群馬 太郎* 高専 花子**

(2008年11月28日受理)

1. 原稿形式について

A4判の白上質紙を用い、和文ヨコ書き・和文タテ書き・欧文原稿のすべてにおいて、タイトルページは2つの部分で構成されます。

タイトル部分：1段組（題目、著者、受理年月日）

本文部分：2段組

1. 1 タイトル部分のレイアウトとフォント

全てのページのマージンはこのサンプルのように上辺25mm, 下辺30 mm, 左右ともに14mmに設定して下さい。

そして、以下次の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい。

タイトル：ゴシック体20pt フォント，センタリング
(約10 mm のスペース)

著者名：明朝体14pt フォント，センタリング
(約5 mm のスペース)

受理年月日：明朝体12pt フォント，センタリング

著者と所属（フッタ）とは*印で対応づけて下さい。

1. 2 本文部分のレイアウトとフォント

本文と受理年月日の間に約10 mm のスペースを設けて下さい。

本文は2段組で、左右のマージンは14mm ずつ、段と段との間のスペースは約6mm とします。

和文ヨコ書き：25文字×48行程度

和文タテ書き：35文字×33行程度

欧文原稿：25文字×48行程度

本文には明朝体10pt フォントを用いて下さい。

1. 3 フッタ

著者に対応する所属を記入して下さい。なお、群馬高専に所属している場合には、学科名のみ記入して下さい。

1. 4 原稿枚数について

原稿枚数は、20ページ以内として下さい。

2. 見出し（見出しが1行以上に長くなるときはこの例のようにインデントし折り返す）

2. 1 見出しのレベル

見出しのレベルは章、節の2段階までとします。章の見出しはゴシック体とし、2. などの数字に続けて書きます。また、見出しの上下に1行程度のスペースを設けて下さい。ただしページや段が切り替わる部分は章の見出しが最上部に来るよう調整して下さい。

2. 2 節の見出し

節の見出しもゴシック体で、2. 1 などの数字に続けて書きます。見出しの上だけに1行程度のスペースを空けて下さい。

表-1 表のキャプションは表の上に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

資料番号	高さ h (m)	幅 w (m)
1	1.45	0.25
2	1.75	0.40
3	1.90	0.65

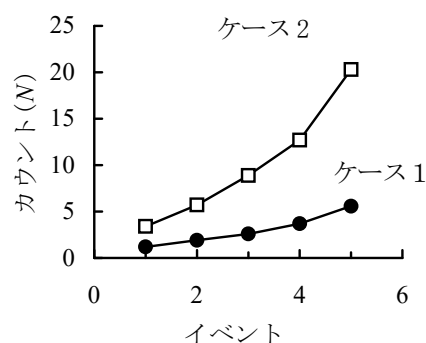


図-2 図のキャプションは図の下に置く

3. 図表および注

3. 1 図表の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。図表の横幅は、「2段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表-1 や図-2 のように「1段の幅いっぱい」のいずれかとします。

3. 2 図表中の文字およびキャプション

図表のキャプションは、図の場合は下方に図-1、図-2のごとく、表の場合は、表の上方に表-1、表-2のごとく付記して下さい。欧文原稿の場合は、Fig. 1やTable 1として下さい。長いキャプションは表-1 のようにインデントして折り返します。

3. 3 注

注は脚注・章末注の2本だてとして下さい。引用文献の注記やその他くわしい注記は章末注にまとめ、脚注は最小限にとどめることとします。脚注番号は、*印で*、**のごとく、章末記号は、片バーレーンで1)、2)のごとく記して下さい。

4. 最終ページおよび英文要旨

原稿が和文の場合、または英語以外の外国語で書かれた場合には、英文による論文題目、著者名及び400語程度の論文要旨が必要となります。

最終ページに、英文のタイトル、著者名および要旨を横1段組で書きます。タイトルは、Times New RomanのBold(太字)で20pt、著者名は、Times New Romanで14pt、要旨は、Times New Romanで10ptとします。

なお、和文タテ書きの場合は、英語要旨は別ページにして下さい。

5. 原稿の提出・受理について

投稿希望者は、「群馬高専レビュー投稿申込書」を担当者に提出して下さい。

原稿は、締切日までに担当者に提出して下さい。原稿締切日を以て論文受理日付とします。その際、本論文にコピー1部を添付すると共に、電子ファイルを担当者に送付して下さい。

申込書や原稿が期日に遅れた場合は、受理されないことがあります。また、原稿締切日以降の原稿内容の変更は認めません。

6. 著作権

「群馬高専レビュー」に掲載された論文の著作権*のうち、複製権および公衆送信権は、群馬工業高等専門学校に帰属するものとします。

なお、営利を目的とせず、著作者自身が論文の複製および公衆送信を行う場合、群馬工業高等専門学校は、著作者からの申し出がなくてもこれを許諾します。その際、著作者は、出典(誌名・巻号・ページ・掲載年)を明記することとします。

*著作権法第21条から第28条に規定する権利

参考文献

- 1) 群馬太郎, 高専花子: 高等教育の展望, 教育研究センター, 第40巻, pp.40-46, 2006.
- 2) 日本研究協会: 高等教育・研究機関における最先端研究戦略, 工学部門編, pp.110-120, 2007.
- 3) Gunma, T. and Kousen, H. : A Study on the Evolution of Education and Research in the National College of Technology, Journal of Education Research Center, pp.110-120, 2007.

Print Sample for Japanese Manuscript for the GUNMA-KOUSEN REVIEW

Taro GUNMA and Hanako KOUSEN

The present paper has been made as a print sample of the Japanese manuscripts for the GUNMA-KOUSEN REVIEW. Its text describes instructions to prepare the manuscripts: the layout; the font styles and sizes; and others. If you replace the text or the figures of the present file by your own ones, using CUT & PASTE procedures, you can easily make your own manuscripts.

This English ABSTRACT has narrower width than the main text by 10 mm from the left and the right margins of the main text, respectively. Font used here is Times-Roman 10pt. The length should be within 7 lines. It is preceded by the title and the authors; both are centered and the font size is 12pt.

群馬高専レビュー執筆・投稿要領（タテ書き）

群馬 太郎* 高専 花子**

（二〇〇八年一月二八日受理）

一、原稿形式について

A4判の白上質紙を使用してください。

全てのページのマージンはこのサンプルのように上辺25ミリ、下辺30ミリ、左右ともに14ミリ、に設定して下さい。

一、一 タイトル部分のレイアウトとフォント

タイトル部分は一段組にして下さい。

以下次の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい。

タイトル：ゴシック体 20ポイントフォント、センタリング

（約10ミリのスペース）

著者名：明朝体 14ポイントフォント、センタリング

（約5ミリのスペース）

受理年月日：明朝体 12ポイントフォント、センタリング

著者と所属（テキストボックス内）とは*印で対応づけて下さい。

一、二 本文部分のレイアウトとフォント

本文部分は二段組にして下さい。

本文と受理年月日の間に約10ミリのスペースを設けて下さい。

本文は二段組で、左右のマージンは14ミリずつ、段と段との間のスペースは約6ミリとします。

和文ヨコ書き：二五文字×四八行程度

和文タテ書き：三五文字×三三行程度

欧文原稿 二五文字×四八行程度

本文には明朝体10ポイントフォントを用いて下さい。

一、三 テキストボックス内

著者に対応する所属を記入して下さい。なお、群馬高専に所属している場合には、学科名のみを記入して下さい。

一、四 原稿枚数について

原稿枚数は、二〇ページ以内として下さい。

二、見出し（見出しが一行以上に長くなるときはこの例のようにインデントし折り返す）

二、一 見出しのレベル

見出しのレベルは章、節の二段階までとします。章の見出しはゴシック体とし、二、などの数字に続けて書きます。また、見出しの左右に一行程度のスペースを設けて下さい。ただしページや段が切り替わる部分は章の見出しが最右部に来るよう調整して下さい。

二、二 節の見出し

節の見出しもゴシック体で、「二、一」などの数字に続けて書きます。見出しの右だけに一行程度のスペースを空けて下さい。

三、図表および注

三、一 図表の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。図表の横幅は、「二段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表や図のように「一段の幅いっぱい」のいずれかとします。

三、二 図表中の文字およびキャプション

表及び図のキャプションは、左におき、長くなる場合はインデントして折り返してください。

三、三 注

注は脚注・章末注の二本だてとして下さい。引用文献の注記やその他くわしい注記は論文本文の最後にまとめるか、章末注にまとめ、脚注は最小限にとどめることとします。脚注番号は、*印で*、**のごとく、章末記号は(一)、(二)のごとく記して下さい。

資料番号	高さ h (m)	幅 w (m)
1	1.45	0.25
2	1.75	0.40
3	1.90	0.65
4	1.45	0.25
5	1.75	0.40
6	1.90	0.65
7	1.45	0.25
8	1.75	0.40
9	1.90	0.65
10	1.45	0.25
11	1.75	0.40
12	1.90	0.65
13	1.45	0.25
14	1.75	0.40
15	1.90	0.65
16	1.90	0.65

表1

表および図のキャプションは表の左に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

四、最終ページおよび英文要旨

原稿が和文の場合、または英語以外の外国語で書かれた場合には、英文による論文題目、著者名及び四百語程度の論文要旨が必要となります。

別ページに、英文のタイトル、著者名および要旨を横一段組で書きます。タイトルは、Times New RomanのBold(太字)で20ポイント、著者名は、Times New Romanで14ポイント、要旨は、Times New Romanで10ポイントとします。

五、原稿の提出・受理について

投稿希望者は、「群馬高専レビュー投稿申込書」を担当者に提出して下さい。

さい。

原稿は、締切日までに担当者に提出して下さい。提出日を以て論文受理日付とします。その際、本論文にコピー一部を添付すると共に、電子ファイルを担当者に送付してください。

申込書や原稿が期日に遅れた場合、投稿要領に著しく反している場合は受理されないことがあります。また、原稿締切日以降の原稿内容の変更は認めません。

六、著作権

「群馬高専レビュー」に掲載された論文の著作権*のうち、複製権及び公衆送信権は、群馬工業高等専門学校に帰属するものとします。

なお、営利を目的とせず、著作者自身が論文の複製および公衆送信を行う場合、群馬工業高等専門学校は、著作者からの申し出がなくてもこれを許諾します。その際、著作者は、出典（誌名・巻号・ページ・掲載年）を明記することとします。

*著作権法第二一条から第二八条に規定する権利

参考文献

- (一) 群馬太郎、高専花子：高等教育の展望、教育研究センター、第四〇巻、四〇頁—四六頁、二〇〇六
- (二) 日本研究協会：高等教育・研究機関における最先端研究戦略、工学部門編、一一〇頁—一二〇頁、二〇〇七

Print Sample for Japanese Manuscript for the GUNMA-KOUSEN REVIEW

Taro GUNMA and Hanako KOUSEN

The present paper has been made as a print sample of the Japanese manuscripts for the GUNMA-KOUSEN REVIEW. Its text describes instructions to prepare the manuscripts: the layout; the font styles and sizes; and others. If you replace the text or the figures of the present file by your own ones, using CUT & PASTE procedures, you can easily make your own manuscripts.

This English ABSTRACT has narrower width than the main text by 10 mm from the left and the right margins of the main text, respectively. Font used here is Times-Roman 10pt. The length should be within 7 lines. It is preceded by the title and the authors; both are centered and the font size is 12p.

編集委員

委員長	荒川	達也
委員	西山	勝彦
〃	櫻岡	広
〃	奈須田	祐大
〃	矢口	久雄
〃	富澤	良行
〃	和田	善成
〃	堀尾	明宏

群馬高専レビュー

第 44 号 (2026)

発 行	令和 8 年 3 月 4 日
編 集 者	群馬工業高等専門学校教育研究委員会
発 行 者	群馬工業高等専門学校 群馬県前橋市鳥羽町 580 電話 (027) 254-9000 (代)